

もり まち
森 町

にごりかわさがんいせき

濁川左岸遺跡(3) -C~E地区-

—北海道縦貫自動車道(七飯~長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成19年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

もり まち
森 町

にごりかわさがんいせき

濁川左岸遺跡(3) -C~E地区-

-北海道縦貫自動車道(七飯~長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書-

平成19年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1 遺跡遠景



2 基本土層 セクション



3 メインセクション Bライン



4 NH-22 調査状況



5 NH-22 セクション



6 NH-22 HF-1 セクション



7 NH-23 HF-1 セクション



8 NH-23 セクション



9 NH-24 セクション



10 NH-24 HF-1 セクション



11 NH-24 HF-2 セクション



12 NH-25 セクション



13 NH-25 HF-1 セクション



14 NH-26 セクション



15 NH-27 セクション



16 NH-28 セクション



17 NH-28 HF-1 セクション



18 SF-1 セクション



19 NH-29 セクション



20 SF-2 検出状況



21 SF-3 セクション



22 SF-4 セクション



23 SF-5 セクション



24 NF-43 セクション



25 NF-56 セクション



26 NF-57 検出



27 NF-58 セクション



28 調査終了状況

例 言

1. 本書は、東日本高速道路株式会社（旧：日本道路公団）北海道支社が行う北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成16年度に発掘調査を実施した、森町濁川左岸遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 編集は鎌田 望・新家水奈が行った。
3. 執筆は鎌田 望・村田 大・新家水奈・影浦 覚・柳瀬由佳が行った。文末に分責者名を記した。
4. 掲載遺物の写真撮影と写真図版作成は、第1調査部第1調査課立川トマスが行った。
5. 報告書刊行後の出土資料・記録類は森町教育委員会、写真フィルムは北海道立埋蔵文化財センターが保管する。
6. 調査にあたっては次の諸機関および各位のご指導・ご協力を頂いた（順不同、調査当

時市町村名、敬称略）。

北海道教育委員会
北海道考古学研究所：横山英介
森町立濁川小学校
森町教育委員会：
藤田 登、荻野幸男、佐藤 稔、
高杉博章
八雲町教育委員会：
三浦孝一、柴田信一、吉田 力
七飯町教育委員会：山田 央
北斗市教育委員会：
森 靖裕、三上英則、野辺地初雄
函館市教育委員会：
佐藤智雄、阿部千春、福田裕二
苫小牧市埋蔵文化財調査センター：
赤石慎三

記号等の説明

1. 遺構表記は以下の記号を使用した。
NH：住居跡 HP：柱穴
HF：炉 NP：土坑
SF：石組炉 NF：焼土
SP：小ピット NS：配石
FC：剥片集中
2. 遺構図の方位は真北を示す。平面図中の「+」はグリッドライン交点で、傍らの名称記号は右下のグリッドを示す。断面図・メインセクション図中のセクションレベルは標高（単位 m）である。遺構規模は、確認面での長軸長/床・底面での長軸長、確認面での短軸長/床・底面での短軸長、確認面からの最大深さ・厚さ（単位 m）の順に記した。一部破壊されているものは現存長を（ ）で示した。
3. 実測図の縮尺は原則として次のとおりである。これ以外の図および例外については図内にスケールを示した。
遺 構：1/40 剥片石器・石斧：1/2

- 土製品・石製品：1/2
円盤状土製品・三角形土製品：1/3
台石・石皿：1/4
台石・石皿以外の礫石器：1/3
復元土器：1/4 拓影土器：1/3
5. 写真図版の遺物掲載順は、レイアウトの都合上、図の掲載順とは異なる場合がある。
 6. 土層の表記は、基本土層をローマ数字、遺構覆土をアラビア数字で示した。
 7. 土層の観察には、『新版標準土色帖』（小川・竹原 2004）、『土壌調査ハンドブック 改訂版』（日本ペトロロジー学会編 1997）を用いた。
 8. 火山灰の略号は、『北海道の火山灰』（北海道火山灰命名委員会 1982）による。
 9. 石器の大きさは、「最大長×最大幅×最大厚」で記した。破損しているものは現存長を（ ）で示した。実測図中において、たき痕はV-V、すり痕は→で範囲を表した。

目 次

口 絵	
例 言	
記号等の説明	
目 次	
表目次	
挿図目次	
写真図版目次	

I 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	3
4 遺跡の位置と環境	3
5 周辺の遺跡	4
6 調査結果の概要	7
II 調査の方法	9
1 調査区の設定と座標値	9
2 発掘調査の方法	9
3 整理の方法	12
(1) 一次整理	12
(2) 二次整理	12
(3) 写真および記録図面類	12
(4) 記録類と遺物の収納・管理	12
4 土層の区分	12
(1) 観察項目と記載順序	12
(2) 基本層序	13
5 遺物の分類	19
(1) 土器等	19
(2) 石器等	20
III 遺構とその遺物	21
1 概要	21
2 竪穴住居跡	21
3 土坑墓および土坑墓の可能性のある土坑	27
4 その他の土坑	38
5 石組炉	46
6 焼 土	47
7 柱 穴・小ピット	47
8 配石遺構	48
9 埋設土器	48
10 剥片集中	48
IV 包含層出土の遺物	147
1 土器・土製品	147
(1) C地区出土の土器・土製品	147
(2) D・E地区出土の土器・土製品	153
2 石器・石製品	187
V 自然科学的分析	225

引用・参考文献
写真図版
報告書抄録

表 目 次

表I-1	周辺の遺跡一覧	6	表III-9	遺構出土遺物総点数一覧	136
表I-2	検出遺構一覧	7	表III-10	遺構出土遺物点数一覧	137
表I-3	出土遺物点数一覧	7	表III-11	遺構出土掲載土器一覧	144
			表III-12	遺構出土掲載石器一覧	146
表II-1	基本層序属性一覧	13			
表III-1	遺構覆土層注記一覧	91	表IV-1	包含層出土層別遺物点数	210
表III-2	遺構一覧(1)住居跡	127	表IV-2	包含層出土掲載土器 ・土製品一覧	211
表III-3	遺構一覧(2)土坑	128	表IV-3	包含層出土掲載石器一覧	221
表III-4	遺構一覧(3)石組炉・焼土	132			
表III-5	遺構一覧(4)小ピット	132	表V-1	測定試料及び処理	228
表III-6	遺構一覧(5)埋設土器	136	表V-2	放射性炭素年代測定及び 暦年代校正の結果	228
表III-7	遺構一覧(6)配石	136	表VI-1	検出遺構時期別一覧	229
表III-8	遺構一覧(7)剥片集中	136			

挿 図 目 次

図I-1	森町の位置と遺跡の位置	2	図III-6	NH-25	54
図I-2	周辺の遺跡	5	図III-7	NH-26	55
図I-3	調査区最終面地形図 ・遺構位置図	8	図III-8	NH-27(1)	56
			図III-9	NH-27(2)	57
図II-1	調査範囲と周辺の地形	10	図III-10	NH-27(3)	58
図II-2	グリッド設定図	11	図III-11	NH-27(4)	59
図II-3	基本土層柱状図	13	図III-12	NH-28、NH-29(1)	60
図II-4	メインセクション(1)	14	図III-13	NH-29(2)、NP-97・98	61
図II-5	メインセクション(2)	15	図III-14	NP-99~101	62
図II-6	メインセクション(3)	16	図III-15	NP-102~105	63
図II-7	メインセクション(4)	17	図III-16	NP-106・108~111	64
図II-8	メインセクション(5)	18	図III-17	NP-112・113・115	65
			図III-18	NP-114・116~119	66
図III-1	NH-22(1)	49	図III-19	NP-120~125	67
図III-2	NH-22(2)、NH-23(1)	50	図III-20	NP-126~130・133	68
図III-3	NH-23(2)	51	図III-21	NP-131・132・134~137	69
図III-4	NH-24(1)	52	図III-22	NP-138~142	70
図III-5	NH-24(2)	53	図III-23	NP-143~145・151	71
			図III-24	NP-146~150・156	

158・162・163	72	170出土の遺物	123
図Ⅲ-25 NP-152-155・157・160・161	73	図Ⅲ-58 NP-166・171・177・186出土の遺物	124
図Ⅲ-26 NP-159・164-167	74	図Ⅲ-59 NP-182・189・191、SF-4、SP-506出土の遺物	125
図Ⅲ-27 NP-168-173	75	図Ⅲ-60 NS-1、埋設土器1出土の遺物	126
図Ⅲ-28 NP-174-181	76	図Ⅳ-1 包含層出土の土器(1)	157
図Ⅲ-29 NP-182-186	77	図Ⅳ-2 包含層出土の土器(2)	158
図Ⅲ-30 NP-187-191	78	図Ⅳ-3 包含層出土の土器(3)	159
図Ⅲ-31 SF-1-5、NF-39-46	79	図Ⅳ-4 包含層出土の土器(4)	160
図Ⅲ-32 NF-47-54・56・58・59、FC-1	80	図Ⅳ-5 包含層出土の土器(5)	161
図Ⅲ-33 NF-55・57・60・61、SP-317-326	81	図Ⅳ-6 包含層出土の土器(6)	162
図Ⅲ-34 SP-327-344	82	図Ⅳ-7 包含層出土の土器(7)	163
図Ⅲ-35 SP-345・346・364-377、SP-378-425(1)	83	図Ⅳ-8 包含層出土の土器(8)	164
図Ⅲ-36 SP-347-355、SP-378-425(2)	84	図Ⅳ-9 包含層出土の土器(9)	165
図Ⅲ-37 SP-356-363・426-435、SP-436-450・471-498、513・514・517・519・520(1)	85	図Ⅳ-10 包含層出土の土器(10)	166
図Ⅲ-38 SP-436-450(2)、SP-454・456・469・470、SP-471-498、513・514・517・519・520(2)	86	図Ⅳ-11 包含層出土の土器(11)	167
図Ⅲ-39 SP-451-453・455、457-468・515・516	87	図Ⅳ-12 包含層出土の土器(12)	168
図Ⅲ-40 SP-499-512・518	88	図Ⅳ-13 包含層出土の土器(13)	169
図Ⅲ-41 SP-521-530	89	図Ⅳ-14 包含層出土の土器(14)	170
図Ⅲ-42 NS-1、埋設土器1	90	図Ⅳ-15 包含層出土の土器(15)	171
図Ⅲ-43 NH-22・23出土の遺物	109	図Ⅳ-16 包含層出土の土器(16)	172
図Ⅲ-44 NH-23・24出土の遺物	110	図Ⅳ-17 包含層出土の土器(17)	173
図Ⅲ-45 NH-24出土の遺物	111	・土製品	174
図Ⅲ-46 NH-25-27出土の遺物	112	図Ⅳ-18 包含層出土の土器(18)	174
図Ⅲ-47 NH-27出土の遺物(1)	113	図Ⅳ-19 包含層出土の土器(19)	175
図Ⅲ-48 NH-27出土の遺物(2)	114	図Ⅳ-20 包含層出土の土器(20)	176
図Ⅲ-49 NH-28・29出土の遺物	115	図Ⅳ-21 包含層出土の土器(21)	177
図Ⅲ-50 NP-104・105出土の遺物	116	図Ⅳ-22 包含層出土の土器(22)	178
図Ⅲ-51 NP-106・112出土の遺物	117	図Ⅳ-23 包含層出土の土器(23)	179
図Ⅲ-52 NP-113・115出土の遺物	118	図Ⅳ-24 包含層出土の土器(24)	180
図Ⅲ-53 NP-115・117出土の遺物	119	図Ⅳ-25 包含層出土の土器(25)	181
図Ⅲ-54 NP-118・125出土の遺物	120	図Ⅳ-26 包含層出土の土器(26)	182
図Ⅲ-55 NP-127・129、138出土の遺物	121	図Ⅳ-27 包含層出土の土器(27)	183
図Ⅲ-56 NP-144・150出土の遺物	122	図Ⅳ-28 包含層出土の土器(28)	184
図Ⅲ-57 NP-151-153・158	122	図Ⅳ-29 包含層出土の土器(29)	185
		図Ⅳ-30 包含層出土の土器(30)	186
		・土製品	186
		図Ⅳ-31 包含層出土の石器(31)	190
		図Ⅳ-32 包含層出土の石器(32)	191
		図Ⅳ-33 包含層出土の石器(33)	192
		図Ⅳ-34 包含層出土の石器(34)	193
		図Ⅳ-35 包含層出土の石器(35)	194

図Ⅳ-36	包含層出土の石器 (36)	195
図Ⅳ-37	包含層出土の石器 (37)	196
図Ⅳ-38	包含層出土の石器 (38)	197
図Ⅳ-39	包含層出土の石器 (39)	198
図Ⅳ-40	包含層出土の石器 (40)	199
図Ⅳ-41	包含層出土の石器 (41)	200
図Ⅳ-42	包含層出土の石器 (42)	201
図Ⅳ-43	包含層出土の石器 (43)	202
図Ⅳ-44	包含層出土の石器 (44)	203
図Ⅳ-45	包含層出土の石器 (45)	

	・石製品	204
図Ⅳ-46	包含層出土の石器 (46)	
	・石製品	205
図Ⅳ-47	包含層出土土器分布 (1)	206
図Ⅳ-48	包含層出土土器分布 (2)	207
図Ⅳ-49	包含層出土土器分布 (1)	208
図Ⅳ-50	包含層出土土器分布 (2)	209
図Ⅴ-1	暦年代校正結果 (1)	226
図Ⅴ-2	暦年代校正結果 (2)	227

写真図版目次

口絵 1

- 1 遺跡遠景
- 2 基本土層 セクション
- 3 メインセクション Bライン

口絵 2

- 4 NH-22 調査状況
- 5 NH-22 セクション

口絵 3

- 6 NH-22 HF-1 セクション
- 7 NH-23 HF-1 セクション
- 8 NH-23 セクション
- 9 NH-24 セクション

口絵 4

- 10 NH-24 HF-1 セクション
- 11 NH-24 HF-2 セクション
- 12 NH-25 セクション
- 13 NH-25 HF-1 セクション
- 14 NH-26 セクション

口絵 5

- 15 NH-27 セクション
- 16 NH-28 セクション
- 17 NH-28 HF-1 セクション
- 18 SF-1 セクション

口絵 6

- 19 NH-29 セクション
- 20 SF-2 検出状況
- 21 SF-3 セクション
- 22 SF-4 セクション
- 23 SF-5 セクション

口絵 7

- 24 NF-43 セクション
- 25 NF-56 セクション
- 26 NF-57 検出
- 27 NF-58 セクション
- 28 遺跡完掘状況

写真図版 1

- 1 調査風景
- 2 斜面作業状況

写真図版 2

- 3 NH-22 調査状況
- 4 NH-22 遺物出土状況
- 5 NH-22 HP-1 セクション
- 6 NH-22 石組炉 (HF-1)、立石出土状況

写真図版 3

- 7 NH-22 HP-1 遺物出土状況
- 8 NH-22 HP-8 セクション

- 9 NH-22 立石 セクション
- 10 NH-22 完掘状況
- 11 NH-23 完掘状況

写真図版 4

- 12 NH-23 石組炉 (HF-1)、立石
- 13 NH-23 HP-3 セクション
- 14 NH-23 HP-6 セクション
- 15 NH-24 HP-3・4 セクション
- 16 NH-24 HP-5 セクション
- 17 NH-24 遺物出土状況

写真図版5

- 18 NH-24 立石 セクション
19 NH-25 立石 セクション
20 NH-24 完掘状況
21 NH-25 完掘状況

写真図版6

- 22 NH-26 完掘状況
23 NH-26 HP-2 セクション
24 NH-27 遺物出土状況
25 NH-27 セクション

写真図版7

- 26 NH-27 HP-7・10・8 セクション
27 NH-27 埋設土器 検出状況
28 NH-27 埋設土器 内面検出状況
29 NH-27 完掘状況
30 NH-28 完掘状況

写真図版8

- 31 NH-28 HP-1 セクション
32 NH-29 HP-1 セクション
33 NH-29 HP-2 セクション
34 NH-29 検出状況
35 NH-29 遺物出土状況

写真図版9

- 36 NH-29 完掘状況
37 NP-97 セクション
38 NP-99 セクション
39 NP-99 完掘状況
40 NP-101 セクション

写真図版10

- 41 NP-101 完掘状況
42 NP-103 完掘状況
43 NP-105 セクション
44 NP-106 遺物出土状況
45 NP-108 遺物出土状況
46 NP-110 遺物出土状況
47 NP-111 遺物出土状況
48 NP-112 遺物出土状況

写真図版11

- 49 NP-113 セクション
50 NP-113 遺物出土状況
51 NP-114 セクション
52 NP-116 遺物出土状況
53 NP-117 遺物出土状況

- 54 NP-118 遺物出土状況
55 NP-124 セクション
56 NP-125 セクション

写真図版12

- 57 NP-125 遺物出土状況
58 NP-126 遺物出土状況
59 NP-127 セクション
60 NP-127 完掘状況
61 NP-128 セクション
62 NP-128 完掘状況
63 NP-125~128 調査状況

写真図版13

- 64 NP-129 遺物出土状況
65 NP-133 セクション
66 NP-133 完掘状況
67 NP-134 遺物出土状況
68 NP-136・137 セクション
69 NP-138 遺物出土状況
70 NP-136 完掘状況

写真図版14

- 71 NP-141 セクション
72 NP-141 完掘状況
73 NP-142 セクション
74 NP-142 完掘状況
75 NP-143 セクション
76 NP-143 完掘状況

写真図版15

- 77 NP-144 セクション
78 NP-144 完掘状況
79 NP-148・149・160 セクション
80 NP-148 完掘状況
81 NP-149 完掘状況
82 NP-151 セクション
83 NP-150 遺物出土状況

写真図版16

- 84 NP-151 遺物出土状況
85 NP-152 セクション
86 NP-152 遺物出土状況
87 NP-153 セクション
88 NP-153 遺物出土状況
89 NP-154 遺物出土状況
90 NP-155 セクション

写真図版17

- 91 NP-156 セクション
92 NP-163 セクション
93 NP-164 遺物出土状況
94 NP-157 セクション
95 NP-162 セクション
96 NP-166・167 遺物出土状況
97 NP-159 遺物出土状況
98 NP-168 遺物出土状況

写真図版18

- 99 NP-169 遺物出土状況
100 NP-170 遺物出土状況
101 NP-171 セクション
102 NP-172 遺物出土状況
103 NP-173 遺物出土状況
104 NP-176 セクション

写真図版19

- 105 NP-180 遺物出土状況
106 NP-182 セクション
107 NP-186 遺物出土状況
108 NP-189 遺物出土状況
109 NP-191 セクション
110 SP-426・427 セクション
111 NP-191 遺物出土状況

写真図版20

- 112 SP-451 遺物出土状況
113 埋設土器 検出状況
114 遺物出土状況
115 FC-1 検出状況
116 遺物出土状況
117 NS-1 検出状況

写真図版21

- 118 E地区 完掘状況
119 C地区 完掘状況

写真図版22

- 120 遺構出土の土器 (1)

写真図版23

- 121 遺構出土の土器 (2)

写真図版24

- 122 遺構出土の土器 (3)

写真図版25

- 123 遺構出土の土器 (4)

写真図版26

- 124 遺構出土の土器 (5)

写真図版27

- 125 遺構出土の土器 (6)

写真図版28

- 126 遺構出土の土器 (1)

写真図版29

- 127 遺構出土の土器 (2)

写真図版30

- 128 遺構出土の土器 (3)

写真図版31

- 129 遺構出土の土器 (4)

写真図版32

- 130 包含層 C地区出土の土器 (1)

写真図版33

- 131 包含層 C地区出土の土器 (2)

写真図版34

- 132 包含層 C地区出土の土器 (3)

写真図版35

- 133 包含層 C地区出土の土器 (4)

写真図版36

- 134 包含層 C地区出土の土器 (5)

写真図版37

- 135 包含層 C地区出土の土器 (6)

写真図版38

- 136 包含層 C地区出土の土器 (7)

写真図版39

- 137 包含層 C地区出土の土器 (8)

写真図版40

- 138 包含層 C地区出土の土器 (9)

写真図版41

139 包含層 C地区出土の土器 (10)

写真図版42

140 包含層 C地区出土の土器 (11)

写真図版43

141 包含層 C地区出土の土器 (12)

写真図版44

142 包含層 C地区出土の土器 (13)

写真図版45

143 包含層 C地区出土の土器 (14)

写真図版46

144 包含層 C地区出土の土器 (15)

写真図版47

145 包含層 C地区出土の土器 (16)

写真図版48

146 包含層 C地区出土の土器 (17)

写真図版49

147 包含層 C地区出土の土器 (18)

写真図版50

148 包含層 C地区出土の土器 (19)

写真図版51

149 包含層 C地区出土の土器 (20)

写真図版52

150 包含層 E地区出土の土器 (1)

写真図版53

151 包含層 E地区出土の土器 (2)

写真図版54

152 包含層 E地区出土の土器 (3)

写真図版55

153 包含層 E地区出土の土器 (4)

写真図版56

154 包含層 E地区出土の土器 (5)

写真図版57

155 包含層 E地区出土の土器 (6)

写真図版58

156 包含層 E地区出土の土器 (7)

写真図版59

157 包含層 E地区出土の土器 (8)

写真図版60

158 包含層 E地区出土の土器 (9)

写真図版61

159 包含層 E地区出土の土器 (10)

写真図版62

160 包含層 E地区出土の土器 (11)

写真図版63

161 包含層 E地区出土の土器 (12)

写真図版64

162 包含層 E地区出土の土器 (13)

写真図版65

163 包含層 E地区出土の土器 (14)・土製品

写真図版66

164 包含層出土の石器 (1) (図Ⅳ-31~33)

写真図版67

165 包含層出土の石器 (2) (図Ⅳ-33~35)

写真図版68

166 包含層出土の石器 (3) (図Ⅳ-35~39)

写真図版69

167 包含層出土の石器 (4) (図Ⅳ-39~42)

写真図版70

168 包含層出土の石器 (5) (図Ⅳ-42~44)

写真図版71

169 包含層出土の石器 (6)・石製品
(図Ⅳ-45・46)

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部間）埋蔵文化財発掘調査

委託者：東日本高速道路株式会社（旧：日本道路公団）北海道支社

受託者：財団法人北海道埋蔵文化財センター

遺跡名：濁川左岸遺跡（にごりかわさがんいせき）
（北海道教育委員会登録番号 B-15-22）

所在地：茅部郡森町字石倉町401番地ほか

発掘期間：平成16年7月1日～10月27日

調査面積：3,660㎡

整理作業期間：平成16年11月1日～平成17年3月31日
平成18年4月1日～平成19年3月31日

2 調査体制

（平成16年度）

理事長 森重権一	専務理事 宮崎 勝	常務理事 佐藤俊和	総務部長 佐藤英一
第2調査部長 西田 茂	第4調査課	課長 工藤研治（発掘担当者）	
		主査 鎌田 望（発掘担当者）	
		主査 村田 大（発掘担当者）	
		主任 新家水奈（発掘担当者）	
		主任 影浦 寛	
		主任 柳瀬由佳	

（平成18年度）（整理作業）

理事長 森重権一	常務理事 佐藤俊和	総務部長 松本昭一
第1調査部長 千葉英一	第4調査課	課長 鈴木 信
		主査 鎌田 望
		主任 新家水奈
		主任 柳瀬由佳

3 調査にいたる経緯

北海道縦貫自動車道路は、函館市を基点として苫小牧・札幌・旭川の各市を經由して名寄市に至る総延長488kmの自動車専用道路である。このうち、八雲町八雲 Ⅰ～和寒町和寒 Ⅱ間359kmは既に供用されている。七飯～長万部間の路線については、平成5年11月から建設工事が進められている。

平成2年4月、日本道路公団札幌建設局（現：東日本高速道路株式会社北海道支社）から北海道教育委員会（以下、道教委）に埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについての事前協議書が提出された。道教委は平成2年4月と平成7年11月に所在確認調査を行い、平成5年からはこの路線の北側の長万部町から試掘調査を開始した。七飯～長万部間の発掘調査の一部については、財団法人北海道埋蔵文化財

センターが委託を受け、平成10年度から行っている。平成11年度には長万部町内の調査を終了した。八雲町内の遺跡の調査は平成13年度に終了した。平成13年度からは森町内の遺跡の調査を行っている。

濁川左岸遺跡は平成13年に1,300㎡、平成14年に3,630㎡の調査を行っている。これらについては既に報告済である（道埋文 2003d, 2004d。今回報告するC・D・E地区は平成16年に3,660㎡を調査した。

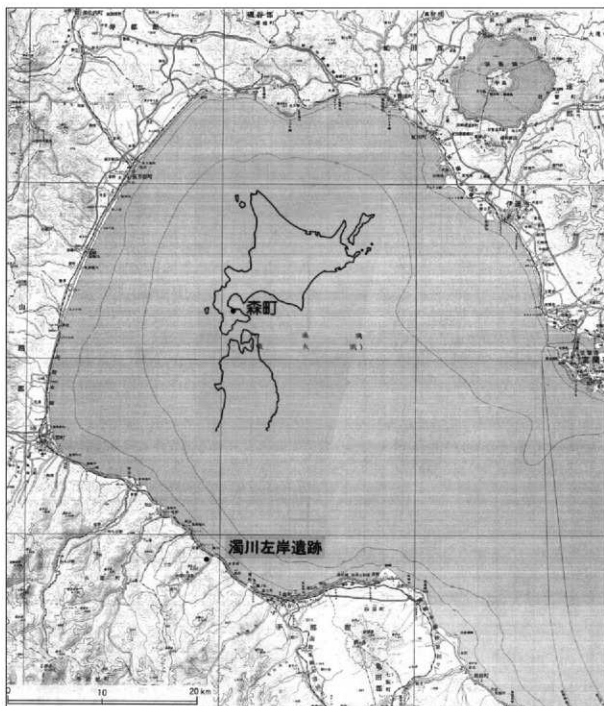


図 I - 1 森町の位置と遺跡の位置

4 遺跡の位置と環境

森町は平成17年4月1日に旧森町と旧砂原町が合併し、町名を「森町」とする新自治体となった。北海道西南部、内浦湾に面した渡島半島中ほどに位置し、行政区画は渡島支庁管内茅部郡に属する。遺跡は森町市街地より北西約7～12kmの字石倉町にある。字石倉町は北東が海、南西には山が迫る地勢で、茂無部川（もなしべがわ）、本内川（ほんないがわ）、三次郎川（さんじろうがわ）（山野川）、石倉川（いしくらがわ）、石川の沢川（いしかわのさわがわ）、濁川（にごりかわ）など噴火湾に注ぐ河川がある。これらに面した河岸段丘上や海岸段丘上の平坦面には縄文時代前期後半～晩期、統縄文時代の遺跡が分布する。

森町は道内でも最も温暖な地域のひとつである。森地域気象観測所1982～2006年の気象統計年平均値では、降水量1052mm、平均気温8.4℃、最高気温30.3℃、最低気温-16.7℃、日照時間1606.7時間、真冬日（最高気温<0℃）42日、冬日（最低気温<0℃）126日、真夏日（30℃<最高気温）2日、夏日（25℃<最高気温）24日となっている。2002～2006年の最深積雪の平均は55.4cmである。石倉付近は森町市街地より気候は涼冷である。太平洋岸の海岸地方としては霧が少ないが、5～7月には海霧に覆われることが多い。濁川左岸遺跡は森町市街地から北西に約9km、海岸線から約700m内陸の濁川の河岸段丘上に立地する。無名沢を挟んで約200m北西には石倉1遺跡が所在する。遺跡周辺には落葉広葉樹のクリ、クナギ、トチノキ、カツラ、ホオノキ、ナラ、エゾイタヤカエデ、エゾヤマザクラ、常緑針葉樹のイチイ、トドマツなどが繁茂し、スギ、カラマツが植林されている。

江戸時代初期の茅部郡沿岸は、津軽・南部地方や上磯・箱館方面の漁師の入植地であった。この地方に和人が入るようになったのは、天文元（1532）年に津軽の蟹田村から権四郎が春鯨漁のため漁夫を率いて砂原にやってきたのがはじまりとされている。近世初期には「箱館六ヶ場所」の一つ「茅部場所」となった。（森町編 1980）。『津軽一統志 巻第十之下』には、「もり」「とち崎」「かやへ」と、森町域の地名が登場する。「かやへ」には「から家四、五軒」と記録されている（北海道 1969）。寛延元（1748）年には以前より本茅部に来てニシン刺し網をやっていた亀谷文治が石倉に移住した（森町編 1980）。

遺跡名にもある濁川は、アイヌ語で「ユウンベツ」という。これは「ユ」（温泉）・「ウン」（…のある所）・「ベツ」（川）、すなわち「温泉のある川」の意である。これを、河水に温泉が流入して濁ったので、「濁川」と意識改称したものである。また、遺跡の所在する石倉の元の地名は「シュンナイ」という。アイヌ語の「ショ」（滝・裸岩）「ウン」（…のある所）「ナイ」（川・沢）、「滝のある沢」の意である。現在の本石倉（ほんいしくら）にそそぐ小川から得た名という。「シュンナイ」がどのような経緯で「石倉」となったのかは不明であるが、天明4（1784）年の『北蕃紀略』には「イシクラ」、寛政3（1791）年の菅江真澄の「えぞのてふり」には「石倉」という地名が登場している（竹内編 1987）。安政3（1856）年の記述である『竹四郎廻浦日記 巻の三十』には「石クラ」として「…此処も文化頃人家七軒有し由なるが当時四軒、人別三十二人有。…」との記述があり（松浦著・高倉編 1978）、『渡島日誌 巻の四』には同様の記述に奇徴誅求により人口が減ったとの解説が加えられている（松浦著・秋葉解説 1988）。

5 周辺の遺跡

森町の旧森町の範囲では平成18年12月現在、43か所の遺跡が記載されている。これらの多くは茂無部川から森町市街地にかけての海岸段丘上と、噴火湾に注ぐ河川流域に集中している。高速道路の建設に先立って調査された茂無部川から濁川までの地域に所在する遺跡のうち、本書で報告するものを除く8か所についての概要を北から順に述べる。遺跡名の後ろに括弧で図I-2および表I-1の掲載番号を示した。

本内川右岸遺跡（ぼんないがわうがにいせき）（7）

平成14年に調査した縄文時代中期～後期の遺跡である。遺構は中期の土壌を3基検出した。遺物は縄文時代中期の円筒土器上層 b式、ノダップⅡ式、後期前葉の天祐寺式土器など892点出土した（財団法人北海道埋蔵文化財センター、以下道埋文と省略する 2003 b）。

三次郎川左岸遺跡（さんじろうがわがにいせき）（38）

平成15・16年に調査した縄文時代前期後半・後期前葉の遺跡である。前期後半の土坑1基、後期前葉の焼土を1か所検出した。遺物は2,028点出土した。後期前葉の天祐寺式、涌元式、トリサキ式土器が大部分を占め、ほかに前期後半の円筒土器下層式、統縄文時代の恵山式、後北式土器がある（道埋文 2005 h）。

三次郎川右岸遺跡（さんじろうがわうがにいせき）（37）

平成15・16年に調査した縄文時代中期前半～後期前葉の集落・墓域である。遺構は住居跡19軒、配石遺構2か所、土坑83基、焼土16か所、小柱穴13基、集石6か所、フレイクチップ集中を1か所検出した。遺物は93,392点出土した。土器では後期前葉のトリサキ式、大津式、後期中葉のウサクマイ C式土器が大部分を占め、ほかに前期後半の円筒土器下層式、中期中葉の円筒土器上層式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式、中期後半の榎林式、大安在 B式、統縄文時代の恵山式、後北式や擦文土器などがある（道埋文 2006 b）。

石倉5遺跡（いしくらごいせき）（36）

平成15・16年に調査した縄文時代前期後半・後期前葉の遺跡である。三次郎川右岸の山地から海岸に迫る標高60mほどの高位段丘上に立地する。下の段丘には三次郎川右岸遺跡がある。前期後半の土坑1基と後期前葉の土坑を1基検出した。遺物は前期後半の円筒土器下層 d式、後期前葉のトリサキ式、統縄文時代の恵山式土器など743点出土した（道埋文 2004 c・2005 h）。

石倉4遺跡（いしくらよにいせき）（34）

平成16年に調査した縄文時代中期後半の遺跡である。石倉5遺跡の南東側に隣接する。遺構はⅢ層で擦文時代以降の焼土を1か所検出した。遺物は縄文時代前期後半の円筒土器下層 d式、中期前半の円筒土器上層式、中期後半の大安在 B式など1,830点出土した（道埋文 2005 h）。

石倉3遺跡（いしくらさんいせき）（33）

平成15年に調査した縄文時代後期前葉の遺跡である。東南に駒ヶ岳を望む最も標高の高い部分で後期前葉の配石を伴う土坑を1基検出した。配石は安山岩が主体で、重さ10～30kgの大礫と径0.5～5 cm程の細～小礫の3つのまとまりからなる。礫の下には直径1 mほどの土壌を検出した。緩斜面西側では Tピットを1基検出した。遺物は後期前葉の天祐寺式、涌元式、トリサキ式土器など20,221点出土した。調査範囲のほぼ全面に径5～10 cm程の中礫が分布していた（道埋文 2004 d）。

石倉2遺跡（いしくらにいせき）（32）

平成15年に調査した縄文時代中期後半の集落跡。急峻な尾根上に住居跡11軒、土壇9基、Tピット10基、焼土2か所、土器集中4か所、フレイク集中2か所、礫集中を1か所検出した。遺物は縄文時代中期後半の榎林式、晩期前葉の聖山Ⅱ式土器など16,548点出土した（道埋文 2003 f）。

石倉1遺跡（いしくらいちいせき）（29）

平成14・15・16年に調査した、縄文時代中期後半～後期前葉の集落・墓域である。住居跡4軒、土壇19基、集石を3か所検出した。遺物は64,753点出土した。土器では縄文時代後期前葉の天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津7群、白坂3式などが大部分を占め、ほかに中期前半の円筒土器上層式、中期後半の榎林式や統縄文時代の恵山式、後北式などがある。早期の貝殻文土器、前期の円筒土器下層式、後期中葉のウサクマイ C式や晩期の土器はわずかに出土している。（道埋文 2007 b）。

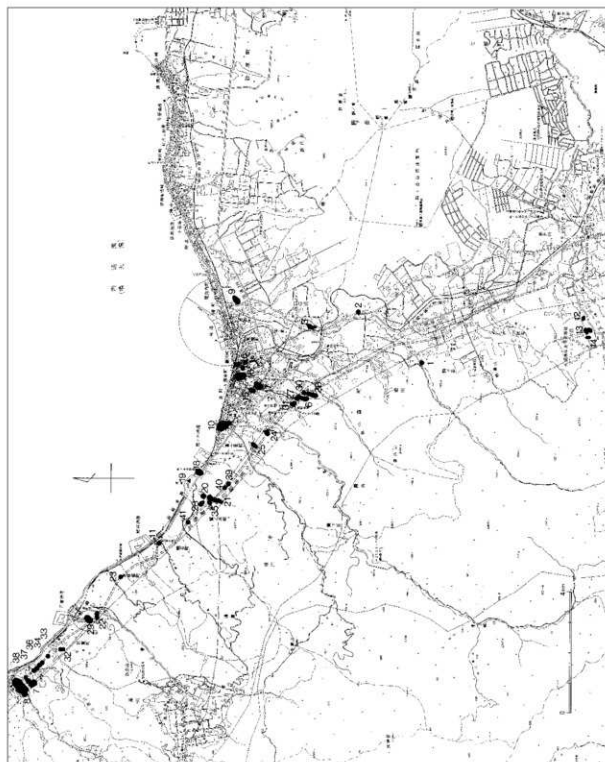


図 I-2 周辺の遺跡

表I-1 周辺の遺跡一覧

登録番号	遺跡名称	所在地	立地	標高(m)	備考
1	姫川1	駒ヶ岳132-1-4	河岸段丘	167	旧姫川 A 遺跡, 森町 1980
2	姫川2	駒ヶ岳17-6・216・217	河岸段丘	112	旧姫川 B 遺跡, 森町 1980
3	白川	白川49-14	河岸段丘	48-50	貝塚あり, 森町 1980
4	森川貝塚	森川町76-79ほか	海岸段丘	13-15	旧森川 B 遺跡統合, 森町 1980
5	森川1	森川町69-2ほか	海岸段丘	15-18	旧森川 A・C・D 遺跡統合, 森町 1980, 町教委 1982
6	森川2	霞台34-1, 35-2	台地	80-100	町教委 2004 b
7	本内川右岸	石倉町610-7・8	台地	40-60	遺理文 2003 a (182)
8	茂無部川右岸	石倉町610-2・5	台地	40-60	
9	尾白内貝塚	尾白内926, 929-1ほか	海岸段丘	10-14	森町 1980, 町教委 1981-1993
10	鳥崎	鳥崎町31-1, 富士見町13ほか	海岸段丘	15-30	町教委 1975, 森町 1980
11	姥谷	姥谷町146-1ほか	河岸段丘	30-32	森町 1980
12	赤井川1	赤井川229	丘陵	175-195	
13	赤井川2	赤井川229	丘陵	230-235	
14	赤井川3	赤井川229	丘陵	210	
15	オニウシ	上台町326-18	海岸段丘	25-35	町教委 1977, 森町 1980
16	御幸町	御幸町132-2, 清澄町3-1ほか	海岸段丘	8-20	町教委 1985-1994
17	清澄	清澄町27-1, 29-2, 326-16, 326-18	海岸段丘	33-39	森町 1980
18	鷺ノ木1	鷺ノ木145-1ほか	海岸段丘	15-20	
19	鷺ノ木2	鷺ノ木455ほか	海岸段丘	40	榎本武揚1869築
20	鷺ノ木3	鷺ノ木499-2・3, 500, 501	河岸段丘	40-45	
21	鷺ノ木4	鷺ノ木506-510	河岸台地	45-70	2004鷺ノ木6遺跡(上位テラス)を統合, 町教委 2004 c
22	湯川左岸	石倉町401, 446-1, 448	河岸段丘	40-50	遺理文 2003 d (190)・2004 d (208)・2007 a (246)
23	本字堀1	本字堀町205, 272-274, 294	海岸段丘	80-85	遺理文 2003 e (191)・2004 b (199)
24	栗ヶ丘1	栗ヶ丘38-44	河岸段丘	35-45	町教委 2004 a
25	會知川右岸	栗ヶ丘7, 11-1・2	丘陵	75-80	遺理文 2004 a (196)
26	森川3	森川町317-1・7	丘陵	100	遺理文 2005 i (222)・2006 c (234)
27	上台1	上台町33-1, 42-1, 364	丘陵	90	遺理文 2005 f (217)
28	鷺ノ木5	鷺ノ木503-1, 495-4・5	河岸段丘	70	2003・2004町教委調査, 環状列石
29	石倉1	石倉町395-397, 403, 404, 439	丘陵	30-40	遺理文 2007 b (247)
30	森川4	森川町317-18	河岸段丘	90	遺理文 2005 g (218)
31	上台2	上台町326-5	河岸段丘 ~緩斜面	90-100	遺理文 2005 e (216)
32	石倉2	石倉町146, 623-1・3・4, 624-1, 306ほか	河岸段丘	60-75	遺理文 2003 f (197)
33	石倉3	石倉町482, 483, 490	河岸段丘	65-75	遺理文 2004 c (205)
34	石倉4	石倉町511, 520, 521	河岸段丘	60	遺理文 2005 h (219)
35	森川5	森川町317-7・8, 318-1	丘陵	110	2004森川3遺跡から分離, 2004・2005町教委調査
36	石倉5	石倉町512, 513, 519	河岸段丘	55-60	遺理文 2004 c (205)・2005 h (219)
37	三次郎川右岸	石倉町513, 516	河岸段丘	40-47	遺理文 2006 b (233)
38	三次郎川左岸	石倉町610-24	河岸段丘	35-50	遺理文 2005 h (219)
39	鷺ノ木7	鷺ノ木町397-1ほか	尾根	60	町教委 2006
40	鷺ノ木川右岸	鷺ノ木町396	台地	60	
41	姥谷2	姥谷町281	台地	80	
42	駒ヶ岳1	駒ヶ岳228-10	河岸段丘	185	2004 町教委調査
43	駒ヶ岳2	駒ヶ岳470-5	河岸段丘	177	

*遺跡名称の欄では「遺跡」の文字、所在地の欄では「字」の文字を省略した。

*備考欄の四桁の数字は西暦である。森町教育委員会は「町教委」、財団法人北海道埋蔵文化財センターは「遺理文」と略した。括弧内の数字は財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書のシリーズ番号である。

6 調査結果の概要

濁川左岸遺跡は縄文時代後期前葉を主体とする集落・墓域である。森市街地から北西に約9km、濁川カルデラから流れ出る濁川の河岸段丘上に立地する。海岸線から約700m内陸に位置し、調査範囲の南東側に濁川、北西側には無名の沢が流れている。約200m北西方向には、無名沢を挟んで石倉1遺跡がある。濁川左岸遺跡は平成13年に1,300㎡、平成14年に3,630㎡の調査を行っている。これらについては既に報告済である（道埋文 2003d, 2004d）。

今回報告するC・D・E地区は平成16年に3,660㎡を調査した。濁川に面する段丘をC地区、中央付近の沢地形をD地区、無名沢に面する段丘をE地区と呼称した。C地区は標高42～45m、E地区は標高36～41mである。D地区は過年度の調査結果から遺構確認調査区とした。

遺構

検出遺構は住居跡8軒、土坑94基、石組炉5か所、焼土23か所、小ピット212基、配石1か所、剥片集中1か所、埋設土器1か所である。住居跡は縄文時代前期と推定するもの1軒、中期前半2軒、後期前葉5軒である。土坑は後期前葉のもの45基（墓2基、墓の可能性のあるもの11基）、後期前葉と推定するもの5基（土壙墓1基、土壙墓の可能性のあるもの1基）、前期後半あるいは後期後葉と思われるものは5基、中期前半もしくは後期前葉15基（土壙墓1基、土壙墓の可能性のあるもの8基）、中期前半と推定するもの20基、前期～中期と推定するもの1基、前期後半1基、時期不明2基である。配石は後期前葉の墓の可能性のある土坑に伴う。埋設土器は中期前半のものである。今回報告するC～E地区で検出した遺構については表I-2で平成13・14年調査のA地区・B地区と合わせて掲載した。

遺物

遺物は縄文時代前期後半の円筒土器下層式、中期中葉のサイベ沢Ⅷ式、後期前葉の天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂3式、統縄文時代の後北式土器をはじめ石鏃、石錐、石槍、つまみ付きナイフ、スクレイパー、両面調整石器、ヘラ状石器、Rフレイク、Uフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、扁平打製石器、北海道式石冠、すり石、石鋸、砥石、石錘、石皿、台石、原石、有孔自然礫、被熱礫、礫、石製品、土製品などあわせて113,887点出土した。（録田）

表I-2 検出遺構一覧

遺構種別	平成13・14年調査		平成16年調査		計
	A地区	B地区	C地区	E地区	
住居跡	9	8	5	3	25
土坑	63	30	77	17	187
石組炉	8	0	2	3	13
焼土	30	0	20	3	53
小ピット	305	0	192	20	517
配石遺構	0	0	1	0	1
剥片集中	0	0	1	0	1

表I-3 出土遺物点数一覧

総計	土器	石器	土製品	石製品	計	土器内訳							
	IIb	IIIa	IIIb	IV	IVa	Vb	VI	計					
遺構	3,555	1,431	2		4,988	156	974		2,424	1		3,555	
包含層	98,829	10,008	46	16	108,899	4,335	5,263	4	108	88,873	222	24	98,829
計	102,384	11,439	48	16	113,887	4,491	6,237	4	108	91,297	223	24	102,384

II 調査の方法

1 調査区の設定と座標値

今回の調査区は平成13・14年に行ったA・B地区の調査の際に設定したものを踏襲した。この設定には、日本道路公団（現：東日本高速道路株式会社）北海道支社の「北海道縦断自動車道本茅部工事平面図（2）1000分の1図」を使用している。工事予定上り線の中央線上の中心杭であるSTA444とSTA445を通る線を基軸のMラインとし、STA444を基準に4m方眼を設定した（図II-2）。Mラインと平行に南西へ向かってL、K、J…とした。さらにSTA444を通りそれに直交する線を10ラインとし、北西へ向かって11、12、13…とした。この方眼は南端交点をアルファベットとアラビア数字の組み合わせで呼称する（例：H17、I7）。アルファベットと数字の間にハイフンは入れず遺構名と区別した。この方眼の平面直角座標は第XI系で基準杭の座標値は以下とおりである。

日本測地系	STA444（調査区杭番号M10）	X=-206064.5983	Y=19511.8843
	STA445	X=-205999.8906	Y=19435.6588
世界測地系	STA444（調査区杭番号M10）	X=-205808.1900	Y=19218.7326
	STA445	X=-205743.4835	Y=19142.5088

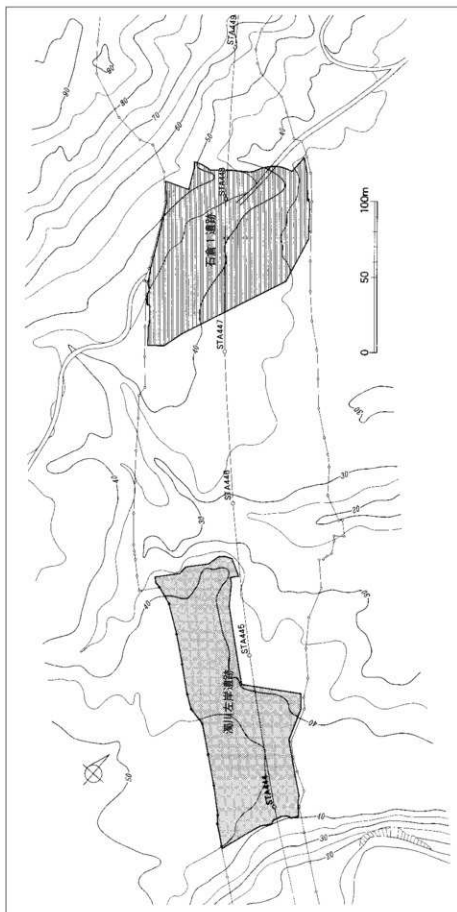
水準測量は北海道茅部郡森町字石倉町34番地先に所在する、1等水準点第5971号（H=9.3115m）を用いて、各測量に使用した。

なお、この原因は函館側を起点にしており、森町から八雲町、長万部町に至る、噴火湾に沿って走る道路の形状に準じて作図されている。その結果、図の上方は常に山側となっている。このため、工事用図面に準じて作成した大縮尺の図面は、必ずしも北方向が上を向いているとは限らない。図中の北方向については、そのつど方位記号を用いて示した。（新家）

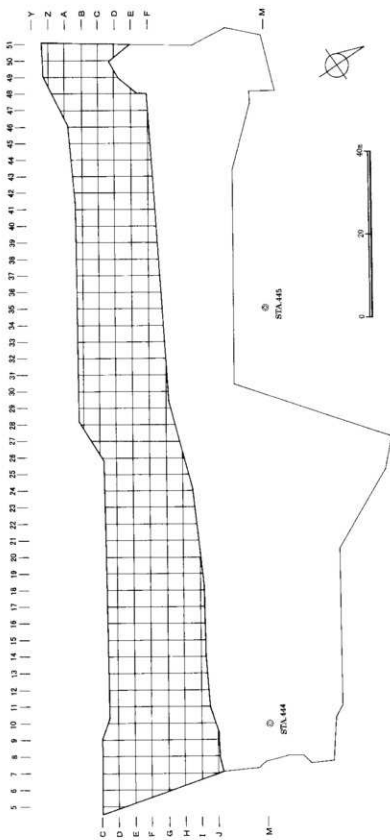
2 発掘調査の方法

濁川に面する段丘をC地区、中央付近の沢地形をD地区、無名沢に面する段丘をE地区と呼称した。標高はC地区42~45m、E地区36~41mである。D地区は過年度の調査結果から遺構確認調査区とした。

表土除去作業では、表土であるI層と胸ヶ岳起源降下火山灰（K_o-d）層であるII層を重機により除去した。測量杭を打設後、III層上面において測量を行ない、調査開始前の地形図を作成した。遺物包含層はIII~VI層である。調査範囲全体にわたり適当な間隔を空けて25%調査を行い、遺物分布の濃い部分から包含層調査を行った。調査区ごとに遺物の多寡、土層の変化を見極めながら必要に応じて移植ゴテや竹筥、片手鎌などを用いた人力による手掘り作業によって掘り下げた。落ち込みが確認された遺構については、その平面形長軸と短軸に土層観察用のベルトを残して掘り下げ、適宜実測図と写真により記録した。想定される床面等の検出は、土層観察用のベルトに接してサブトレンチを掘るなどして行った。包含層の遺物は、位置や層位を記録し小発掘区ごとに取り上げた。遺構の遺物は実測図により位置・層位・標高を記録して取り上げた。出土状況に応じて、写真や出土状況図など詳細な記録化に努めた。微細遺物の密集部分では、水洗いによって取り上げた。遺構調査の終了後、胸ヶ岳起源降下火山灰（K_o-g）層を除去してVI層上面の精査を行い、遺構・遺物がないことを確認して調査終了とした。この面において測量を行い、調査最終面の地形図を作成した。（録田）



図Ⅱ-1 調査範囲と周辺の地形



図II-2 グリッド設定図

3 整理の方法

(1) 一次整理

出土した遺物の一次整理は土器を柳瀬由佳が、石器（石材鑑定を含む）を村田大が担当した。遺物は水洗・乾燥後、遺跡名の略称 NS、グリッド名（あるいは遺構名）、出土層位、遺物番号の順に注記を施した。その後遺物分類カードを作成し、日付、出土層位、点数、分類名、計測値、石器は石材等を記入し、それぞれの遺物に添付してビニール袋にて収納した。このカードに基づいた基礎台帳作成を現場で行った。

(2) 二次整理

一次整理終了後の遺物は、平成16年度に江別市のセンターで二次整理を開始した。掲載遺物の抽出・実測の指示等は、土器を鎌田望・柳瀬由佳が、石器を村田大・新家水奈が担当した。

(3) 写真および記録図面類

現場写真は C、D、E 地区それぞれの遺構調査者と地区担当者が撮影し、撮影後の整理は柳瀬由佳が行った。報告書作成にあたり、現場写真ページのレイアウトは新家水奈が、焼き付けとフィルムの最終整理および管理、室内での遺物撮影と焼き付けは立川トマスが担当した。

現地でそれぞれの担当者が作成した原因は、江別市内の整理作業所において素図を作成、平成16年度に鎌田・新家がとりまとめ、トレス図を作成した。

(4) 記録類と遺物の収納・管理

報告書刊行後、出土遺物と、現場および整理作業で作成した各種記録図面は、収納台帳とともに森町教育委員会にて保存・活用される。写真フィルムは北海道立埋蔵文化財センターが保管する。

収納遺物はまず報告書掲載のものと未掲載のものに分けた。掲載した遺物はおおむね掲載順に収納した。未掲載遺物は、遺構出土のものと包含層出土のものに分け、遺構出土のものは遺構ごとにコンテナに収納した。包含層出土のものは器種分類ごとに分け、さらにグリッドのアルファベット順にコンテナに収納した。掲載・未掲載を通して、これらのコンテナに番号をつけ、収納台帳を作成した。

4 土層の区分

(1) 観察項目と記載順序

土層の混在状態の表記は、基本土層記号などを用いて次の様に表した。

A+B AとBがほぼ同量混じる A>B AにBが少量混じる

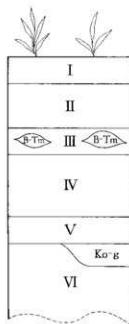
基本層序、遺構の土層の観察には『新版標準土色帖』（小山・竹原 2004）および『土壌調査ハンドブック 改訂版』（日本ペドロジー学会編 1997）を用いた。主な観察項目と記載順序は以下のとおりである。

1. 土性区分 砂土（S）、砂壤土（SL）、壤土（L）、シルト質壤土（SL）、埴壤土（CL）、埴土（C）に分けられる。
2. 色調 色相、明度、彩度を記号および数値で表す方法を採用した。
3. 粘着性 なし、弱、中、強に分けられる。
4. 堅密度 すこぶるしょう、しょう、軟、堅、すこぶる堅、固結に分けられる。
5. 下位の層との層界の明瞭性 明瞭、判然、漸変、散漫に分けられる。
6. 層界の起伏 平坦、波状、不規則、不連続に分けられる。
7. 礫の混入状況 混入面積の割合（%）、石礫の大きさ（細礫0.2～1cm、小礫1～5cm、中礫5～10cm、大礫10～20cm、巨礫20～30cm、巨岩30cm以上）、石礫の形状（角礫、亜角礫、亜円礫、

円礫)、石礫の風化の度合い(未風化、半風化、風化、腐朽)、石礫の種類(軽石、堆積岩等)を記入。

(2) 基本層序(表II-1、図II-3、口絵1-2)

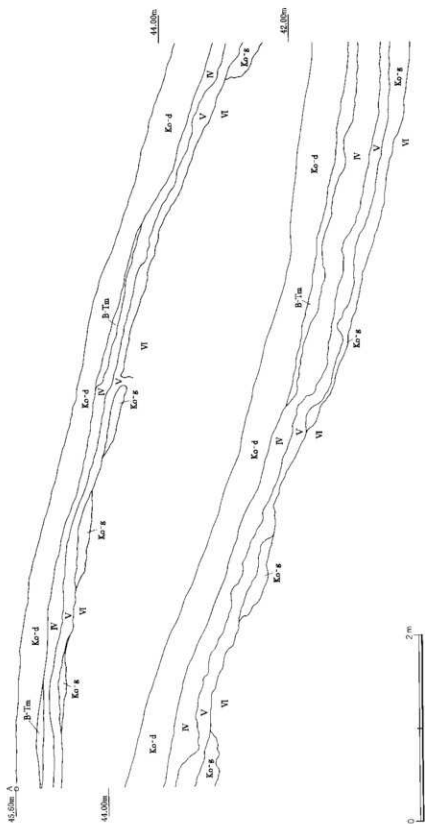
- I層 : 表土・耕作土。
 II層 : 駒ヶ岳起源降下火山灰(Ko-d)層。噴出年代は1640年。平均層厚は80cm。
 III層 : 黒褐色土層。II層(Ko-d)直下の腐植土層。撥文~中・近世の遺物包含層。層厚0~10cm。
 白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)層 : にぶい黄褐色の層で、924~933年、944~947年に降下した白頭山苦小牧起源の火山灰層。層厚0~5cm。
 IV層 : 黒色土層。縄文時代~撥文時代の遺物包含層。層厚10~40cm。
 V層 : 黒褐色土層。漸移層。駒ヶ岳起源降下軽石層(Ko-g)由来の褐~黄褐色土を含む。層厚0~20cm。
 駒ヶ岳火山灰層(Ko-g) : 褐~黄褐色土層。約6000年前に噴出したと思われる駒ヶ岳起源降下火山灰層。層厚約0~20cm。
 VI層 : にぶい黄褐色土。縄文時代早期以前の遺物包含層。約12,000年前の濁川カルデラ(Ng)起源の火砕流堆積層。上部は風化再堆積(ローム)層で、グライ化している。(新家)



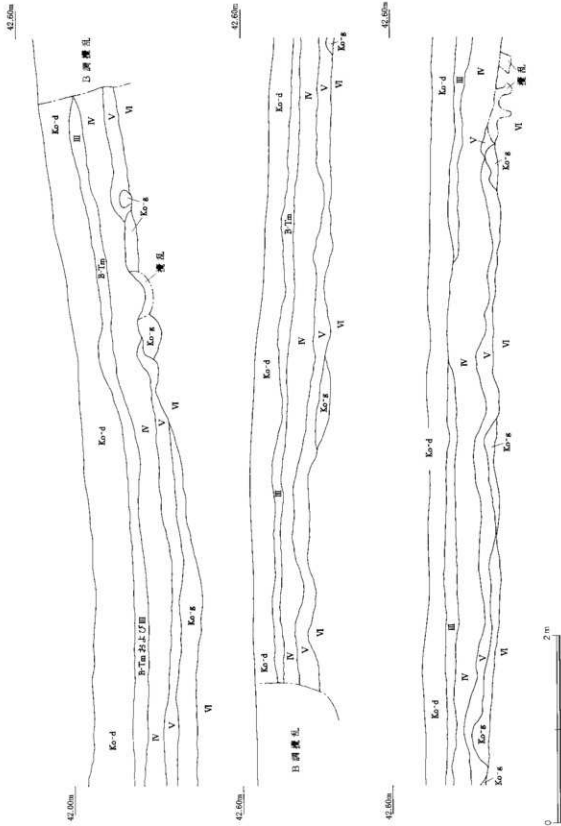
図II-3 基本土層柱状図

表II-1 基本層序属性一覧

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	礫の混入	その他
I				表 土 耕 作 土					
II	砂土	にぶい黄褐	10YR5/3	無	しょう	明瞭	平坦	100%細礫 亜円礫 未風化 軽石	駒ヶ岳起源降下火山灰(Ko-d)層
III	砂壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅	判然	平坦	なし	II層(Ko-d)直下の腐植土層 B-Tm層が若干混入
B-Tm	埴壤土	にぶい黄褐	10YR4/3 ~ 5/3	中	堅	明瞭	不連続	なし	白頭山苦小牧起源降下火山灰(B-Tm)層
IV	埴壤土	黒	10YR1.7/1	強	堅	判然	平坦	なし	遺物包含層
IV1	埴壤土	黒	10YR2/1	強	堅	判然	平坦	なし	沢部分
IV2	埴壤土	黒	10YR1.7/1	強	堅	判然	平坦	なし	沢部分
V	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	漸変	不連続	なし	IV層とKo-g層の漸移層
Ko-g	砂土	褐~黄褐色	10YR1.5/6	なし	堅	判然	不連続	100%細礫 亜円礫 半風化 軽石	駒ヶ岳起源降下軽石(Ko-g)層
VI	砂壤土	褐色	10YR4/4	弱	堅	判然	平坦	40%細礫 亜円礫 半風化 軽石	濁川カルデラ起源火砕流堆積層



図II-4 メインセクション(1)



図II-5 メインセクション(2)

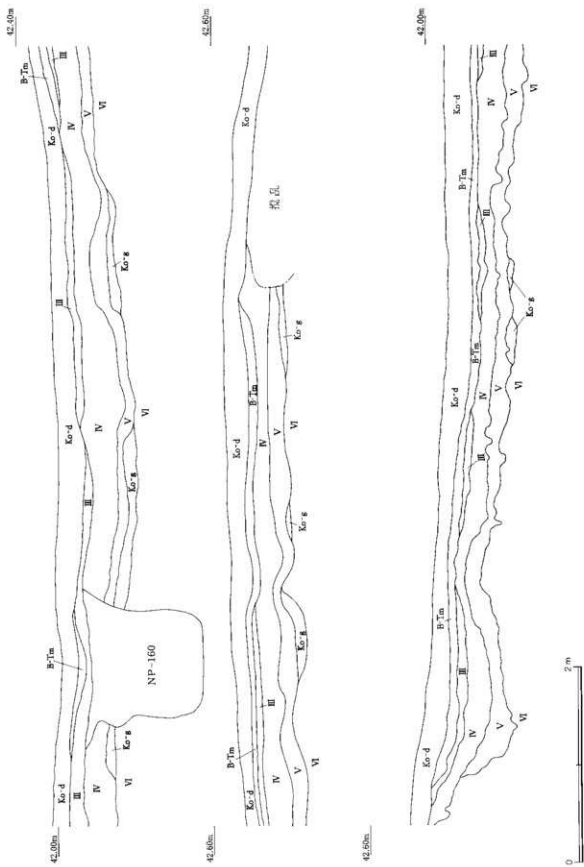


図 II-6 メインセクション (3)

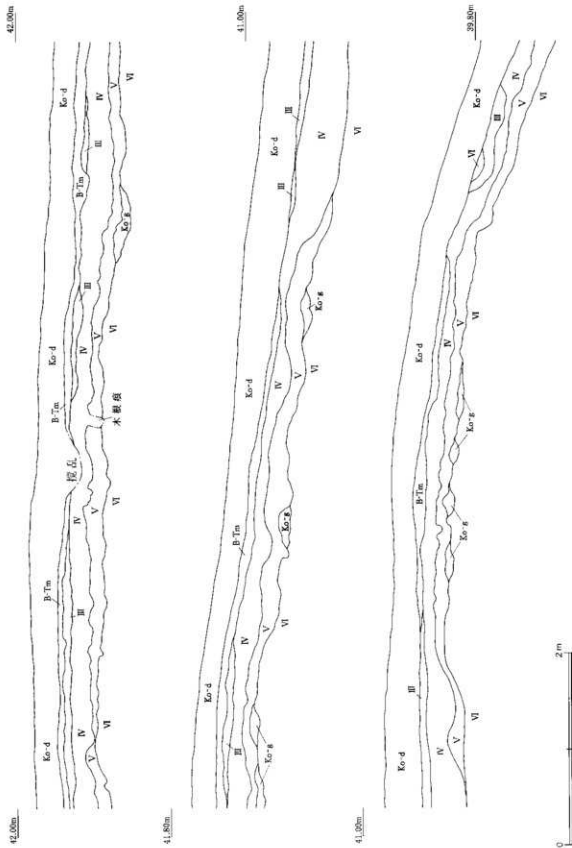


図 II-7 メインセクション (4)

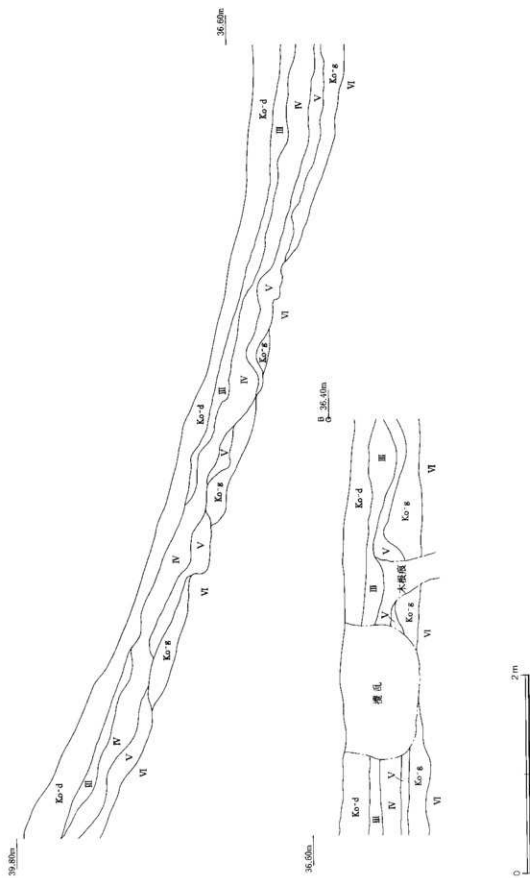


図 II-8 メインセクション (5)

5 遺物の分類

(1) 土器

分類にあたっては、これまでの噴火湾沿岸、渡島半島での調査結果を基にした分類を踏襲した。

便宜上、縄文時代早期の資料をⅠ群とし、以下順次前期、中期、後期、晩期をⅡ群、Ⅲ群、Ⅳ群、Ⅴ群とした。統縄文時代のはⅥ群、擦文時代のはⅦ群とした。この各群にアルファベットの小文字を組み合わせて時期差を示した。前半を a 類、後半を b 類、あるいは前葉を a 類、中葉を b 類、後葉を c 類とした。

本遺跡ではⅣ群 a 類が最も多く、次いでⅢ群 a 類とⅡ群 b 類が出土している。これのほか、Ⅵ群 b 類が若干出土している。Ⅲ群 b 類は僅かである。

Ⅰ群 縄文時代早期に属するもの

a 類：貝殻文、条痕文のある土器群。

b 類：縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文などのある土器群。

Ⅱ群 縄文時代前期に属するもの

a 類：縄文の施された丸底、尖底の土器群。

b 類：円筒土器下層式に相当するもの。

Ⅲ群 縄文時代中期に属するもの

a 類：円筒土器上層式に相当するもの、その系譜を引くもの（サイベ沢Ⅷ式、見晴町式）。

b 類：榎林式、大安在 B 式、ノダップⅡ式、煉瓦台式に相当するもの。

Ⅳ群 縄文時代後期に属するもの

a 類：天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂 3 式、十腰内Ⅰ式に相当するもの。

b 類：ウサクマイ C 式、手稲式、鯨調式に相当するもの。

c 類：堂林式、三ツ谷式、湯の里 3 式に相当するもの。

Ⅴ群 縄文時代晩期に属するもの

a 類：大洞 B 式、上ノ国式に相当するもの。

b 類：大洞 C1 式、大洞 C2 式に相当するもの。

c 類：大洞 A 式、大洞 A' 式に相当するもの。

Ⅵ群 統縄文時代に属するもの

a 類：恵山式に相当するもの。

b 類：後北式に相当するもの。

Ⅶ群 擦文時代に属するもの

(録田)

(2) 石器等

分類後の石器は、遺構出土のものは遺構ごと、包含層出土のものは分類器種ごとに整理台帳を作成し、点数を集計した。分類・石材鑑定は一次整理時のものをそのまま踏襲した。

報告書掲載遺物は、遺構出土、包含層出土を問わず、残存状態が良好であるもの、その器種の特徴を反映しているものを抽出しており、器種ごとの掲載点数はかならずしも出土点数と比例してはいない。

掲載石器の計測は「長さ」、「幅」、「厚さ」（それぞれ最大長）、「重さ」の項目について行い、計測値を表に示した。前者3項目は、実測図上で互いに直交する軸の数値を計測した。欠損部分があるものは、残存長の数値を（丸括弧）でくくった。「重さ」の数値は、剥片石器と100g未満の礫については小数点第2位まで計測、石斧と100g以上の礫・礫石器は10～100gを最小単位とする数値で示した。

石器の分類にあたっては、下記に示した器種別にとどめ、細分は行っていない。分類に使用している名称および掲載順は以下のとおりである。

剥片石器等

石槍、石鏃、石鎌、つまみ付きナイフ（原則として基部は片面加工であり、「ナイフ」という呼称と矛盾するが慣習的にこの名称を用いた）、スクレイパー（原則として片面加工、刃部が周縁の3分の1以上）、Uフレイク（使用痕のある剥片）、Rフレイク（加工痕のある剥片）、ピース・エスキュー、石核、フレイク（剥片・細片）。

石斧・石斧片

礫・礫石器等

たたき石、扁平打製石器（機能部分が断面V字形の刃部状のもの他、平坦なすり面をもつものも含めた）、北海道式石冠、石鋸、すり石（扁平打製石器、北海道式石冠、石鋸以外の形状の「すり」機能を持つ礫石器）、砥石、石錘、石皿、台石、原石、礫

（新家）

土製品

円盤状土製品や三角形土製品、耳栓や鐸形土製品など48点出土した。土器片を加工した円盤状土製品や三角形土製品は拓影を1/3で掲載した。耳栓や鐸形土製品などは実測図を1/2で掲載した。

（鎌田）

石製品

軽石を加工したものが多く、16点出土している。

（新家）

Ⅲ 遺構とその遺物

1 概要

検出遺構は住居跡8軒、土坑94基、石組炉5か所、焼土23か所、小ピット212基、配石1か所、剥片集中1か所、埋設土器1か所である。住居跡は縄文時代前期と推定するもの1軒、中期前半のもの2軒、後期前葉のもの5軒である。土坑は後期前葉のもの45基（墓2基、墓の可能性のあるもの11基）、後期前葉と推定するもの5基（土壙墓1基、土壙墓の可能性のあるもの1基）、前期後半あるいは後期後葉と思われるもの5基、中期前半もしくは後期前葉15基（土壙墓1基、土壙墓の可能性のあるもの8基）、中期前半と推定するもの20基、前期後半あるいは中期前半と推定するもの1基、前期後半1基、時期不明2基である。配石は後期前葉の墓の可能性のある土坑に伴う。埋設土器は中期前半のものである。遺構覆土の注記については表Ⅲ-1にまとめてある。

2 竪穴住居跡

住居跡は8軒検出した。C地区で検出したものはNH-22・24・27・29、E地区で検出したものはNH-25・26・28である。これらは大きく分けて三つの時期の所産である。

縄文時代前期後半

NH-28はベンチ構造をもつ。幅10~20cm、高さ20cmほど段が壁を一周している。地床炉をもつ。覆土・床面から、縄文時代前期後半と後期前葉の土器片が出土した。前期後半の所産であると推定される。

縄文時代中期前半

NH-27・29は縄文時代中期前半の住居跡である。地床炉をもつ。NH-27では埋設土器を検出した。NH-29はNP-145と切り合い関係にあり、NH-29が古い。住居跡の床面直上から出土した炭化物の¹⁴C年代測定を行い、4455±30の値が得られている。

縄文時代後期前葉

NH-22~26は縄文時代後期前葉の住居跡である。NH-22・23・25は石組炉と立石をもつ。NH-24は石組炉と地床炉、立石をもつ。NH-26は立石をもつが炉は検出されていない。（録田）

NH-22（図Ⅲ-1・2・43、口絵2・3-4~6、写真図版2・3・22・26・28-3~10・120・124・126）

位置 E・F24・25

立地 標高44.5m 付近の沢頭状の窪地

平面形 楕円形

規模 6.15/(5.90)×5.26/5.10×0.54m

確認・調査 II層を重機で除去した段階で、E24区を中心とした沢頭状の窪みを検出した。遺構の可能性が想定されたため、ベルトを設定し、トレンチ調査及び周辺を掘り下げ平面形の確認を行った。V層上面においてほぼ円形の平面形が確認され、トレンチにおいて床面・壁が確認されたことから竪穴住居跡と判断した。

覆土 大部分はIV層が直接床面を覆っており、部分的にロームが混入する。

形態 住居跡は、北側へ流出する沢頭状の窪地につくられている。そのため掘り込みは、住居跡の東・南・西側ではVI層に達し、中央部ではV層上面、北側ではIV層中にとどまっている。

床面は地形に沿うように中央へ向かって緩やかに傾斜する。南側では床面が硬化している部分が認められた。壁の立ち上がりは緩やかである。住居跡の北側は抜根痕があり、また掘り込みがV層に達していないため、床面・壁は不明瞭である。

付属遺構 床面中央やや北寄りに石組炉 HF-1 が、HF-1 の北側に 2 個 1 対の立石が検出された。HF-1 の周囲は浅く窪んでおり、石組の内側に不明瞭な焼土が検出された。付属土坑は 9 基検出されたが、明瞭に柱穴と判断できるものはない。

遺物出土状況 床面直上からはⅣ群 a 類土器の破片が、また北側の壁近くでは長径 5 cm ほどの亜円礫が 6 点まとまって出土した。HP-1・2 の覆土からは礫石器・礫が出土している。

時期 住居跡の構造と出土遺物から、縄文時代後期前葉である。 (柳瀬)

掲載遺物 土器：1・2 はⅣ群 a 類土器である。1 は覆土とⅢ・Ⅳ層出土の破片が接合した。2 は覆土出土。1 は器面に LR 縄文のみが施されたもの。口縁は無文となる。2 は無文地に横線・曲線が認められる。 (鎌田)

石器：3 は扁平打製石器である。周縁を剥離調整している。機能部分は刃部様で、平坦面を持たない。石材は安山岩で、被熱により素材は脆弱になっている。 (新家)

NH-23 (図Ⅲ-2・3・43・44、口絵 3-7・8、写真図版 3・4・22・26-11~14・120・124)

位置 D・E15・16 **立地** 標高 45.5 m 付近の平坦面

平面形 円形 **規模** 4.45/4.37×4.09/3.90×0.20 m

確認・調査 16 ラインに設定した土層観察用ベルトの断面で、黒色土の落ち込みが確認されたため、このベルトを延長し、トレンチ調査を行った。石組炉と壁が確認できたため住居跡と判断した。

覆土 Ⅳ層を主体とする黒色土が大半である。

形態 床はおおむね平坦であるが、石組炉の南東付近は床面からなだらかな窪みとなっている。掘り込みは浅く、Ⅴ層中に掘り込まれているが、一部Ⅵ層の上面が露出している。壁は急に立ち上がる。

付属遺構 石組炉を 1 か所検出した (HF-1)。浅い掘り込みを持ち、炭化物を微量に含む。Ⅵ層の焼成は弱い。南東側に 2 個対になる立石がある。礫の形に合わせて地面を掘り込み、全体の 3 分の 2 程度埋め込んでいる。HP は 6 基検出したが、柱穴と判断できるものは HP-2 の 1 基のみである。

遺物出土状況 石組炉の西側でⅣ群 a 類の土器がまとまって出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。 (村田)

掲載遺物 土器：4~7 はⅣ群 a 類土器である。4 は床とⅢ・Ⅳ層出土の破片が接合した。5 は床・覆土 1 層とⅢ・Ⅳ層出土の破片が接合した。6 は床出土のものと同一体。7 は覆土 1 層出土。

4 は LR 縄文地の器面の口縁部と胴下部を 2 本の沈線で区画し、その中を 2 本斜線による鋸歯状沈線でさらに区画し、渦巻文・垂下する蛇行沈線を描く。口縁は多段となり無文である。5・7 は器面に LR 縄文のみが施文されたもの。折り返し口縁は無文となる。5 は上面観は楕円形を呈する。6 は LR 縄文地に縄線文をもつ。 (鎌田)

NH-24 (図Ⅲ-4・5・44・45、口絵 3・4-9~11、写真図版 4・5・22・23・26・28-15~18・20・120・121・124・126)

位置 E・F17・18 **立地** 標高 45.5 m 付近の平坦面

平面形 円形 **規模** 4.60/4.38×4.76/4.52×0.23 m

確認・調査 F17 区を調査中、Ⅳ層下位で石組炉と立石とみられる 2 個の礫を検出したため、周辺を精査したところ、E17 区にかけて不明瞭ながらほぼ円形の平面形を確認した。トレンチ調査によって床面・壁が確認されたため、堅穴住居跡と判断した。

覆土 Ⅳ層に類似するが、Kog などが多く混入する。同一の土層は遺構周辺にも広がっており、生活による攪乱によって形成されたものと考えられる。

形態 VI層を若干掘り込んで作られているが、IV層下位～VI層上面で検出したため、確認できた掘り込みはわずかである。床面はおおむね平坦である。石組炉から立石にかけてやや窪んだ部分があるが、石組炉は窪みに堆積した土層を切って作られているので、貼り土によって窪みを埋めていたものと考えられる。立ち上がりは緩やか、壁はほとんど検出できなかった。

付属遺構 床面中央やや東寄りに石組炉 HF-1が、HF-1の東側に2個一対の立石が検出され、このほか地床炉 HF-2・3が検出された。HF-1は浅い掘り込みを伴い、掘り込みの底面に焼土が形成されている。礫は掘り込みの壁面に沿って置かれる。礫の配置には隙間があるが、一部で礫の抜け痕が確認された。立石南側のものは台石を用いている。付属土坑は8基検出された。柱穴の可能性が高いものは、壁際に位置する HP-1・4・7である。HP-8は、本遺構より古い NH-29の覆土を切って作られたもので、本遺構調査中には検出していなかった。NH-29調査中にIV群 a類土器が柱穴様の掘り込みに納められたような状態でまともに出て出土したことから、NH-24の付属土坑と判断した。

遺物出土状況 住居跡西側の床面直上でIV群 a類土器がまともに出て、HF-1の北西の床面から石核が2点並んで出土した。HP-8からは、IV群 a類土器2個体分が納められたような状態で出土した。

時期 住居跡の構造と出土遺物から、縄文時代後期前葉である。 (柳瀬)

掲載遺物 土器 8～14はIV群 a類土器である。8は床面・HP-8覆土・NH-24覆土・IV層出土の破片が接合したものである。9は床・床直・IV層出土の破片が接合した。10は床、11はHP-5坑底、12はHP-1覆土、13は覆土出土。14はHP-8覆土・NH-29覆土・IV層出土の破片が接合した。8～10・12・14はLR縄文が施されているもの、11・13は無文のものである。8は体部に粗い縄文が施されている。口唇には斜位の縄文の圧痕がまばらに認められる。底部は直立気味で無文となる。9は胴部が「く」の字状に張る。底部は無文でわずかに張り出す。10は口縁に二山の頂部をもつ。12・13は折り返し口縁をもつ。14は口縁に頂部をもつ。磨消技法をもち、2本一組の沈線により文様が描かれる。折り返し口縁は無文となる。 (鎌田)

石器 15は扁平打製石器である。素材の長軸上の両端と、機能部側の縁辺に部分的に打ち欠きを施し、刃部様に加工している。すり面部分はほぼ直線的である。石材は安山岩である。16は石皿である。使用面は片面のみで、若干凹む。石材は安山岩である。 (新家)

NH-25 (図III-6・46、図録4-12・13、写真図版5・26-19・21・124)

位置 B・G2・43 **立地** 標高40.6～40.8m付近の緩斜面

平面形 ほほ円形 **規模** 3.35/3.00×3.12/2.92×0.17m

確認・調査 IV層調査後、VI層上面で2～3mの円形の黒い落ち込みを検出した。石組炉と2つの立石も検出されたため、住居と考え、調査を進めた。

覆土 覆土はIV層主体である。浅い部分の掘り込みは3～5cmほどしか確認できず、掘りすぎてしまった可能性がある。掘り込み面はIV層中であると思われる。

形態 東側の壁がやや緩やかになっている。

付属遺構 HF-1 住居中央よりやや東寄りに、礫4個を並列した石組炉を検出した。礫のうち3個は被熱している。断面を観察した結果、ごく少量の焼土粒が確認されたが、平面では焼土粒の範囲は特定できなかった。

立石 石組炉の約50～60cm東側には、長さ40～50cm、重さ20～30kgの礫が2個、30cm余りの間隔を置いて据えられていた。

遺物出土状況 覆土・床面から、縄文時代後期前葉の土器片が広い範囲で出土している。石器は安山

岩の石皿、頁岩のフレイク等が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。 (新家)

掲載遺物 土器：17～20はIV群 a類土器である。いずれも床から出土した。17は LR縄文地に沈線文をもつ。口縁内外面に多重弧状沈線文が施されている。18は無文地に垂下する蛇行沈線文が認められる。19・20は無文地に横線・斜線・弧線が認められる。 (録田)

NH-26 (図Ⅲ-7・46、口絵4-14、写真図版6・26-22・23・124)

位置 E40 **立地** 標高40.0～40.2m付近の緩斜面

平面形 不明 **規模** (2.28)/(2.20)×(2.14)/(2.12)×0.07m

確認・調査 IV層調査後、立石と思われる2個の礫が埋まっているのを検出した。落ち込みに堆積していたと思われるIV層をほとんど掘り過ぎてしまったため、平面形は不明である。石組炉と考えられる礫類は出土しておらず、焼土も検出されなかった。緩斜面上に位置するため、標高の高い側の住居の覆土はかろうじて残り、輪郭を確認できた。

覆土 覆土はIV層、V層、VI層からなる。掘り込み面はIV層中であると思われる。

形態 輪郭は、立石を取り込んで、さらに東側に広がる可能性もある。

付属遺構 HP-1～8 住居跡内外より、小土坑1基 (HP-1) と、柱状の小土坑を7基 (HP-2～8) 検出した。

立石 住居平面の東側に、重さ20kg以上ある安山岩の礫が2点、30cm余りの間隔を空けて据えられていた。いずれの礫も被熱している。

遺物出土状況 覆土・床面から、縄文時代後期前葉の土器片が出土している。HP-1の覆土から同じ時期の土器が1点とめのうのフレイクが1点出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。 (新家)

掲載遺物 土器：21・22はIV群 a類土器である。21は床、22は覆土から出土した。21は折り返し口縁をもつ無文の土器である。22は折り返し口縁に縄線文、体部に LR縄文が施される。 (録田)

NH-27 (図Ⅲ-8～11・46～48、口絵5-15、写真図版6・7・23・28・29-24～29・121・125～127)

位置 E-G18・19 **立地** 標高45.3m付近の平坦面

平面形 隅丸長方形 **規模** 7.49/7.20×5.18/5.01×0.50m

確認・調査 V層～VI層上面で確認した。褐色土の落ち込みの中央にIV層の落ち込みがあり、黒色土からはIV群 a類土器を中心とする大量の遺物が出土した。トレンチ調査を行ったところ、床面・壁を確認し、床面付近からⅢ群 a類土器が出土したため、縄文時代中期の竪穴住居跡と判断した。

覆土 にぶい黄褐色土や黒褐色土主体である。覆土より上位の、竪穴の窪みに堆積したIV層は色調の違いで2層に分層でき、より上位の土層に多量の遺物が含まれていた。

形態 掘り込みは、斜面の上側にあたる南西側ではVI層中、斜面の下側にあたる北東側ではVI層上面である。複数の風倒木や木根による擾乱で床面が壊されている部分が多い。床面はおおむね平坦であるが、南～西側では中央に向かってやや傾斜する。立ち上がりは緩やかで、壁はやや外傾する。

付属遺構 床面中央で地床炉 HF-1 が、南東側で HF-2 が検出された。HF-1 は焼けの弱い小規模な3か所の焼土からなる。HF-2 は HP-16の覆土上面に形成される。付属土坑は14基検出された。このうち、規模から主柱穴の可能性のあるものは HP-2・8・22・12・18・17・21である。HP-2 以外は、住居跡南半に位置し長軸方向に並んでいる。本来は北半にも HP-2 に続くが HP-2 があつたものが、風倒木により壊されてしまったと考えられる。HP-15・16・23はやや規模の大きい

いものである。いずれも覆土が住居跡本体と類似しており、付属土坑と判断した。また、HP-8・10に隣接して浅い窪みがあり、石核・フレイクが出土している。作業場所であった可能性がある。住居跡の北東側では埋設土器が検出された。土器はⅢ群 a類で、口縁を欠くが断面には摩耗はみられない。正立して埋められており、この土器の下位にはさらに、別個体の口縁突起部の破片が置かれていた。

調査時に付属土坑として調査したHP-3～5・9・13・14・19・20については、Ⅳ群 a類が出土したこと、覆土が黒色土主体であることから、住居跡に伴うものではないと判断し、SPとして扱った。本遺構上位のⅣ層で検出されたNF-58や多量のⅣ群 a類土器と関連がある可能性がある。

遺物出土状況 床面～床面直上でⅢ群 a類が3個体、埋設土器と併せて4個体出土した。また、HP-8・10に隣接した浅い窪みからは、石核・フレイクがまとまって出土した。そのほか床面からは、石斧や扁平打製石器が出土している。

住居跡覆土の上位に堆積したⅣ層からは、Ⅳ群 a類土器を中心とした遺物が大量に出土している。住居跡廃絶後の窪みに廃棄したものと考えられる。

時期 出土遺物から、縄文時代中期前半である。

(柳瀬)

掲載遺物 土器：23～30はⅢ群 a類土器である。23は床面直上・覆土1層出土の破片が接合したもの。24は床面直上、25は床出土である。26・29は埋設土器、27は覆土出土である。28は覆土・SP-522覆土出土の破片が接合したもの。30はHP-12覆土出土である。23は器面に地文の結束第2種の斜行縄文のみが施されている。口唇は縄により刻まれている。底部は張り出し、上げ底である。24は器面に複筋 LRL縄文が施され、貼付による細い隆線によって文様を構成する。垂下する隆線には縄の刻みが認められる。25は手捏ねの無文の坏である。26は底部が張り出す。器面に片方が燃り戻しの結束第1種斜行縄文が施されている。27は口縁に突起をもつ。LR縄文地の器面には2本一組の沈線により、口縁に横遷する横線が引かれ、その下には弧線が描かれている。突起には刺突文が施される。口唇は縄により刻まれる。28は口縁に山形隆起部をもつ。器面には結束第2種羽状縄文が施される。口縁外縁は縄により刻まれる。29は口縁に山形隆起部をもつ無文の土器である。30はLR縄文地に貼付による細い隆線によって文様を構成する。口縁貼付と口唇は縄により刻まれる。(鎌田)

石器：31はつまみ付きナイフである。背面の左側縁に刃部が作り出され、右側縁とその裏側縁辺は連続する小さな剥離で調整してある。石材は頁岩である。32はスクレイパーである。背面の片側縁に連続的な剥離調整による刃部が作り出されている。石材は頁岩である。33は石斧である。基端側を1/3以上欠失している。全体に丁寧に磨きがかけられている。石材は片岩である。34～37は扁平打製石器である。石材はいずれも安山岩である。34は平面形が半円で、図上の表面は上端、長軸上の片端に若干の打ち欠き痕がある他は、ほぼ礫の自然面が残る。裏面は機能部分を刃部状に作り出し、周縁も剥離調整している。35は横長の素材の長軸と平行する一辺に、機能部分が刃部状に作られている。36は刃部状の機能部分を表裏両面からの調整で作り出す。素材の長軸上的一端にも打ち欠いた痕がある。37は素材の周縁を剥離調整している。機能部分は平坦なすり面状になっている。機能部分の一端には敲打調整痕も見られる。38は安山岩の石皿である。片面を使用し、すり面は使用によりやや凹んでいる。(新家)

NH-28 (図Ⅲ-12-49、図給5-16-17、写真図版7・8・27-30・31・125)

位置 B42・43

立地 標高40.4～40.8m付近の緩斜面

平面形 楕円形

規模 2.70/2.08×2.47/1.75×0.48m

確認・調査 NH-25の床面調査中、Ⅵ層とは異なる暗褐色土の広がりを検出した。NH-25調査後

に半載し、別の住居跡が存在することがわかった。

覆土 V層、VI層からなる。掘り込み面はIV層下位あるいはV層である。

付属遺構 ベンチ ベンチ状の段が壁を一周している。幅は10～20cm強、高さ20cm程度である。

HF-1 住居中央よりやや東側床面で、径約60cm、深さ10cm弱の掘り込みの中央に焼土を検出した。少量の炭化物も出土している。

HP-1 住居床面のやや南西側で柱穴様の小土坑1基を検出した。

遺物出土状況 覆土・床面から、縄文時代前期後半と後期前葉の土器片が出土している。石器は頁岩のスクレイパーや北海道式石冠が出土している。

時期 検出状況や覆土の状況から、縄文時代後期より古い。周辺の後期前葉の住居とは異なり、掘り込みが深く、壁の立ち上がりも明瞭で、覆土と周囲の境界がはっきりしている。出土遺物から縄文時代前期の可能性もある。 (新家)

掲載遺物 土器：39・40はⅡ群 b類土器、41・42はⅣ群 a類土器である。39～41は覆土、42は床出土である。39・40は単軸絡条体が施されている。41は無文地に単線による沈線文をもつ。42は器面にLR縄文が施されている。 (録田)

NH-29 (図Ⅲ-12・13・49、口絵5-19、写真図版8・27・28-32・36・125・126)

位置 E・F17 **立地** 標高45.5m 付近の平坦面

平面形 楕円形 **規模** 3.21/2.96×2.54/2.14×0.28m

確認・調査 重複するNH-24の調査終了後、さらに周辺グリッドの掘り下げを行ったところ、VI層で平面形を検出した。ベルトを設定して掘り下げを行い、床面・壁を確認したため、竪穴住居跡と判断した。なお、本遺構の床面において、調査中には抜根痕かと誤認していた黒色土の落ち込みの平面形が確認され、NP-145と認定した。よってNP-145は本遺構よりも新しい。

覆土 黒褐色土や灰黄褐色土が主体である。

形態 VI層を掘り込んでつくられている。床面は平坦で、立ち上がりはおおむね緩やか、壁は外傾する。

付属遺構 床面中央に地床炉 HF-1 が検出された。付属土坑は15基検出された。HP-1を除き柱穴と考えられる。HP-2～9は竪穴内に位置し、壁際を巡る。HP-11～16は40～70cmほど離れた竪穴外に位置し、外周を巡っている。南側壁際に不明瞭な浅い窪みがある。また、床面ではHF-1を囲むように黒色土の分布が認められた。その北西側には炭化物の集中範囲が認められ、これについて¹⁴C年代測定を行った。

遺物出土状況 床面から石皿とⅢ群 a類土器の破片が出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代中期前半である。なお、床面から出土した炭化物の¹⁴C年代測定を行ったところ、4455±30の値が得られた。NP-145と重複しており、本遺構が古い。 (柳瀬)

掲載遺物 土器：43・44はⅢ類 a類土器である。43は床出土、44は床面直上出土である。43は器面にLR縄文が施され、口唇が縄により刻まれている。44は口縁に台形突起をもつ。器面に施したLR縄文はナデ消されている。 (録田)

石器：45は扁平打製石器である。2点が接合したものである。被熱して赤色化している。周縁を剥離調整し、機能部は刃部状に作られる。石材は安山岩である。46は石皿である。素材の片面を使用し、すり面は凹んでいる。石材は安山岩である。 (新家)

3 土坑墓および土坑墓の可能性のある土坑

土坑は94基検出した。そのうち、土坑墓および土坑墓の可能性のある土坑としたものはNP-99・104・106・108・110~113・115・117・118・126~128・131~133・138・143・144・150~153・159・160・163・164・166・168~174・176・180・182・183・186・187の42基である。

このうちC地区で検出したものはNP-99・104・106・108・110~113・115・117・118・131~133・138・143・144・150・163・164・166・168~174・176・180・182・183・186・187の34基である。

E地区で検出したものはNP-126~128・151~153・159・160の8基である。

いずれも、覆土は埋め戻しの土であり、土器、石斧、扁平打製石器、たたき石、北海道式石冠、石皿・台石、砥石、こぶし大~人頭大の礫などの遺物を伴う。

これらの土坑墓・土坑墓の可能性のある土坑は縄文時代前期後半、中期前半、後期前葉の三つの時期の所産である。前期後半あるいは後期前葉と考えられるものはNP-151・153・159・160、中期前半と考えられるものはNP-106・113・117・118・138・144・164・168~173・182、中期前半あるいは後期前葉と考えられるものはNP-108・110・111・115・131~133・166・187、後期前葉と考えられるものはNP-99・104・112・126~128・143・150・152・163・174・176・180・183・186である。

(鎌田)

NP-99 (図III-14、写真図版9-38・39)

位置 G9 立地 標高43.5m付近の濁川に面する緩斜面

平面形 楕円形 規模 1.64/1.46×-/0.80×0.74m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層・V層を主体とした埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がり、一部オーバーハングしている。覆土からII群 b類、III群 a類、IV群 a類の土器が出土した。土坑墓の可能性はある。NP-103より新しい遺構である。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

NP-104 (図III-15・50、写真図版29-127)

位置 H8・9 立地 標高43m付近の濁川に面する緩斜面

平面形 円形 規模 1.77/1.30×-/×0.44m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は坑底に黒色土の薄い堆積があり、その上位は黒褐色土の埋め戻しである。坑底は平坦で壁際に小ピットがある。壁は緩やかに立ち上がる。覆土からIV群 a類土器と北海道石冠、石皿が出土している。土坑墓の可能性はある。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

掲載遺物 石器:47は石皿である。片面を使用している。使用面は中央が一番深く凹み、その周囲は一段浅いすり面ができています。石材は安山岩である。(新家)

NP-106 (図III-16・51、写真図版10・23・29-44・121・127)

位置 G8・9 立地 標高43.5m付近の濁川に面する緩斜面

平面形 楕円形 規模 1.10/0.78×0.79/0.54×0.43m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は黒褐色土を主体とする埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。西側の壁際に口縁部を上にしてIII群 a類の土器が1個体まとまって出土した。覆土の上層からたたき石、扁平打製石器、砥石が出土した。土坑墓と考えられる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

掲載遺物 土器：49はⅢ群 a類土器である。坑底・覆土1層から出土した破片が接合したものである。胴下部が張り、口縁部が外反する。口縁には二山の突起一対と一山の突起一対をもつ。器面に結束第2種羽状縄文を施し、二山の突起下口縁部に把手状貼付、一山の突起下口縁部にボタン状貼付をもつ。口唇と突起側面は棒状工具により刻まれている。(鎌田)

石器：50は扁平打製石器である。素材の周縁を大きく打ち欠いて整形している。図の上部はえぐれている。機能部分は断面がV字形の刃部状に作られている。長軸上の一端を欠失している。被熱により脆弱化している。石材は安山岩である。(新家)

NP-108 (図Ⅲ-16、写真図版10-45)

位置 E8 **立地** 標高44m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 楕円形 **規模** 1.18/1.01×0.88/0.84×0.46m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は褐色土を主体とする埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。坑底から人頭大の礫が5点まとまって出土した。土坑墓の可能性ある。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉と考えられる。

(村田)

NP-110 (図Ⅲ-16、写真図版10-46)

位置 E10 **立地** 標高44.5m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 円形 **規模** 1.12/0.98×1.02/0.98×0.48m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は黒褐色土を主体とする埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。坑底から人頭大の礫4点と石皿が1点出土した。土坑墓の可能性ある。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉と考えられる。

(村田)

NP-111 (図Ⅲ-16、写真図版10-47)

位置 E・F9・10 **立地** 標高44.5m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 円形 **規模** 1.23/0.96×1.12/0.89×0.54m

確認・調査 V層で確認した。覆土はⅣ層とⅥ層の混じった黒褐色土で埋め戻しである。坑底は皿状、壁は緩やかに立ち上がる。坑底直上からこぶし大の礫が5点出土した。土坑墓の可能性ある。

時期 周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半あるいは後期前葉である。

(柳瀬)

NP-112 (図Ⅲ-17・51、写真図版10・25・27・29-48・123・125・127)

位置 F・G10 **立地** 標高44m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 楕円形 **規模** 1.29/1.10×0.91/0.74×0.52m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は黒褐色土と暗褐色土の埋め戻しである。坑底は平坦で長軸方向に段を持つ。壁は急に立ち上がる。覆土上位からⅣ群 a類の土器がまとまって出土した。覆土上位から中位にかけて重さ0.4kg-16.8kgの礫がまとまって出土した。土坑墓と考えられる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。

(村田)

掲載遺物 土器：51・52はⅣ群 a類土器である。51は覆土1層・Ⅳ層出土の破片が接合したもの。無節 Lr縄文が施され、折り返し口縁は無文となる。52は覆土1層出土。地文の LR 縄文は口縁で施文方向を変える。口縁には縄線文を2条もつ。(鎌田)

石器：53はスクレイパーである。頁岩の縦長素材の片側縁に刃部が形成されている。(新家)

NP-113 (図Ⅲ-17・52、写真図版11・24・29-49・50・122・127)

位置 F10・11 立地 標高44.5m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 楕円形 規模 1.06/0.38×0.73/0.37×0.58m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層とVI層の混じった黒褐色土で埋め戻しである。炭化物が少量混入する。坑底はボウル状に窪み、壁の立ち上がりは緩やかである。西側には柱穴状の張り出しがある。坑底付近から北海道式石冠と礫が出土した。土坑墓の可能性はある。

時期 坑底付近と周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半である。(柳瀬)

掲載遺物 土器：54はIV群 a類土器である。覆土とⅢ・IV層出土の破片が接合したものである。胴上部が張り、頸部がわずかにくびれ、口縁部が外傾して口縁が内湾する。口縁に山形隆起部をもつ。RL縄文地に2本一組の沈線による文様をもつ。口縁と頸部に沈線を引いて文様帯を区画し、口縁部文様帯に鋸歯状文と楕円形区画文が描かれ、楕円形区画文の中が磨消される。胴部文様帯には鋸歯状文と波状文を組み合わせた文様と渦巻文をもつ。胴下部には楕円形区画文が描かれ、文様帯の区画となっている。(録田)

石器：55は北海道式石冠である。未使用品である。一部欠損している。鉢巻状の敲打調整は不明瞭で、全体に敲打痕が見られる。石材は安山岩である。(新家)

NP-115 (図Ⅲ-17・52・53、写真図版29・30-127・128)

位置 E10・11 立地 標高45.0m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 楕円形 規模 (2.23)/(1.06)×1.69/0.98×0.70m

確認・調査 V層上面で確認したが、隣接するNP-131・132も含めて掘乱しと誤認し、掘り下げを進めていた。坑底近くまで掘り上げてしまった段階で、形態から土坑であると判断した。確認できた土層は坑底・壁付近のみである。覆土はVI層主体の埋め戻しである。VI層とKo-gの混合したブロックも認められる。北西側に大きな張り出しがあり坑底は平坦で立ち上がりは急、壁は外傾する。張り出し部の底面は平坦である。張り出し部分から石皿と人頭大の礫が出土している。覆土と遺物出土状況から、土坑墓の可能性はある。NP-183と形態・規模が共通する。NP-131と重複するが、新旧関係は不明である。

時期 周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半あるいは後期前葉である。(柳瀬)

掲載遺物 石器：56は扁平打製石器である。横長の素材の周縁を打ち欠いて整形している。機能面は幅1cm前後の平坦なすり面状になっている。石材は安山岩である。57は石皿である。片面使用で、すり面は中心に向かって深く凹む。石材は安山岩である。(新家)

NP-117 (図Ⅲ-18・53、写真図版11・29-53・127)

位置 H9 立地 標高43m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 楕円形 規模 1.07/0.77×0.77/0.60×0.37m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層を主体とする暗褐色土で埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。坑底から北海道式石冠、石皿、礫がまとめて出土した。土坑墓と考えられる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

掲載遺物 石器：58は北海道式石冠である。基部中程を鉢巻き状に敲打調整痕が巡る。素材の一端を欠失した後も使用している。すり面は平坦でなく、緩やかに湾曲する。石材は安山岩である。(新家)

NP-118 (図Ⅲ-18・54、写真図版11・30-54・128)

位置 H10 立地 標高43.5m 付近の濁川に面する緩斜面
平面形 楕円形 規模 0.98/0.65×0.85/0.58×0.44m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層・V層を主体とする黒褐色土で埋め戻しである。炭化物を少量含む。壁は緩やかに立ち上がり、断面は椀状を呈する。覆土中位から坑底に石斧や石鋸、北海道式石冠と礫21点がまとまって出土した。土坑墓の可能性はある。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

掲載遺物 石器：59は石斧である。基端を欠損している。剥離調整による整形の後、全体を研磨している。石材は泥岩である。60は北海道式石冠である。全体に敲打調整が施され、丁寧に整形されている。使用面は平坦でなく、緩く湾曲している。すり面はよく使い込まれ、非常になめらかである。素材の一端が欠落している。この欠損の後、被熱している。石材は安山岩である。61は石鋸である。薄手の素材の長い側縁を機能部としている。剥離調整により機能部を刃部様に作出している。機能部以外に加工は見られない。また擦痕はなく、未使用である。石材は安山岩である。(新家)

NP-126 (図Ⅲ-20、写真図版12-58・63)

位置 D39 立地 標高40.6~40.8m 付近の緩斜面
平面形 楕円形 規模 1.12/0.96×0.96/0.74×0.46m

調査・確認 VI層上面で検出した。覆土はIV層、V層、VI層からなる、埋め戻しである。覆土や坑底から縄文時代後期前葉の土器片が22点出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(新家)

NP-127 (図Ⅲ-20・55、写真図版12・24・27-59・60・63・122・125)

位置 D39 立地 標高40.4~40.8m 付近の緩斜面
平面形 楕円形 規模 1.14/0.92×1.00/0.86×0.44m

調査・確認 VI層上面で検出した。覆土はIV層、V層、VI層からなる埋め戻しである。4層は崩落土である。覆土から縄文時代後期前葉の土器片が78点出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(新家)

掲載遺物 土器：64・65はIV群 a類土器である。64は覆土とIV層出土の破片が接合したものである。65は覆土出土である。64は胴上部が張り、頸部がくびれ、口縁部が外反する。無文地の器面の頸部と胴上部に2本の沈線を引き区画し、その中にクランク文を充填する。65は口縁の際までRL縄文を施し、口縁で施文方向を変えている。口縁には縄線文を2条もつ。(鎌田)

NP-128 (図Ⅲ-20、写真図版12-61~63)

位置 C・D39 立地 標高40.6~40.8m 付近の緩斜面
平面形 円形 規模 0.84/0.48×0.80/0.46×0.50m

調査・確認 VI層上面で検出した。覆土はIV層、V層、VI層からなる埋め戻しである。3・4層は崩落土の可能性はある。覆土から縄文時代後期前葉の土器片が11点出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(新家)

NP-131 (図Ⅲ-21)

位置 E10 立地 標高45.0m 付近の濁川に面する緩斜面
 平面形 楕円形? 規模 0.82/0.60×—/—×0.39m

確認・調査 重複する NP-115と同様、当初は木根による擾乱と誤認して掘り下げてしまったため、確認できた土層は坑底・壁付近のみである。覆土はⅥ層主体で壁際の土層からはほぼ単一層であったと推定される。埋め戻しの可能性がある。坑底は平坦で立ち上がりは急、壁は直立に近い。覆土が埋め戻しの可能性があることから、土坑墓の可能性もある。隣接する NP-132と規模・覆土が類似する。NP-115と重複するが新旧関係は不明。

時期 周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半あるいは後期前葉である。 (柳瀬)

NP-132 (図Ⅲ-21)

位置 E10 立地 標高45.0m 付近の濁川に面する緩斜面
 平面形 楕円形 規模 (0.72)/0.52×0.73/0.48×0.52m

確認・調査 NP-131と同様である。覆土はⅥ層主体で壁際の土層からはほぼ単一層であったと推定される。埋め戻しの可能性がある。坑底は平坦で、壁は直立に近い。坑底から拳大～手のひら大の礫が4点出土した。土坑墓の可能性もある。隣接する NP-131と規模・覆土が類似する。

時期 周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半あるいは後期前葉である。 (柳瀬)

NP-133 (図Ⅲ-20、写真図版13-65・66)

位置 E・F10・11 立地 標高44.7m 付近の濁川に面する緩斜面
 平面形 円形 規模 1.06/0.60×1.02/0.53×0.70m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は黒褐色土・褐色土主体の埋め戻しである。上部には K_o-g とⅥ層が混合した土層が堆積する。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土から人頭大の礫が2点出土した。土坑墓の可能性もある。

時期 覆土と周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半あるいは後期前葉である。 (柳瀬)

NP-138 (図Ⅲ-22、写真図版13-24-69・122)

位置 G・H9・10 立地 標高43.5m 付近の濁川に面する緩斜面
 平面形 楕円形 規模 1.20/1.00×0.78/0.56×0.44m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は坑底に粘性のある薄い黒色土が堆積があり、その上位は暗褐色土の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。坑底からⅢ群 a類の土器がまとまって出土した。覆土から北海道式石冠と扁平打製石器が出土した。土坑墓と考えられる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。 (村田)

掲載遺物 土器:67は坑底から出土したⅢ群 a類土器である。胴下部が張り、頸部がくびれ口縁部が外反する。底部は上げ底気味である。器面に結束第2種羽状縄文が施され、口頸部に3点で接続する把手状貼付をもつ。口縁には把手状貼付を挟んで貼付が二つ付けられている。口縁と貼付は縄により刻まれている。 (録田)

NP-143 (図Ⅲ-23、写真図版14-75・76)

位置 H15 立地 標高44.7m 付近の平坦面
平面形 ほは円形 規模 0.67/0.46×0.62/0.43×0.46m

確認・調査 VI層中で確認した。覆土は5層に分けられる埋め戻しである。100kg近くに及ぶものと20kgほどの安山岩の礫が2点、坑口部から覆土下位にかけて縦位に出土した。表面が風化しており、地山の礫をそのまま埋め戻したと考えられる。土墳墓の可能性はある。

時期 周辺の出土遺物や遺物の出土状況から縄文時代後期前葉の可能性が考えられる。(影浦)

NP-144 (図Ⅲ-23・56、写真図版15・25・27・30-77・78・123・125・128)

位置 D15・16 立地 標高45.5m 付近の平坦面
平面形 円形 規模 2.29/2.15×1.55/1.42×0.46m

確認・調査 V層上面で確認した。遺構上部は木根跡の攪乱を受けていた。覆土はIV層・V層を主体とする暗褐色土の埋め戻しである。南側の坑底に、粘性に富み、炭化物を少量含む黒色土が、しみ状に拡がっていた。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。坑底からⅢ群 a類土器が出土した。覆土から扁平打製石器が5点出土し、そのうち4点が被熱している。土坑墓と考えられる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

掲載遺物 土器：68～70はⅢ群 a類土器である。68は覆土とIV層出土の破片が接合したもので、69は坑底と覆土1層出土の破片が接合したものである。70は覆土1層出土である。68は口縁に台形突起をもつ。胴上部から口縁は無文地でありここに貼付隆帯により文様を構成し、刺突列・RL繩の側縁圧痕を充填する。突起下と胴部の横還する貼付隆帯にボタン状貼付文をもつ。貼付隆帯は繩により刻まれている。胴部には結束第1種羽状縄文が施される。69は器面に結束第2種の縄文、口縁に2個一組の貼付を4か所にもつ。口唇は繩により刻まれる。70はRL縄文地に隆線により文様を構成する。(鎌田)

石器：71～73は扁平打製石器である。素材長軸に平行する一辺を機能部とする。71・73は周縁の剝離調整により、刃部様に作出されている。73は未使用である。72の機能面は平坦なすり面状になっている。いずれも石材は安山岩である。(新家)

NP-150 (図Ⅲ-24・56、写真図版15・27-83・125)

位置 H16 立地 標高44.8m 付近の平坦面
平面形 ほは円形 規模 0.92/0.72×0.79/0.57×0.52m

確認・調査 VI層中で確認した。覆土は4層に分けられる。人為的な埋め戻しと見られる。壁際において付属土坑 PP-1～3を検出した。覆土1層からⅢ群 a類1点、IV群 a類7点が散発的に出土、坑底に近い覆土4層から、安山岩製の扁平礫が3点出土した。墓の可能性が考えられる。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性が考えられる。(影浦)

掲載遺物 土器：74はNP-150とSP-408の覆土1層出土のIV群 a類土器である。無文地に沈線文をもつ。(鎌田)

NP-151 (図III-23・57、写真図版15・16・27-82・84・125)

位置 D43 立地 標高40.2~40.6m 付近の緩斜面
 平面形 円形 規模 1.71/1.46×1.57/1.21×1.04m

調査・確認 VI層上面で検出した。覆土の1・2層は自然堆積、それ以外は埋め戻しと思われる。最下位の10層は粘性の強い真っ黒な腐植土が薄く堆積したものである。遺物は、覆土・坑底から縄文時代前期後半の土器片が7点、後期前葉の土器片が12点出土している。図中の安山岩礫は2点が被熱していた。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半あるいは後期前葉である。(新家)

掲載遺物 土器：75a・bはII群b類土器、76はIV群a類土器である。いずれも覆土から出土した。75a・bは同一個体の口縁部と胴部である。口縁に頂部をもつ。口縁部に縄線文・結束第1種の回転文、体部に単軸絡条体による割線瓦痕と結束第1種羽状縄文が施されている。76は無文地に3本一組の曲線や横線の沈線が認められる。(録田)

NP-152 (図III-25・57、写真図版16・31-85・86・129)

位置 E46・47 立地 標高38.6~39.0m 付近の斜面肩
 平面形 円形 規模 0.87/0.66×0.82/0.62×0.32m

調査・確認 VI層上面で検出した。覆土はいずれも埋め戻しと思われる。遺物は、覆土・坑底からII群b類の土器片が1点、III群a類の土器片が1点、IV群a類の土器片が8点出土している。また、たつき石、扁平打製石器も各1点出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。

掲載遺物 石器：77は扁平打製石器である。細長い素材の一端と機能部周辺を剥離調整している。機能部は刃部様に作られている。石材は安山岩である。(新家)

NP-153 (図III-25・57、写真図版16・31-87・88・129)

位置 D・E46 立地 標高39.2~39.4m 付近の斜面肩
 平面形 楕円形 規模 0.82/0.49×0.69/0.40×0.26m

調査・確認 VI層上面で検出した。覆土1・2層は埋め戻し、3層は崩落土と思われる。覆土・坑底からIV群a類の土器片が1点、北海道式石冠が2点出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半あるいは後期後葉である。

掲載遺物 石器：78は北海道式石冠である。素材中程に帯状に敲打調整が施される。すり面は使用により、図中の正面側に大きく傾く。石材は安山岩である。(新家)

NP-159 (図III-26、写真図版17-97)

位置 E44・45 立地 標高39.4~39.8m 付近の緩斜面
 平面形 円形 規模 2.66/2.24×2.36/1.90×0.36m

調査・確認 VI層上面で、安山岩の礫が数点まともって出土した。その周囲に、暗褐色土のまだらな土が円形に落ち込んでいた。覆土はIV層、V層、VI層からなる。掘り込みが浅く、坑底も平らで、小規模の住居跡の可能性はある。遺物はII群b類の土器片が30点、IV群a類の土器片が22点出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半あるいは後期後葉と思われる。(新家)

NP-160 (図Ⅲ-25、写真図版15-79)

位置 B34・35 立地 標高41.6~41.8m 付近の緩斜面
平面形 不明 規模 (1.29)/(0.92)×(0.59)/(0.33)×1.16m

調査・確認 VI層上面で検出した。土坑の大半が調査範囲境界線の法面にかかり、断面の観察は範囲境界線の壁で行った。覆土1層は自然堆積、それ以外は埋め戻しである。NP-151に似る。遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構から、縄文時代前期後半あるいは後期前葉である。(新家)

NP-163 (図Ⅲ-24、写真図版17-92)

位置 G15・16 立地 標高45.0m 付近の平坦面
平面形 楕円形 規模 0.81/0.61×0.61/0.40×0.23m

確認・調査 VI層中で確認した。覆土は2層に分けられる。人為的な埋め戻しと見られる。確認面中央において人頭大の礫が1点出土した。重量9.6kgの安山岩である。ほかに覆土からⅢ群 a類の土器片が1点、Ⅳ群 a類の土器片が4点、頁岩のフレイクが1点出土した。墓の可能性はある。

時期 周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性が考えられる。(影浦)

NP-164 (図Ⅲ-26、写真図版17-93)

位置 E4 立地 43m 付近の濁川に面する緩斜面
平面形 円形 規模 1.00/0.87×0.94/0.79×0.43m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はⅣ層・V層を主体とする黒褐色土。墳底は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土の中位から石皿が1点出土した。土壌墓の可能性はある。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

NP-166 (図Ⅲ-26・58、写真図版17・30-96・128)

位置 D・E5 立地 標高43m 付近の濁川に面する緩斜面
平面形 楕円形 規模 1.19/0.90×1.02/0.81×0.66m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はⅣ層・V層の暗褐色土を主体とする埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土上位から石皿と礫がまとまって出土した。坑底からも礫がまとまって出土しているが、覆土上位のもの比べて坑底出土のものはやや小さい。土坑墓の可能性はある。NP-167より新しい。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉と考えられる。(村田)

掲載遺物 石器:80は石皿である。片面使用で、すり面は大きく凹む部分と比較的平坦な部分がある。石材は安山岩である。(新家)

NP-168 (図Ⅲ-27、写真図版17-98)

位置 G6 立地 標高43m 付近の濁川に面する緩斜面
平面形 楕円形 規模 1.33/1.21×1.00/0.90×0.66m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は坑底に粘性のある薄い黒色土の堆積があり、その上位は暗褐色土や黒褐色土で埋め戻されている。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土の上位に扁平打製

石器、石皿と人頭大の礫がまとまっており、覆土の中位に拳大の礫がまとまって出土した。土坑墓と考えられる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

NP-169 (図Ⅲ-27、写真図版18-99)

位置 G7・8 **立地** 標高43m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 円形 **規模** 0.99/0.78×0.97/0.76×0.42m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は坑底に粘性のある暗褐色土が薄く堆積があり、その上位はV層を主体とする黄褐色土と暗褐色土で埋め戻されている。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。坑底から拳大～人頭大の礫が出土している。土坑墓と考えられる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

NP-170 (図Ⅲ-27・57、写真図版18・26・31-100・124・129)

位置 J7 **立地** 標高42.5m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 円形 **規模** 0.73/0.49×0.71/0.47×0.29m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はV層にIV層が混じる黄褐色土で埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土の上位からⅢ群 a類土器と北海道式石冠4点、被熱礫1点を含む礫24点がまとまって出土した。土坑墓と考えられる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

掲載遺物 土器：81はIV群 a類土器である。覆土1層から出土した。底部が張り出し、胴が張り頸部がくびれる器形である。体部にはRL縄文が施され、胴上部で施文方向を変えている。口縁部を欠く。

石器：82は北海道式石冠である。図中の上部と一端に欠損がある。基部には丁寧な敲打調整が施されている。機能面はよく使い込まれ、なめらかで平坦である。石材は安山岩である。(新家)

NP-171 (図Ⅲ-27・58、写真図版18・31-101・129)

位置 B **立地** 標高42.5m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 楕円形 **規模** 1.39/1.14×0.99/0.80×0.56m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は坑底に粘性のある黒色土の薄い堆積があり、その上位はV層・VI層主体の黄褐色土やIV層主体の黒褐色土で埋め戻されている。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土の上位から中位で扁平打製石器、石皿、礫がまとまって出土した。土坑墓と考えられる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

掲載遺物 石器：83は扁平打製石器である。横長素材の両端を打ち欠き、長い一辺を機能面とする。すり面がほぼ平坦に、幅広く形成されている。石材は安山岩である。(新家)

NP-172 (図Ⅲ-27、写真図版18-102)

位置 H8 **立地** 標高43m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 円形 **規模** 0.89/0.70×0.79/0.66×0.19m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はV層を主体とする黒褐色土と暗褐色土。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。坑底から礫が6点まとまって出土した。土坑墓の可能性はある。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

NP-173 (図Ⅲ-27、写真図版18-103)

位置 H8 立地 標高43m 付近の濁川に面する緩斜面
平面形 円形 規模 0.83/0.59×0.81/0.58×0.35m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はV層・VI層を主体とする埋め戻しである。覆土上位の黒色土には小礫が混じる。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。坑底からたたき石1点と礫がまとまって出土した。土坑墓と考えられる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

NP-174 (図Ⅲ-28)

位置 I8 立地 標高45.0m 付近の平坦面
平面形 円形 規模 0.96/0.76×0.90/0.76×0.45m

確認・調査 V層に相当する面で確認した。周辺は古い風倒木によると思われる攪乱により、明黄褐色ローム層が露出していた。覆土はIV層主体で、ローム塊やロームブロックが混入する。埋め戻しと考えられる。坑底は平坦で壁は急、壁はやや外傾する。覆土上位から石皿が2点、覆土から拳～手のひら大の礫が3点出土している。覆土が埋め戻しであることと石皿の出土状況から、土坑墓と考えられる。

時期 周辺包含層の出土遺物から、縄文時代後期前葉の可能性はある。(柳瀬)

NP-176 (図Ⅲ-28、写真図版18-104)

位置 G17・18 立地 標高45.2m 付近の平坦面
平面形 楕円形 規模 0.80/0.57×0.75/0.48×0.16m

確認・調査 V層で確認した。本遺構の上位ではNS-1が検出されており、その土層観察のためにGラインにベルトを設定し、ベルトにかかる礫を残して包含層の掘り下げを行った。本遺構はそのベルトに一部かかって検出され、ベルトに現れた断面と礫との関係を観察した結果、少なくともNS-1の礫の一部は本遺構に納められた状態と判断できた。そのため、本遺構はNS-1に伴うものと考えられる。

覆土はIV層主体で、礫の出土状況から埋め戻しと考えられる。坑底はボウル状に窪み、立ち上がりは緩やかである。NS-1として取り上げた礫以外は、坑底付近から拳大の礫が出土している。土坑墓の可能性はある。

時期 周辺包含層の出土遺物から、縄文時代後期前葉である。(柳瀬)

NP-180 (図Ⅲ-28、写真図版19-105)

位置 H17 立地 標高45.0m 付近の平坦面
平面形 隅丸方形 規模 0.92/1.07×0.87/0.84×0.66m

確認・調査 VI層上面で検出した。覆土は主にIV層主体で、Kogや小礫が多く混入する。下層にはローム・Kog主体層が堆積する。埋め戻しと考えられる。フラスコ状の土坑で、坑底は平坦、立ち上がりは緩やかで、壁は下半でオーバーハングし、上半で開く。覆土上位から石皿2点と重さ22.6kgの礫が出土したほか、覆土から拳～人頭大の礫が多数出土した。覆土が埋め戻しであることと遺物の出土状況から、土坑墓と考えられる。

時期 周辺包含層の出土遺物から、縄文時代後期前葉である。(柳瀬)

NP-182 (図Ⅲ-29・59、写真図版19・27-106・125)

位置 H7 立地 標高42.5m 付近の濁川に面する緩斜面
 平面形 円形 規模 1.57/1.30×1.53/1.28×0.80m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は坑底に粘性のある暗褐色土の薄い堆積があり、その上位はV層・VI層を主体とする褐色土や暗褐色土の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土の中間からⅢ群 a類土器と台石、礫がまとまって出土した。土坑墓と考えられる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

掲載遺物 土器：87はⅢ群 a類土器である。覆土1層から出土した。器面には結束第2種斜行縄文が施されている。口縁に二山と一山の角形突起をもつ。二山の突起下口縁器面には横位の把手状貼付、一山の突起下口縁器面には横位の貼付が付けられている。突起頂部と横位の把手状貼付には沈線が施されている。口唇には棒状工具によるまばらな刻みがある。(録田)

NP-183 (図Ⅲ-29)

位置 H・I7 立地 標高45.0m 付近の平坦面
 平面形 楕円形 規模 1.98/0.67×1.60/0.66×0.62m

確認・調査 VI層上面で確認した。覆土は坑底付近に黒褐色土が堆積し、その上位はIV層もしくはKogとロームが混合したと思われる土層である。埋め戻しと考える。西側に大きな張り出しのある土坑で、坑底は平坦、立ち上がりは緩やかで壁は外傾する。張り出し部の底面は東側へ傾斜する。張り出し部の底面から砥石が、坑底から人頭大の礫が出土したほか、覆土からたたき石・焼成粘土塊が出土している。覆土が埋め戻しであることから、土坑墓の可能性もある。また、NP-115と形態・規模が共通している。

時期 周辺包含層の出土遺物から、縄文時代後期前葉である。(柳瀬)

NP-186 (図Ⅲ-29・58、写真図版19・26・27-107・124・125)

位置 F・G23 立地 標高44.5m 付近の沢地形に近い平坦面
 平面形 不明 規模 (1.55)/(1.30)×—/—×0.30m

確認・調査 F23区の包含層調査を終了した段階で、G23区との境界の断面において黒色土の落ち込みを検出した。G23区のV層上面で平面形を検出した。覆土はIV層主体の黒色土で、Kogブロックを含む。埋め戻しである。坑底は平坦で立ち上がりは緩やか、壁は外傾する。覆土上位からIV群 a類土器がまとまって出土した。土坑墓の可能性もある。

時期 覆土の出土遺物から、縄文時代後期前葉である。(柳瀬)

掲載遺物 土器：85・86はIV群 a類土器である。いずれも覆土から出土した。85は無文の小型の土器で底部が張り出す。器面には縦位の擦痕が認められる。86は器面に RL縄文が施されている。底部はわずかに張り出し、無文となる。(録田)

NP-187 (図Ⅲ-30)

位置 E・F21 立地 標高44.5m 付近の沢地形に近い平坦面
 平面形 不整な隅丸長方形 規模 1.95/0.69×1.28/1.15×0.20m

確認・調査 VI層上面で検出した。覆土はロームの多く混入する暗褐色土で、埋め戻しである。坑底はほぼ平坦、立ち上がりは緩やかで壁は外傾する。土坑墓の可能性もある。

時期 周辺包含層の出土遺物から、縄文時代中期前半あるいは後期前葉である。(柳瀬)

4 その他の土坑

土坑墓や土坑墓の可能性のある土坑以外のものを、その他の土坑としてまとめた。

NP-97・98・100~103・105・109・114・116・119~125・129・130・134~137・139~142・145~149・154~158・161・162・165・167・175・177~179・181・184・185・188~191の52基がある。

このうちC地区で検出したものはNP-97・98・100~103・105・109・114・116・119~123・134~137・139・140~142・145~149・155~158・161・162・165・167・175・177~179・181・184・185の43基である。E地区で検出したものはNP-124・125・129・130・154・188~191の9基である。

これらは大きく分けると、縄文時代前期後半、中期前半、後期前葉の三つの時期のものがある。

前期後半のものと考えられるものはNP-189である。前期後半あるいは中期前半のものと考えられるものはNP-188、前期後半あるいは後期前葉の所産と考えられるものはNP-191である。中期前半のものと考えられるものはNP-114・116・136・137・139・141である。中期前半あるいは後期前葉のものと考えられるものはNP-105・140・142・165・167・190である。後期前葉のものと考えられるものはNP-97・98・100・101・102・109・119~125・129・134・135・145~149・154~158・161・162・175・177~179・181・184・185である。NP-103（後期前葉のNP-99より新）・130は時期不明のものである。なお、C地区で検出した土坑のうちNP-136・137・145・175・177・178・179・181・184・185の記述は省略した。（録田）

NP-97（図Ⅲ-13、写真図版9-37）

位置	D6	立地	標高44m 付近の濁川に面する緩斜面
平面形	円形	規模	1.13/0.80×1.06/0.69/0.82m
確認・調査	V層上面で確認した。覆土は上位がIV層主体、下位は流入土と壁の崩落土の互層である。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土の上位から角礫がまともって出土している。		
時期	遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。（村田）		

NP-98（図Ⅲ-13）

位置	G15	立地	標高45m 付近の平坦部
平面形	ほぼ円形	規模	0.65/0.43×0.58/0.41×0.69m
確認・調査	V層上面で確認した。覆土はIV層とV層の混じった土壌が主体である。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土からIV群 a類の土器が出土している。		
時期	遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。（村田）		

NP-100（図Ⅲ-14）

位置	G8	立地	標高43m 付近の濁川に面する緩斜面
平面形	楕円形	規模	1.31/0.86×1.12/0.84×0.54m
確認・調査	V層上面で確認した。覆土はIV層が主体で、炭化物を少量含む。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土からIV群 a類の土器とたたき石が出土している。		
時期	遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。（村田）		

NP-101 (図III-14、写真図版9・10-40・41)

位置 G・H9 立地 標高43.5m 付近の濁川に面する緩斜面
 平面形 楕円形 規模 1.47/1.18×1.07/0.81×0.54m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層を主体とする流入土とV層の崩落土である。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面は椀状を呈する。覆土からII群 b類とIV群 a類の土器が出土している。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

NP-102 (図III-15)

位置 H8・9 立地 標高43m 付近の濁川に面する緩斜面
 平面形 楕円形 規模 1.56/1.17×-/-×0.64m

確認・調査 V層上面で確認した。斜面に直交するトレンチを掘ったところ、2基の土坑が重複していることがわかったので、新しいものをNP-102、古いものをNP-104とした。覆土は硬くしまった暗褐色土である。坑底は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土からIV群 a類土器が出土している。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

NP-103 (図III-15、写真図版10-42)

位置 G9 立地 標高43.5m 付近の濁川に面する緩斜面
 平面形 楕円形 規模 -/-×1.10/0.61×0.49m

確認・調査 NP-99の壁で確認した。覆土はIV層主体の黒褐色土で炭化物を少量含む。坑底は平坦で、中央に柱穴状の小ピットがある。壁は緩やかに立ち上がる。

時期 不明。NP-99より新しい。(村田)

NP-105 (図III-15・50、写真図版10・29-43・127)

位置 D11 立地 標高45.5m 付近の平坦面
 平面形 楕円形 規模 1.97/1.27×1.60/1.06×0.68m

確認・調査 Dラインで土層観察用のトレンチを掘った際、確認した。覆土は上位がIV層を主体とする黒色土、下位は黒褐色土と褐色土の流入土である。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土の上位から20cm程度の角礫がまとまって出土した。土器はIII群 a類・IV群 a類土器が、石器は北海道式石冠が2個出土した。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉と考えられる。(村田)

掲載遺物 石器：48は北海道式石冠である。敲打調整痕が不均一に基部を一周している。機能面はほぼ平坦である。石材は安山岩である。(新家)

NP-109 (図III-16)

位置 E9 立地 標高44m 付近の濁川に面する緩斜面
 平面形 楕円形 規模 0.76/0.64×0.67/0.53×0.23m

確認・調査 V層上面で確認した。壁は緩やかに立ち上がり、断面は椀状を呈する。覆土からIV群 a

類の土器が出土した。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

NP-114 (図Ⅲ-18、写真図版11-51)

位置 H・I0 立地 標高43.5m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 楕円形 規模 0.83/0.46×0.70/0.43×0.38m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はV層を主体とする暗褐色土である。壁は緩やかに立ち上がり、断面は碗状を呈する。遺物は出土していない。

時期 遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

NP-116 (図Ⅲ-18、写真図版11-52)

位置 H9 立地 標高43m 付近の濁川に面する緩斜面

平面形 楕円形 規模 1.19/0.94×0.78/0.57×0.26m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層を主体とする暗褐色土である。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土の上位から大型の礫が1点出土した。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

NP-119 (図Ⅲ-18)

位置 G15 立地 標高45m 付近の平坦面

平面形 楕円形 規模 1.34/1.01×1.10/0.95×0.29m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は黒褐色土のIV層が大半である。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土からIV群 a類の土器が出土している。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

NP-120 (図Ⅲ-19)

位置 F15 立地 標高45m 付近の平坦面

平面形 円形 規模 0.36/0.25×0.35/0.27×0.42m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層・V層が主体の黒褐色土である。円形の小土坑で隣接するNP-121・123・135と関連する可能性がある。覆土からIV群 a類の土器が出土している。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

NP-121 (図Ⅲ-19)

位置 F16 立地 標高45m 付近の平坦面

平面形 円形 規模 0.44/0.18×0.44/0.19×0.52m

確認・調査 V層上面で確認した。IV層・V層が主体の黒褐色土である。円形の小土坑で隣接するNP-120・122・123・135と関連する可能性がある。覆土中位と坑底からIV群 a類の土器が出土している。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

NP-122 (図III-19)

位置 F17 立地 標高45m 付近の平坦面
 平面形 円形 規模 0.33/0.13×0.30/0.14×0.53m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層・V層が主体の黒褐色土である。円形の小土坑で隣接するNP-120・121・123・135と関連する可能性がある。断面はやや尖る。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

NP-123 (図III-19)

位置 F18 立地 標高45m 付近の平坦面
 平面形 円形 規模 0.48/0.33×0.48/0.31×0.49m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層・V層が主体の黒褐色土である。円形の小土坑で隣接するNP-120-122・135と関連する可能性がある。覆土上位から大型の礫が1点出土している。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

NP-124 (図III-19、写真図版11-55)

位置 C・D37 立地 標高40.9~41.1m 付近の緩斜面
 平面形 ほぼ円形 規模 0.94/0.60×0.84/0.57×0.18m

調査・確認 VI層上面で、黒色土の落ち込みの中の大型礫を検出した。覆土はIV層主体である。大型の礫以外に、覆土や坑底からIV群 a類の土器片が15点出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(新家)

NP-125 (図III-19・54、写真図版11・12・24・30-56・57・63・122・128)

位置 C・D39 立地 標高40.6~40.8m 付近の緩斜面
 平面形 楕円形 規模 1.70/1.38×1.26/0.96×0.54m

調査・確認 VI層上面で検出した。覆土1層はIV層主体の自然堆積と思われる。2~4層はV・VI・Kog層が混在する。5層は底面全体に均一に堆積している。覆土や坑底からIV群 a類の土器片が45点出土している。石器は頁岩のスクレイパーなどが出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(新家)

掲載遺物 土器:62はIV群 a類土器である。坑底、覆土、III・IV層出土の破片が接合した。LR縄文地に磨消縄文による文様をもつ。口縁文様帯に波状沈線文、胴部文様帯に沈線により渦巻文、くの字・逆くの字状沈線文、稲妻文、磨消手法によりカニのハサミ状の文様が描かれている。頸部は無文帯となる。(鎌田)

石器:63はスクレイパーである。逆三角形の素材の左右両側縁に刃部が形成されている。背・腹両面から、連続した剝離調整を施している。石材は頁岩である。(新家)

NP-129 (図III-20・55、写真図版13・24-64・122)

位置 C36 立地 標高40.6~40.8m 付近の緩斜面
 平面形 円形 規模 1.10/0.70×1.03/0.68×0.20m

調査・確認 VI層上面で検出した。覆土は自然堆積と思われる。覆土・床からIV群 a類の土器片が4点出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(新家)

掲載遺物 土器:66はIV群 a類土器である。覆土とⅢ・Ⅳ層出土の破片が接合した。口縁に頂部が凹む山形隆起部が5か所ある。肩が張り、頸部がくびれて口縁が緩く外反する。無文地に2本単位の沈線により頸部と胴部に横線を引き区画し、そこに連弧状沈線を描く。(鎌田)

NP-130 (図Ⅲ-20)

位置 C39 立地 標高40.8~41.0m 付近の緩斜面
平面形 不整形 規模 0.99/0.80×0.76/0.56×0.18m

調査・確認 V層上面で検出した。覆土にはⅣ・Ⅴ層が混在する。坑底が平らでないで、人工的な土坑でないかもしれない。遺物は出土していない。

時期 不明である。(新家)

NP-134 (図Ⅲ-21、写真図版13-67)

位置 H12 立地 標高43.5m 付近の濁川に面する緩斜面
平面形 円形 規模 0.84/0.62×0.80/0.56×0.39m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はⅣ層・Ⅴ層を主体とする暗褐色土。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土から礫が数点出土している。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

NP-135 (図Ⅲ-21)

位置 G14 立地 標高45m 付近の平坦面
平面形 円形 規模 0.54/0.36×0.54/0.34×0.71m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はⅣ層・Ⅴ層が主体の黒褐色土である。円形の小土坑で隣接する NP-120-123と関連する可能性がある。断面はやや尖る。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(村田)

NP-139 (図Ⅲ-22)

位置 G15 立地 標高45m 付近の平坦面
平面形 円形 規模 0.57/0.35×0.54/0.32×0.50m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は主にⅣ層の暗褐色土で、一部Ⅴ層の褐色土がブロック状に混じる。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

NP-140 (図Ⅲ-22)

位置 G・H10・11 立地 標高44m 付近の濁川に面する緩斜面
平面形 楕円形 規模 1.68/1.14×1.30/0.88×0.38m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はⅣ層・Ⅴ層が主体の黒褐色土である。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。遺物出土状況は坑底から拳大の礫が6点まとまって出土した。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉と考えられる。(村田)

NP-141 (図Ⅲ-22、写真図版14-71・72)

位置 E16 立地 標高45.5m 付近の平坦面
 平面形 楕円形 規模 0.89/0.58×0.61/0.34×0.24m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層・V層が主体の暗褐色土である。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。坑底から北海道式石冠が出土した。NH-23より古い。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半と考えられる。(村田)

NP-142 (図Ⅲ-22、写真図版14-73・74)

位置 E16 立地 標高45.5m 付近の平坦面
 平面形 楕円形 規模 0.73/0.56×0.73/0.54×0.47m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層の黒褐色土である。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土からⅢ群 a類・IV群 a類の土器とフレイクが出土した。NH-23より古い。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉と考えられる。(村田)

NP-146 (図Ⅲ-24)

位置 G16 立地 標高45.0m 付近の平坦面
 平面形 ほぼ円形 規模 0.77/0.48×0.75/(0.44)×0.32m

確認・調査 VI層中で確認した。覆土は3層に分けられる。人為的な埋め戻しと見られる。遺物の出土状況は、覆土1層からIV群 a類の土器片29点と安山岩の礫が3点出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性が考えられる。(影浦)

NP-147 (図Ⅲ-24)

位置 G16 立地 標高44.7m 付近の平坦面
 平面形 ほぼ円形 規模 0.41/0.27×0.37/0.24×0.20m

確認・調査 VI層中で確認した。覆土は単層であるが遺物の出土状況から人為的な埋め戻しによるものと見られる。確認面中央部において安山岩の礫が4点まとまって出土していた。SP-419が後から構築されたことにより、壁の一部が破壊されている。

時期 周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性が考えられる。(影浦)

NP-148 (図Ⅲ-24、写真図版15-79・80)

位置 G16 立地 標高45.0m 付近の平坦面
 平面形 楕円形 規模 1.39/1.05×0.86/0.58×0.29m

確認・調査 VI層中で確認した。NP-149の上につくられた遺構である。覆土内からIV群 a類の土器片が25点、頁岩のフレイクが1点、散発的に出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性が考えられる。(影浦)

NP-149 (図Ⅲ-24、写真図版15-79・81)

位置 G16 立地 標高45.0m 付近の平坦面
 平面形 楕円形 規模 一/(1.05)×(0.96)/0.86×(0.25)m

確認・調査 VI層中で確認した。中心部は NP-148によって壊されている。また、長軸両端も木根の攪乱で破壊されている。覆土内からIV群 a類の土器片が3点、頁岩のフレイクが1点、散発的に出土した。

時期 周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性が考えられる。(影浦)

NP-154 (図Ⅲ-25、写真図版16-89)

位置 E46・47 **立地** 標高38.8~39.2m 付近の斜面肩
平面形 楕円形 **規模** 1.60/1.44×(0.86)/0.70×0.28m

調査・確認 NP-152を調査中、その周囲に NP-152の覆土とは異なる黒褐色土の落ち込みを検出した。坑底からⅢ群 a類の土器片が1点、覆土からIV群 a類の土器片が6点出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉。(新家)

NP-155 (図Ⅲ-25、写真図版16-90)

位置 H16 **立地** 標高44.5m 付近の平坦面
平面形 楕円形 **規模** 1.34/1.03×0.91/0.67×0.22m

確認・調査 VI層中で確認した。木根痕の上につくられた土坑である。埋没後に SP-422が構築されている。遺物は出土していない。

時期 周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性が考えられる。(影浦)

NP-156 (図Ⅲ-24、写真図版17-91)

位置 G16 **立地** 標高44.7m 付近の平坦面
平面形 ほほ円形 **規模** 0.57/0.32×0.53/0.25×0.60m

確認・調査 VI層中で確認した。覆土は3層に分けられる。確認面中央部において拳大の礫を検出した。覆土1層からIV群 a類の土器片が2点出土している。

時期 周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性が考えられる。(影浦)

NP-157 (図Ⅲ-25、写真図版17-94)

位置 H16 **立地** 標高44.5m 付近の平坦面
平面形 楕円形 **規模** 1.27/0.88×0.85/0.68×0.15m

確認・調査 VI層中で確認した。遺物は出土していない。一部、NP-161と重複する。NP-161のほうが古い。

時期 周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性が考えられる。(影浦)

NP-158 (図Ⅲ-24・57、写真図版31-129)

位置 G16 **立地** 標高45.0m 付近の平坦面
平面形 楕円形 **規模** 0.49/0.33×0.36/0.24×0.41m

確認・調査 VI層中で確認した。覆土は2層に分けられる。北の壁際の中位において刃部を下に向けた状態で石斧が1点出土した。

時期 周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性が考えられる。(影浦)

掲載遺物 石器：79は石斧である。基端側を大きく欠落する。全体によく研磨されている。石材は

泥岩である。

(新家)

NP-161 (図Ⅲ-25)

位置 I6 立地 標高44.5m 付近の平坦面
 平面形 楕円形 規模 0.61/0.37×(0.37)/0.29×0.23m

確認・調査 VI層中で確認した。覆土は2層に分けられる。人為的な埋め戻しと見られる。

時期 周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性はある。(影浦)

NP-162 (図Ⅲ-24、写真図版17-95)

位置 G16 立地 標高44.8m 付近の平坦面
 平面形 ほぼ円形 規模 0.66/0.50×0.60/0.39×0.22m

確認・調査 VI層中で確認した。覆土は3層に分けられる。覆土1層からIV群 a類の土器片が2点出土した。

時期 周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性はある。(影浦)

NP-165 (図Ⅲ-26)

位置 D5 立地 標高43.5m 付近の濁川に面する緩斜面
 平面形 円形 規模 1.08/0.92×0.99/0.81×0.59m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土は主にIV層・V層を主体とする暗褐色土とVI層の崩落土である。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉と考えられる。

(村田)

NP-167 (図Ⅲ-26、写真図版17-96)

位置 D・E5 立地 標高43m 付近の濁川に面する緩斜面
 平面形 楕円形 規模 0.83/0.53×-/-×-/-m

確認・調査 V層上面で確認した。覆土はIV層主体の黒褐色土。壁は緩やかに立ち上がり、断面は碗状を呈する。NP-166より古い。

時期 遺構および遺構周辺の出土遺物から、縄文時代中期前半または後期前葉と考えられる。

(村田)

NP-177 (図Ⅲ-28・58、写真図版31-129)

掲載遺物 石器：84はつまみ付きナイフである。縦長の素材両側縁に剥離調整が見られる。図正面右側縁の加工は波状に抉りが入っている。石材は頁岩である。(新家)

NP-188 (図Ⅲ-30)

位置 B17 立地 標高37.4~37.8m 付近の急斜面
 平面形 いびつな楕円形 規模 0.99/0.64×0.74/0.48×0.41m

調査・確認 VI層上面で検出した。VI層の下の頁岩層を掘り抜いてつくられている。覆土にIV層の混入が少なく、古い時期の土坑の可能性はある。遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半あるいは中期前半と考えられる。(新家)

NP-189 (図Ⅲ-30・59、写真図版19・31-108・129)

位置 C46 立地 標高39.0~39.2m 付近の斜面肩
平面形 円形 規模 0.64/0.40×0.62/0.32×0.38m

調査・確認 VI層上面で検出した。覆土1層は自然堆積である。II群 b類の土器片が18点、北海道式石冠が4点出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代前期後半である。

掲載遺物 石器：88は北海道式石冠である。やや横長の素材の中程を鉢巻き状の敲打調整痕が一周する。すり面は使用により図中正面側にやや傾く。石材は安山岩である。(新家)

NP-190 (図Ⅲ-30)

位置 D47、E47・48 立地 標高38.0~38.4m 付近の急斜面
平面形 いびつな楕円形 規模 1.77/1.24×1.56/1.07×(0.60)m

調査・確認 VI層中にV層主体の土が小判形に落ち込んでいた。斜面上の攪乱を掘り抜く作業中に、攪乱と誤認し上部を削平してしまった。遺物はIII群 a類の土器片が1点、IV群 a類の土器片が4点、安山岩の大型の礫が2点出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代中期前半あるいは後期前葉である。(新家)

NP-191 (図Ⅲ-30・59、写真図版19・31-109・111・129)

位置 E46 立地 標高39.2~39.4m 付近の斜面肩
平面形 円形 規模 0.49/0.32×0.48/0.28×0.19m

調査・確認 斜面の攪乱除去作業中、安山岩の礫数点と、その周辺の黒色土の落ち込みを検出した。覆土はIV層主体である。遺物は安山岩の礫のほか、II群 b類の土器片45点、IV群 a類の土器片30点、スクレイパー2点、Rフレイク1点などが出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代前期後半あるいは後期前葉である。

掲載遺物 石器：89はスクレイパーである。素材上半分の背面に丁寧な剥離調整が施されている。石材は頁岩である。(新家)

5 石組炉

SF-1 (図Ⅲ-31、図絵5-18)

位置 B44 立地 標高39.8~40.2m 付近の浅い沢部分 規模 (0.58)×(0.26)×0.10m

調査・確認 IV層調査中、安山岩礫が数点、弧状に並んで出土した。周辺と内側を精査し、弱く焼けた焼土を検出した。半截した断面は不明瞭で散漫であった。この石組炉は、若干窪んだ沢状の地形に位置し、この地形を利用した、この時期特有の掘り込みの浅い住居の一部であった可能性もある。

時期 周辺の出土遺物や出土遺構から、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

SF-2 (図Ⅲ-31、図絵6-20)

位置 B44 立地 標高39.6~40.0m 付近の浅い沢部分 規模 (1.08)×(0.45)×0.08m

調査・確認 IV層調査後、V層上面で安山岩礫が数点並んで出土した。周辺と内側を精査し、弱く焼けた焼土を検出した。焼土の断面も不明瞭である。この石組炉は、SF-1と同じく、若干窪んだ沢状の地形に位置し、この地形を利用した、この時期特有の掘り込みの浅い住居の一部であった可能性がある。

時期 周辺の出土遺物や出土遺構から、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

SF-3 (図Ⅲ-31、口絵6-21)

位置 D46 **立地** 標高38.8~39.2m 付近の斜面上の浅い沢部分

規模 (0.86)×(0.72)×0.20m

調査・確認 風倒木の攪乱の中に安山岩礫が数点並んで出土した。周辺と内側を精査し、弱く焼けた焼土を検出した。焼土の断面は攪乱を受け、風倒木の中にもぐり込んでいる。

時期 周辺の出土遺物や出土遺構から、縄文時代後期前葉と思われる。(新家)

SF-4 (図Ⅲ-31・59、口絵6-22、写真図版31-129)

掲載遺物 石器：90は石斧の未製品である。部分的に研磨した痕がみられるが、片刃の刃部は完成していない。石材は泥岩である。(新家)

6 焼土

NF-39~41・46・47 (図Ⅲ-31・32)

特徴 検出面はⅣ層上位で、統縄文のものと思われる。周辺から後北B式土器がまとも出土している(村田)

NF-42・44・45・51~54・59・60 (図Ⅲ-31~33)

特徴 検出面はⅣ層中(NF-53のみⅤ層上面で検出)で、縄文時代中期前葉または後期前葉のものと思われる。位置図で住居跡、土坑と重なっているものがあるが遺構に伴うものはない。(村田)

NF-43 (図Ⅲ-31、口絵7-24)

位置 E40 **立地** 標高39.8~40.0m 付近の緩斜面 **規模** 0.46×0.40×0.14m

調査・確認 Ⅳ層調査中に検出した。焼けていないⅣ層の黒い粒が斑状に混入しており、この場で焼けたものかは不明である。

時期 不明。(新家)

NF-48 (図Ⅲ-32)

位置 D35・36 **立地** 標高40.4~40.6m 付近の平坦面 **規模** 0.36×0.31×0.07m

調査・確認 Ⅵ層上面で検出した。焼けは弱い。安山岩の礫が3点周辺から出土した。

時期 不明。(新家)

NF-56 (図Ⅲ-32、口絵7-25)

位置 C46 **立地** 標高39.2~39.4m 付近の斜面 **規模** 0.41×0.34×0.13m

調査・確認 Ⅴ層で焼土の塊が散在しているのを検出した。部分的に明るく焼けているが、焼けの強さは漸変で、層厚は不規則である。

時期 不明。(新家)

7 柱穴・小ピット

SP-317・318・321~325・327~330 (図Ⅲ-33・34)

位置 F14~16、G15

時期・特徴 縄文時代後期前葉に属するものと思われる。A地区からの続きである。(村田)

SP-451~470 (図Ⅲ-38・39、写真図版20-112)

位置 C・D44~46、E43・45~47 立地 標高39.0~40.4m 付近の斜面肩~斜面

規模 0.14~0.33/0.05~0.18×0.20~0.47m

調査・確認 VI層最終面の精査中、柱穴様の黒褐色土の落ち込みを数十か所で検出した。半截の結果、20本を柱穴土坑とした。大きさ長さもまちまちで、配置に規則性はみられないが、調査区 C~E43~47の斜面から肩にかけての範囲にまとまって出ている。

時期 周辺の出土遺物や出土遺構から、縄文時代前期から後期前葉のものと思われる。(新家)

SP-506

掲載遺物

土器：91は SP-506覆土出土のIV群 a類土器である。LR縄文地に太い沈線による横線が認められる。(録田)

8 配石遺構

NS-1 (図Ⅲ-42、写真図版20・25・31-117・123・129)

C地区 G17・18のIV層上面で3.03×2.88mの範囲で配石を1か所検出し、NS-1とした。礫27点からなる。IV群 a類土器3点・スクレイパー1点と石皿が1点出土した。NS-1は縄文時代後期前葉の墓の可能性のある土坑 NP-176に伴うものである。

掲載遺物

土器：92はIV群 a類土器である。掲載した土器はNS-1から出土した破片と同一個体である。器面にオオバコ回転文をまばらに施し、肩に沈線を引く。口縁から垂下する沈線文をもつ。(録田)

石器：93は石皿である。片面使用で、すり面は2か所観察される。どちらも使用により若干凹む。石材は安山岩である。(新家)

9 埋設土器 (図Ⅲ-42・60、写真図版20・25-113・123)

位置 E43 立地 標高39.8~40.0m 付近の平坦面 規模 0.25×0.33m

調査・確認 VI層調査中、直立して埋まった一箇体の土器を検出した。周囲に明瞭な掘り込みはなく、土器の中の土も周囲のVI層と同じであった。

時期 土器の型式から、縄文時代中期前半である。(新家)

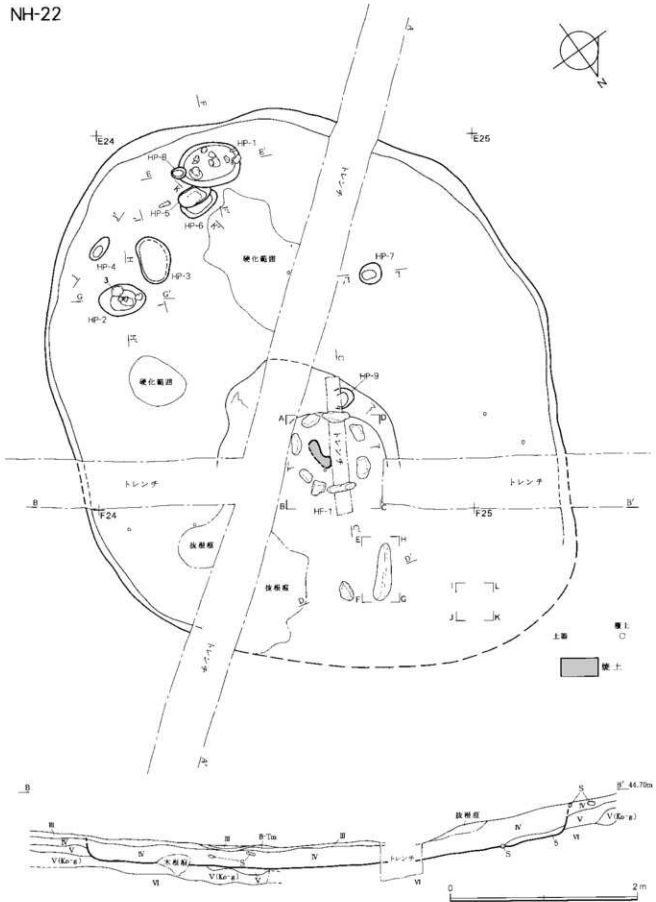
掲載遺物

土器：94はIII群 a類土器である。口縁に台形突起をもつものと思われる。器面には結束第2種斜行縄文が施されている。突起基部に貼付隆帯をもつ。隆帯には縄の圧痕がある。(録田)

10 剥片集中 (図Ⅲ-32、写真図版20-115)

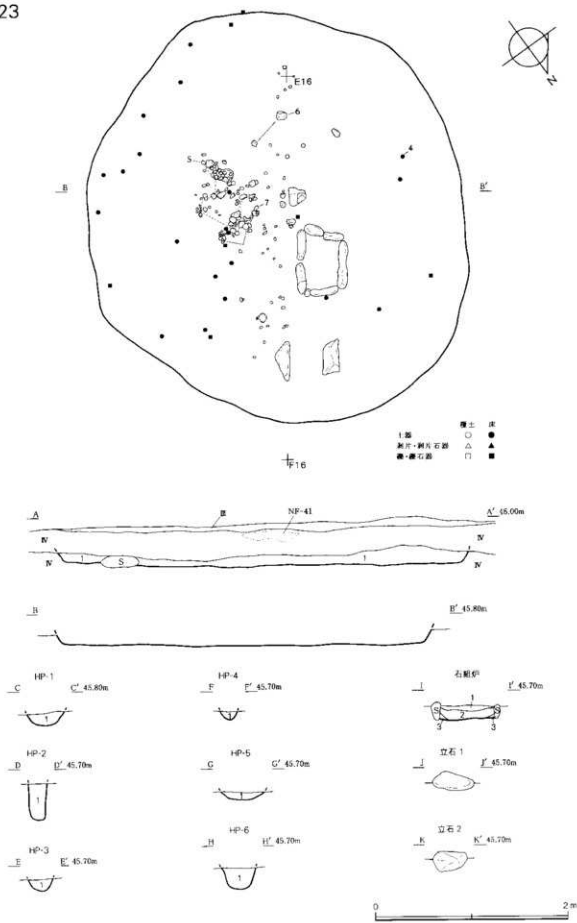
C地区 D19のIV層中位において、0.40×0.14mの範囲でフレイクが集中している部分を検出した。遺物はIV群 a類土器3点とフレイクが105点出土した。FC-1とした。出土遺物から縄文時代後期前葉のものと推定する。(録田)

NH-22

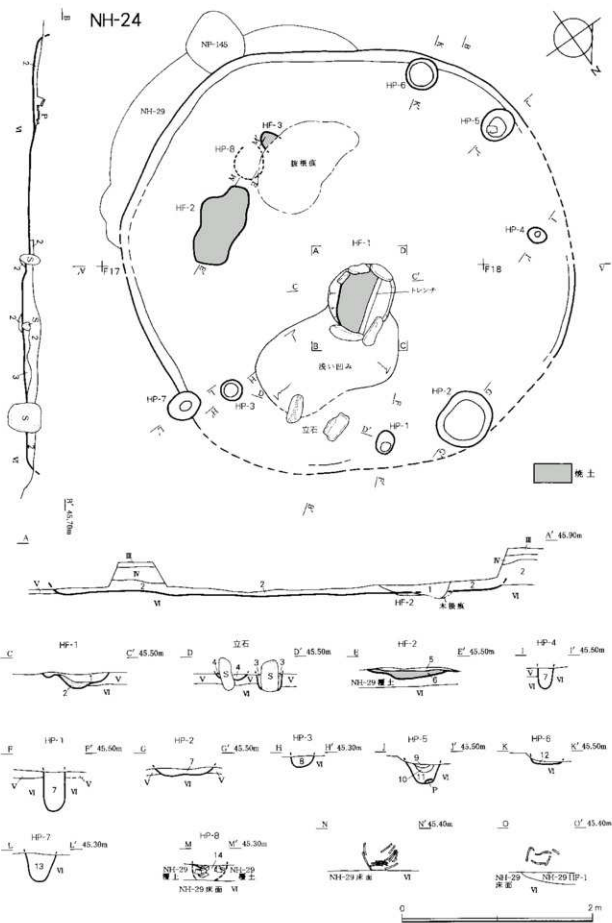


図III-1 NH-22 (1)

NH-23

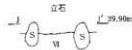
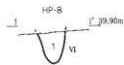
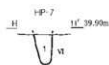
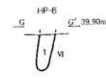
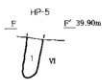
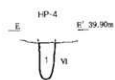
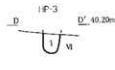
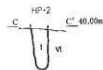
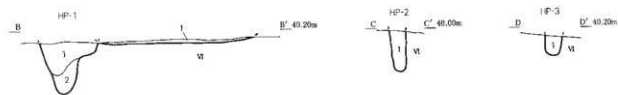
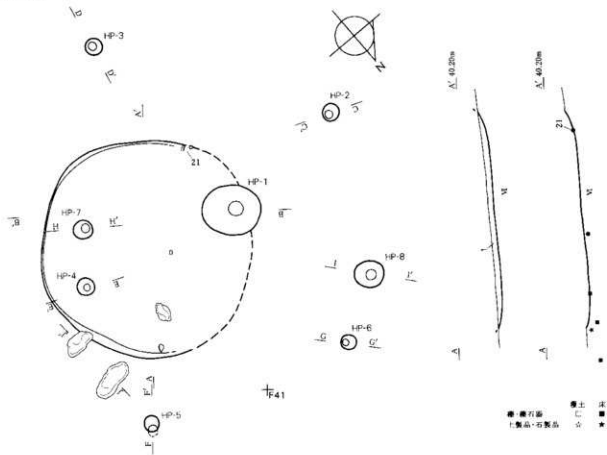


図III-3 NH-23 (2)



図Ⅲ-4 NH-24 (1)

NH-26



図III-7 NH-26

△ 45.00m

NH-27



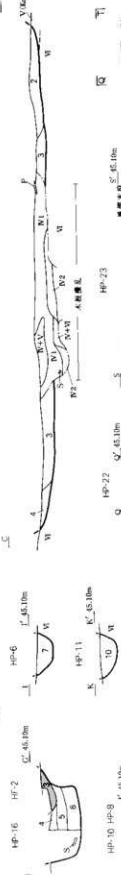
△ 45.60m

NH-19



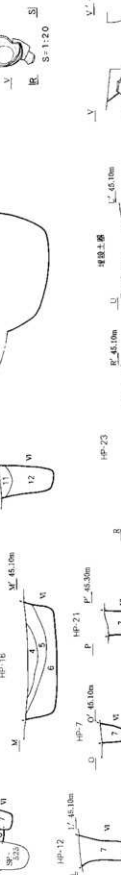
△ 45.60m

NH-16



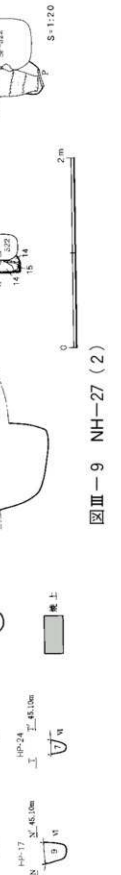
△ 45.10m

HP-22



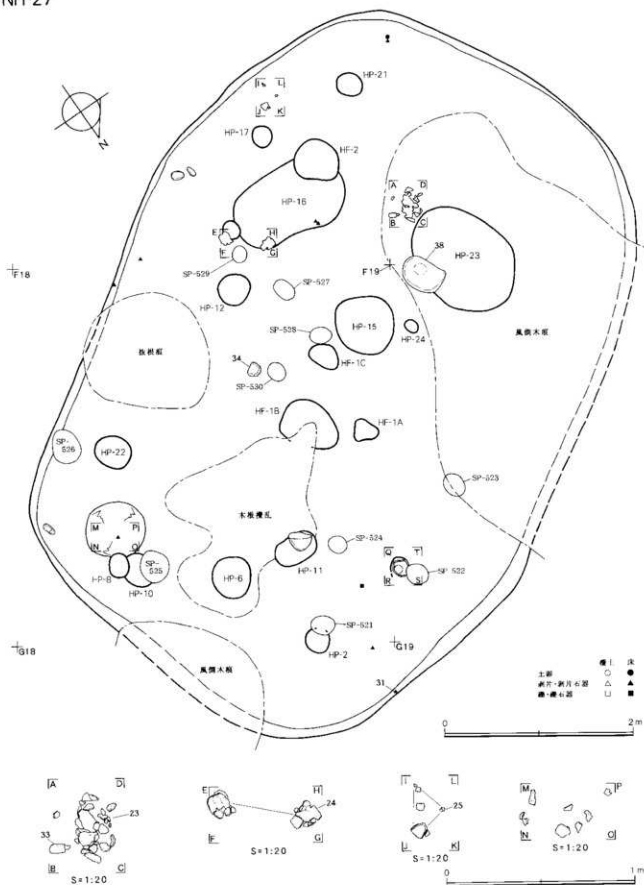
△ 45.10m

HP-23



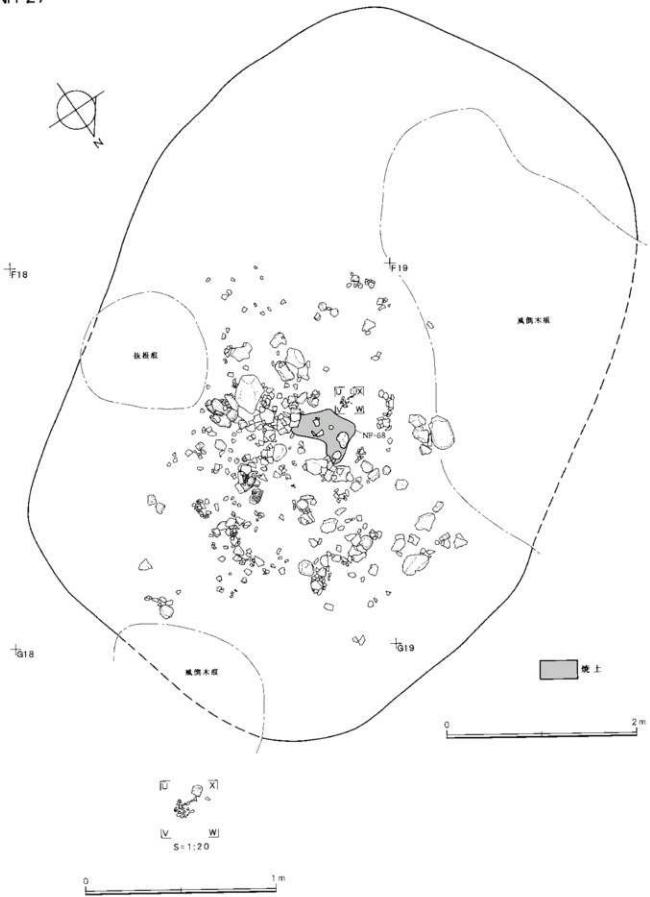
陸地の断面

図 III-9 NH-27 (2)



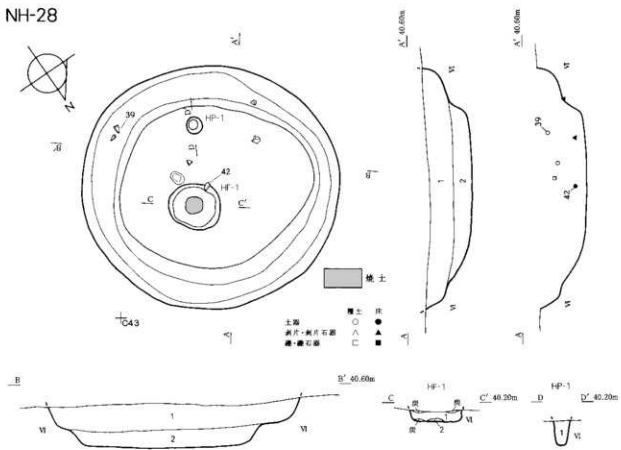
図Ⅲ-10 NH-27 (3)

NH-27



図III-11 NH-27 (4)

NH-28



NH-29

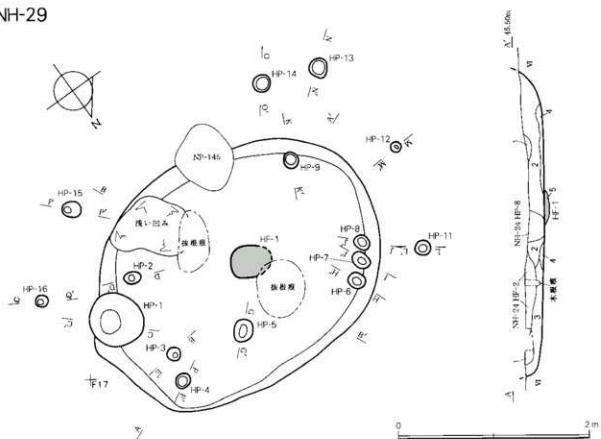
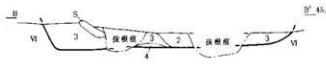
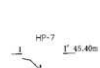
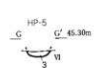
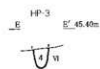
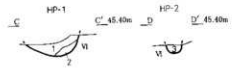
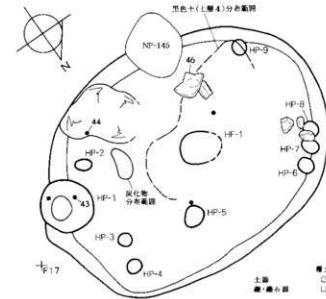


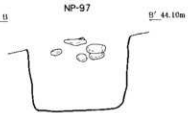
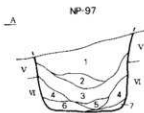
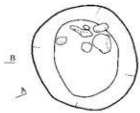
图 III-12 NH-28、NH-29 (1)

NH-29



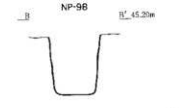
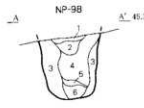
NP-97

G'6



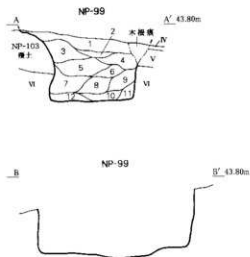
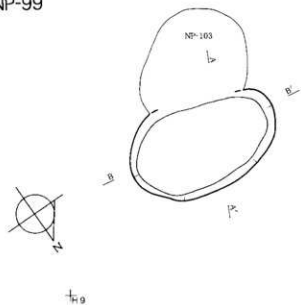
NP-98

G'15

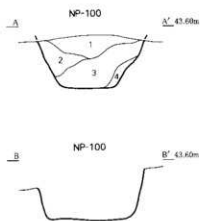
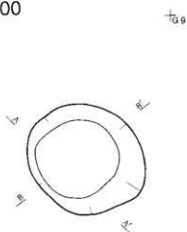


図III-13 NH-29(2)、NP-97・98

NP-99



NP-100



NP-101

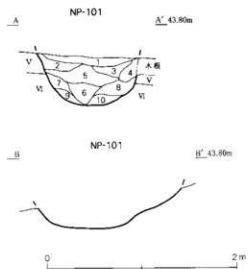
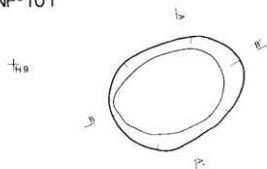
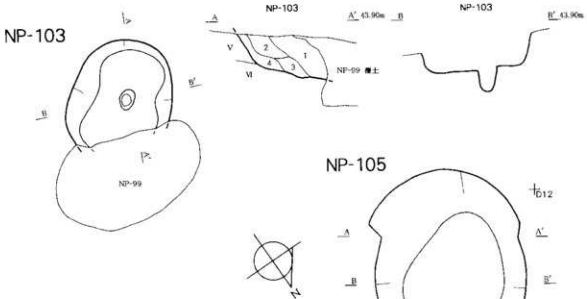
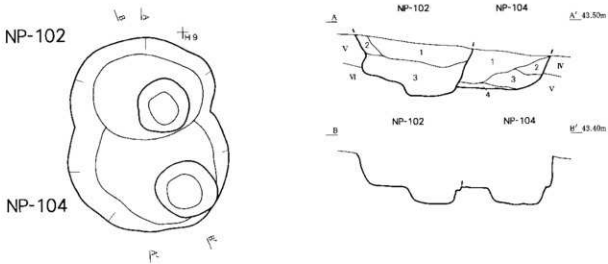
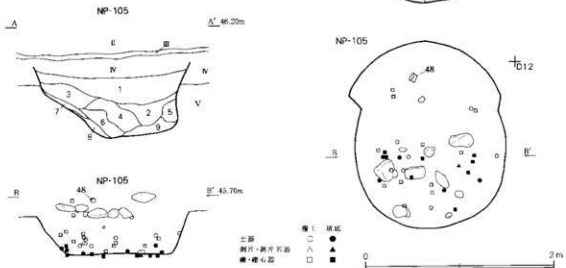


图 III-14 NP-99~101

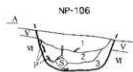
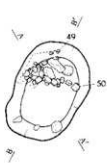


△' 43.90m



図III-15 NP-102~105

NP-106



NP-106



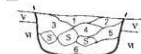
NP-108



NP-109



NP-108



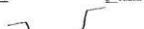
NP-108



NP-109



NP-109



NP-111

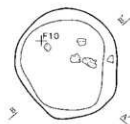
NP-110



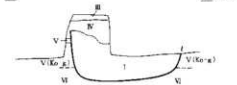
NP-110



NP-110



NP-111

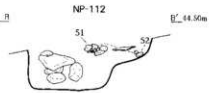
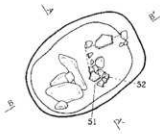


NP-111

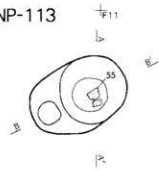
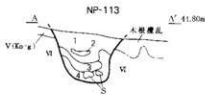


图 III-16 NP-106 · 108~111

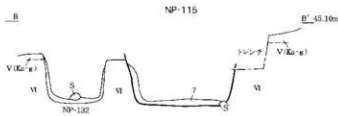
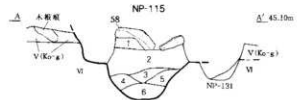
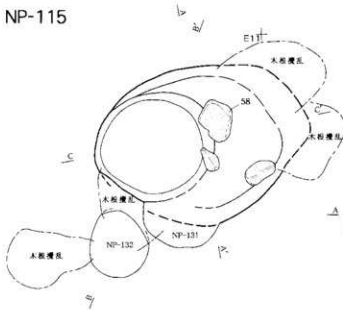
NP-112



NP-113



NP-115



図III-17 NP-112・113・115

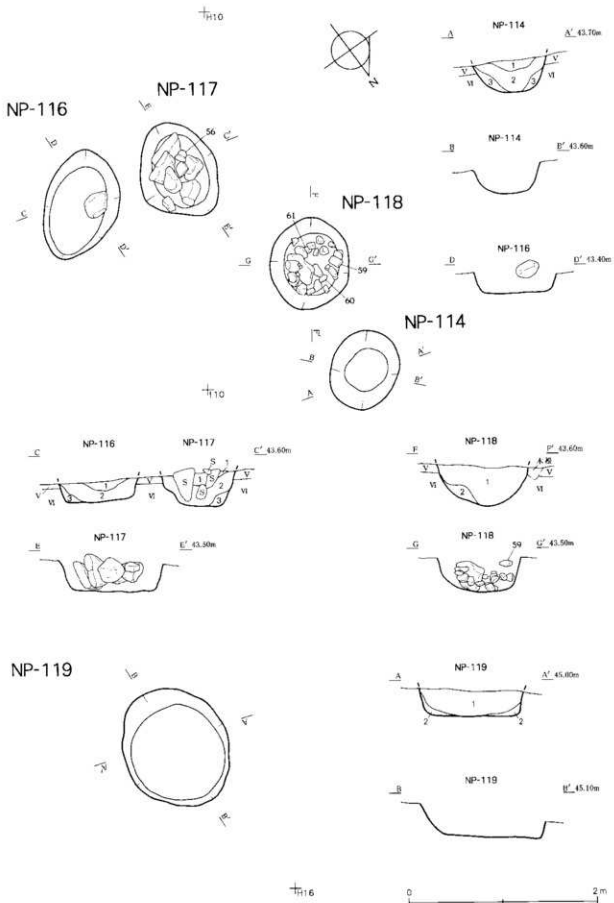
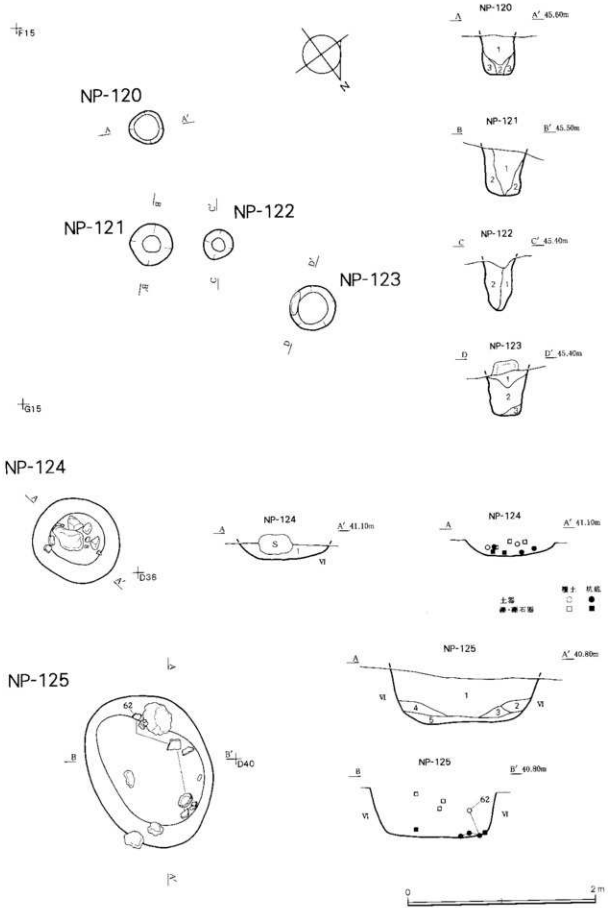


图 III-18 NP-114 · 116~119



図III-19 NP-120~125

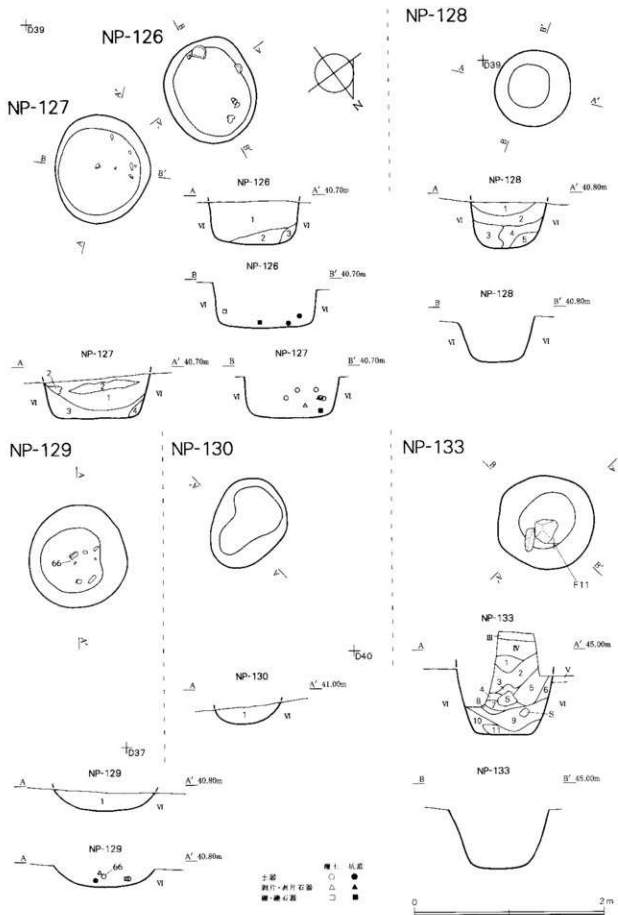
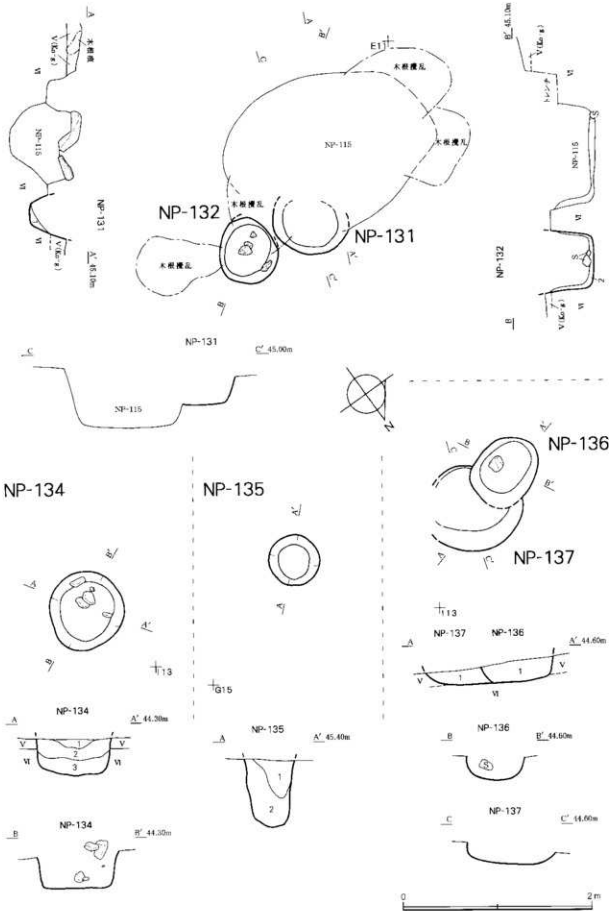
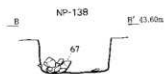
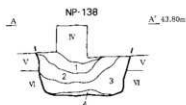
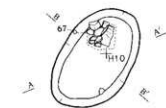


图 III-20 NP-126~130 · 133

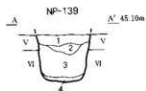


図III-21 NP-131・132・134~137

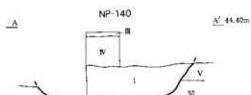
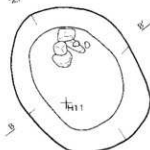
NP-138



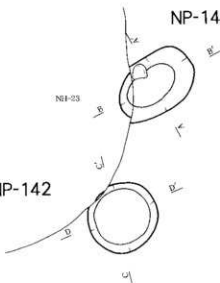
NP-139



NP-140



NP-141



NP-142

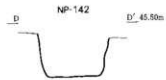
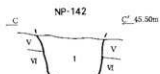
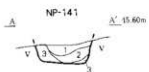
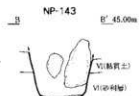
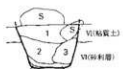


图 III-22 NP-138~142

NP-143



NP-143 Δ' 45.00m
+E16



NP-144



+E16
NP-144 Δ' 45.90m

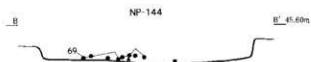
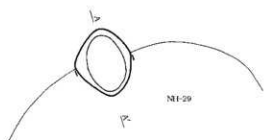


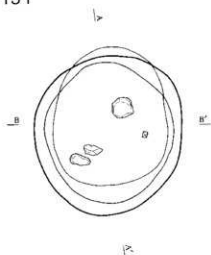
図1 伝説
上層 ○ ●
剥片・剥片不露 △ ▲
骨・硬質石 □ ■

NP-145 Δ' 45.50m
V(砂) VI
NI-29
+E17

NP-145

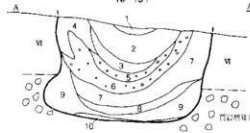


NP-151



+E44

NP-151 Δ' 40.40m

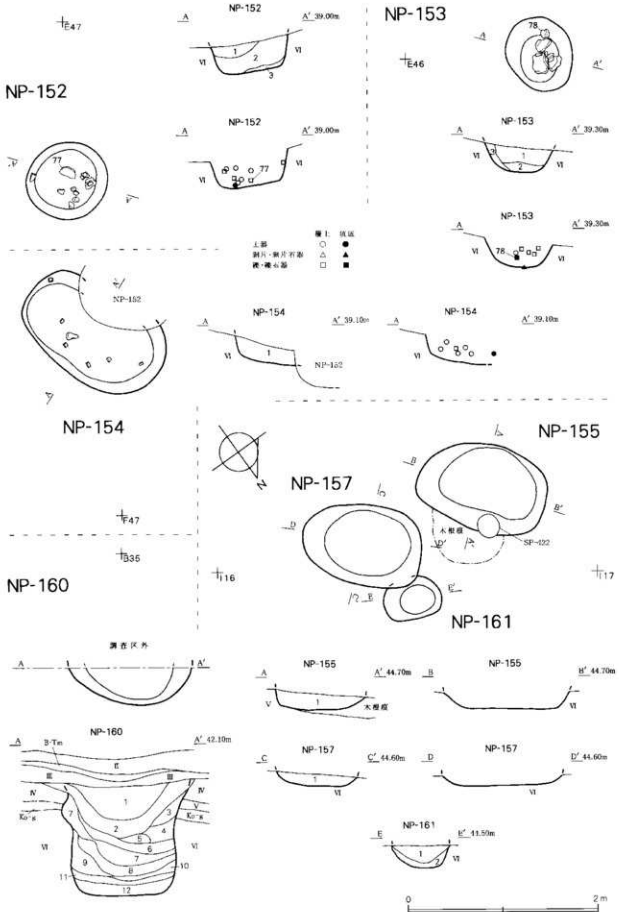


NP-151 B' 40.40m



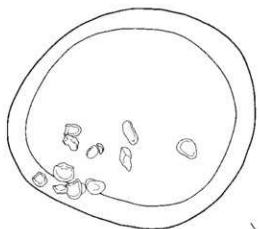
0 2m

図III-23 NP-143~145・151



図III-25 NP-152~155・157・160・161

NP-159



±E45

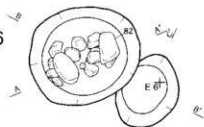
NP-159 A' 39.90m



NP-159 A' 39.90m



NP-166



±F45

NP-167



NP-164

NP-166 A' 43.20m



NP-167 C' 43.30m

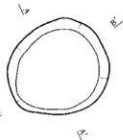


NP-166 NP-167 B' 43.30m



±E5

NP-165



±E6

NP-165 A' 43.30m



NP-165 B' 43.40m

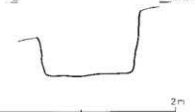
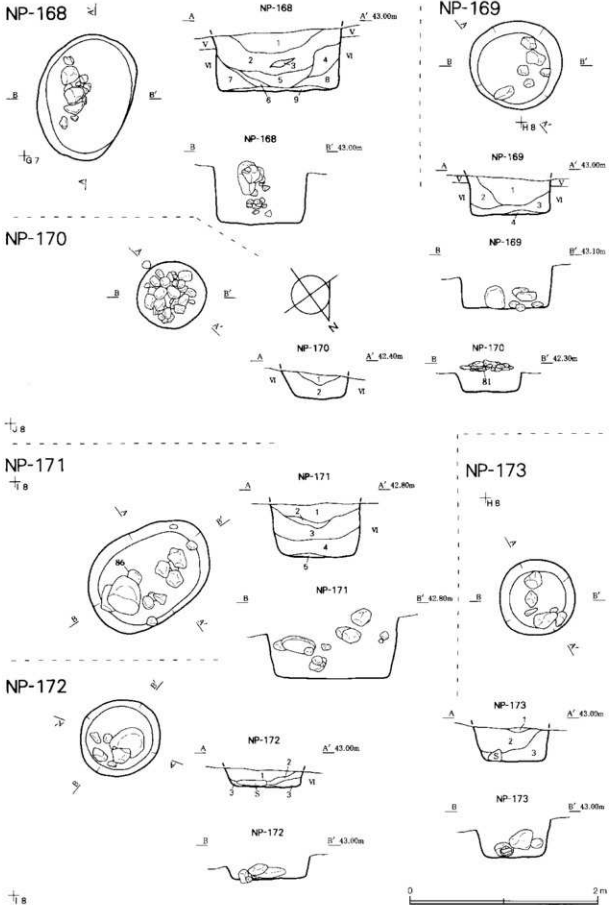
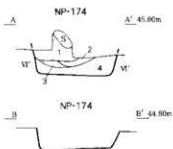
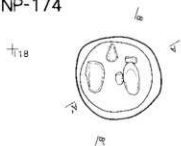


图 III-26 NP-159 · 164~167

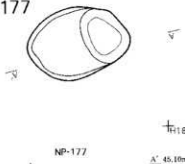


図III-27 NP-168~173

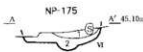
NP-174



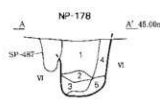
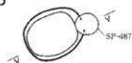
NP-177



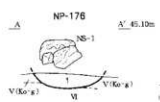
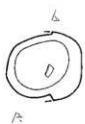
NP-175



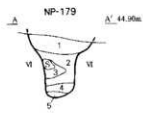
NP-178



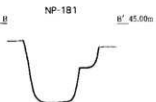
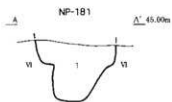
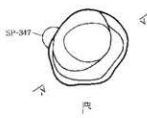
NP-176



NP-179



NP-181



NP-180

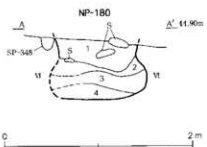
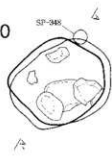
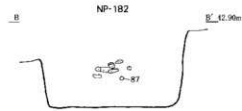
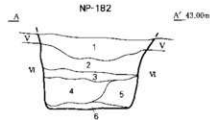
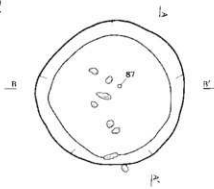
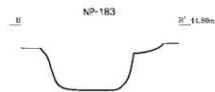
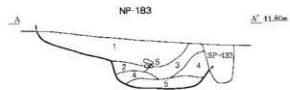
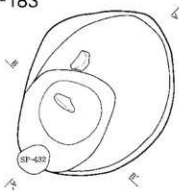


图 III-28 NP-174~181

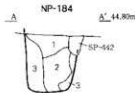
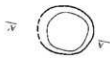
NP-182



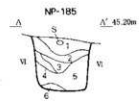
NP-183



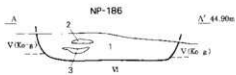
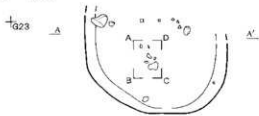
NP-184



NP-185



NP-186

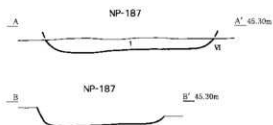
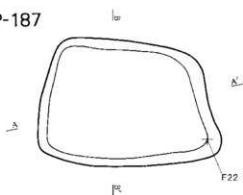


層土 ○
 上部 卍形・刻片心器 △
 層・層石箱 □

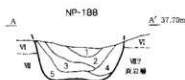
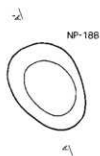


図III-29 NP-182~186

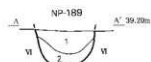
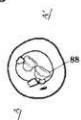
NP-187



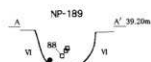
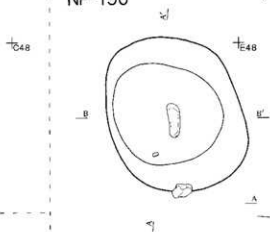
NP-188



NP-189

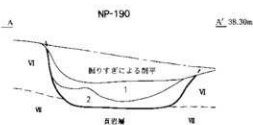
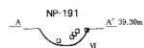
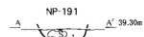


NP-190



土層 上土 瓦葺
 埋り瓦葺 □ ●

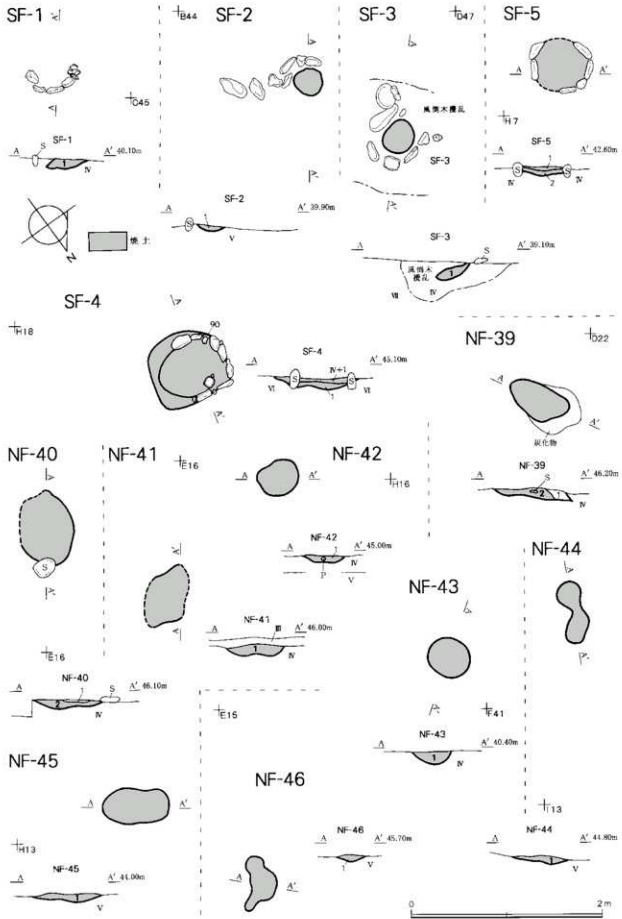
NP-191



F46

0 2m

図Ⅲ—30 NP—187~191



図III-31 SF-1~5、NF-39~46

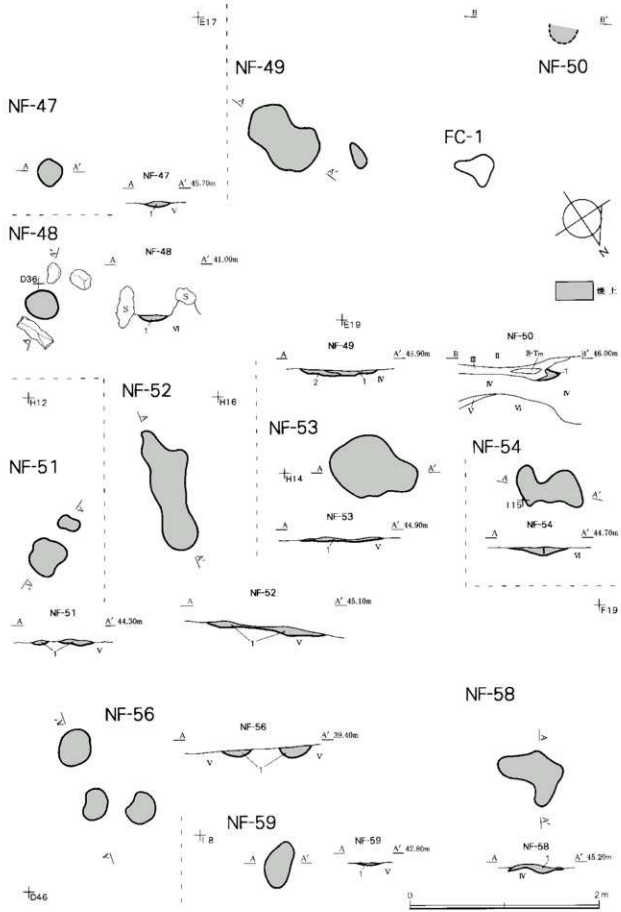


图 III-32 NF-47~54 · 56 · 58 · 59、FC-1

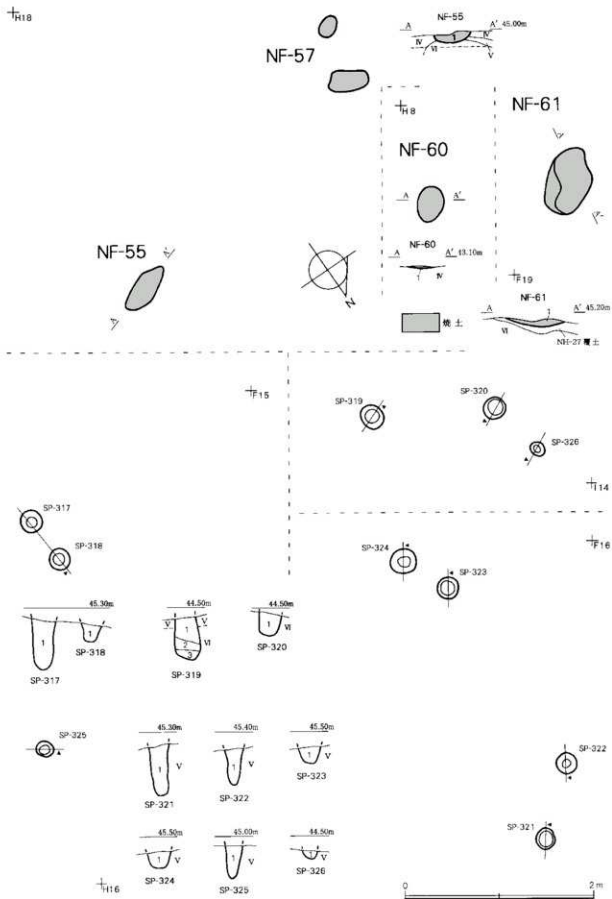


図 III-33 NF-55・57・60・61、SP-317~326

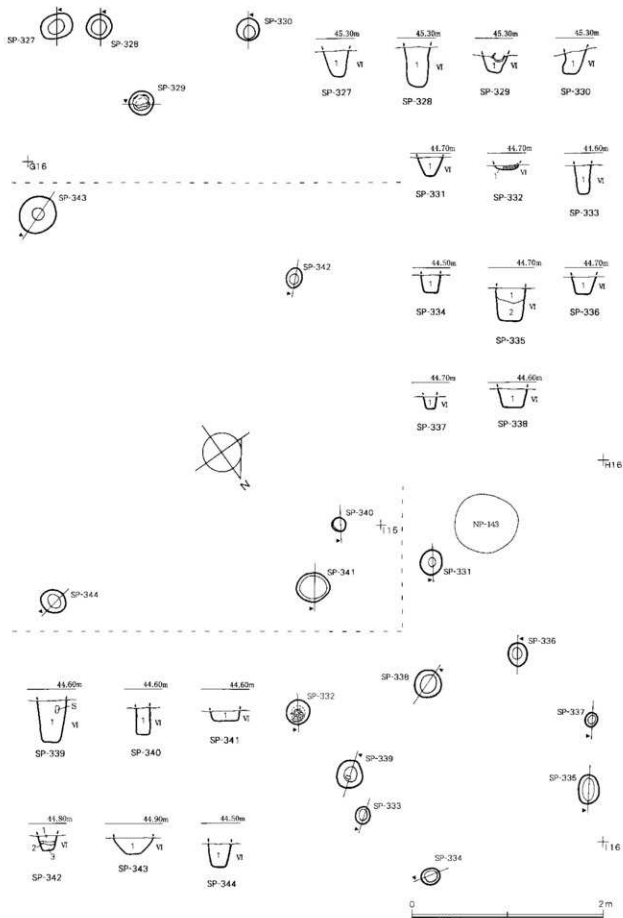
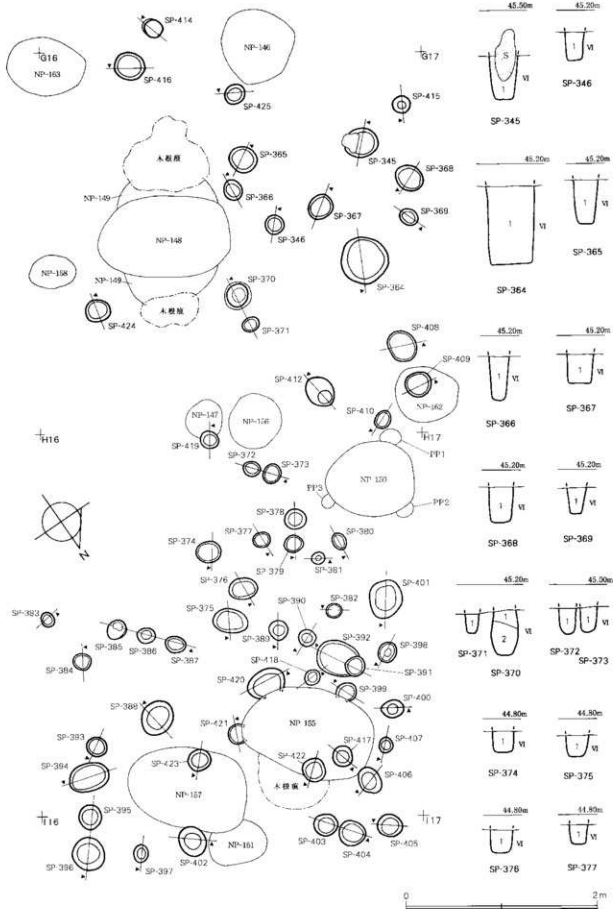


图 III-34 SP-327~344



図III-35 SP-345・346・364~377. SP-378~425 (1)

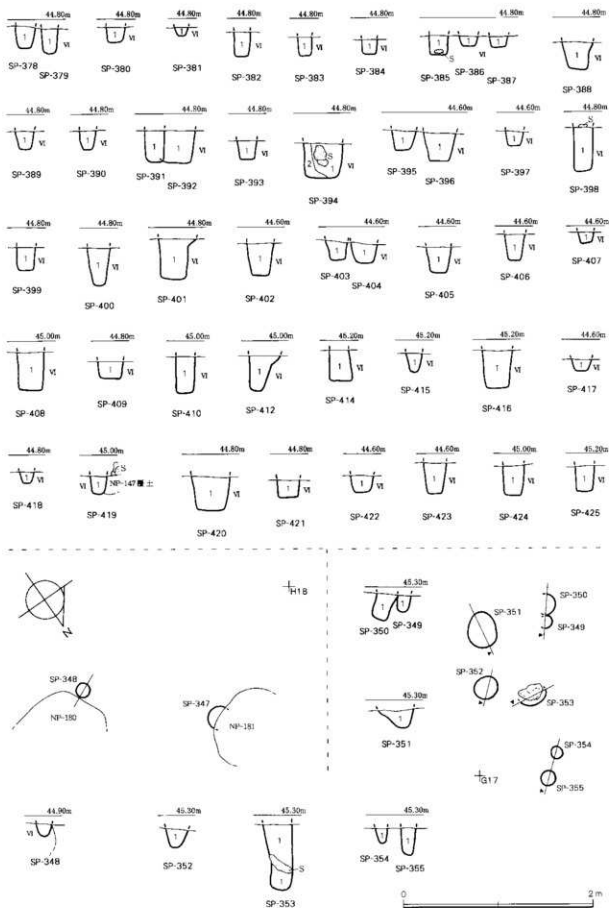
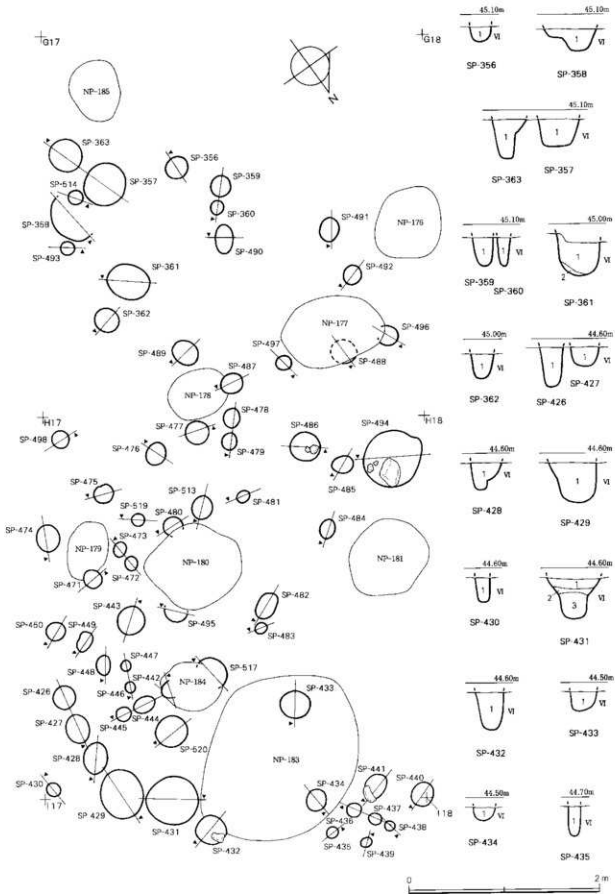


图 III-36 SP-347~355. SP-378~425 (2)



図III-37 SP-356~363・426~435。SP-436~450・471~498・513・514・517・519・520 (1)

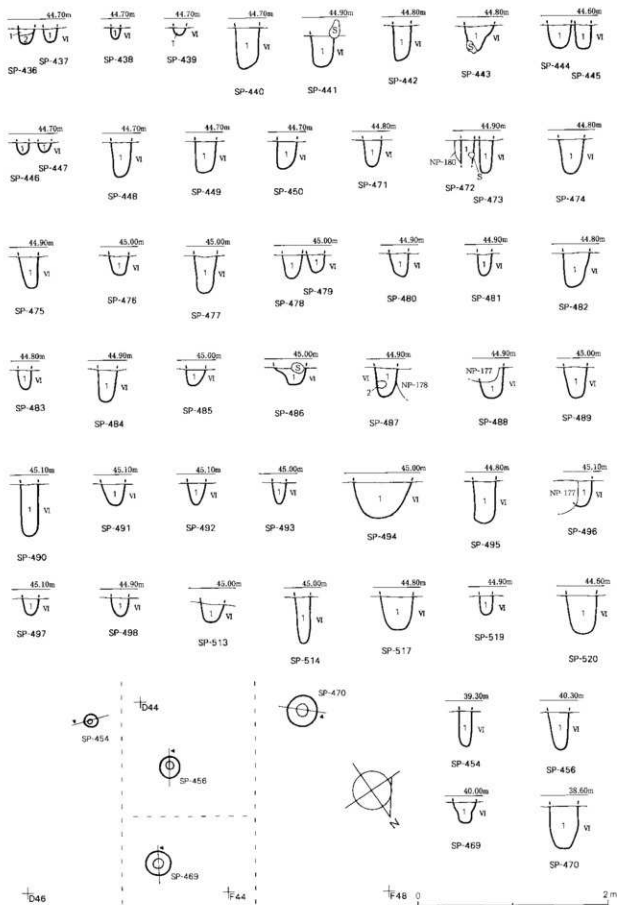
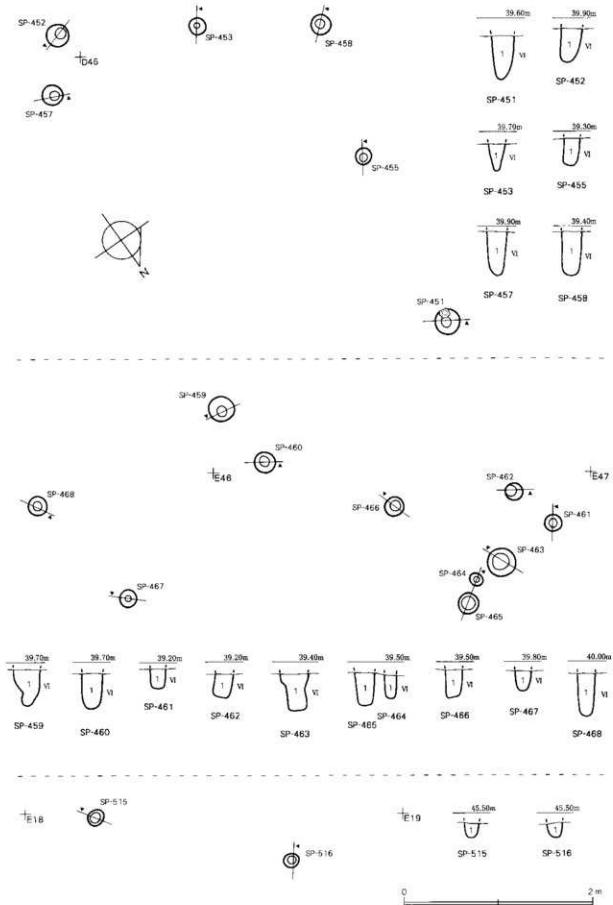


图 III-38 SP-436~450 (2). SP-454·456·469·470. SP-471~498·513·514·517·519·520 (2)



図Ⅲ-39 SP-451~453・455・457~468・515・516

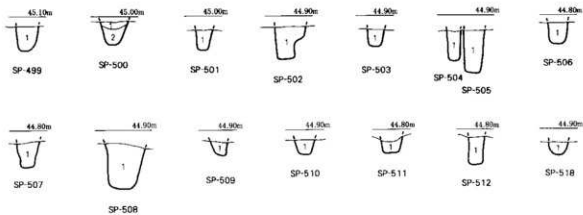
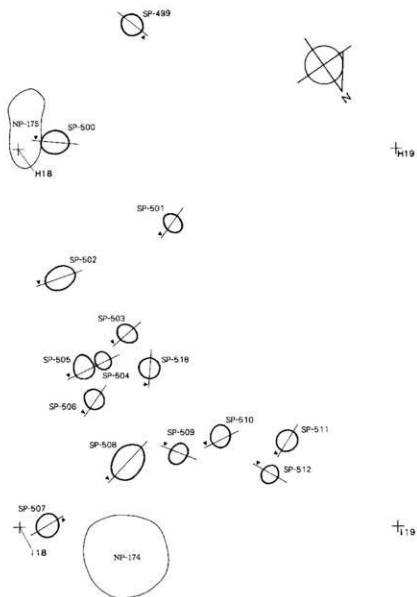
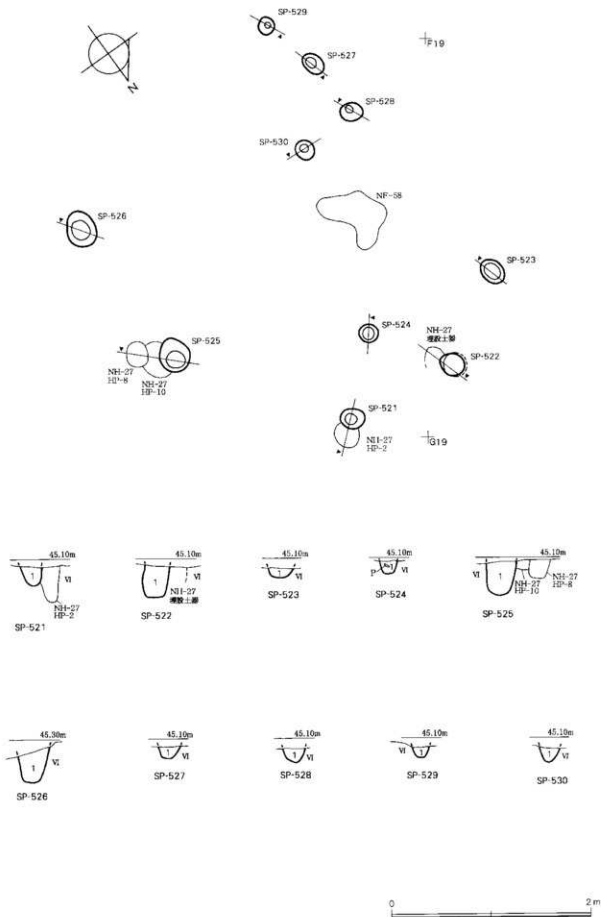
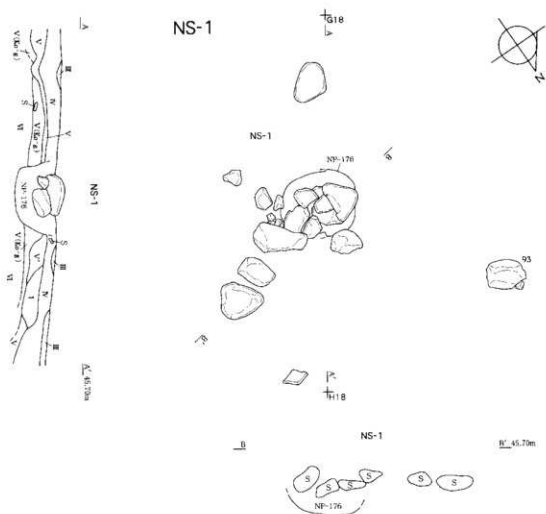


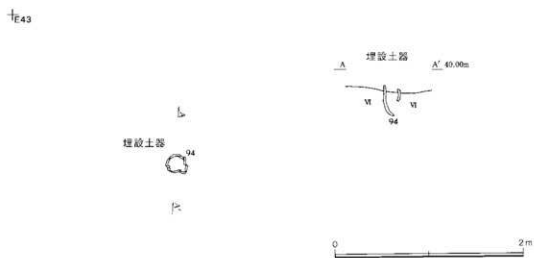
图 III-40 SP-499~512 · 518



図Ⅲ-41 SP-521~530



埋設土器 1



図Ⅲ-42 NS-1、埋設土器 1

表Ⅲ-1 遺構覆土土層注記一覧

NH-22 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴填土	褐色	7.5YR4/4	弱	堅			IV+Kog
2	埴填土	黒褐色	10YR2/3	弱	軟			地山礫3%、部分的にKog塊3%、IV>Kog
3	埴填土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅~軟			ローム塊状わずか、IV>Kog・VI
4	埴填土	黒褐色	10YR3/1	弱	堅			ローム塊状5%、隙間では粘性中、IV>Kog・VI
5	埴填土	黒褐色	10YR3/2	弱	堅			ローム塊状わずか、IV>Kog・VI
6	埴土	黒褐色	10YR3/2	弱	すこぶる堅			IV+Kog、石組如の石の握り方

NH-22 HP 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴土	黒色	10YR2/1	中	堅			
2	埴土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅			φ1cm Kog塊5%
3	埴土	黒色	10YR2/1	弱	すこぶる堅			Kog5%
4	埴填土	黒色	10YR2/1	中	軟			φ2cm Kog塊5%、IV層に類似
5	埴填土	黒褐色	10YR3/2	中	堅~軟			炭化物5%、φ1cmローム10%、Ng軽石3%
6	埴土	黒色	10YR1.7/1	中	軟			Kog、ローム粒・炭化物わずか
7	埴土	黒褐色	2.5Y3/2	中	堅			φ2cm Kog5%
8	埴土	黒褐色	2.5Y2/1	中	堅			Kog塊まだらに混
9	埴土	黒褐色	10YR2/2	中	堅			Kogローム粒5%、炭化物3%、φ2cm焼土塊わずか
10	埴填土	黒褐色	2.5Y3/2	弱	堅			Kog50%、炭化物わずか
11	埴填土	黒褐色	10YR3/1	中	軟			φ1cm Kog塊・ローム塊各3%、炭化物わずか
12	埴土	黄褐色	2.5Y5/4	中	すこぶる堅			炭化物わずか、ローム+Kog>褐色土(塊状)
13	埴土	黒褐色	2.5Y3/2	中	すこぶる堅			
14	埴土	黒色	10YR2/1	中	堅			φ2cmローム5%

NH-22 HF-1 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴填土	明褐色	7.5YR5/8	弱	軟			黒色土と焼土の塊状混合、層厚1cm

NH-23 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					IV>V

NH-23 HP 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/2					

NH-23 石組炉覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR1.7/1					IV主体、炭化物あり
2		暗褐色土	10YR3/3					焼土粒、灰混じる
3		褐色土	10YR4/6					VI>IV

NH-24 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴填土	黒色	10YR2/1	弱	堅			Kog5%
2	埴填土	黒褐色	10YR3/2	弱	すこぶる堅			φ1cm礫5%、Kog10%、IV層に類似するが、混入物が多い
3	埴土	暗褐色	10YR3/4	弱	堅			Kog50%

NH-24 HP 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	壤土	黒褐色	10YR3/2	中	堅			K _o g0%、φ0.5cm礫5%、焼土粒わずか
2	壤土	褐色	7.5YR4/4	中	堅			V(K _o g-VIが焼熟した焼土
3	壤土	黒色	10YR2/1	弱	すこぶる堅			K _o g0%、φ0.5cm礫5%
4	壤土	黒褐色	10YR3/2	中	すこぶる堅			K _o g5%
5	壤土	黒褐色	7.5YR3/1	弱	すこぶる堅			焼土と黒色土の混合物
6	壤土	赤褐色	5YR4/8	中	すこぶる堅			NH-29覆土が焼熟した焼土
7	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅			K _o g0%、炭化物5%
8	壤土	暗褐色	10YR3/3	弱	すこぶる堅			K _o g0%
9	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	軟			K _o g0%
10	壤土	黒褐色	10YR3/2	中	軟			K _o g0%、φ1cm礫5%
11	壤土	暗褐色	10YR3/3	弱	すこぶる堅			K _o g0%
12	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅			K _o g0%、φ0.5cm礫5%
13	壤土	黒褐色	10YR3/1	中	軟			K _o g0%
14	壤土	黒褐色	10YR3/1	弱	堅			K _o g炭混、φ0.5礫5%

NH-25 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴壤土	黒色	10YR2/1	強	堅	判然	平坦	礫

NH-25 NF-1 (HS-1) 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	砂壤土	暗褐色	7.5YR3/4	中	堅	散漫	不連続	φ5mm程度の焼土粒

NH-26 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	判然	平坦	IV+V+VI

NH-26 HP-1 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	判然	平坦	IV+V+VI
2	埴壤土	暗褐色	10YR3/3	中	軟	判然	波状	V+VI

NH-26 HP-2 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	強	軟	判然	波状	IV主体 根穴のように軟らかい

NH-26 HP-3 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	強	軟	明瞭	平坦	根穴のように軟らかい

NH-26 HP-4 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	壤土	黒色	10YR1.7/1	強	堅	判然	平坦	

NH-26 HP-5 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	壤土	暗褐色	10YR3/3	中	軟	判然	平坦	

NH-26 HP-6 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴壤土	黒褐色	10YR3/4	強	なし?	特然	平坦	

NH-26 HP-7 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	壤土	黒色	10YR2/1	中	堅	特然	平坦	

NH-26 HP-8 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	特然	平坦	

NH-27 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
IV 1	壤土	黒色	10YR2/1	弱	堅			φ0.5cm礫5% IV層よりやや灰色がかる 遺物が大量に出土
IV 2	壤土	黒色	10YR2.7/1	弱	堅			φ0.5cm礫5%
1	埴壤土	黒色	10YR2/1	弱	堅			φ0.5cm礫3%
2	埴壤土	にぶい黄褐色	10YR4/3	弱	堅			e~2cm礫3%、K _o g0%。VI+K _o g+IV
3	壤土	黒褐色	10YR3/2	弱	堅			e~2cm礫3%、K _o g0%。VI+K _o g+IV
4	壤土	黒褐色	2.5Y3/2	弱	堅			φ0.5cm礫3%、K _o g0%。VI>K _o g>IV
5	砂壤土	褐色	10YR4/4	中	堅			φ1cm礫10%、K _o g0%
6	砂壤土	黒色	10YR2/1	中	堅			φ1cm礫5%、K _o g0%

NH-27 NF・HP 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	砂壤土	暗赤褐色	5YR3/6	弱	すこぶる堅			VIが被熱した境土
2	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅			木根擾乱
3	砂壤土	赤褐色	10YR4/8	弱	堅			HP-16土層4が被熱した境土
4	砂壤土	黒褐色	10YR3/2	弱	堅			礫5%、K _o g0%。A-A'・C-C'土層3に類似
5	壤土	黄褐色	10YR5/6	中	すこぶる軟			VI+K _o g
6	砂壤土	黒褐色	10YR3/2	中	軟			K _o g0%
7	壤土	黒褐色	10YR3/2	中	堅			K _o g0%
8	壤土	にぶい黄褐色	10YR4/3	中	堅			K _o g0%
9	壤土	黒褐色	10YR3/2	中	堅			K _o g0%部分的に塊状
10	砂壤土	黒褐色	10YR2/3	中	堅			K _o g0%
11	壤土	暗灰黄褐色	2.5Y4/2	弱	堅			K _o g0%
12	壤土	暗灰黄褐色	2.5Y4/2	弱	すこぶる堅			K _o g0%
13	壤土	灰黄褐色	10YR4/2	弱	堅			K _o g0%
14	壤土	黒褐色	10YR3/1	弱	軟			K _o g0%
15	壤土	黒色	10YR2/1	弱	軟			K _o g5%

NH-28 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴壤土	暗褐色	10YR3/3	強	堅	明瞭	平坦	V+VI
2	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	強	すこぶる堅	明瞭	平坦	V+VI

NH-28 NF-1 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	強	すこぶる堅	明瞭	平坦	V+VI
2	壤土	褐色	10YR4/4	中	すこぶる堅	特然	平坦	

NH-28 HP-1 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴塚土	黒褐色	10YR3/2	強	堅	明瞭	平坦	V+VI

NH-29 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	塚土	黒色	10YR2/1	中	堅			φ0.5cm礫1%、炭化物ごくわずか
2	塚土	黒褐色	2.5Y3/2	中	堅			φ0.5cm礫5%、K _o gが塊状に混入し、全体にまだら
3	塚土	灰黄褐色	2.5Y4/2	弱	すこぶる堅			φ1cm礫10%
4	塚土	黒色	2.5Y2/1	弱	堅			
5	砂塚土	褐色	7.5Y4/6	弱	堅			層が被熱した塚土

NH-29 HP 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	塚土	暗褐色	10YR3/3	弱	すこぶる堅			K _o g0%
2	塚土	黒色	10YR1.7/1	弱	軟			
3	塚土	黒褐色	10YR3/2	弱	堅			φ0.5cm礫3%
4	埴塚土	黒褐色	10YR3/2	弱	軟			K _o g0%
5	砂塚土	黒褐色	10YR3/2	弱	堅			K _o g0%
6	塚土	黒褐色	10YR3/2	弱	堅			K _o g0%
7	塚土	黒色	10YR2/1	中	堅			
8	塚土	黒褐色	10YR3/2	中	軟			K _o g0%

NP-97 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR1.7/1					IV>V
2		にがい赤褐色土	10YR4/3					小礫(層由来)多く含む
3		黒褐色土	7.5YR3/2					IV>V やわらかい
4		褐色土	7.5YR4/4					IV層(小礫多い)の崩落土
5		暗褐色土	7.5YR3/4					V主体 V>IV
6		黒褐色土	7.5YR2/2					IV+V かない、しまりあり
7		暗褐色土	7.5YR3/3					IV>VI 粘性あり

NP-98 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					IV主体
2		暗褐色土	10YR3/4					V>IV やわらかい
3		暗褐色土	10YR3/3					V>IV>VI しまりあり
4		黒褐色土	10YR2/2					IV+V やわらかい
5		黒褐色土	10YR2/3					IV+V ふかふか
6		黒褐色土	10YR3/3					IV+V 粘性あり

NP-99 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR1.7/1					IV
2		黒褐色土	10YR2/2					IV>V
3		黒褐色土	10YR2/3					IV+V
4		にがい赤褐色土	10YR4/3					V>IV Vはブロック状
5		黒褐色土	10YR2/2					IV>V しまりあり
6		黒褐色土	10YR2/3					IV+V 斑状
7		褐色土	10YR4/6					IV>V
8		褐色土	10YR4/4					V>IV やわらかい
9		暗褐色土	10YR3/3					IV+V 崩れやすい
10		黒褐色土	10YR3/2					IV>V もろい
11		褐色土	10YR4/6					IV>V
12		暗褐色土	10YR3/4					IV>V 水気あり

NP-100 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					N
2		暗褐色土	10YR3/4					N>V かない
3		暗褐色土	10YR3/3					N+V 炭化物少量含む
4		黄褐色土	10YR5/6					V>N しまりあり

NP-101 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR1.7/1					N
2		暗褐色土	10YR3/4					V>N しまりあり
3		黒褐色土	10YR2/3					N>V しまりあり
4		黒褐色土	10YR3/1					V>N
5		黒褐色土	10YR2/2					N主体 やわらかい
6		暗褐色土	10YR3/4					N+V しまりあり
7		褐色土	10YR4/4					V 崩落
8		暗褐色土	10YR3/4					N+V Vはブロック状
9		暗褐色土	10YR3/3					N+V やわらかい
10		黒褐色土	10YR2/3					N+V しまりあり

NP-102 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					N主体 径5mm程のスコリア混じる
2		黒褐色土	10YR3/2					N>V しまりあり 炭化物少量混じる
3		暗褐色土	10YR3/3					N+V かない

NP-103 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/3					N+V 炭化物少量あり
2		褐色土	10YR4/4					V>N やわらかい
3		黒褐色土	10YR2/3					N>V しまりあり
4		黒褐色土	10YR3/1					N+V Vはブロック状

NP-104 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/1					N>V 径5mm程のスコリア混じる
2		黒褐色土	10YR2/1					N主体 やわらかい
3		黒褐色土	10YR2/3					N>N 小礫混じる (N層由来)
4		黒色土	10YR1.7/1					N大半

NP-105 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					N>V+VI しまりあり
2		暗褐色土	10YR3/4					N>V Vはブロック状
3		黒褐色土	10YR2/2					N+V やわらかい
4		黒褐色土	10YR2/3					N+V+VI V・VIは塊状
5		黒色土	10YR2/1					N主体 炭化物あり
6		黒褐色土	10YR2/2					N>V+VI やわらかい
7		黒色土	10YR2/1					N>V 粘性あり
8		褐色土	10YR4/6					VI>N かない
9		褐色土	10YR4/6					VI>N 8に似る

NP-106 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		暗褐色土	10YR3/3					N+V>VI しまりあり
2		黒褐色土	10YR2/3					V>N+VI かない
3		黒色土	10YR2/1					N主体 粘性あり

NP-108 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/2					N>V しまりあり
2		黒褐色土	10YR2/3					N>V Vはブロック状
3		褐色土	10YR4/6					V 崩落
4		褐色土	10YR4/4					V>N Nはブロック状
5		黒褐色土	10YR2/2					N>V かない
6		暗褐色土	10YR3/3					N+V>VI やわらかい、ブロック状

NP-109 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					N>V

NP-110 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR1.7/1					N主体
2		褐色土	10YR4/4					N+V Vはブロック状
3		黒色土	10YR2/1					N>V しまりあり
4		暗褐色土	10YR3/4					N+V 粘性あり
5		黒褐色土	10YR2/3					N>V+VI かない
6		褐色土	10YR4/4					V+VI やわらかい

NP-111 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埋填土	黒褐色	2.5Y3/2	弱	軟			φ2~7cm地山礫30%、φ1cmNg軽石5%、K _o g5%

NP-112 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR1.7/1					N>V やわらかい
2		暗褐色土	7.5YR3/4					V>N 崩落
3		黒褐色土	10YR2/2					N>V しまりあり
4		黒色土	10YR2/1					N>V しまりあり
5		暗褐色土	10YR2/3					N>V+VI やわらかい
6		褐色土	10YR4/6					V+VI 崩落
7		暗褐色土	10YR3/3					V>N やわらかい

NP-113 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埋填土	黒褐色	10YR3/2	弱	硬(部分的になし)			K _o g均質に混30% φ~1cmNg軽石15%
2	埋填土	黒色	10YR2/1	弱	堅			炭化物わずか
3	壤土	黒褐色	2.5YR3/2	弱	すこぶる堅			K _o g均質30% 部分的に塊状 炭化物少量
4	埋填土	黒色	10YR2/1	弱	すこぶる堅			K _o g均質20% 炭化物わずか

NP-114 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		暗褐色土	10YR3/4					V>IV
2		暗褐色土	10YR3/3					V>IV Vはブロック状
3		褐色土	10YR4/6					V>IV

NP-115 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	壤土	オリーブ褐色	2.5Y4/6	中 堅				Ko-g<ローム φ0.5cm円礫少量
2	壤土	黒褐色	2.5Y3/2	弱 堅				Ko-g90% φ<0.5~1cm円礫10%
3	砂壤土	オリーブ褐色	2.5Y4/6	弱 堅~軟				Ko-g+ローム
4	砂壤土	暗灰黄褐色	2.5Y4/2	弱 軟				Ko-g<ローム φ0.5cm円礫10% 炭化物わずか
5	壤土	黒褐色	2.5Y3/2	中 軟				Ko-g90% φ0.5cm円礫5% 炭化物わずか
6	壤土	オリーブ褐色	2.5Y4/3	中 軟				φ0.5~3cm円礫10%

NP-116 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					IV>V
2		暗褐色土	10YR3/4					IV>V しまりあり
3		褐色土	10YR4/4					V+VI 崩落

NP-117 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					IV>V
2		黒褐色土	10YR2/2					IV>V やわらかい
3		暗褐色土	10YR3/3					IV+V

NP-118 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/2					IV+V>VI 粘性あり 炭化物少量混じる
2		黒色土	10YR2/1					IV主体

NP-119 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/2					VI>IV+V しまりあり
2		黒褐色土	10YR2/3					IV+V Vはブロック状

NP-120 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/2					IV+V
2		褐色土	10YR4/6					VI主体
3		にがい黄褐色土	10YR4/3					V+VI 崩落

NP-121 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/2					IV+V しまりあり
2		暗褐色土	10YR3/4					V>IV+VI

NP-122 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		暗褐色土	10YR3/4					N+V 炭化物少量含む
2		黒褐色土	10YR2/2					N+V Vはブロック状

NP-123 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/2					N+V Vはブロック状
2		褐色土	10YR4/4					N+V+VI フロック状
3		黒褐色土	10YR2/3					N+V しまりあり

NP-124 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴塚土	黒色	10YR2/1	中	すこぶる堅	明瞭	平坦	N

NP-125 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴塚土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	明瞭	平坦	N
2	砂塚土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	明瞭	平坦	K ₀ g+VI
3	塚土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	判然	平坦	V
4	砂塚土	暗褐色	10YR3/4	中	堅	明瞭	平坦	K ₀ g+VI
5	埴土	にぶい黄褐色	10YR4/3	強	すこぶる堅	明瞭	平坦	VI

NP-126 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴塚土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	判然	平坦	VI>V
2	埴土	褐色	10YR4/4	強	すこぶる堅	判然	平坦	VI
3	埴塚土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	明瞭	不連続	VI>V

NP-127 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴塚土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	判然	液状	N+V+VI
2	埴塚土	黒褐色	10YR3/2	中	すこぶる堅	判然	液状	N+V<VI
3	埴塚土	褐色	10YR4/4	強	すこぶる堅	明瞭	平坦	VI+VII
4	埴土	黒色	10YR1.7/1	強	堅	明瞭	不連続	N

NP-128 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	砂塚土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	判然	平坦	VI+IV
2	埴塚土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	判然	平坦	N>VI
3	埴塚土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	判然	不連続	VI
4	埴土	黒褐色	10YR2/2	強	堅	判然	平坦	N+VI
5	埴土	にぶい黄褐色	10YR5/4	強	堅	判然	不連続	VI

NP-129 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴塚土	黒色	10YR1.7/1	強	堅~軟	明瞭	平坦	N

NP-130 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴埴土	黒褐色	10YR2/3	中	堅	明瞭	平坦	Ⅱ+Ⅴ

NP-131 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	壤土	帯ノリブ褐色	2.5Y3/3	中	堅			φ0.5~1cm円礫10% K ₀ g ₀ % 炭化物わずか

NP-132 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	壤土	黒褐色	10YR3/2	中	堅			φ0.5~2cm円礫30% K ₀ g ₀ %

NP-133 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴埴土	黒色	10YR2/1	弱	堅			K ₀ g ₀ 5% φ1cm礫わずか
2	壤土	オリーブ褐色	2.5YR4/4	中	堅			K ₀ g ₀ 0%
3	埴埴土	黒褐色	10YR3/2	弱	堅			K ₀ g ₀ 0%
4	埴埴土	黒褐色	10YR3/1	中	軟			K ₀ g ₀ 0%
5	壤土	黒褐色	10YR3/1	中	堅			K ₀ g少量 φ~1cm礫5%
6	砂埴土	黄褐色	10YR5/6	弱	軟			K ₀ g主体
7	壤土	褐色	10YR4/4	中	軟			K ₀ g0% φ~1cm砂5%
8	壤土	褐色	10YR4/6	中	軟			ローム+K ₀ gと黒が斑状に混合
9	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	軟			K ₀ g0% 部分的に塊状
10	壤土	黄褐色	10YR5/8	中	軟			φ~1cm礫40% K ₀ g+ローム
11	壤土	黒褐色	10YR3/2	中	なし			φ~1cm礫10% K ₀ g0%

NP-134 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		におい青褐色土	10YR4/3					V>Ⅱ しまりあり
2		暗褐色土	10YR3/3					Ⅱ>V しまりあり
3		暗褐色土	10YR2/3					V+Ⅱ>Ⅱ かない

NP-135 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					Ⅱ主体
2		暗褐色土	10YR3/4					Ⅱ+Ⅴ+Ⅵ

NP-136 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴埴土	黒褐色	10YR2/2	中	軟			K ₀ g0% ローム部分的にまだらに混合 φ~3cm礫30% 炭化物わずか

NP-137 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	壤土	黒色	10YR2/1	弱	堅			K ₀ g0% φ~3cm礫10%

NP-138 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		におい青褐色土	10YR4/3					V+Ⅱ>Ⅱ ブロック状
2		黒褐色土	10YR3/2					V+Ⅱ しまりあり
3		暗褐色土	10YR3/3					V>Ⅱ かない
4		黒色土	10YR2/1					Ⅱ>Ⅱ 粘性あり

NP-139 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					N>V
2		にがい青褐色土	10YR5/4					V>N
3		暗褐色土	10YR3/4					N+V しまりあり
4		黒褐色土	10YR2/2					N+V 粘性あり

NP-140 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/2					N+V しまりあり

NP-141 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		暗褐色土	10YR2/3					N+V しまりあり
2		にがい青褐色土	10YR4/3					V>N 堅い
3		褐色土	10YR4/4					V>N 崩落

NP-142 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/2					N主体 炭化物少量あり

NP-143 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					N>V
2		暗褐色土	10YR3/4					N+V+VI
3		黄褐色土	10YR5/6					VI>V
4		黒色土	10YR1.7/1					N>V
5		黄褐色土	10YR5/6					VI

NP-144 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		暗褐色土	10YR3/4					N+V 炭化物あり
2		にがい青褐色土	10YR4/3					VI>N+V しまりあり
3		褐色土	10YR4/4					V+VI
4		黒色土	10YR2/1					N>V 炭化物少量混じる

NP-145 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	壤土	黒色	10YR1.7/1	弱	軟			
2	壤土	黒褐色	10YR3/2	弱	やや軟			K _o g ₅₀ % ローム φ0.5-3cm 塊状5%

NP-146 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR3/1					N主体
2		黒色土	10YR1.7/1					N主体
3		斑状土						N+V+VI

NP-147 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR3/1					IV主体

NP-148 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR3/1					IV主体 炭2%混入

NP-149 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		炭状土						IV+V+VI

NP-150 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					IV主体
2		炭状土						IV+V+VI
3		黒色土	10YR1.7/1					IV主体
4		黒褐色土	2.5YR3/1					IV>V+VI

NP-150 PP-1 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		暗褐色土	10YR3/4					IV主体

NP-150 PP-2 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					IV主体

NP-150 PP-3 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					IV主体

NP-151 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	砂填土	黒褐色	10YR2/2	なし	すこぶる堅	判然	平坦	B-Tm自然堆積
2	壤土	黒色	10YR1.7/1	弱	すこぶる堅	判然	平坦	IV主体 1,2層は自然堆積
3	壤土	暗褐色	10YR3/3	中	すこぶる堅	判然	平坦	IV+K+G 赤黄色い
4	壤土	黒褐色	10YR2/2	中	軟	判然	不規則	IV+Vの崩落層
5	壤土	黒色	10YR2/1	中	すこぶる堅	判然	平坦	φ0.5~1.5cm頁岩?礫が5%混入。頁岩礫の色は10YR5/3にぶい黄褐色。軟らかく、すぐにつぶれる。小礫、亜角礫風化。IV+頁岩層(Ⅷ?)
6	壤土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	判然	平坦	5と同じ礫が3%混入。IV+頁岩層(Ⅷ?)の黄色い層。
7	埴填土	黒色	10YR2/1	中	堅	判然	平坦	IV+K+G あるいはⅧが薄い層状に入り込む。
8	埴填土	黒色	10YR1.7/1	強	軟	判然	平坦	IV 均一で粘性強い。
9	壤土	褐色	10YR4/4	強	軟	判然	平坦	Ⅷのローム。
10	埴填土	黒色	10YR2/1	強	しょう	明瞭	平坦	IV、埴填土。遺体層?

NP-152 覆土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴填土	黒色	10YR2/1	中	堅	判然	平坦	IV+V
2	埴土	黒色	10YR1.7/1	強	軟	判然	平坦	IV
3	埴填土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	明瞭	平坦	Ⅷ+V

NP-153 覆土土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	堆填土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	判然	平坦	N
2	堆填土	暗褐色	10YR3/3	中	すこぶる堅	明瞭	平坦	Ⅳ+V
3	堆填土	褐色	10YR4/4	中	堅	漸変	不連続	Ⅳの崩落土

NP-154 覆土土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	填土	黒褐色	10YR3/2	中	軟	明瞭	平坦	V>N とても軟らかい

NP-155 覆土土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR3/1					N主体

NP-156 覆土土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR3/3					N主体
2		斑状土						N+V+Ⅳ
3		黒色土	10YR5/6					N主体

NP-157 覆土土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR3/1					N主体

NP-158 覆土土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR3/1					N主体
2		黒色土	10YR1.7/1					N主体

NP-159 覆土土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	堆填土	暗褐色	7.5YR3/4	中	軟	漸変	不連続	N+V 焼土混じりの土?
2	堆填土	暗褐色	10YR3/3	中	堅	判然	平坦	V
3	堆填土	褐色	10YR4/4	中	堅	明瞭	平坦	Ⅳ+V
4	堆填土	黒褐色	10YR2/3	弱	堅	漸変	不連続	Ⅳ+V 崩落土
5	堆填土	黒色	10YR1.7/1	中	すこぶる堅	漸変	不規則	N主体

NP-160 覆土土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
B-Tm	填土	黒褐色	10YR3/2	強	堅	判然	平坦	
1	填土	黒色	10YR1.7/1	強	堅	判然	平坦	N
2	填土	黒褐色	10YR2/2	中	堅	判然	液状	Ⅳ+B-Tm
3	填土	黒色	10YR2/1	中	堅	判然	不連続	N
4	堆填土	暗褐色	10YR3/4	強	堅	判然	不連続	Ⅳ+V
5	填土	暗褐色	7.5YR3/3	中	堅	判然	不連続	Ⅳ+Kog 少々赤みが多い
6	填土	黒褐色	10YR3/2	中	軟	判然	平坦	Ⅳ+V
7	堆填土	にひい黄褐色	10YR4/3	強	堅	判然	平坦	Ⅳ+Ⅳ
8	堆填土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	判然	平坦	N
9	砂填土	暗褐色	10YR3/4	強	軟	判然	不連続	Kog
10	填土	褐色	10YR4/4	中	堅	判然	不連続	Ⅳ
11	堆填土	黒色	10YR1.7/1	中	軟	判然	平坦	N

NP-161 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR3/1					IV主体
2		灰伏土						IV+V+VI

NP-162 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR3/1					IV主体
2		灰伏土						IV+V+VI
3		黒色土	10YR1.7/1					IV主体

NP-163 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					IV主体
2		褐灰色土	10YR4/1					IV+VI>V

NP-164 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					IV>V
2		黒褐色土	10YR2/3					IV+V しまりあり
3		黒褐色土	10YR2/2					IV>V 粘性あり
4		褐色土	10YR4/6					V>IV 崩落

NP-165 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR1.7/1					IV主体
2		黒褐色土	10YR2/2					IV>V
3		褐色土	10YR4/6					VI 崩落
4		暗褐色土	10YR3/4					V>IV+VI 軟らかい
5		黒褐色土	10YR2/3					IV+V しまりあり

NP-166 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					IV主体
2		濃い黄褐色土	10YR4/3					IV+V>VI
3		暗褐色土	10YR3/4					V>IV しまりあり
4		暗褐色土	10YR3/3					IV>V しまりあり
5		黄褐色土	10YR5/8					VI 崩落
6		黄褐色土	10YR4/6					VI 崩落

NP-167 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					IV主体
2		黒褐色土	10YR2/3					IV+V しまりあり

NP-168 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR1.7/1					N
2		黒褐色土	10YR2/3					N>V
3		暗褐色土	10YR3/3					もろい
4		褐色土	10YR4/6					V>N 崩落
5		暗褐色土	10YR3/4					V+M>N しまりあり
6		黒褐色土	10YR3/1					M>V 炭化物少ない
7		暗褐色土	10YR3/4					V+M>N 崩落
8		褐色土	10YR4/4					V+M しまりあり 崩落
9		黒色土	10YR2/1					N 粘性あり

NP-169 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		暗褐色土	10YR3/3					N+V>M
2		暗褐色土	10YR4/9					V>N 軟らかい
3		黄褐色土	10YR5/6					V>N しまりあり
4		暗褐色土	10YR3/4					N>V 粘性あり

NP-170 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					N>V
2		にぶい黄褐色土	10YR5/4					V>N

NP-171 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR1.7/1					N 主体
2		黒褐色土	10YR3/3					N>V
3		黒褐色土	10YR3/1					N>V しまりあり
4		にぶい黄褐色土	10YR4/3					M+V>N 堅い
5		黒色土	10YR2/1					N 粘性あり

NP-172 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		暗褐色土	10YR3/4					V>N+M 粘性あり
2		黒褐色土	10YR2/3					V+M しまりあり
3		褐色土	10YR4/6					Mはブロック状

NP-173 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1		黒色土	10YR2/1					N 主体 小礫混じる
2		暗褐色土	10YR3/4					V>N しまりあり
3		にぶい黄褐色土	10YR4/3					V+M>N

NP-174 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	堆積土	黒色	10YR2/1	弱	堅			Ko<g0%
2	堆積土	黒褐色	10YR3/2	中	堅			ローム塊状30%
3	堆積土	にぶい黄褐色	10YR4/3	弱	すこぶる堅			よごれたローム
4	堆積土	黒色	10YR2/1	中	すこぶる堅			Ko<g0% ローム塊状20%
M'	堆土	明黄褐色	10YR6/6	中	すこぶる堅			古い風割により盛り上がったローム

NP-175 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴埴土	黒色	10YR2/1	中	すこぶる堅			K _o g0%
2	埴埴土	黒褐色	10YR3/2	中	すこぶる堅			K _o g0% 塊状

NP-176 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	すこぶる堅			φ1cm礫3%

NP-177 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅			K _o g0%
2	壤土	黒褐色	10YR3/2	弱	堅			K _o g0% 部分的に塊状

NP-178 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴埴土	黒色	10YR2/1	弱	堅			K _o g3% φ0.5cm礫5%
2	埴埴土	黒褐色	10YR3/1	弱	堅			K _o g0% φ1cm礫5%
3	壤土	灰黄褐色	10YR4/2	弱	堅			K _o g0%
4	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅			K _o g0% φ1cm礫10%
5	砂埴土	黒褐色	10YR2/2	弱	軟			K _o g0% 礫10%

NP-179 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	壤土	黒褐色	10YR3/2	弱	すこぶる堅			K _o g0% φ~0.5cm礫5%
2	砂埴土	褐色	10YR4/4	中	軟			K _o g+ローム+IV砂利 φ1cm礫10%
3	砂埴土	黒褐色	10YR2/2	中	軟			K _o g0% φ1cm礫10%
4	砂埴土	黒色	10YR2/1	弱	すこぶる堅			K _o g0%
5	壤土	オリーブ褐色	2.5Y4/6	中	すこぶる堅			

NP-180 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴埴土	黒褐色	10YR3/1	弱	堅			K _o g0% φ1cm礫10%
2	埴埴土	黒色	10YR2/1	弱	堅			K _o g0% φ1cm礫1%
3	砂埴土	オリーブ褐色	2.5Y3/3	弱	やや軟			K _o g0% φ1cm礫30%
4	壤土	黒褐色	2.5Y3/2	弱	堅			K _o g0% φ1cm礫30%
5	埴埴土	黒褐色	10YR3/2	弱	すこぶる堅			K _o g0%

NP-181 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	壤土	暗褐色	10YR3/3	弱	すこぶる堅			K _o g0% 部分的に塊状 φ1cm礫5% 黒色土ブロック

NP-182 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色土	10YR2/2					N>V
2		褐色土	10YR4/6					W>N+V しまりあり
3		暗褐色土	10YR3/4					V>N+W
4		褐色土	10YR4/4					W>N+V 堅い
5		褐色土	10YR4/6					W>N+V しまりあり
6		暗褐色土	10YR3/3					N>V+W 粘性あり

NP-183 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	壤土	黒褐色	10YR2/2	弱	堅			K _o g0% φ~3cm礫10%
2	砂壤土	黒色	10YR2/1	弱	すこぶる堅			K _o g0% φ1cm礫10%
3	埴壤土	黒色	10YR2/1	弱	堅			K _o g0% φ1cm礫3%
4	砂壤土	灰黄褐色	10YR4/2	弱	軟			K _o g0% φ1cm礫30%
5	砂壤土	黒褐色	10YR3/1	弱	堅			K _o g0% φ1cm礫10%

NP-184 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴壤土	黒褐色	10YR3/1	弱	堅			K _o g0%
2	壤土	黒褐色	10YR3/1	弱	やや軟			K _o g0% K _o gと黒色土が塊状に混 まだら
3	壤土	オリーブ褐色	2.5Y4/3	中	すこぶる堅			K _o g+ローム均質 堅い

NP-185 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴壤土	黒褐色	10YR3/1	弱	すこぶる堅			K _o g0% φ1cm礫10%
2	砂壤土	黒褐色	2.5Y3/2	弱	軟			K _o g0% φ1cm礫10%
3	壤土	黒色	10YR2/1	弱	軟			K _o g0%
4	砂壤土	黄褐色	10YR5/6	中	軟			ローム<K _o g 緩い
5	砂壤土	暗灰黄褐色	2.5Y4/2	弱	軟			ローム+K _o g 緩い
6	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	弱	軟			緩い

NP-186 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅			
2	埴壤土	黒色	10YR1.7/1	中	堅			K _o g0%
3	なし	なし	なし	なし	なし			K _o gブロック

NP-187 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	壤土	暗褐色	10YR3/3	中	すこぶる堅			K _o g0%

NP-188 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	壤土	暗褐色	10YR3/4	強	軟	判然	平坦	Ⅵ-V
2	埴壤土	黒褐色	10YR3/2	中	堅	判然	平坦	V
3	壤土	にがい黄褐色	10YR5/4	中	堅	判然	平坦	頁岩(凝灰岩)層(Ⅵ?)
4	埴壤土	褐色	10YR4/4	強	堅	判然	平坦	Ⅵ-V
5	壤土	暗褐色	10YR3/4	強	軟	判然	平坦	V

NP-189 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴壤土	黒褐色	10YR1.7/1	中	堅	判然	平坦	Ⅵ
2	埴壤土	褐色	10YR4/4	中	堅	判然	平坦	Ⅵ>V

NP-190 覆土層注記

層名	土性	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	層界の 明瞭性	層界の 起伏	そ の 他
1	埴壤土	黒褐色	10YR2/2	強	軟	判然	平坦	Ⅵ+V
2	埴壤土	褐色	10YR4/4	強	堅	明瞭	平坦	Ⅵ主体

NP-191 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴垣土	黒色	10YR1.7/1	中	堅	判然	平坦	

SF-1 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴垣土	暗褐色	7.5YR3/3	中	軟	散漫	不連続	接げ弱い

SF-2 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴垣土	暗褐色	10YR3/4	強	堅	散漫	不連続	接げ弱い

SF-3 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴土	褐色	7.5YR4/6	強	堅	漸変	不規則	

SF-4 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	砂埴土	赤褐色	5 YR4/8	弱	すこぶる堅			層が被熱

SF-5 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒色	10YR2/1					IV>V 炭化物少量混じる
2		暗褐色	5 YR3/4					IV+V 炭土粒混じる

NF-39 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色	7.5YR3/2					炭化物多く含む
2		暗褐色	7.5YR5/8					焼土 炭化物少量含む

NF-40 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		黒褐色	10YR2/3					炭化物あり
2		褐色	7.5YR4/4					焼土 炭化物少量含む

NF-41 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		暗赤褐色	5 YR3/6					焼土 炭化物少量含む

NF-42 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		褐色	7.5YR5/6					焼土 炭化物少量含む

NF-43 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴垣土	褐色	7.5YR4/6	中	堅	判然	波状	焼土 IVが焼けたもの 接していないIVがブロック状に塊状に混入

NF-44 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		赤褐色	5 YR4/6					焼土 炭化物少量含む

NF-45 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		暗赤褐色	5 YR3 / 6					焼土 炭化物少量含む

NF-46 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		赤褐色	5 YR4 / 6					焼土 炭化物少量あり

NF-47 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		赤褐色	5 YR4 / 8					焼土 炭化物少量含む

NF-48 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴壤土	褐色	7.5YR4 / 4	強	堅	明瞭	平坦	Vが焼けたもの 焼けは弱い

NF-49 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴壤土	褐色	7.5YR4 / 6	弱	堅			焼土 Ⅱ層中位
2	壤土	黒褐色	10YR3 / 2	弱	堅			

NF-50 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴壤土	明赤褐色	5 YR3 / 6	弱	堅			Ⅱ層中位 墓層直下、Ke g直前の風倒により攪乱される

NF-51 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		明褐色	7.5YR5 / 6					焼土 炭化物少量含む

NF-52 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		赤褐色	5 YR4 / 8					焼土 炭化物少量含む

NF-53 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		明褐色	7.5YR5 / 6					焼土 炭化物少量含む

NF-54 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1		明褐色	7.5YR5 / 6					焼土 炭化物あり

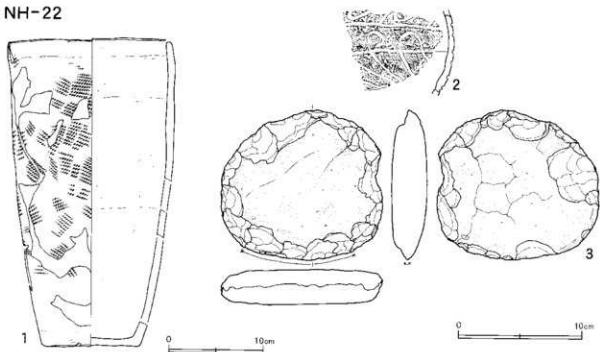
NF-55 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴壤土	暗赤褐色	5 YR3 / 6	中	堅			Ⅱ層中位 風倒木の盛り上がり上に形成されている

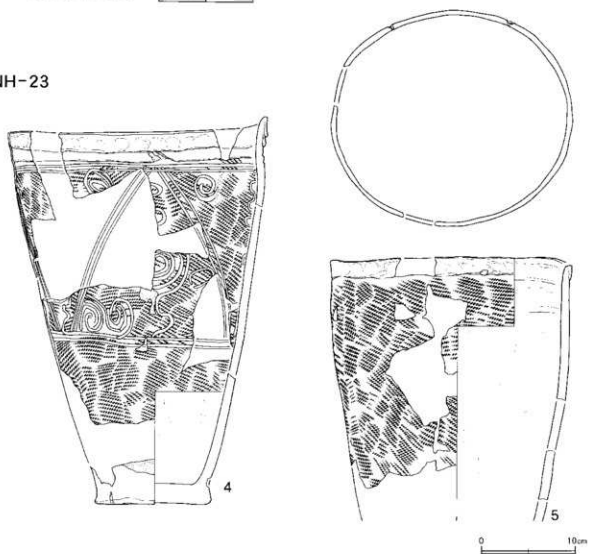
NF-56 覆土土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密度	層界の明瞭性	層界の起伏	そ の 他
1	埴土	褐色	7.5YR4 / 6	強	堅	漸変	不規則	Ⅱ aの時期と思われる

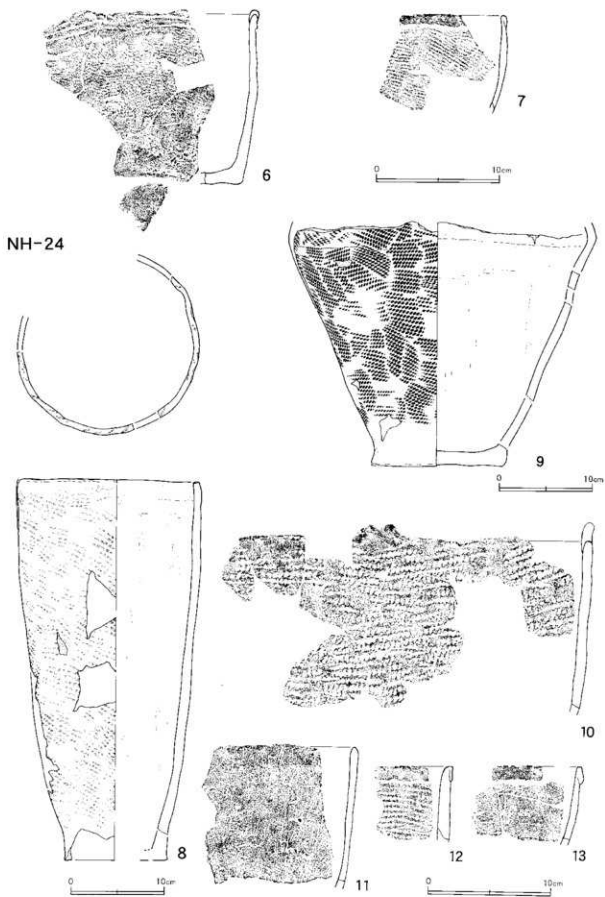
NH-22



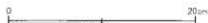
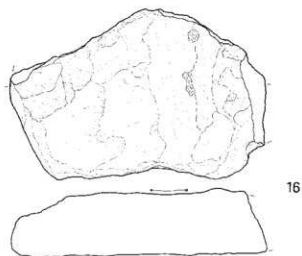
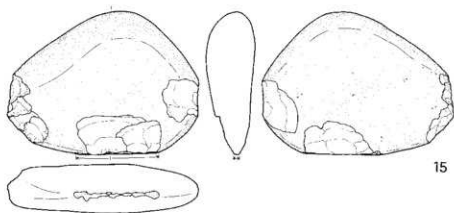
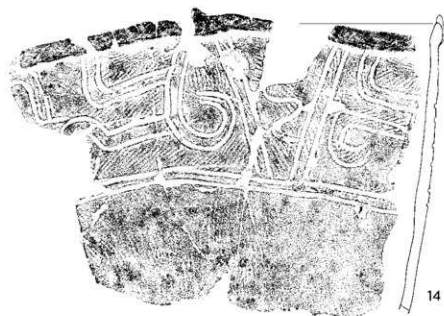
NH-23



図Ⅲ-43 NH-22・23出土の遺物

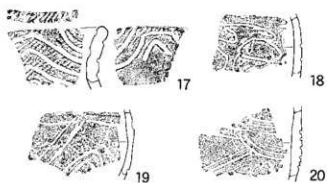


図Ⅲ-44 NH-23・24出土の遺物

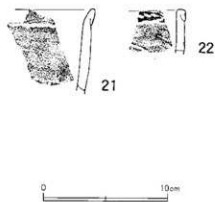


図Ⅲ-45 NH-24出土の遺物

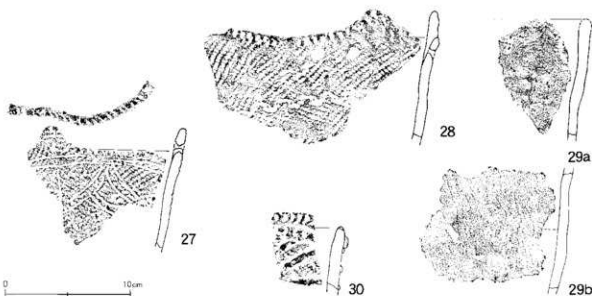
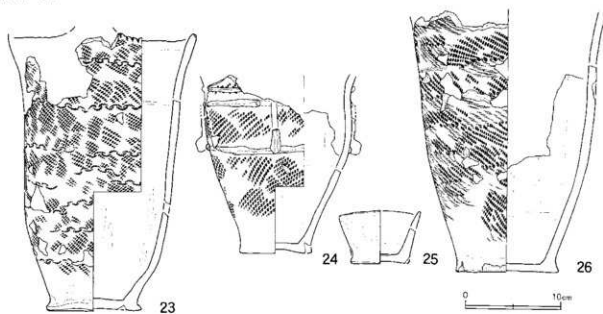
NH-25



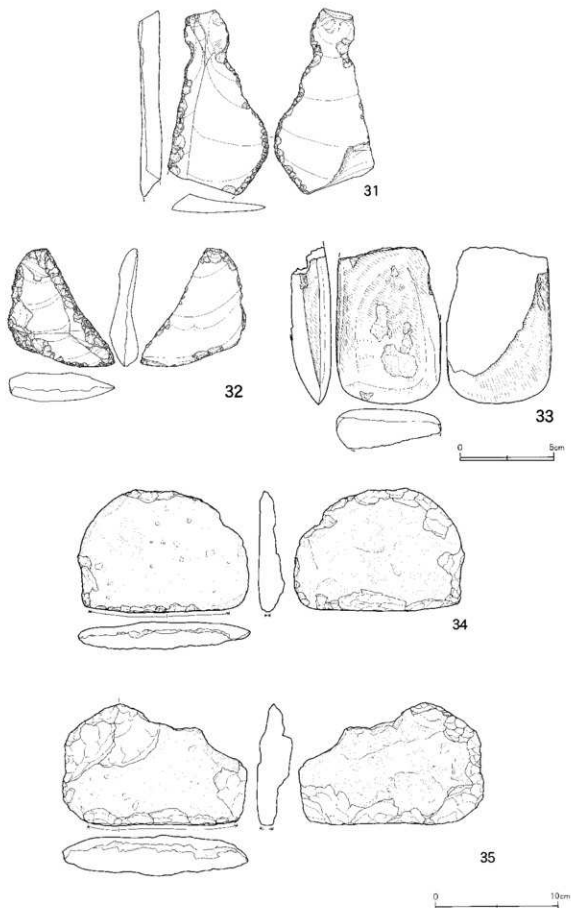
NH-26



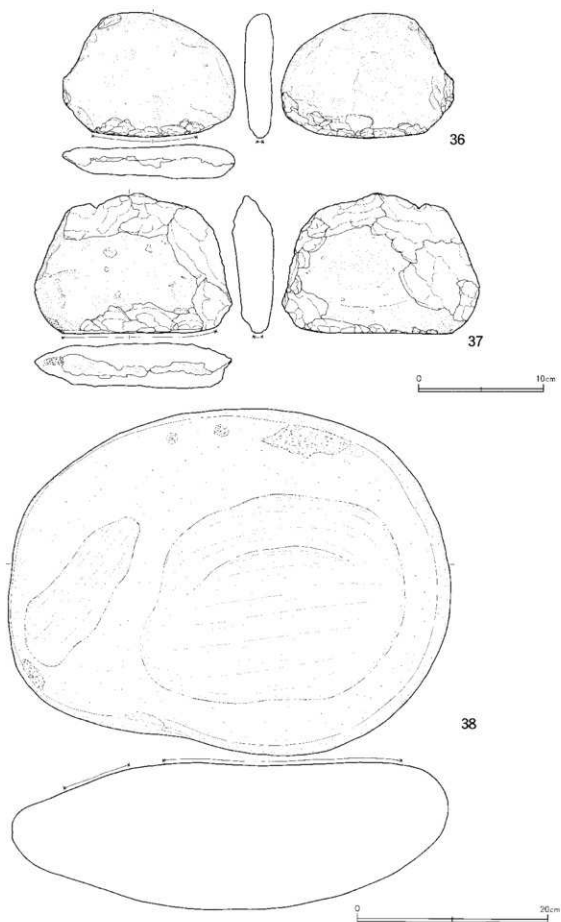
NH-27



図Ⅲ-46 NH-25~27出土の遺物

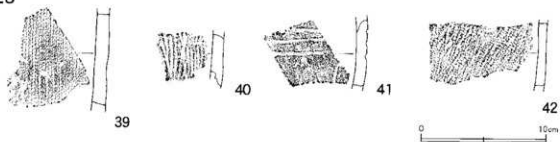


図Ⅲ-47 NH-27出土の遺物（1）

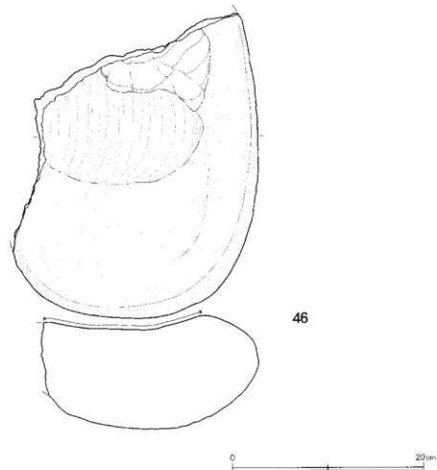
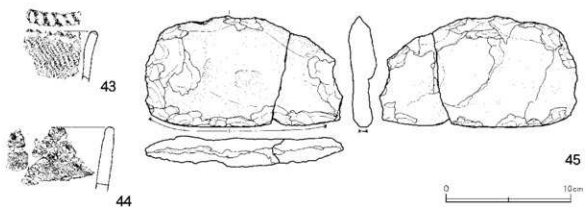


図Ⅲ-48 NH-27出土の遺物(2)

NH-28

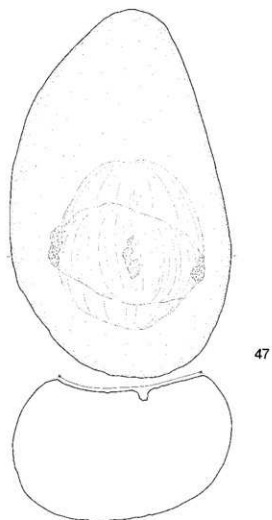


NH-29



図Ⅲ-49 NH-28・29出土の遺物

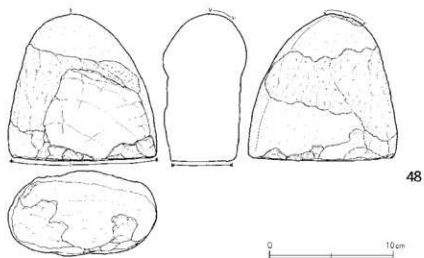
NP-104



47



NP-105

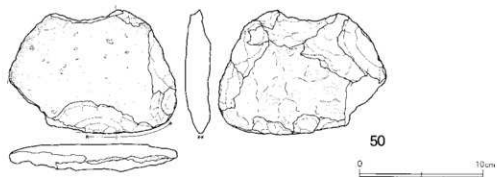
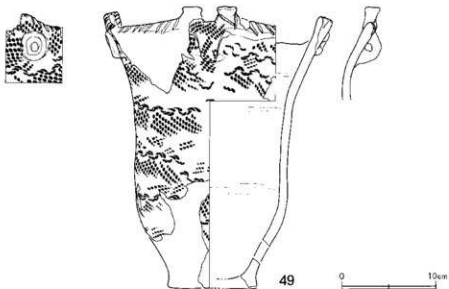


48

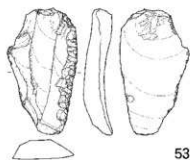


図Ⅲ-50 NP-104・105出土の遺物

NP-106



NP-112



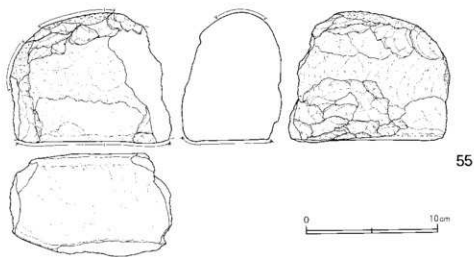
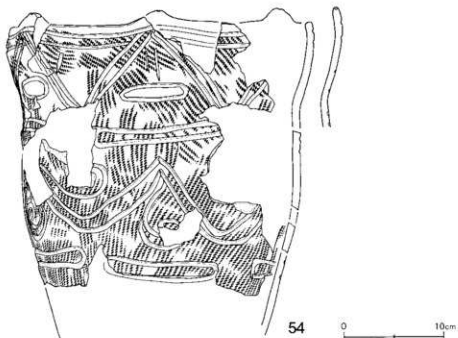
51



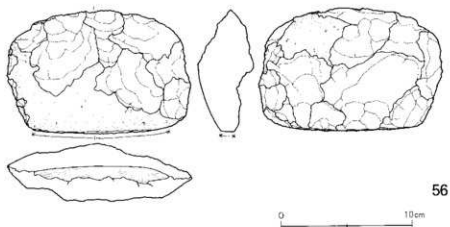
52

図III-51 NP-106・112出土の遺物

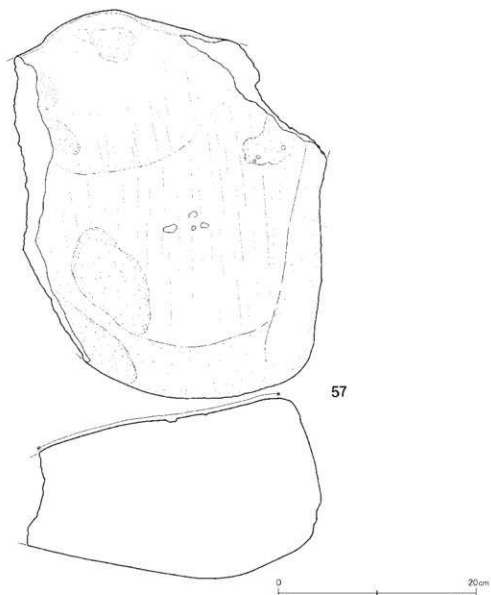
NP-113



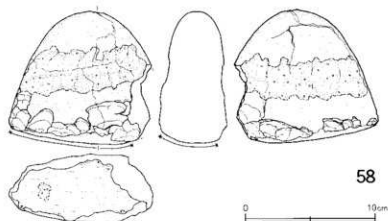
NP-115



図Ⅲ-52 NP-113・115出土の遺物

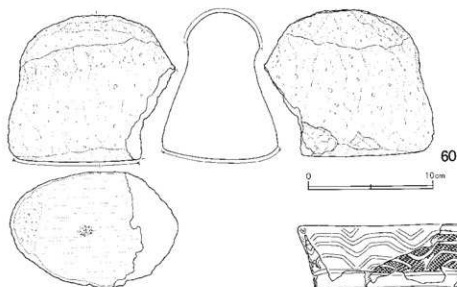
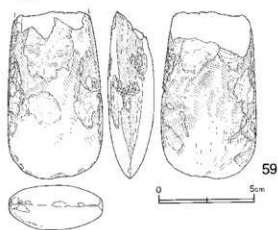


NP-117

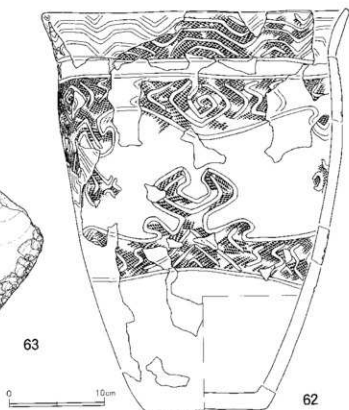
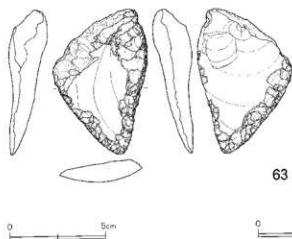


図Ⅲ-53 NP-115・117出土の遺物

NP-118

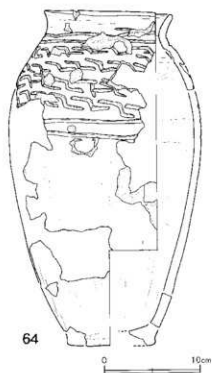


NP-125

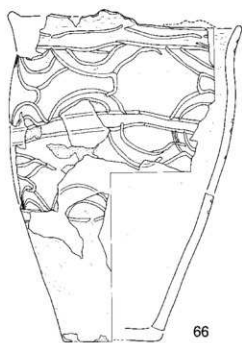


図Ⅲ-54 NP-118・125出土の遺物

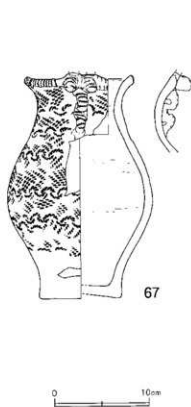
NP-127



NP-129

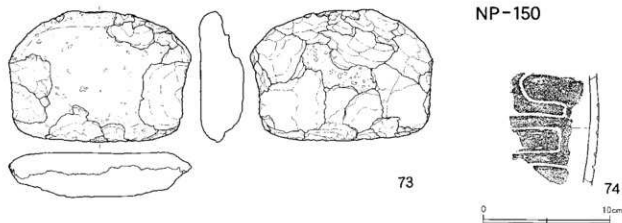
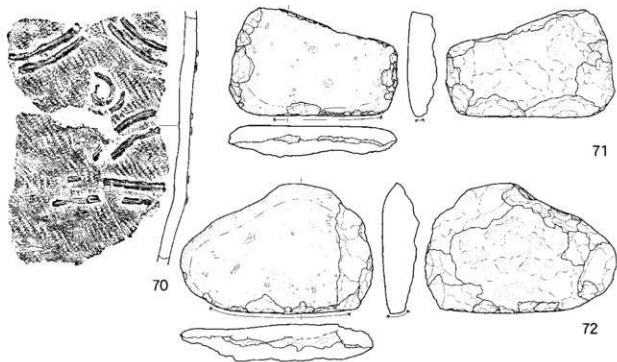
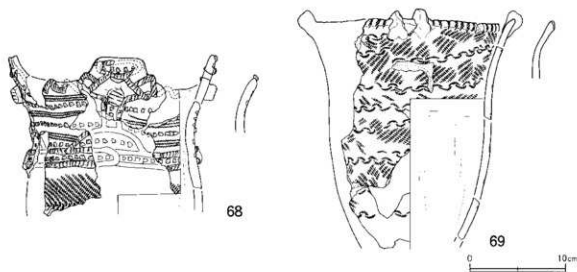


NP-138



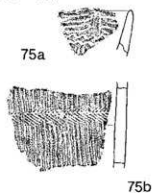
図Ⅲ-55 NP-127・129・138出土の遺物

NP-144

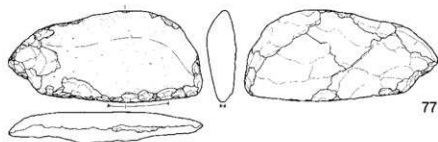


図Ⅲ-56 NP-144・150出土の遺物

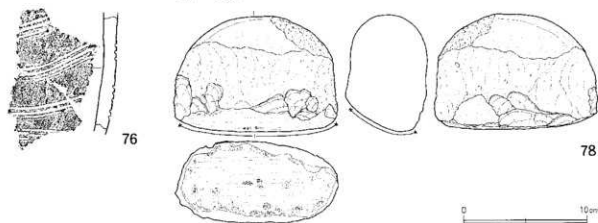
NP-151



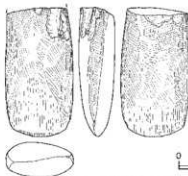
NP-152



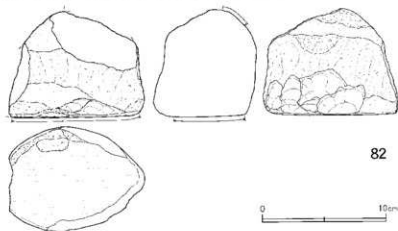
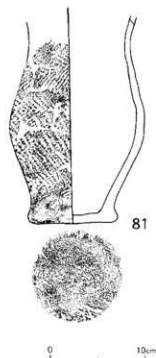
NP-153



NP-158

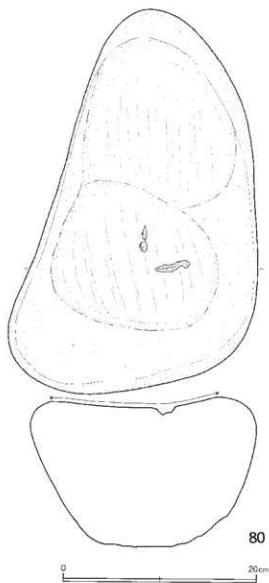


NP-170

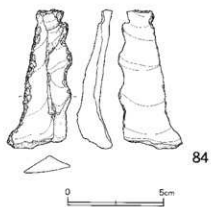


図III-57 NP-151~153・158・170出土の遺物

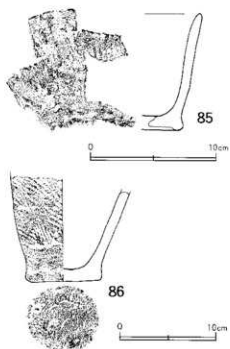
NP-166



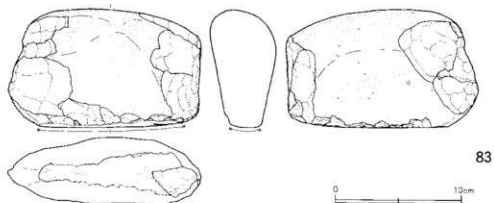
NP-177



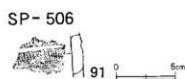
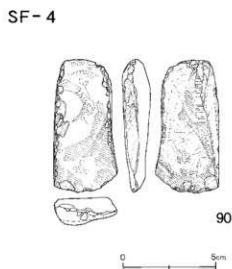
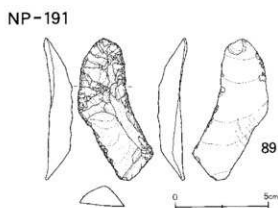
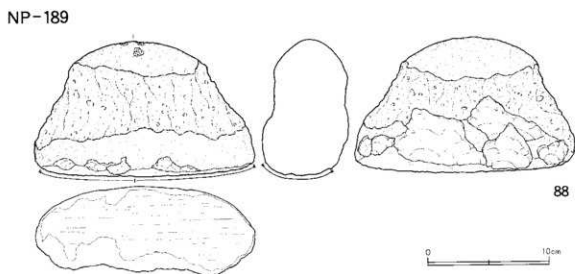
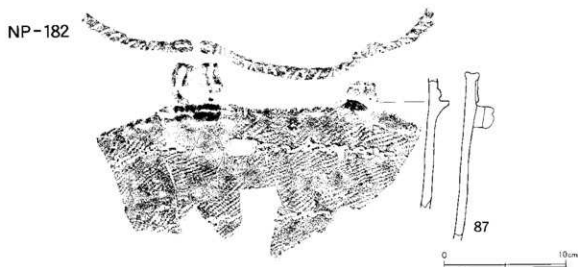
NP-186



NP-171



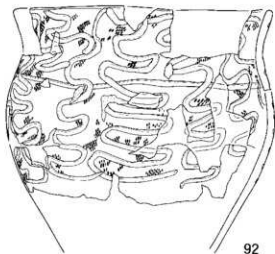
図Ⅲ-58 NP-166・171・177・186出土の遺物



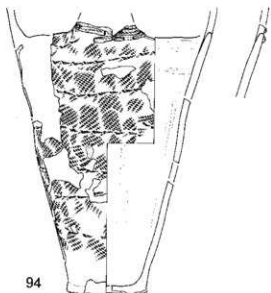
図Ⅲ-59 NP-182・189・191、SF-4、SP-506出土の遺物

NS-1

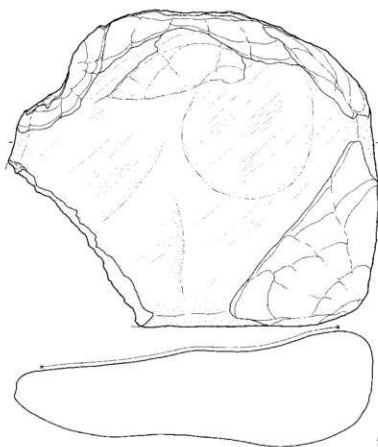
埋設土器 1



92



94



93



図Ⅲ-60 NS-1、埋設土器1出土の遺物

表Ⅲ-2 遺構一覽(1) 住居跡 8軒

遺構名	図番号	図 廓	地 区	棟跡面 長径	規 模 (m)			平面形	床面・壁面		土質・土層	遺物出土状況	時期	備 考	担 当		
					確認面 長径	床 面 長径	短径		深さ	長軸方向						形状	
NH22	Ⅱ-1, 2, 43	3・3-22・28-3 -10-120-124-126	C	E-F22 -25	V上	6.15	5.26	5.10	0.51	楕円形	N-23°-E	中央へ傾 斜	縦やか、壁 はやや外傾	IV	後期前葉 石組伊、立石	藤 澤	
NH23	Ⅲ-3, 43, 44	3・4-22・26-11 -14-120-124	D-E	V	IV	4.45	4.09	3.90	0.20	円形	-	平坦	急	IV	Ⅳ群 a順土器 石組伊、立石	村 出	
NH24	Ⅲ-4, 5, 44, 45	4・5-22・23-26-28 -15-18-120-121, 124-126	E-F	F	IV下	4.60	4.76	4.38	0.23	円形	N-64°-E	平坦	縦やか	IV	床面直上からⅣ群 a 順土器のまとまり	後期前葉 石組伊、立石、HP6 基	藤 澤
NH25	Ⅲ-6, 46	5・26-19- 21-124	B-C	Ⅲ上	Ⅲ上	3.35	3.12	3.00	0.17	ほぼ 円形	N-73°-E	やや窪む	縦横やや傾 やか	IV	Ⅳ群 a順土器、石皿	後期前葉 石組伊、立石	藤 澤
HF1	Ⅲ-6		E	B12- 43	Ⅲ	(0.56)	(0.32)	-	-0.07	不明	不明				後期前葉 NH-25の付属遺構		
NH26	Ⅲ-7, 46		E	E10	Ⅲ上	(2.28)	(2.14)	(2.20)	(0.07)	不明	N-40°-E	南北に傾 く傾斜	縦やか	Ⅳ+Ⅴ +Ⅵ	後期前葉 立石、HP5基		
HP1	Ⅲ-7		E	E10	Ⅲ	0.62	0.53	0.16	0.35	楕円形	N-58°-W		設あり	Ⅳ+Ⅴ +Ⅵ	後期前葉 NH-26の付属遺構		
HP2	Ⅲ-7		E	E11	Ⅲ	0.18	-	0.10	-0.42	円形	-			Ⅳ	後期前葉 NH-26の付属遺構		
HP3	Ⅲ-7	6・26-22- 23-124	E	E10	Ⅲ	0.18	-	0.09	-0.21	円形	-			Ⅳ	後期前葉 NH-26の付属遺構		
HP4	Ⅲ-7		E	F0	Ⅲ	0.19	-	0.07	-0.38	円形	-				後期前葉 NH-26の付属遺構		
HP5	Ⅲ-7		E	F0	Ⅲ	0.17	-	0.12	-0.42	円形	-				後期前葉 NH-26の付属遺構		
HP6	Ⅲ-7		E	E11	Ⅲ	0.16	-	0.06	-0.38	円形	-				後期前葉 NH-26の付属遺構		
HP7	Ⅲ-7		E	E10	Ⅲ	0.21	-	0.09	-0.32	円形	-				後期前葉 NH-26の付属遺構		
HP8	Ⅲ-7		E	E11	Ⅲ	0.32	0.28	0.11	0.10	0.33	ほぼ 円形	-			後期前葉 NH-26の付属遺構		
NH27	Ⅲ-8~ 11, 46-48	6・7-25-28-29 -21-29-121, 125-127	C	E-G 18-19	V~Ⅲ上	7.49	5.18	7.20	0.50	楕五 角形	N-70°-E	部分的に中 央へ傾斜	縦やか、壁 は外傾	Ⅳ+Ⅴ +Ⅵ	床面直上からⅣ群 a 順土器 3個体、埋設 土器1個体、石皿多 と	中前期半 SP- 522-530、NF-58よ り古い	藤 澤
NH28	Ⅲ-12, 49		E	B12- 43	Ⅲ	2.70	2.47	2.08	0.48	楕円形	N-54°-W	ほぼ平坦	明瞭、ペン チ一層	Ⅳ+Ⅴ +Ⅵ	Ⅳ群 b順、Ⅳ群 a順 土器、スワレイトハ 北海式石皿	前期? HP1基	藤 澤
HF1	Ⅲ-12	7・8-27- 30-31, 125	E	B13	Ⅲ	0.57	0.48	0.46	0.12	ほぼ 円形	-	平坦	垂直		炭あり		
HP1	Ⅲ-12		E	B13	Ⅲ	0.18	0.10	-	-0.26	円形	-						
NH29	Ⅲ-12, 13, 49	8・27-28-32 -36-125-126	C	E-F7	Ⅲ上	3.21	2.90	2.96	0.28	楕円形	N-89°-W	平坦	縦やか、壁 は外傾		炭あり		

表Ⅲ-3 遺構一覽(2) 土坑 94基 (C地区77基、E地区17基)

遺構名	図番号	区画	調査区	確認	規模 (m)				平面形状	長軸方向	床面・断面	壁の立上がり	層土の特徴	遺物出土状況	時期	備	考
					確認	長さ	幅	高さ									
NP97	Ⅲ-13	9-37	C D6	V上	1.13	1.06	0.69	0.82	円形	-	平坦	急	上位質、下位流石、崩落土	角積	後期前葉		
NP98	Ⅲ-13	-	C G15	V上	0.65	0.58	0.43	0.41	円形	ほぼ円形	平坦	急	IV+V	IV群 a組土器	後期前葉		
NP99	Ⅲ-14	9-38-39	C G9	V上	1.64	-	1.46	0.80	楕円形	N-78-W	平坦	急	IV+V、埋め戻し	IV群 b組、IV群 a組、IV群 a組土器	後期前葉	土壌腐食の可能性、NP-103より新しい	
NP100	Ⅲ-14	-	C G9	V上	1.31	1.12	0.86	0.84	楕円形	N-19-W	平坦	緩やか	IV、灰化物	IV群 a組土器、たき石	後期前葉		
NP101	Ⅲ-14	9-10-40-41	C G+H9	V上	1.47	1.07	1.18	0.81	0.54	楕円形	N-76-W	平坦	緩やか	IV流入+V積層	IV群 b組、IV群 a組土器	後期前葉	
NP102	Ⅲ-15	-	C H8-9	V上	1.56	-	1.17	-	0.64	楕円形	N-57-W	四凸あり	硬い暗褐色土	IV群 a組土器	後期前葉	NP-104より新しい	
NP103	Ⅲ-15	10-42	C G9	NP-99の壁面	-	1.10	-	0.61	0.49	楕円形	平坦	緩やか	IV、灰化物	IV群 a組土器	不明	中央に小ピット1基、NP-99より新しい	
NP104	Ⅲ-15.39	29-127	C H8-9	V上	1.77	-	1.30	-	0.44	円形	平坦	緩やか	埋め戻し	IV群 a組土器、北海道式石瓦、石皿	後期前葉	土壌腐食の可能性	
NP105	Ⅲ-15.39	10-29-43・127	C D11	トレンチ	1.97	1.60	1.27	1.06	0.68	楕円形	N-29-E	平坦	IV	IV群 a組、IV群 a組、IV群 a組土器、北海道式石瓦	中期前半or後期前葉		
NP106	Ⅲ-16.31	10-25-29-44・121-127	C G8-9	V上	1.10	0.79	0.78	0.54	0.43	楕円形	N-61-E	平坦	埋め戻し	IV群 a組土器、扁平打製石器、底石	中期前半	土壌腐食	
NP107																	
NP108	Ⅲ-16	10-45	C E8	V上	1.18	0.88	1.01	0.84	0.46	楕円形	N-88-W	平坦	埋め戻し	人頭大礫5点	中期前半or後期前葉	土壌腐食の可能性	
NP109	Ⅲ-16	-	C E9	V上	0.76	0.67	0.64	0.53	0.23	楕円形	N-3-W	輪状	IV群 a組土器	後期前葉			
NP110	Ⅲ-16	10-46	C E10	V上	1.12	1.02	0.88	0.88	0.48	円形	平坦	急	埋め戻し	人頭大礫1点、石皿	中期前半or後期前葉	土壌腐食	
NP111	Ⅲ-16	10-47	C F F 9-10	V	1.23	1.12	0.96	0.89	0.54	円形	やや凸凹は外傾	緩やか、壁は外傾	埋め戻し	埴土から傘状の礫5点	中期前半or後期前葉	IV群 c組土器	
NP112	Ⅲ-17、51	10-25-29-48・120125127	C F-G 10	V上	1.29	0.91	1.10	0.74	0.52	楕円形	N-83-W	平坦	埋め戻し	IV群 a組土器、礫	後期前葉	長軸方向に段あり、土壌腐食	
NP113	Ⅲ-17.52	11-24-29-49-50・122-127	C F10-11	V	1.06	0.73	0.38	0.37	0.58	楕円形	N-74-W	窪む	埋め戻し	埴土から、北海道式石瓦と礫	中期前半	柱穴様の遺物出し、土壌腐食の可能性	
NP114	Ⅲ-18	11-51	C H+I 10	V上	0.83	0.7	0.46	0.43	0.38	楕円形	緩やか	IV	IV群 a組土器	中期前半	土壌腐食		
NP115	Ⅲ-17、128	29-30-27・128	C E10-11	V上	(2.23)	1.69	(1.06)	0.98	0.70	楕円形	N-67-W	平坦	急、壁は外傾	Ⅲ土位から石皿、人頭大礫	中期前半or後期前葉	張り出しあり、土壌腐食の可能性。()は壁足筒 NP-133と同一	
NP116	Ⅲ-18	11-52	C H9	V上	1.19	0.78	0.94	0.57	0.26	楕円形	N-54-E	平坦	緩やか	大型礫	中期前半	土壌腐食	
NP117	Ⅲ-18.33	11-29-35-127	C H9	V上	1.07	0.77	0.77	0.6	0.37	楕円形	N-83-W	平坦	IV、埋め戻し	北海道式石瓦、石皿	中期前半	土壌腐食	
NP118	Ⅲ-18.54	11-30-54-128	C H10	V上	0.98	0.85	0.65	0.58	0.44	楕円形	N-59-E	緩やか	IV+V埋め戻し	石瓦、北海道式石瓦	中期前半	土壌腐食の可能性	
NP119	Ⅲ-18	-	C G15	V上	1.34	1.10	1.01	0.95	0.29	楕円形	N-3-E	平坦	急	IV群 a組土器	後期前葉		

遺跡名	区画番号	図版	地区	調査	規模 (m)				平面形状	長軸方向	壁の立上がり	覆土の特徴	遺物出土状況	時期	備考
					横長	横短	高さ	深さ							
NF46	Ⅲ-24	—	C	G16	V	0.77	0.75	0.48	(0.44)	—	—	IV群 a組土器、礎 礎4点	後期前葉	SP-10と重複、一部を欠失	
NF47	Ⅲ-24	—	C	G16	V	0.41	0.37	0.24	0.20	1/4ほぼ円形	—	IV群 a組土器	後期前葉	NP-100の上層に重複して後葉遺構	
NF48	Ⅲ-24	15-79-80	C	G16	V	1.39	0.86	1.05	0.89	南円形	N-49-W	IV群 a組土器	後期前葉	NP-148と重複、中央を欠失、左と右側面は本層跡で欠失	
NF49	Ⅲ-24	15-79-81	C	G16	V	—	(0.96)	(1.06)	(0.25)	南円形	N-38-E	IV群 a組土器	後期前葉	遺構間に鉄線葺の付属小部屋 ヒナ3基出土、土瓦墓の可能性	
NF50	Ⅲ-24、36	15-27-83	C	H15	V	0.92	0.79	0.72	0.57	1/4ほぼ円形	—	IV群 a組土器、 扁平礎3点	後期前葉	遺構間に鉄線葺の付属小部屋 ヒナ3基出土、土瓦墓の可能性	
PP1	Ⅲ-24	15-27-83	C	H17	V	0.22	0.14	0.14	(0.12)	0.33	1/4ほぼ円形	—	後期前葉	P-150の付属遺構	
PP2	Ⅲ-24	125	C	H18	V	0.18	(0.11)	0.12	(0.07)	0.29	1/4ほぼ円形	—	後期前葉	P-150の付属遺構	
PP3	Ⅲ-24	—	C	H19	V	(0.10)	0.13	(0.14)	0.11	0.25	1/4ほぼ円形	—	後期前葉	P-150の付属遺構	
NF51	Ⅲ-23、57	15-16-27-82	E	D3	V上	1.71	1.57	1.46	1.21	1.04	円形	—	前期後半 of 後期前葉	IV群 b組、IV群 a組土器	
NF52	Ⅲ-23、57	81-31-85-86	E	E6	W上	0.87	0.82	0.66	0.62	0.32	円形	—	後期前葉	IV群 a組土器、a組土器、 形不定な土器、磁石打石瓦	
NF53	Ⅲ-25、57	16-31-87-88	E	D、E	W上	0.82	0.69	0.49	0.40	0.26	南円形	N-8-E	前期後半 of 後期前葉	IV群 a組土器、北海道 通説土器、北海 道式石瓦	
NF54	Ⅲ-25	16-89	E	E6-17	W上	1.60	(0.86)	1.44	(0.70)	0.28	南円形	N-32-W	後期前葉	IV群 a組土器、北海道 通説土器、北海 道式石瓦	
NF55	Ⅲ-25	16-90	C	H16	V	1.34	0.91	1.03	0.67	0.22	南円形	N-32-W	後期前葉	IV群 a組土器、北海道 通説土器、北海 道式石瓦	
NF56	Ⅲ-24	17-91	C	G16	V	0.57	0.53	0.32	0.35	0.60	1/4ほぼ円形	—	後期前葉	IV群 a組土器、こぶし大の礎	
NF57	Ⅲ-25	17-94	C	H16	V	1.27	0.82	0.88	0.68	0.15	南円形	N-37-W	後期前葉	IV群 a組土器、こぶし大の礎	
NF58	Ⅲ-24、57	31-128	C	G16	V	0.49	0.36	0.33	0.24	0.41	南円形	N-32-W	後期前葉	遺土内から石斧出土	
NF59	Ⅲ-26	17-97	E	E4	W上	2.66	2.36	2.24	1.90	0.36	円形	—	前期後半 of 後期前葉	IV群 b組土器、IV群 a組 土器、北海道式石瓦	
NF60	Ⅲ-25	15-79	E	E34	W上	(1.29)	(0.59)	(0.92)	(0.33)	1.16	不明	不明	前期後半 of 後期前葉	IV群 a組土器	
NF61	Ⅲ-25	—	C	H6	V	0.61	(0.37)	0.37	0.29	0.25	南円形	N-35-W	後期前葉	IV群 a組土器	
NF62	Ⅲ-24	17-96	C	G16	V	0.66	0.60	0.50	0.39	0.22	1/4ほぼ円形	—	後期前葉	IV群 a組土器	
NF63	Ⅲ-24	17-92	C	G15	V	0.81	0.61	0.61	0.40	0.23	南円形	N-46-W	後期前葉	IV群 a組、IV群 a組土器、 人頭大礎	
NF64	Ⅲ-26	17-93	C	E4	V上	1.00	0.94	0.87	0.79	0.43	円形	—	中期前半	IV群 a組土器	
NF65	Ⅲ-26	—	C	D5	V上	1.08	0.99	0.92	0.81	0.59	円形	—	中期前半 of 後期前葉	IV群 a組土器	
NF66	Ⅲ-26、38	17-30-96-128	C	D-E5	V上	1.19	1.02	0.90	0.81	0.66	南円形	N-65-W	—	中期前半 of 後期前葉	IV群 a組土器の可能性、NP-167 より新しい
NF67	Ⅲ-26	17-96	C	D-E5	V上	0.83	—	0.53	—	0.38	南円形	N-68-E	—	NP-166より古い	
NF68	Ⅲ-27	17-96	C	G6	V上	1.33	1.00	1.21	0.90	0.66	南円形	N-54-E	—	IV群 a組土器	
NF69	Ⅲ-27	18-99	C	G7-8	V上	0.99	0.97	0.78	0.76	0.42	円形	—	中期前半	IV群 a組土器	
NF70	Ⅲ-27、57	18-36-31-100-124-129	C	J	V上	0.73	0.71	0.49	0.47	0.29	円形	—	中期前半	IV群 a組土器	

遺構名	区画番号	区画	調査	規模 (m)			平面形状	長軸方向	壁の立上がり		層土の特徴	遺物出土状況	時期	備考			
				幅	長さ	高さ			形状	急							
NP71	Ⅲ-27,28	18-31-101,129	C Ⅱ	V上	1.39	0.99	1.14	0.80	0.56	傾形	N-45-E	平皿	急	壁の戻し	縄文打原石造、石皿、礎	中期前半	土壌層
NP72	Ⅲ-27	18-102	C Ⅱ	V上	0.89	0.79	0.70	0.66	0.19	円形	N-45-E	平皿	急	V	礎	中期前半	土壌層の可能性
NP73	Ⅲ-27	18-103	C Ⅱ	V上	0.83	0.81	0.59	0.58	0.35	円形	N-45-E	平皿	急	V+Ⅱ	たなき石、礎	中期前半	土壌層
NP74	Ⅲ-28	—	C Ⅱ	V相当	0.96	0.90	0.76	0.76	0.45	円形	N-45-E	平皿	急	壁の戻し	覆土上位から石皿、人頭大礎	後期前半	土壌層
NP75	Ⅲ-28	—	C Ⅱ	G-H	0.86	0.38	0.78	0.30	0.24	傾形	N-45-E	平皿	急			後期前半	土壌層
NP76	Ⅲ-28	18-104	C Ⅱ	G7	0.80	0.75	0.57	0.48	0.16	傾形	N-54-W	平皿	急	壁の戻し	上位でNS-1の礎の一部	NS-1に準ずる	土壌層
NP77	Ⅲ-28,28	31-129	C Ⅱ	G7	1.01	0.77	0.30	0.41	0.26	傾形	N-76-W	平皿	急			後期前半	土壌層
NP78	Ⅲ-28	—	C Ⅱ	G7	0.64	0.52	0.53	0.42	0.61	傾形	N-75-W	平皿	急	壁の戻し	覆土上位から石皿、人頭大礎	後期前半	土壌層
NP79	Ⅲ-28	—	C Ⅱ	H7	0.68	0.44	0.33	0.38	0.68	傾形	N-56-E	平皿	急	壁の戻し		後期前半	土壌層
NP80	Ⅲ-28	19-105	C Ⅱ	H7	0.92	0.87	1.07	0.84	0.60	傾丸方形	N-86-W	平皿	急	壁の戻し	覆土上位から石皿、人頭大礎	後期前半	土壌層
NP81	Ⅲ-28	—	C Ⅱ	H7	0.89	0.64	0.46	0.46	0.66	傾形	N-82-E	平皿	急	壁の戻し		後期前半	土壌層
NP82	Ⅲ-29,29	19-27-106,125	C Ⅱ	H7	1.57	1.53	1.30	1.28	0.80	円形	N-87-E	平皿	急	壁の戻し	Ⅱ群 a層土造、台石、礎	中期前半	土壌層
NP83	Ⅲ-29	—	C Ⅱ	H7	1.98	1.60	0.67	0.66	0.62	傾形	N-87-E	平皿	急	壁の戻し	礎から傾石・礎	後期前半	土壌層
NP84	Ⅲ-29	—	C Ⅱ	H7	0.59	0.52	0.44	0.43	0.62	円形	N-87-E	平皿	急	壁の戻し	礎から傾石・礎	後期前半	土壌層
NP85	Ⅲ-29	—	C Ⅱ	G7	0.66	0.54	0.48	0.39	0.58	傾形	N-22-E	平皿	急	壁の戻し	覆土から人頭大の礎	後期前半	土壌層
NP86	Ⅲ-28,28	19-26-27-C	F-G	V	1.55	—	(1.30)	—	0.30	不明	N-48-W	平皿	急	壁の戻し	覆土からⅡ群 a層土造	後期前半	土壌層
NP87	Ⅲ-30	—	C Ⅱ	E,F	1.95	1.28	1.69	1.15	0.20	不規則長方形	N-48-W	平皿	急	壁の戻し	覆土からⅡ群 a層土造	後期前半	土壌層
NP88	Ⅲ-30	—	E Ⅱ	B7	0.99	0.74	0.64	0.48	0.41	傾形	N-4-E	平皿	急	壁の戻し		中期前半	土壌層
NP89	Ⅲ-30,29	19-31-108-129	E Ⅱ	C6	0.64	0.62	0.40	0.32	0.38	円形	N-11-W	平皿	急	壁の戻し	Ⅱ群 b層土造、北海道式石造4点	後期前半	土壌層
NP90	Ⅲ-30	—	E Ⅱ	D7,E	1.77	1.56	1.24	1.07	(0.60)	傾形	N-11-W	平皿	急	壁の戻し	Ⅱ群 a層、Ⅱ群 a層土造	中期前半 or 後期前半	土壌層
NP91	Ⅲ-30,29	19-31-109-111,129	E Ⅱ	E6	0.49	0.48	0.32	0.28	0.19	円形	N-11-W	平皿	急	壁の戻し	Ⅱ群 b層、Ⅱ群 a層土造、スクレイパー	中期後半 or 後期前半	土壌層

表Ⅲ-4 遺構一覧(3) 石組炉 5か所・焼土 23か所

遺構名	図番号	図版	地調査区	種 類	種 様 (m)	平面形状	時 期	担当
SF1	Ⅲ-31	—	E B4	Ⅳ	(0.58)	0.10	不明	後期前葉
SF2	Ⅲ-31	口絵6-20	E B4	V上	(1.08)	(0.45)	0.08	不明
SF3	Ⅲ-31	口絵6-21	E D46	Ⅳ	(0.86)	(0.72)	0.20	不明
SF4	Ⅲ-31.59	口絵6-22、31-152	C H18	Ⅳ	(0.90)	(0.80)	0.12	不明
SF5	Ⅲ-31	口絵6-23	C G7	Ⅳ	0.68	0.55	0.10	円形
NF59	Ⅲ-31	—	C D21	Ⅳ上	0.38	0.50	0.15	楕円形
NF40	Ⅲ-31	—	C D15-16	Ⅳ上	0.78	0.57	0.10	楕円形
NF41	Ⅲ-31	—	C E15	Ⅳ上	0.72	0.45	0.12	楕円形
NF42	Ⅲ-31	—	C G-H15	Ⅳ中	0.45	0.38	0.08	円形
NF43	Ⅲ-31	—	E E10	Ⅳ	0.46	0.40	0.14	円形
NF44	Ⅲ-31	—	C H13	Ⅳ中	0.64	0.29	0.45	不整形
NF45	Ⅲ-31	—	C G13	Ⅳ中	0.71	0.38	0.08	円形
NF46	Ⅲ-31	—	C E15	Ⅳ上	0.56	0.38	0.07	不整形
NF47	Ⅲ-32	—	C E16	Ⅳ上	0.26	0.25	0.06	円形
NF48	Ⅲ-32	—	E D15-36	Ⅳ上	0.36	0.31	0.07	円形
NF49	Ⅲ-32	—	C D18-19	Ⅳ	0.82	0.54	0.06	不明
NF50	Ⅲ-32	—	C D19	Ⅳ	(0.30)	(0.18)	0.13	不明
NF51	Ⅲ-32	—	C H12	Ⅳ中	0.69	0.38	0.05	不整形
NF52	Ⅲ-32	—	C H15	Ⅳ上	1.32	0.56	0.15	楕円形
NF53	Ⅲ-32	—	C G-H14	V上	0.94	0.72	0.03	楕円形
NF54	Ⅲ-32	—	C I5	Ⅳ中	0.74	0.46	0.12	不整形
NF55	Ⅲ-33	—	C H18	Ⅳ	0.60	0.24	0.12	不明
NF56	Ⅲ-32	—	E G16	V	0.41	0.34	0.13	不明
NF57	Ⅲ-33	口絵7-26	C H18	Ⅳ	0.44	0.24	0.08	不明
NF58	Ⅲ-32	口絵7-27	C F18	Ⅳ	0.68	0.32	0.08	不明
NF59	Ⅲ-32	—	C X	Ⅳ中	0.50	0.38	0.04	不明
NF60	Ⅲ-33	—	C Y	Ⅳ中	0.38	0.28	0.04	不明
NF61	Ⅲ-33	—	C E19	Ⅳ	0.72	0.46	0.16	不明

表Ⅲ-5 遺構一覧(4) 小ピット 212基

遺構名	図番号	地調査区	種 類	種 様 (m)	時 期	担当
SP17	Ⅲ-33	C F14	Ⅳ	0.23	0.22	0.33
SP18	Ⅲ-33	C F14	Ⅳ	0.23	0.13	0.18
SP19	Ⅲ-33	C H13	V	0.26	0.15	0.44
SP20	Ⅲ-33	C H13	V	0.23	0.18	0.24
SP21	Ⅲ-33	C F15	V	0.22	0.16	0.33
SP22	Ⅲ-33	C F15	V	0.22	0.09	0.38
SP23	Ⅲ-33	C F15	V	0.23	0.16	0.18
SP24	Ⅲ-33	C F15	V	0.26	0.13	0.18
SP25	Ⅲ-33	C G15	V	0.19	0.12	0.34
SP26	Ⅲ-33	C H13	V	0.19	0.08	0.08
SP27	Ⅲ-34	C F16	V	0.34	0.18	0.28
SP28	Ⅲ-34	C F16	V	0.27	0.16	0.32
SP29	Ⅲ-34	C F16	V	0.25	0.16	0.17
SP30	Ⅲ-34	C F16	V	0.23	0.16	0.26
SP31	Ⅲ-34	C H15	V	0.26	0.09	0.19
SP32	Ⅲ-34	C H15	V	0.25	0.15	0.05
SP33	Ⅲ-34	C H15	V	0.18	0.12	0.30
SP34	Ⅲ-34	C I5	V	0.19	0.13	0.18
SP35	Ⅲ-34	C H15	V	0.29	0.24	0.34
SP36	Ⅲ-34	C H15	V	0.24	0.12	0.18
SP37	Ⅲ-34	C H15	V	0.14	0.09	0.13
SP38	Ⅲ-34	C H15	V	0.38	0.20	0.19
SP39	Ⅲ-34	C H15	V	0.31	0.16	0.45
SP40	Ⅲ-34	C H-14	V	0.15	0.14	0.27
SP41	Ⅲ-34	C I4	V	0.35	0.29	0.10
SP42	Ⅲ-34	C H14	V	0.20	0.10	0.16
SP43	Ⅲ-34	C H14	V	0.41	0.13	0.17
SP44	Ⅲ-34	C I4	V	0.27	0.15	0.24
SP45	Ⅲ-35	C G16	V	0.37	0.30	0.45
SP46	Ⅲ-35	C G16	V	0.19	0.15	0.29

遺構名	区番号	地区	調査区	標記面	規模 (m)		担当
					増設面	底面	
SPR78	III-35,36	C	H16	V	0.22	0.15	0.24
SPR79	III-35,36	C	H16	V	0.19	0.15	0.26
SPR80	III-35,36	C	H16	V	0.19	0.17	0.17
SPR81	III-35,36	C	H16	V	0.13	0.06	0.09
SPR82	III-35,36	C	H16	V	0.16	0.14	0.26
SPR83	III-35,36	C	H16	V	0.15	0.12	0.20
SPR84	III-35,36	C	H16	V	0.18	0.15	0.16
SPR85	III-35,36	C	H16	V	0.20	0.20	0.20
SPR86	III-35,36	C	H16	V	0.20	0.10	0.10
SPR87	III-35,36	C	H16	V	0.21	0.17	0.11
SPR88	III-35,36	C	H16	V	0.37	0.24	0.29
SPR89	III-35,36	C	H16	V	0.20	0.11	0.19
SPR90	III-35,36	C	H16	V	0.18	0.10	0.19
SPR91	III-35,36	C	H16	V	0.19	0.15	0.34
SPR92	III-35,36	C	H16	V	0.32	(0.28)	0.34
SPR93	III-35,36	C	H16	V	0.21	0.18	0.20
SPR94	III-35,36	C	H16	V	0.40	0.35	0.38
SPR95	III-35,36	C	H-16	V	0.25	0.16	0.22
SPR96	III-35,36	C	I6	V	0.35	0.20	0.31
SPR97	III-35,36	C	I6	V	0.18	0.12	0.16
SPR98	III-35,36	C	H16	V	0.21	0.18	0.46
SPR99	III-35,36	C	H16	V	0.17	(0.15)	0.24
SPR00	III-35,36	C	H16	V	0.23	0.11	0.41
SPR01	III-35,36	C	H16	V	0.40	0.29	0.43
SPR02	III-35,36	C	I6	V	0.32	0.17	0.34
SPR03	III-35,36	C	I6	V	0.25	0.16	0.21
SPR04	III-35,36	C	I6	V	0.27	0.23	0.20
SPR05	III-35,36	C	I6	V	0.25	0.17	0.27
SPR06	III-35,36	C	H16	V	0.29	0.17	0.27
SPR07	III-35,36	C	H16	V	0.16	0.09	0.12
SPR08	III-35,36	C	G16	V	0.33	0.31	0.39

遺構名	区番号	地区	調査区	標記面	規模 (m)		備考	担当
					増設面	底面		
SPR47	III-36	C	H17	V	0.24	不明	NP-181に切られる	柳田
SPR48	III-36	C	F17	V	0.17	(0.07)	土層記載なし	柳田
SPR49	III-36	C	F17	V	0.12	0.08	SP-330を切る	柳田
SPR50	III-36	C	F17	V	0.21	0.08	SP-349に切られる	柳田
SPR51	III-36	C	F17	V	0.25	0.12		柳田
SPR52	III-36	C	F17	V	0.25	0.10		柳田
SPR53	III-36	C	F17	V	0.30	0.20	0.70	柳田
SPR54	III-36	C	F17	V	0.16	0.07	0.16	柳田
SPR55	III-36	C	F-G17	V	0.15	0.10	0.25	柳田
SPR56	III-37	C	G17	V	0.20	0.10	0.25	柳田
SPR57	III-37	C	G17	V	0.40	0.30	0.29	柳田
SPR58	III-37	C	G17	V	0.54	0.18	0.23	段あり
SPR59	III-37	C	G17	V	0.22	0.12	0.29	柳田
SPR60	III-37	C	G17	V	0.14	0.07	0.30	柳田
SPR61	III-37	C	G17	V	0.44	0.24	0.44	柳田
SPR62	III-37	C	G17	V	0.20	0.10	0.24	柳田
SPR63	III-37	C	G17	V	0.34	0.12	0.41	柳田
SPR64	III-35	C	G16	V	0.50	0.41	0.62	柳田
SPR65	III-35	C	G16	V	0.29	0.22	0.47	柳田
SPR66	III-35	C	G16	V	0.22	0.15	0.45	柳田
SPR67	III-35	C	G16	V	0.27	0.22	0.30	柳田
SPR68	III-35	C	G16	V	0.31	0.24	0.36	柳田
SPR69	III-35	C	G16	V	0.20	0.15	0.27	柳田
SPR70	III-35	C	G16	V	0.24	0.29	0.47	柳田
SPR71	III-35	C	G16	V	0.17	0.13	0.21	柳田
SPR72	III-35	C	H16	V	0.18	0.14	0.27	柳田
SPR73	III-35	C	H16	V	0.19	0.16	0.26	柳田
SPR74	III-35	C	H16	V	0.25	0.21	0.23	柳田
SPR75	III-35	C	H16	V	0.35	0.25	0.22	柳田
SPR76	III-35	C	H16	V	0.30	0.24	0.25	柳田
SPR77	III-35	C	H16	V	0.17	0.15	0.24	柳田

通称名	図番号	図版	地区	調査区	確認面	規模 (m)	時期	備考
SP440	III-37-38	—	C	G-IT、H-8	V	0.21 0.08 0.44		柳田
SP441	III-37-38	—	C	G-IT、H-8	V	0.22 0.16 0.33		柳田
SP442	III-37-38	—	C	G-IT、H-8	V	0.17 0.08 0.38		柳田
SP443	III-37-38	—	C	G-IT、H-8	V	0.30 (0.06) 0.26		碑あり
SP444	III-37-38	—	C	G-IT、H-8	V	0.22 0.12 0.24		柳田
SP445	III-37-38	—	C	G-IT、H-8	V	0.17 0.12 0.26		柳田
SP446	III-37-38	—	C	G-IT、H-8	V	0.12 0.09 0.09		柳田
SP447	III-37-38	—	C	G-IT、H-8	V	0.12 0.05 0.12		柳田
SP448	III-37-38	—	C	G-IT、H-8	V	0.18 0.10 0.37		柳田
SP449	III-37-38	—	C	G-IT、H-8	V	0.20 0.16 0.32		柳田
SP450	III-37-38	—	C	G-IT、H-8	V	0.18 0.10 0.29		柳田
SP451	III-39 20-112	—	E	D45	V	0.26 0.11 0.46		後附後妻
SP452	III-39	—	E	D45	V	0.24 0.12 0.35		後附後妻
SP453	III-39	—	E	D45	V	0.18 0.07 0.20		後附後妻
SP454	III-38	—	E	D45	V	0.14 0.05 0.37		後附後妻
SP455	III-39	—	E	D45	V	0.17 0.09 0.28		後附後妻
SP456	III-38	—	E	D45	V	0.22 0.08 0.40		後附後妻
SP457	III-39	—	E	D45	V	0.22 0.10 0.46		後附後妻
SP458	III-39	—	E	D45	V	0.21 0.10 0.47		後附後妻
SP459	III-39	—	E	D45	V	0.28 0.12 0.38		後附後妻
SP460	III-39	—	E	D45	V	0.20 0.11 0.38		後附後妻
SP461	III-39	—	E	D45	V	0.19 0.09 0.20		後附後妻
SP462	III-39	—	E	D45	V	0.18 0.10 0.25		後附後妻
SP463	III-39	—	E	D45	V	0.30 0.18 0.30		後附後妻
SP464	III-39	—	E	D45	V	0.14 0.05 0.24		後附後妻
SP465	III-39	—	E	D45	V	0.22 0.14 0.34		後附後妻
SP466	III-39	—	E	D45	V	0.20 0.11 0.30		後附後妻
SP467	III-39	—	E	D45	V	0.18 0.07 0.22		後附後妻
SP468	III-39	—	E	D45	V	0.20 0.10 0.46		後附後妻
SP469	III-38	—	E	D45	V	0.26 0.11 0.22		後附後妻
SP470	III-38	—	E	D45	V	0.32 0.13 0.45		後附後妻

通称名	図番号	図版	地区	調査区	確認面	規模 (m)	備考
SP469	III-35-36	—	C	G16	V	0.27 0.23 0.18	影田
SP470	III-35-36	—	C	G16	V	0.19 0.16 0.39	影田
SP471	III-35-36	—	C	G16	V	0.35 0.14 0.36	影田
SP472	III-35-36	—	C	G16	V	0.22 0.20 0.32	影田
SP473	III-35-36	—	C	G16	V	0.17 0.09 0.19	影田
SP474	III-35-36	—	C	G16	V	0.32 0.23 0.39	影田
SP475	III-35-36	—	C	H16	V	0.22 0.12 0.12	影田
SP476	III-35-36	—	C	H16	V	0.16 0.10 0.11	影田
SP477	III-35-36	—	C	H16	V	0.19 0.13 0.18	影田
SP478	III-35-36	—	C	H16	V	0.41 0.30 0.26	影田
SP479	III-35-36	—	C	H16	V	0.20 0.18 0.18	影田
SP480	III-35-36	—	C	H16	V	0.25 0.17 0.19	影田
SP481	III-35-36	—	C	H16	V	0.24 0.17 0.33	影田
SP482	III-35-36	—	C	G16	V	0.26 0.20 0.31	影田
SP483	III-35-36	—	C	G16	V	0.22 0.15 0.26	影田
SP484	III-37 19-110	C	G-IT、H-16	V	0.21 0.16 0.40	柳田	
SP485	III-37 19-110	C	G-IT、H-16	V	0.30 0.18 0.20	柳田	
SP486	III-37	—	C	G-IT、H-16	V	0.30 0.10 0.28	段あり
SP487	III-37	—	C	G-IT、H-16	V	0.50 0.30 0.42	柳田
SP488	III-37	—	C	G-IT、H-16	V	0.16 0.10 0.26	柳田
SP489	III-37	—	C	G-IT、H-16	V	0.38 0.16 0.43	柳田
SP490	III-37	—	C	G-IT、H-16	V	0.19 0.14 0.40	柳田
SP491	III-37	—	C	G-IT、H-16	V	0.25 0.12 0.20	柳田
SP492	III-37	—	C	G-IT、H-16	V	0.16 0.12 0.14	柳田
SP493	III-37	—	C	G-IT、H-16	V	0.13 0.06 0.32	柳田
SP494	III-37-38	—	C	G-IT、H-16	V	0.18 0.10 0.18	柳田
SP495	III-37-38	—	C	G-IT、H-16	V	0.15 0.08 0.16	柳田
SP496	III-37-38	—	C	G-IT、H-16	V	0.11 0.08 0.12	柳田
SP497	III-37-38	—	C	G-IT、H-16	V	0.13 0.06 0.08	柳田

遺構名	図番号	地区	調査区	確認面	規模(m)		備考	
					埋設面	深さ		
SP622	Ⅲ-40	—	C G-17, H-18	V	0.37	0.24	0.34	投込み
SP603	Ⅲ-40	—	C G-17, H-18	V	0.18	0.11	0.19	
SP604	Ⅲ-40	—	C G-17, H-18	V	0.14	0.12	0.31	
SP605	Ⅲ-40	—	C G-17, H-18	V	0.22	0.16	0.44	
SP606	Ⅲ-40, 99-27-205	C	G-17, H-18	V	0.20	0.14	0.22	
SP607	Ⅲ-40	—	C G-17, H-18	V	0.24	0.14	0.27	
SP608	Ⅲ-40	—	C G-17, H-18	V	0.40	0.24	0.48	
SP609	Ⅲ-40	—	C G-17, H-18	V	0.18	0.10	0.15	
SP610	Ⅲ-40	—	C G-17, H-18	V	0.26	0.16	0.16	
SP611	Ⅲ-40	—	C G-17, H-18	V	0.23	0.18	0.18	
SP612	Ⅲ-40	—	C G-17, H-18	V	0.17	0.15	0.30	
SP613	Ⅲ-37, 38	—	C G-17, H-18	V	0.24	0.14	0.20	
SP614	Ⅲ-37, 38	—	C G17	V	0.14	0.07	0.48	
SP615	Ⅲ-39	—	C E18		0.14	0.09	0.16	
SP616	Ⅲ-39	—	C E18		0.16	0.10	0.16	
SP617	Ⅲ-37, 38	—	C H17	V	0.40	0.16	0.34	
SP618	Ⅲ-40	—	C H18	V	0.20	0.10	0.14	
SP619	Ⅲ-37, 38	—	C H17	V	0.14	0.09	0.20	
SP620	Ⅲ-37, 38	—	C H17	V	0.33	0.14	0.40	
SP621	Ⅲ-41	—	C F18	V	0.26	0.12	0.20	
SP622	Ⅲ-41	—	C F19	V	0.25	0.24	0.33	
SP623	Ⅲ-41	—	C F19	V	0.26	0.18	0.10	
SP624	Ⅲ-41	—	C F18	V	0.20	0.12	0.12	
SP625	Ⅲ-41	—	C F18	V	0.35	0.19	0.35	
SP626	Ⅲ-41	—	C F18	V	0.37	0.20	0.35	
SP627	Ⅲ-41	—	C F18	V	0.24	0.12	0.12	
SP628	Ⅲ-41	—	C F18	V	0.24	0.08	0.14	
SP629	Ⅲ-41	—	C E18	V	0.18	0.06	0.12	
SP630	Ⅲ-41	—	C F18	V	0.20	0.09	0.15	

遺構名	図番号	地区	調査区	確認面	規模(m)		備考	
					埋設面	深さ		
SP671	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.18	0.06	0.28	
SP672	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.14	—	—	NP-180に直通
SP673	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.14	0.10	0.35	
SP674	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.23	0.12	0.36	
SP675	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.20	0.10	0.34	
SP676	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.20	0.10	0.20	
SP677	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.22	0.10	0.40	
SP678	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.18	0.11	0.24	
SP679	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.16	0.09	0.18	
SP680	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.21	0.08	0.25	
SP681	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.14	0.07	0.24	
SP682	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.24	0.10	0.36	
SP683	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.13	0.08	0.20	
SP684	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.19	0.12	0.34	
SP685	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.20	0.11	0.18	
SP686	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.30	0.12	0.18	投込み
SP687	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	(0.23)	0.11	0.32	NP-176に95.6.5
SP688	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	—	0.14	0.32	NP-177に95.6.5
SP689	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.20	0.10	0.34	
SP690	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.16	0.10	0.36	
SP691	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.23	0.10	0.23	
SP692	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.18	0.07	0.22	
SP693	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.14	0.05	0.22	
SP694	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.44	0.16	0.37	
SP695	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.20	0.10	0.44	
SP696	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	(0.14)	(0.12)	0.26	NP-177に95.6.5
SP697	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.16	0.08	0.18	
SP698	Ⅲ-37, 38	C	G-17, H-18	V	0.23	0.08	0.20	
SP699	Ⅲ-40	C	G-17, H-18	V	0.18	0.12	0.27	
SP700	Ⅲ-40	C	G-17, H-18	V	0.28	0.14	0.24	
SP701	Ⅲ-40	C	G-17, H-18	V	0.16	0.12	0.21	

表Ⅲ-6 遺構一覧(5) 埋設土器

遺構名	図番号	図版	地区	調査区	確認面	規模(m)		時期	備考	担当
						確認面	深さ			
埋設土器1	Ⅲ-42,60	20-25-113-123	E	E43	Ⅵ	0.25	0.33	中期前半	掘り込みなし	新家

表Ⅲ-7 遺構一覧(6) 配石

遺構名	図番号	図版	地区	調査区	確認面	規模(m)		平面形	長軸方向	時期	備考	担当
						長径	短径					
NSI	Ⅲ-42,60	20・25・31-117・123・153	C	G17-18	Ⅳ上	3.02	2.88	不整形 (一部直線状?)	N-61°-E	後期 前葉	NP-176 に伴う?	柳瀬

表Ⅲ-8 遺構一覧(7) 剥片集中

遺構名	図番号	図版	地区	調査区	確認面	規模(m)		担当
						長径	短径	
FC1	Ⅲ-32	20-115	C	D19	Ⅳ中	0.40	0.14	柳瀬

表Ⅲ-9 遺構出土遺物総点数一覧

土器	Ⅱb	156
	Ⅲa	974
	Ⅳa	2424
	Ⅵb	1
土製品		2
土器計		3557
石器	石鏃	3
	つまみ付きナイフ	2
	スクレイパー	14
	Rフレイク	4
	石核	4
	フレイク	318
	石斧	6
	たたき石	13
	扁平打製石器	23
	北海道式石冠	24
	すり石	1
	砥石	2
	石皿	25
	台石	6
磔	986	
石器計		1431
土器・石器総計		4988

表Ⅲ-10 遺構出土遺物点数一覧

遺 構	分 類	土 器			土 製品 計	石 器											石 器 計	合 計		
		Ⅱb	Ⅲa	Ⅳa		石 槌	つまみけテラ	ス ワ レ イ ク	R フ レ イ ク	フ レ イ ク	石 槌	石 斧	た た き 石	磨 り 打 削 石 器	北 海 道 式 石 冠	石 皿			台 石	礫
NH	覆土		4	243		247				10							275	286	533	
	床直上			8		8											8	8	16	
	床下			4		4											2	2	6	
	攪乱			2		2													2	
	HP-1 床面																8	8	8	
	HP-1 検出箇																5	5	5	
	HP-1 覆土																11	11	11	
	HP-2 検出箇													1			3	4	4	
	HP-2 覆土1																1	1	1	
	HP-5 覆土																1	1	1	
	立石1																1	1	1	
立石2 床面																1	1	1		
立石3 覆土																1	1	1		
合計		4	257		261				10				1		1	317	329	590		
NH	覆土1		8	167		175		1	10								24	35	210	
	床		15	92		107			2								33	35	142	
	不明												1					1	1	
	HP-3 覆土1			2		2													2	
	HP-5 覆土1		2			2													2	
合計		25	261		286		1	12				1				57	71	357		
NH	覆土		6	56		62			10			1	1	1	1	1	50	65	127	
	床直		15	41		56			1	7							12	20	76	
	床・床面		2	193		195			2	4							2	8	203	
	Ⅳ												1				10	11	11	
	HP-1 床面																14	14	14	
	HP-1 覆土			1		1													1	
	HP-2 覆土			1		1													1	
	HP-4 覆土									1									1	1
HP-5 坑底			1		1													1		
HP-6 覆土			71		71													71		
NH	立石1																1	1	1	
	立石2 床面															1		1	1	
	合計		23	364		387			3	22		2	1	1	1	2	89	121	598	
NH	覆土		1	5		6											9	9	15	
	床		3	96		99			4						1		23	28	127	
	合計		3	101		105			4						1		32	37	142	
NH	覆土		2	16		18			4										4	22
	床			5	1	6												3	3	9
	HP-1 覆土			1	1	1				1									1	2
合計		2	22	1	25			5									3	8	33	
NH	覆土		2	46	32	80	1		21				1				17	40	120	
	覆土1			7	1	8				1							3	4	12	
	覆土2			2	5	7		1	1			1	1				1	5	12	
	床直		1	159	1	161				1	1						1	3	164	
	床・床面			26		26			1	1	16		2	1			1	4	26	52
	木炭			1		1													1	

連 構	分 類	土 器			土 器 計	石 器										石 器 計	合 計		
		Ⅱb	Ⅲa	Ⅳa		ス ワ レ イ バ ー	貝 フ レ イ ク	フ レ イ ク	石 片	た た き 石	厚 平 打 割 石 器	北 海 道 式 石 冠	砥 石	石 皿	礫				
NH	HP-3 覆土		1	3	4													4	
	HP-5 覆土				2	2												2	
	HP-6 坑底				1	1												1	
	HP-7 覆土				1	1												1	
	HP-9 覆土				1	1												1	
	HP-10 覆土								1								1	1	
	HP-12 覆土			1		1												1	
	HP-15 覆土								1								1	1	
	HP-16 坑底								2							1	3	3	
	HP-23 覆土			1	3	4				1		2				1	4	8	
	埋設土器			62		62												62	
合計			65	11	76			4	1		2				2	9	85		
NH	覆土	6		3	9							1					1	10	
	床			2	2		1	1									2	4	
	合計	6		5	11		1	1				1				3	14		
NH	覆土		6	11	17		2		4			2				3	11	28	
	床直		6		6									1	4	5	11	21	
	床面		2		2													2	
	覆瓦			1	1				1								1	2	
	HP-1 坑底			1	1											1	1	2	
合計		15	12	27		2		5			2				1	8	18	45	
NP	覆土1				3	3					1				1	5	7	10	
	合計				3	3					1				1	5	7	10	
NP	覆土1				58	58												58	
	合計				58	58												58	
NP	覆土1		4	9	13													13	
	覆土2	1	1	3	5			1									1	6	
	合計	1	5	12	18			1									1	19	
NP	覆土1		1	12	13						1							1	14
	合計		1	12	13						1							1	14
NP	覆土1	2		7	9				2									2	11
	合計	2		7	9				2									2	11
NP	覆土1	1		10	11														11
	合計	1		10	11														11
NP	覆土1				3	3						1			1	1	3	6	
	合計				3	3						1			1	1	3	6	
NP	覆土1		12	45	57			2				1				15	18	75	
	覆土2		4	5	9							1				9	10	19	
	坑底		2	3	5			1								11	12	17	
	合計		18	53	71			3				2				35	40	111	
NP	覆土1	1	112		113					1			1			6	8	121	
	覆土2									1	1					10	12	12	
	坑底	1	4		5											1	1	6	
	合計	2	116		118					2	1		1			17	21	139	
NP	覆土1		1	212	213			5		1						7	13	226	
	坑底				25	25												25	
	合計		1	237	238			5		1						7	13	251	

Ⅲ 遺構とその遺物

遺構	分類	土 器			土器計	石 器							石器計	合計		
		Ⅱb	Ⅲa	Ⅳa		スクレイパー	フレイク	石 片	磨 石	打製石器	北海道式石刃	石 皿			礫	
NP	坑底												5	5	5	
108	合計												5	5	5	
NP	覆土			1	1										1	
109	合計			1	1										1	
NP	坑底		1		1						1		4	5	6	
110	合計		1		1						1		4	5	6	
NP	坑底直上												5	5	5	
111	合計												5	5	5	
NP	覆土1			88	88	1							2	3	91	
112	覆土2			1	1		1						10	11	12	
	合計			89	89	1	1						12	14	103	
NP	覆土	1	13	13	27								2	2	29	
113	坑底直上										1		1	2	2	
	合計	1	13	13	27						1		3	4	31	
NP	覆土								1					1	1	
115	覆土1		2		2								1	1	3	
	覆土3上層											1	1	2	2	
	合計		2		2				1			1	2	4	6	
NP	覆土1			8	8		1						1	2	10	
116	合計			8	8		1						1	2	10	
NP	覆土1	1	1	6	8										8	
117	坑底									1	3		4	8	8	
	合計	1	1	6	8					1	3		4	8	16	
NP	覆土1		3	1	4	1		1					11	13	17	
118	坑底										1		10	11	11	
	合計		3	1	4	1		1			1		21	24	28	
NP	覆土1			2	2								1	1	3	
119	合計			2	2								1	1	3	
NP	覆土1			5	5										5	
120	合計			5	5										5	
NP	覆土1			5	5							1	1	6	6	
121	坑底			6	6										6	
	合計			11	11								1	1	12	
NP	覆土1												1	1	1	
123	合計												1	1	1	
NP	覆土			8	8		1				1		2	4	12	
124	坑底			7	7								2	2	9	
	合計			15	15		1				1		4	6	21	
NP	覆土			36	36	1	1						3	5	41	
125	坑底			9	9								2	2	11	
	合計			45	45	1	1						5	7	52	
NP	覆土			19	19		1						1	2	21	
126	坑底			3	3								1	1	4	
	合計			22	22		1						2	3	25	
NP	覆土			78	78			6							6	84
127	坑底												1	1	1	
	合計			78	78			6					1	7	85	
NP	覆土			11	11										11	
128	合計			11	11										11	

通 構	分類	土 器				石 器						石器計	合計
		Ⅱb	Ⅱa	Ⅲa	土器計	スクレイパー	フレイク	細平打製石器	北海道式石冠	台石	礫		
NP 129	覆土			3	3		1				1	2	5
	坑底			1	1								1
	合計			4	4		1				1	2	6
NP 132	覆土		2		2						1	1	3
	坑底										4	4	4
	合計		2		2						5	5	7
NP 133	覆土1						1					1	1
	覆土4		4		4								4
	覆土4上面									1	1	1	1
	覆土6									1	1	1	1
	合計		4		4		1				2	3	7
NP 134	覆土1			2	2						3	3	5
	坑底			1	1						1	1	2
	合計			3	3						4	4	7
NP 136	覆土1										1	1	1
	合計										1	1	1
NP 137	覆土										2	2	2
	合計										2	2	2
NP 138	覆土1		1	10	11			1	1		1	3	14
	覆土2			1	1								1
	坑底		17		17						2	2	19
	合計		18	11	29			1	1		3	5	34
NP 140	覆土1										6	6	6
	合計										6	6	6
NP 141	坑底		22		22				1		1	2	24
	合計		22		22				1		1	2	24
NP 142	覆土1		1	11	12		3					3	15
	合計		1	11	12		3					3	15
NP 143	覆土1										2	2	2
	合計										2	2	2
NP 144	覆土1		93	32	125	1	1	5		1	6	14	139
	坑底		10		10	1					1	2	12
	合計		103	32	135	2	1	5		1	7	16	151
NP 145	覆土			2	2								2
	合計			2	2								2
NP 146	覆土1			29	29						3	3	32
	合計			29	29						3	3	32
NP 147	覆土1										1	1	1
	合計										1	1	1
NP 148	覆土1			25	25		1					1	26
	合計			25	25		1					1	26
NP 149	覆土1			3	3		1					1	4
	合計			3	3		1					1	4
NP 150	覆土1		1	7	8								8
	覆土4										3	3	3
	合計		1	7	8						3	3	11
NP 151	覆土		7		51	58					2	2	60
	坑底				1	1					1	1	2
	合計		7		52	59					3	3	62

Ⅲ 遺構とその遺物

遺構	分類	土 器			土器計	石 器										石器計	合計	
		Ⅱb	Ⅱa	Ⅱa		スクレイパー	片アレイク	フレイク	石片	たたき石	扁平打製石器	北海道式石筴	石皿	台石	礫			
NP 152	覆土	1	1	5	7					1	1					2	4	11
	坑底			3	3													3
	合計	1	1	8	10					1	1					2	4	14
NP 153	覆土			1	1							1			1	2	4	5
	坑底							1				1					2	2
	合計			1	1			1				2			1	2	6	7
NP 154	覆土			6	6											1	1	7
	坑底		1		1													1
	合計		1	6	7											1	1	8
NP 156	覆土1				2	2										1	1	3
	合計				2	2										1	1	3
NP 158	覆土							1									1	1
	合計							1									1	1
NP 159	覆土	30	3	24	57		1					1				9	11	68
	坑底															2	2	2
	合計	30	3	24	57		1					1				11	13	70
NP 162	覆土1			2	2													2
	合計			2	2													2
NP 163	覆土		1	4	5											1	1	6
	合計		1	4	5											1	1	6
NP 164	覆土			2	2													2
	坑底											1					1	1
	合計			2	2							1					1	3
NP 166	覆土1											2				8	10	10
	覆土2							1									1	1
	坑底															8	8	8
	合計							1				2				16	19	19
NP 167	坑底															1	1	1
	合計															1	1	1
NP 168	覆土1	1		3	4						1		1			29	31	35
	合計	1		3	4						1		1			29	31	35
NP 169	坑底															6	6	6
	合計															6	6	6
NP 170	覆土1	7	6	36	49							4				46	50	99
	合計	7	6	36	49							4				46	50	99
NP 171	覆土															2	2	2
	覆土1		3	3	6	1					1		1			9	12	18
	坑底															1	1	1
NP 172	合計		3	3	6	1					1		1			12	15	21
	覆土1															7	7	7
NP 173	合計															7	7	7
	覆土			6	6													6
	覆土1		2		2											5	5	7
NP 174	坑底								1								1	1
	合計		2	6	8				1							5	6	14
	覆土												2			3	5	5
NP 174	覆土1		1		1													1
	合計		1		1								2			3	5	6

通 構	分類	土 器				土製品	土器計	石 器										石器計	合計					
		Ⅱb	Ⅲa	Ⅳa	Ⅴb			石 器	石 器	石 器	石 器	石 器	石 器	石 器	石 器	石 器	石 器			石 器				
NP	覆土	1		1			2															2		
175	合計	1		1			2															2		
NP	覆土		1	4			5													1	1	6		
176	合計		1	4			5												1	1	6			
NP	覆土		1				1		1		1											2		
177	合計		1				1		1		1											2		
NP	覆土			18			18				1								2	11	14	32		
180	合計			18			18				1							2	11	14	32			
NP	覆土			5			5															5		
181	合計			5			5															5		
NP	覆土1	24	23	3			50				10								1	7	18	68		
182	合計	24	23	3			50				10								1	7	18	68		
NP	覆土			9		1	10						1						1	3	13	13		
183	合計			9		1	10						1						1	3	13	13		
NP	覆土										1										2	3	3	
185	合計										1										2	3	3	
NP	覆土		1	11			12				2		1							5	8	20		
186	合計		1	11			12				2		1							5	8	20		
NP	覆土		1				1															1		
187	合計		1				1															1		
NP	覆土	14					14															4	18	
189	坑底	4					4															3	7	
	合計	18					18															7	25	
NP	覆土		1	4			5				1										2	3	8	
190	合計		1	4			5				1										2	3	8	
NP	覆土																					5	5	5
191	合計																					5	5	
NP	覆土1	45		29			74				2	1	2									5	79	
	合計	45		29			74				2	1	2									5	79	
NS	Ⅳ			8			8				1								1		27	29	37	
1	合計			8			8				1								1		27	29	37	
SF	Ⅳ																					13	13	13
1	合計																					13	13	13
SF	Ⅴ																					8	8	8
2	合計																					8	8	8
SF	Ⅳ																					9	9	9
3	合計																					9	9	9
SF	Ⅳ			3			3				1											8	9	12
4	合計			3			3				1											8	9	12
SF	Ⅳ																			1		7	11	11
5	合計																		1		7	11	11	
NF	覆土1			2			2															1	1	3
39	合計			2			2															1	1	3
NF	焼土		2	1	1		4	2			54										1	57	61	
40	合計		2	1	1		4	2			54										1	57	61	
NF	焼土			12			12				2											2	14	14
41	合計			12			12				2											2	14	14
NF	焼土			2			2																2	2
42	合計			2			2																2	2

Ⅲ 遺構とその遺物

分類 遺構	土 器			石 器			石器計	合計
	Ⅲa	Ⅳa	土器計	フレイク	磨石 打石 石器	種		
NF Ⅳ						3	3	3
48 合計						3	3	3
FC Ⅳ		3	3	105		105	108	
1 合計		3	3	105		105	108	
SP 覆土1		2	2					2
317 合計		2	2					2
SP 覆土1	1	5	6					6
321 合計	1	5	6					6
SP 覆土1				1			1	1
322 合計				1			1	1
SP 覆土1		3	3	1			1	4
329 合計		3	3	1			1	4
SP 覆土1		177	177					177
332 合計		177	177					177
SP 覆土1		3	3					3
334 合計		3	3					3
SP 覆土1		1	1					1
335 合計		1	1					1
SP 覆土1		2	2	1			1	3
338 合計		2	2	1			1	3
SP 覆土1		4	4		2		2	6
339 合計		4	4		2		2	6
SP 覆土						4	4	4
345 合計	1	2	3			4	4	7
SP 覆土1		1	1					1
346 合計		1	1					1
SP 覆土		2	2					2
351 合計		2	2					2
SP 覆土						1	1	1
353 合計						1	1	1
SP 覆土		1	1					1
356 合計		1	1					1
SP 覆土	1	2	3					3
357 合計	1	2	3					3
SP 覆土		1	1					1
358 合計		1	1					1
SP 覆土		2	2					2
359 合計		2	2					2
SP 覆土		1	1					1
364 合計		1	1					1
SP 覆土1						1	1	1
365 合計						1	1	1
SP 覆土1		3	3			1	1	4
394 合計		3	3			1	1	4
SP 覆土1		3	3					3
401 合計		3	3					3
SP 覆土1		3	3					3
408 合計		3	3					3
SP 覆土1		1	1					1
421 合計		1	1					1

分類 遺構	土 器			石 器			石器計	合計
	Ⅲa	Ⅳa	土器計	フレイク	石斧	種		
SP 覆土		13	13					13
426 合計		13	13					13
SP 覆土						1	1	1
427 合計						1	1	1
SP 覆土		1	1					1
428 合計		1	1					1
SP 覆土		3	3					3
429 合計		3	3					3
SP 覆土		2	2					2
431 合計		2	2					2
SP 覆土		1	1					1
432 合計		1	1					1
SP 覆土		1	1					1
435 合計		1	1					1
SP 覆土						1	1	1
441 合計						1	1	1
SP 覆土		5	5					5
459 合計		5	5					5
SP 覆土		1	1					1
467 合計		1	1					1
SP 覆土						1	1	1
470 合計						1	1	1
SP 覆土		1	1					1
472 合計		1	1					1
SP 覆土						1	1	1
479 合計						1	1	1
SP 覆土	1		1					1
484 合計	1		1					1
SP 覆土						1	1	1
486 合計						1	1	1
SP 覆土						1	1	1
493 合計						1	1	1
SP 覆土		2	2			3	3	5
494 合計		2	2			3	3	5
SP 覆土	6	2	8			3	3	11
496 合計	6	2	8			3	3	11
SP 覆土						1	1	1
502 合計						1	1	1
SP 覆土		1	1					1
505 合計		1	1					1
SP 覆土		2	2					2
506 合計		2	2					2
SP 覆土		1	1					1
514 合計		1	1					1
SP 覆土		3	3					3
515 合計		3	3					3
SP 覆土	1		1					1
516 合計	1		1					1
埋銀 VI		230	230					230
土器 合計	230		230					230

表Ⅲ-11 遺構出土掘載土器一覽

遺構名	図・掲載No.	図版No.	器種部位	出土位置		点数			計測値 (cm)			備考		
				遺構名調査区	層位	掘載	非掘載	時期分類	器高	口徑	底徑			
													小計	合計
NH-22	Ⅲ-43-1	22	深鉢	NH-22	覆土	65							口縁無文、LR 縄文、内面ナデ、砂と微量バミス・角閃石	
				F25	Ⅲ・Ⅳ	11								
	Ⅲ-43-2	26	胴部	NH-22	覆土	3	3	0	Ⅳa	無文地に沈線文				
NH-23				NH-23	床	2							折り返し口縁無文、LR 縄文地に沈線文、内面丹念、口縁横・体部縦ナデ、砂と微量バミス・輝石	
	Ⅲ-43-4	22	深鉢	NH-24	床	1								
				E17・18	Ⅲ・Ⅳ	49								
				H19	Ⅳ	1								
				NH-23	床	5								
	Ⅲ-43-5	22	深鉢	NH-23	覆土1	27							上面鋭角円形、折り返し口縁無文、LR 縄文 内面丹念ナデ、砂と微量の角閃石	
			E15-16	Ⅲ・Ⅳ	30									
	Ⅲ-44-6	26	深鉢	NH-23	覆土1	12	12	4	Ⅳa	13.2	(10.0)	(5.5)	床出土と同一、縄線文	
	Ⅲ-44-7	26	口縁部	NH-23	覆土1	6	6	0	Ⅳa	折り返し口縁無文、LR 縄文				
NH-24				NH-24, HP-8	覆土	48							器面・口唇 LR 縄文、内面調整丹念ナデ、胎土に砂・バミス、微量の海綿骨針・角閃石を含む	
	Ⅲ-44-8	22	深鉢	NH-24	床面	1								
				NH-29	覆土	4								
				F18	Ⅳ	1								
		Ⅲ-44-9	23	深鉢	NH-24	床直	3						LR 縄文、胴部くの字状に張る、内面調整丹念ナデ	
				E17	Ⅳ	12								
		Ⅲ-44-10	25	口縁部	NH-24	床	13	13	13	Ⅳa	口縁に頂部、LR 縄文			
		Ⅲ-44-11	26	口縁部	NH-24, HP-5	坑底	1	1	1	Ⅳa	無文			
		Ⅲ-44-12	26	口縁部	NH-24, HP-1	覆土	1	1	0	Ⅳa	折り返し口縁無文、LR 縄文			
		Ⅲ-44-13	26	口縁部	NH-24, HP-8	覆土	4	4	1	Ⅳa	無文、折り返し口縁			
				NH-24, HP-8	覆土	11							口縁に頂部、折り返し口縁無文、LR 縄文地に2本一組の太沈線文、磨消縄文	
	Ⅲ-45-14	26	口縁部	NH-29	覆土	3								
				F18	Ⅳ	3								
				G19	Ⅳ	8								
NH-25	Ⅲ-46-17	26	口縁部	NH-25	床	1	1	0	Ⅳa	LR 縄文地に沈線文、口縁内面にも沈線文				
	Ⅲ-46-18	26	胴部	NH-25	床	1	1	0	Ⅳa	無文地に垂下する蛇行沈線文				
	Ⅲ-46-19	26	胴部	NH-25	床	3	3	0	Ⅳa	無文地に沈線文				
	Ⅲ-46-20	26	胴部	NH-25	床	2	2	0	Ⅳa	無文地に沈線文				
NH-26	Ⅲ-46-21	26	口縁部	NH-26	床	1	1	0	Ⅳa	無文、折り返し口縁				
	Ⅲ-46-22	26	口縁部	NH-26	覆土	1	1	0	Ⅳa	折り返し口縁に縄線文、LR 縄文				
NH-27	Ⅲ-46-23	23	深鉢	NH-27	床直	92							縄刻み、結束第2種、内面丹念、砂・バミスと微量細礫	
				NH-27	覆土1	2								
	Ⅲ-46-24	23	深鉢	NH-27	床直	46	46	1	Ⅲa	(18.6)	(16.4)	7.5	縄文地に貼付文、内面丹念	
	Ⅲ-46-25	23	坏	NH-27	床	18	18	1	Ⅲa	5.6	(8.5)	6.1	無文手捏ね、内面横ナデ	
	Ⅲ-46-26	23	深鉢	NH-27	埋設	53	53	16	Ⅲa	(27.3)	(20.3)	10.8	LR+RR 結束第1種、内面丹念	
	Ⅲ-46-27	27	口縁部	NH-27	覆土	2	2	3	Ⅲa	口縁突起に刺突文、LR 縄文地に沈線文				
					NH-27	覆土	1							口縁に突起、口縁外縁縄刻み、結束第2種
	Ⅲ-46-28	27	口縁部	NH-27, SP-522	覆土	1	2	2	Ⅲa					
Ⅲ-46-29	27	口縁部・胴部	NH-27	埋設	2	2	0	Ⅲa	口縁に突起、無文					
Ⅲ-46-30	27	口縁部	NH-27, HP-12	覆土	1	1	0	Ⅲa	LR 縄文地に貼付文、口唇縄刻み					

Ⅲ 遺構とその遺物

遺構名	図・掲載No.	図版No.	器種部位	出土位置		点数			時期分類	計測値 (cm)			備考	
				遺構名調査区	層位	掘	載	非掲載		器高	口径	底径		
														小計
NH-28	Ⅲ-49-39	27	銅部	NH-28	覆土	1	1	0	Ⅱb	単軸絡糸体				
				NH-28	覆土	2	2	0	Ⅱb	単軸絡糸体				
				NH-28	覆土	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文、彫面に炭化物				
				NH-28	床	1	1	0	Ⅳa	LR 縄文				
NH-29	Ⅲ-49-43	27	口縁部	NH-29	床	1	1	0	Ⅲa	LR 縄文、口唇刻み				
				NH-29	床直	6	6	0	Ⅲa	口縁に台形突起、LR 縄文などで消す				
NP-106	Ⅲ-51-49	23	深鉢	NP-106	坑底	3	89	11	Ⅲa	30.0	(24.2)	(9.5)	貼付文、口唇刻み、結束第2種、内面ミガキ、海綿骨針	
				NP-106	覆土1	86								
NP-112	Ⅲ-51-51	25	口縁部	NP-112	覆土1	7	8	0	Ⅳa	折り返し口縁無文、LR 縄文				
				I10	Ⅳ	1								
NP-113	Ⅲ-52-54	24	深鉢	NP-112	覆土1	35	35	38	Ⅳa	LR 縄文口縁で施文方向変え、縄線文2条				
				NP-113	覆土	5								
				E10-11	Ⅳ	5								
				F10-11	Ⅳ-Ⅳ	52	69	14	Ⅳa	(31.8)	(30.6)	—		口縁に頂部、LR 縄文地に沈線文、内面調整口縁・肩縁・体部縦の丹念なナデ、胎土に砂・パミス、微量の角四石・輝石を含む
				G7-9	Ⅳ	3								
				G10	Ⅳ-Ⅳ	2								
				H9	Ⅳ	2								
NP-125	Ⅲ-54-62	24	深鉢	NP-125	坑底	8	118	9	Ⅳa	42.0	(32.1)	12.8	外反する口縁部に波状沈線文、頸部沈線で区画して無文地、LR 縄文地の銅部文帯帯に渦巻文・カニのハサミ状沈線文・磨消縄文、内面調整横ナデ、胎土にパミス・輝石を含む	
				NP-125	覆土	14								
				NP-128	覆土	1								
				B38-39	Ⅳ-Ⅳ	3								
				C25-36	Ⅳ	2								
				C38-41	Ⅳ-Ⅳ	35								
				D17	Ⅳ	1								
				D38-40	Ⅳ-Ⅳ	45								
				E36	Ⅳ	1								
				E40-42	Ⅳ-Ⅳ	7								
NP-127	Ⅲ-55-64	24	壺	NP-127	覆土	30	55	4	Ⅳa	(35.2)	13.3	(9.2)	無文地にクランク状沈線文、内面丹念	
				D39	Ⅳ	25								
NP-129	Ⅲ-55-65	27	口縁部	NP-127	覆土	3	3	26	Ⅳa	RL 縄文地に縄線文2条				
				NP-129	覆土	1								
				B-C-35	Ⅳ-Ⅳ	26	65	11	Ⅳa	34.7	(24.4)	(10.1)		口縁に頂部が凹む山形隆起部5か所、無文地に2本単位の横線・連続沈線文、内面調整丹念なナデ、胎土に砂・パミスと微量の細礫・輝石を含む
				C38-39	Ⅳ-Ⅳ	6								
				D35-37	Ⅳ	29								
				D39-40	Ⅳ	2								
NP-138	Ⅲ-55-67	24	壺	NP-138	坑底	17	17	0	Ⅲa	(23.5)	(11.4)	8.7	貼付文、結束第2種、ミガキ	
				NP-144	覆土	5	13	5	Ⅲa	(16.5)	(21.5)	—	無文地に貼付帯、結束第1種、内面横ナデ、海綿骨針	
				D16	Ⅳ	8								
				NP-144	坑底	10	23	2	Ⅲa	(24.6)	(23.1)	—	2個一組の貼付、結束第2種、内面ミガキ、海綿骨針	
NP-144	Ⅲ-56-69	25	深鉢	NP-144	覆土1	13								
				NP-144	覆土1	10								
NP-150	Ⅲ-56-74	27	銅部	NP-150	覆土1	1	3	41	Ⅳa	無文地に沈線文				
				SP-408	覆土1	2								
NP-151	Ⅲ-57-75a	27	口縁部	NP-151	覆土	1	2	0	Ⅱb	単軸絡糸体				
				NP-151	覆土	1								
				NP-151	覆土	2	2	0	Ⅳa	無文地に沈線文				
NP-170	Ⅲ-57-81	26	深鉢	NP-170	覆土1	33	33	1	Ⅳa	(22.8)	9.2	—	RL 縄文、底部張り出す	
				NP-186	覆土	3	3	0	Ⅳa	9.2	—	4.1	無文、底部張り出す	
NP-186	Ⅲ-58-85	27	底部	NP-186	覆土	6	6	0	Ⅳa	—	—	5.7	RL 縄文、底部張り出す	
				NP-186	覆土	6	0	0	Ⅳa	口縁に2山と1山の突起、貼付文、結束第2種				
NP-182	Ⅲ-59-87	27	口縁部	NP-182	覆土1	14	14	1	Ⅲa	口縁に2山と1山の突起、貼付文、結束第2種				
				NP-182	覆土1	14	14	1	Ⅲa	口縁に2山と1山の突起、貼付文、結束第2種				
SP-506	Ⅲ-59-91	27	銅部	SP-506	覆土	1	1	0	Ⅳa	LR 縄文地に太沈線				
				F17	Ⅳ	7								
NS-1	Ⅲ-60-92	25	深鉢	G6	Ⅳ	1	63	25	Ⅳa	(26.2)	(27.5)	—	NS-1と同一、オオバコ回紋文、頸部に横覆する沈線、垂下する旋行沈線文	
				G17-18	Ⅳ-Ⅳ	55								
埋設土器1	Ⅲ-60-94	25	深鉢	埋設1	Ⅳ	95	102	16	Ⅲa	(30.3)	(22.2)	8.5	口縁に台形突起、縄文地に貼付文、結束第2種、ナデ	
				E43	Ⅳ	7								

表Ⅲ-12 遺構出土掲載石器一覧

遺構名	挿図・掲載No.	図版No.	層位	器種名	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石材
NH-22	Ⅲ-43-3	28-126	HP-2 検出面	扁平打製石器	12.7×11.9×2.8	604.0	安山岩
NH-24	Ⅲ-45-15	28-126	覆土	扁平打製石器	15.3×11.45×3.9	888.0	安山岩
	Ⅲ-45-16	28-126	覆土	石皿	27.5×18.1×7.0	4660.0	安山岩
NH-27	Ⅲ-47-31	28-126	覆土2	つまみ付きナイフ	(9.9)×5.35×1.1	(42.8)	頁岩
	Ⅲ-47-32	28-126	床面	スクレイパー	6.3×5.6×1.5	34.3	頁岩
	Ⅲ-47-33	28-126	床直	石斧	(8.4)×5.55×2.1	(151.5)	片岩
	Ⅲ-47-34	28-126	HP-23覆土	扁平打製石器	13.6×9.75×2.1	316.0	安山岩
	Ⅲ-47-35	28-126	HP-23覆土	扁平打製石器	14.6×9.7×2.6	448.0	安山岩
	Ⅲ-48-36	28-126	覆土	扁平打製石器	13.45×9.8×2.2	392.0	安山岩
	Ⅲ-48-37	28-126	床	扁平打製石器	15.4×11.0×3.15	750.0	安山岩
	Ⅲ-48-38	29-127	床	石皿	46.3×36.3×15.4	40000.0	安山岩
NH-29	Ⅲ-49-45	28-126	覆土	扁平打製石器	15.4×8.7×2.1	322.0	安山岩
	Ⅲ-49-46	28-126	床直	石皿	31.8×25.7×10.7	11000.0	安山岩
NP-104	Ⅲ-50-47	29-127	覆土1	石皿	38.9×23.2×14.2	20500.0	安山岩
NP-105	Ⅲ-50-48	29-127	覆土1	北海道式石冠	11.7×11.6×6.6	1280.0	安山岩
NP-106	Ⅲ-51-50	29-127	覆土2	扁平打製石器	(13.3)×(9.8)×2.1	(304.0)	安山岩
NP-112	Ⅲ-51-53	29-127	覆土1	スクレイパー	6.7×3.7×1.6	30.5	頁岩
NP-113	Ⅲ-52-55	29-127	坑底直上	北海道式石冠	(12.0)×9.7×7.5	(1265.0)	安山岩
NP-115	Ⅲ-52-56	29-127	覆土	扁平打製石器	13.7×9.1×4.2	518.0	安山岩
	Ⅲ-53-57	30-128	覆土3上面	石皿	39.2×31.5×16.8	31500.0	安山岩
NP-117	Ⅲ-53-58	29-127	坑底	北海道式石冠	10.7×10.0×5.05	656.0	安山岩
NP-118	Ⅲ-54-59	30-128	覆土1	石斧	(8.8)×4.95×2.4	(165.4)	泥岩
	Ⅲ-54-60	30-128	坑底	北海道式石冠	(13.2)×11.5×9.1	(1515.0)	安山岩
	Ⅲ-54-61	30-128	坑底	石鏃	14.5×12.9×2.3	408.0	安山岩
NP-125	Ⅲ-54-63	30-128	覆土	スクレイパー	7.55×4.9×2.0	50.2	頁岩
NP-144	Ⅲ-56-71	30-128	覆土1	扁平打製石器	12.9×8.3×2.3	244.0	安山岩
	Ⅲ-56-72	30-128	覆土1	扁平打製石器	14.75×10.0×2.9	462.0	安山岩
	Ⅲ-56-73	30-128	覆土1	扁平打製石器	14.0×10.5×3.4	562.0	安山岩
NP-152	Ⅲ-57-77	31-129	覆土	扁平打製石器	15.1×7.2×2.3	274.0	安山岩
NP-153	Ⅲ-57-78	31-129	坑底	北海道式石冠	12.8×9.1×6.4	1060.0	安山岩
NP-158	Ⅲ-57-79	31-129	覆土	石斧	(6.7)×3.5×1.85	(77.9)	泥岩
NP-166	Ⅲ-58-80	30-128	覆土1	石皿	40.0×25.9×14.3	21800.0	安山岩
NP-170	Ⅲ-57-82	31-129	坑底	北海道式石冠	(9.55)×(8.3)×8.05	(950.0)	安山岩
NP-171	Ⅲ-58-83	31-129	覆土1	扁平打製石器	14.85×9.15×5.1	1010.0	安山岩
NP-177	Ⅲ-58-84	31-129	覆土	つまみ付きナイフ	7.25×3.3×1.4	18.8	頁岩
NP-189	Ⅲ-59-88	31-129	覆土	北海道式石冠	17.6×10.5×7.0	1430.0	安山岩
NP-191	Ⅲ-59-89	31-129	覆土1	スクレイパー	7.6×2.8×1.2	22.3	頁岩
SF-4	Ⅲ-59-90	31-129	Ⅳ	石斧	7.1×3.35×1.5	44.5	泥岩
NS-1	Ⅲ-60-93	31-129	Ⅳ	石皿	39.2×33.3×11.3	18600.0	安山岩

IV 包含層出土の遺物

1 土器・土製品

出土点数

包含層からは土器が98,829点、土製品が46点出土した。土器のうち最も多いものはIV群 a類土器である。天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津Ⅶ群、白坂3式など88,873点出土した。これは包含層出土土器全体の89.9%を占めている。次いで円筒土器上層 c式、サイベ沢Ⅷ式、見晴町式などのⅢ群 a類土器が5,263点で5.3%を占めている。またⅡ群 b類土器は4,335点で4.4%である。このほか、Ⅵ群の土器が246点(0.2%)、Ⅲ群 b類土器が4点(0.004%)出土している。

分布

Ⅱ群 b類土器は主に E地区の無名沢に面する段丘斜面を中心に出土した。C地区では濁川に面する段丘斜面で出土した。Ⅲ群 a類土器は主に C地区の段丘平坦面を中心に出土した。D・E14~17で全体の24.6%が出土しており、ここから斜面の下に広く分布している。E地区では無名沢に面する斜面で若干出土した。Ⅳ群 a類土器は全体的に出土しており、C・E地区とも段丘の平坦面から尾根にかけての範囲で広く分布している。Ⅵ群 b類土器は主に C地区の段丘平坦面から尾根にかけての部分で出土した。E地区では尾根部分でわずかに出土した。図Ⅳ-47・48に時期別の分布図を掲載した。

以上のように、時期・分布が若干異なるため、土器・土製品については C地区と D・E地区に分けて記述する。遺物の図は図Ⅳ-1~30の図版に1~382の通し番号を付して掲載した。以下では図版番号を省略して掲載番号により記述する。

(1) C地区出土の土器・土製品(図Ⅳ-1~30-1~231)

Ⅱ群 b類土器(図Ⅳ-8-68~71、写真図版44)

68~71は円筒土器下層 d2式に相当するものである。68は垂下する貼付文の下端がボタン状貼付文となる。器面には縄線文、貼付文には側縁圧痕がある。口縁頂部は縄、口唇は撚糸により刻まれる。69は組紐圧痕文で口縁部を区画し、口縁に結束回転文、体部に単軸絡条体の側縁圧痕をもつ。70・71は同一個体である。口縁部に縄線文を斜位に施して菱形を組み合わせた文様を描く。体部には単軸絡条体の側縁圧痕と結束第2種羽状縄文を施している。

Ⅲ群 a類土器(図Ⅳ-1・8~10-1~9、72~100、写真図版32・33・44~46)

①円筒土器上層 c式に相当するもの(1・3・5・72)

いずれも器面に隆線を貼付し、地文を施す。1・3は胴が張り、口縁部が大きく外反する。1は口縁に山形小突起を一對もち、器面に隆線を貼付して文様を構成する。胴の張った部分に横環する隆線を貼付し、突起から隆線を垂下させる。垂下する隆線下の横環する隆線上にはボタン状貼付文、隆線とその間の器面には2本一組の縄の側縁圧痕がある。口縁は棒状工具により刻まれる。3は口縁に斜位の貼付文、地文に結束第1種羽状縄文をもつ。口縁の斜位の貼付文は撚糸で刻まれる。5は底部近くの横環する隆線に半載竹管状工具による低い角度からの刺突文が施される。隆線の一部には地文の縄文がかかる。72は口縁に2対の隆線を貼付し、口縁に横環させた隆線を縦位につなぐ。隆線上には2本一組の縄の側縁圧痕を施す。口唇は縄で刻まれる。

②サイベ沢匱式に相当するもの（2・4・6～8・73～86）

地文を施した器面に隆線により文様を描くものや口縁部に簡素な貼付文をもつもの、器面に地文のみのものである。次の第1類から第3類に分類される。

第1類（73～78）：地文を施した器面に隆線により文様を描くもの。

73・75～78は LR 縄文地、74は RL 縄文地に貼付隆線により文様が構成される。73～76は隆線に縄の側縁圧痕や刻みなどをもつ。73は口唇が縄により刻まれる。77・78は隆線に施文をもたない。76・77は弁状突起に貫通孔がある。78は口縁に片流れの山形隆起部をもつ。

第2類（2・4・79～86）：口縁部に簡素な貼付文や刺突文をもつもの。

2は口縁に三つ山の突起一対と片流れの突起が一対あり、三つ山の突起下器面に把手状貼付、その直上に横位の貼付をもつ。地文は LR 斜行縄文で、口縁内面と把手状貼付直上の横位貼付にも縄文が施される。三つ山の突起頂部および口唇は縄で刻まれる。4は底部がわずかに張り出し、胴が張り口縁部が外反する器形である。器面に地文は RLR 斜行縄文を施し、口縁に粘土紐を貼付した小突起を付けている。縦に2本粘土紐を貼付した小突起部が4か所にある。80は口縁の小突起左側が指頭によりつままれ、突起直下に刺突文をもつ。口縁は棒状工具により刻まれる。79・81は弁状突起に、83は弁状突起と口縁に貼付文をもつ。82は突起下の口縁器面にドーナツ状貼付文をもち、貼付隆帯で繋ぐ。口唇と隆帯は縄により刻まれる。84・85は山形隆起部の下にボタン状貼付文をもつ。86は口唇に隆線、口縁部に把手状貼付をもつ。地文は結束第2種羽状縄文である。

第3類（6～8）：器面に地文のみのもの。

6は口縁に弁状突起をもち胴部から緩やかに立ち上がる器形である。口唇が縄で刻まれる。7は口縁に小突起をもち、底部は胴の張りに比べてすばまっている。胴が張り、頸部でくびれ口縁部が外反する器形である。口唇は棒状工具により斜位に刻まれる。いずれも地文は結束第2種である。8は地文に結束第1種羽状縄文をもつ胴下部～底部である。

③見晴町式に相当するもの（9・87～100）

縄文のみのものや口縁部に貼付文・沈線文をもつものである。次の第1類から第3類に分類される。

第1類（9・87～97）：地文のみのもの。

9は底部が張り出し、胴が張り、口縁が緩やかに外反する器形である。器面には魚骨回転文が施され、口唇は棒状工具により刻まれている。87～90・92～95は地文が結束第2種、91・96・97は結束第1種である。89・93・95は突起頂部が指頭によりつままれる。90は小突起をもつ。96は山形隆起部をもつ。87・88・90～92・95は口唇に縄により刻み、89・93・94・97は口唇に縄の圧痕がある。

第2類（99）：山形隆起部に貼付をもつもの。

99は頂部が欠損しているが山形隆起部に縦位の貼付をもつ。器面には整った RL の縄文が施され、口縁は縄により刻まれる。

第3類（98・100）：沈線文をもつもの。

98は山形突起に貫通孔、LR 縄文地の口縁部に弧状沈線文をもつ。口唇は縄により刻まれる。100は山形隆起部に刺突文、外傾する口唇に沈線をもつ。榎林式に近いものである。

IV群 a類土器 (図IV-2~7・10~16~10~61・101~217、写真図版33~44・46~51)

A 天祐寺式・涌元式に相当するもの (10~60・101~204)

隆帯をもつもの、縄文地に隆帯・貼付文・縄線文・沈線文・刺突文をもつもの、磨削技法による文様をもつもの、無文地に縄線文・沈線文・刺突文をもつもの、折り返し口縁或多段の口縁部をもち器面に縄文のみが施されるものや無文のもの、縄文のみもの、捺糸文をもつもの、無文のものなど、次の第1類~第8類に分類される。また、底部のみものをまとめて第9類とした。

第1類 (10・101~108)：器面に縄文が施文され、隆帯をもつもの。

次の a種~c種に細分される。

a種 (10・101)：隆帯と器面に縄文が施されるもの。

10は隆帯と体部で RL縄文の施文方向を変える。101は隆帯と器面に RL縄文、口唇に縄の側縁圧痕をもつ。

b種 (102~106)：隆帯間が無文のもの。

102・103・106は隆帯と体部で LR縄文の施文方向を変える。106は隆帯間の縄文がナゲ消される。

104・105は隆帯間が無文で隆帯を縦位につなく。隆帯と体部で LR縄文の施文方向を変えている。104は口唇にも縄文がある。105は口縁が多段で、隆帯に縄線文をもつ。

c種 (107・108)：隆帯と隆帯に沿った沈線文・縄線文をもつもの。

107は隆帯とその直下の器面に横位の沈線が引かれ、隆帯上半と器面は無文、隆帯下半には LR縄文が施される。108は無文地の器面と隆帯に LRの縄線文が施される。

第2類 (11~18・20~26・28・29・109~142・144~153)：器面に縄文が施され隆帯・貼付文・縄線文・沈線文・刺突文をもつもの。

次の a種~f種に細分される。

a種 (109)：隆帯をもち、器面に沈線文をもつもの。

109は胴上部が張り、頸部がくびれて口縁部が外反する。無文地の口縁から胴上部に貼付帯と沈線文により文様を構成する。貼付帯には丸棒状工具による刺突が施文される。胴下部の地文は LR縄文である。

b種 (20・21・113)：貼付文をもつもの。

20は口縁部に耳状の縦位の貼付が4か所ある。LR縄文地の器面に沈線文をもつ。21は小波状口縁をもつ。無文地の器面の貼付文により文様が構成され、口縁にのみ RL縄文が施される。113は山形隆起部直下の口縁部に耳状の縦位の貼付をもつ。地文は LR縄文で、口縁の無文地部分に縄線文が2条施されている。

c種 (11~18・110~112・114~135)：縄線文をもつもの。

11~15は口縁に山形隆起部をもつ。地文は LR縄文であり口縁の無文部分に縄線文が施文される。16~18は平縁である。16は無文地の口頸部に4条の縄線文をもつ。体部には無節 LRの縄文が施される。17・18は縄文地の口縁部に縄線文が2条施文される。地文は17が LR、18が無節 R縄文である。110は口縁に山形隆起部をもつ。縄線文で区画した口縁部の無文地部分に縦位の縄線文、口縁に LR縄文をもつ。111は無文地口縁部を2本の縄線文で区画した間に鋸歯状に縄線文、体部・口唇に LR縄文をもつ。112は山形隆起部をもつ。縄線文で区画した口縁部は無文、折り返し口縁と体部に LR縄文を施す。114~133は口縁の無文部分もしくはおおむね無文となった部分に縄線文をもつものである。114~125・127・128は2条、126・129~131は1条、132は3条、134は4条の縄線文をもつ。114~116・129は口縁に山形隆起部をもち、口縁の形状に沿った縄線文をもつ。117は口縁に山形隆起部

をもつが口縁の形状に関わらずに縄線文を横置きさせる。118～125・127・128・130～133は平線である。126は口縁の小突起頂部が縄で刻まれる。134・135は縄文地に縄線文をもつ。

d種 (136～142)；縄線文と沈線文をもつもの。

136～142は口縁に縄線文をもち、縄文地の体部に沈線により文様の描かれるものである。136・138は口縁に山形隆起部をもち、口縁の形状に沿った縄線文を2条もつ。136は曲線的な文様、138には直線的な文様が描かれる。137・139～141は平線である。137・140は2条、139は1条の縄線文をもち、137・139・140は曲線的な文様、141には直線的な文様が描かれる。142には入組文と思われる文様が描かれる。

e種 (144)；刺突文と沈線文をもつもの。

144は口縁に振幅の大きい垂下する蛇行沈線の一部と思われる沈線文があり、沈線の間に刺突文を施す。

f種 (22～26・28・29・145～153)；縄文地に沈線により文様が描かれるもの。

22～24は口頸部が無文地、体部が縄文地である。22・24は折り返し口縁をもち、頸部を沈線で区画して縄文地の胴部に沈線で文様を描く。22は波頭状曲線、23は三角形と渦巻文の組み合わせである。無文地とした口縁部に沈線文をもつ。23は無文地とした頸部と縄文地の胴上部に弧線を逆S字状に組み合わせた簡素な沈線文をもつ。25・26は口縁・頸部・胴部の三つの文様帯をもつ。無文地の頸部は沈線で窓状に区画され、縄文地の口縁の沈線は頸部の区画文の一部を構成する。胴部には三角形を組み合わせた直線的な文様が描かれる。28は無文地の口頸部に幅広の平たい把手状貼付を7か所もち、体部に振幅の大きいS字状沈線と渦巻文が描かれる。29には弧線が認められる。

145～148・150は口縁に山形隆起部をもつ。145は細い沈線により直線と曲線を組み合わせた不規則な文様が描かれる。146～148は口縁に沿った沈線とS字状文・渦巻文もつ。148の文様構成は24と類似する。149は無文地の口縁部に隆帯をもち、隆帯の上下に沈線が引かれる。頸部3本の沈線で区画され、体部に弧線と短い縦線を組み合わせた文様が描かれる。150・151は振幅の大きい垂下する沈線文をもつ。152・153は隆帯をもつ。152は口縁部に窓状の区画、体部に弧線による文様をもつ。153の器面には弧線が認められる。

第3類 (27・154～156)；磨消技法による文様をもつもの。

27は口縁から胴下部までコの字を組み合わせた文様が描かれる。154～156は明瞭な磨消縄文をもつものである。折り返し口縁をもつ。

第4類 (19・30・143・157～164)；無文地に縄線文・沈線文・刺突文をもつもの。

次のa種～c種に細分される。

a種 (19)；縄線文をもつもの。

19は口縁に山形隆起部をもち、胴上部まで多段となる。口縁に縄線文を2条、口縁の形状に沿って施す。

b種 (30・157～164)；沈線文をもつもの。

30は胴下部が張り、頸部がくびれて口縁部が開く器形である。口唇は外傾する。口縁に2本、頸部・底部付近に3本の沈線を引き区画する。頸部は文様帯を区画した横位の沈線に連なる縦位の一本沈線により細分される。胴部文様帯には3本一組の沈線により連続状沈線を組み合わせた文様が描かれる。157～159は折り返し口縁をもち、体部に2本一組の沈線により曲線的な文様を描く。157は連続状文、158は横線と弧線、159は区画文をもつ。160は単線により159に似た文様をもつ。161～164は

直線的な文様をもつ。162は口縁が多段となる。

c種 (143)；沈線文と刺突文をもつもの。

143は口縁に2本沈線が巡り、そのうちの1本の末端は下がって渦巻文となる。口縁には竹管状工具による刺突文が並ぶ。

第5類 (31～39・165～178)；折り返し口縁や多段の口縁部をもち、器面に縄文が施されるものや無文のもの。

次の a種～c種に細分される。

a種 (31～38・165～174)；無文の折り返し口縁をもつもの。

31・34は底部から口縁まで直線的に立ち上がる。32・33・37は胴中央部、35は胴上部がわずかに張り、口縁部は直線的に立ち上がる。36は胴中央部が張り、口縁部が内傾する。31は体部に無節 Lrの縄文をもつ。32・35には LR、33・34には RLの横走気味の縄文が施されている。36は RL、37は LR斜行縄文をもつ。38は口縁に二山の隆起部を4か所にもつ。肩が張り、頸部がくびれて口縁が開く。体部に施された RL縄文は胴上半で施文方向を変えている。

165は口縁に山形隆起部をもつ。171は小波状口縁である。165・170には RL、166・167・169・171～174には LR、168には無節 Lr縄文が施されている。

b種 (175)；体部と同じ縄文の施された折り返し口縁をもつもの。

175には LR縄文が施されている。口唇は外傾し内側に切り出し状となる。

c種 (39・176～178)；多段の口縁部をもつもの。

39・176～178は多段の口縁部が無文である。39は体部に LR縄文が施されている。176は口唇が角張り、外傾する。体部には RL縄文が認められる。177は口唇が薄く尖り気味である。178は口唇が切り出し気味である。体部に LR縄文が施される。

第6類 (40～48・179～193)；縄文のみのもの。

次の a種～d種に細分される。

a種 (40・179・180)；口縁が無文のもの。

40は口縁部に筥状工具による縦位の擦痕がある。体部には無節 Lrの縄文が施されている。179は胴上部が張り、頸部がわずかにくびれて口縁部は垂直に立ち上がる。180は口縁部が内傾し、口縁がわずかに外反する。179には LR、180は RL縄文が施されている。

b種 (41～43・48・181～185)；口縁で縄文の施文方向を変えるもの。

41は頸部がわずかにくびれ、口縁部が緩く外反する。42・43は口縁に山形隆起部をもつ。41・43には LR、42には RL縄文が施されている。48は口縁に頂部を6か所もち、付加条の縄文が施される。182は頸部がわずかにくびれ口縁部が外傾する。185は口縁が緩く外反する。181～184には LR、185には RL縄文が施されている。

c種 (46・186～193)；口縁まで体部と同じ施文方向の縄文が施されるもの。

46は口縁に山形隆起部をもち、器面に無節 R縄文が縦走気味に施される。186・187・189・191・192は LR、188・190は RL、193は付加条の縄文をもつ。

d種 (44・45・47)；口縁部を欠き、上記のいずれか不明のものを便宜上ここで記述する。

44・45・47は器面に LR縄文をもつ。45は底部の際まで縄文が施されている。

第7類 (49・51・194～196)；摺糸文をもつもの。

49は多段の口縁部をもつ。49・51は器面に摺糸文をまばらに施している。194～196は無節 Rの摺

糸文をもつ。194・195は斜格子状燃糸文、196は斜位の燃糸文である。

第8類 (50・52～60・197)：無文のもの。

次の a種・b種に細分される。

a種 (52・53)：多段となるもの。

52は口縁に山形隆起部をもち、底部近くまで多段となる。53は胴下部まで多段となる。

b種 (50・54～60・197)：多段とならないもの。

56・60は口縁に頂部をもつ。50・54・55・57・58・59は平縁である。59は頸部がくびれ口縁が外傾する。197は口縁に山形隆起部をもつ。口縁部が緩やかに開き、口唇は外傾する。

第9類 (198～204)：底部。

198は棒状工具による格子状沈線、199は半截竹管状工具による横位・縦位の沈線をもつ。201には木葉痕がある。200・202は器面に粗雑な縄文が施文される。203・204は底部まで整った LR 縄文が施文方向を変えて施される。涌元式～大津式に相当すると思われるが便宜上ここで扱った。

B トリサキ式・大津式に相当するもの (61・205～217)

①トリサキ式に相当するもの (205～207・211～213)

205～207・211～213は無文地に沈線文をもつものである。無文地の器面に単線による沈線文が描かれている。213a・bは同一個体である。胴が張り、頸部がくびれ口縁部が外傾する器形である。胴部に貼付をもつ。器面には S 字状文・連結 S 字状文が「半肉彫」の技法により描かれる。

②大津式に相当するもの (61・208～210・214～217)

無文地に沈線文をもち口唇に刻みをもつものと磨消縄文をもつものがある。第1類と第2類に分類される。

第1類 (208～210)：無文地に沈線文をもち口唇に刻みをもつもの。

208～210は無文地の器面に単線により沈線文が描かれている。口縁の頂部や口唇には棒状工具による刻みをもつ。

第2類 (61・214～217)：磨消縄文をもつもの。

61は胴上部が張り頸部がくびれ口縁部が開く器形である。底部を欠く。口縁から胴部に RL 縄文を施し、頸部と胴下部に沈線を引いて文様帯を区画する。胴下部は無文となる。口縁部には弧線、波状沈線文により文様が描かれる。体部には磨消技法により大きな角形の渦巻文が描かれ、肩には鋸歯状文、胴下部には稲妻文が配されている。214・215は口頸部が太沈線で区画される。214は頸部、215は口縁が無文となる。214は口縁に逆くの字状沈線文、215は頸部に稲妻状沈線文が施されている。217は磨消縄文によりカニのハサミ状の文様が描かれる。216は LR 縄文地の口縁に61の口縁部と同様の波状沈線文が描かれている。

IV群 b 類土器 (図IV-17-218・219、写真図版51)

218・219はいずれも LR 縄文地である。口縁際を沈線で区画し口縁部に斜位の沈線により鋸歯状・入子状三角形の文様を描く。ウサクマイ C 式に相当する。

VI群 b 類土器 (図IV-7-62~67・220~223、写真図版51)

62~65・220・221は擬縄貼付文で菱形が描かれる。擬縄貼付文には刻目をもつ。後北 B 式に相当する。66は隆起線文により紡錘形・円形が描かれ、隆起線文によりさらに上下に分割される。菱形部分には隆起線により十文字に分割される。隆起線には刻目をもつ。後北 C 式に相当する。いずれも器面には刻目列や 0 段多条 R1 の帯縄文、縞縄文が施される。67は器面に刻目列と 0 段多条 R1 の帯縄文、縞縄文が施される。222には隆起線と器面に刻目をもつ。223は 0 段多条 R1 縞縄文が施される。後北 C-D 式に相当する。

土製品 (IV-17-224~231、写真図版51)

224・225は円盤状土製品、226~228は三角形土製品である。いずれもIV群 a 類土器の破片を加工したものである。224・226・227には LR 縄文が認められる。225は無文、228には無文地に渦巻状沈線文がある。229は耳栓、230・231は鐸形土製品である。

(2) D・E 地区出土の土器・土製品 (図IV-18-30-232~382)

II群 b 類土器 (図IV-18-24-232・233・275~288、写真図版52・60)

232・233・275~288は円筒土器下層 d2 式に相当するものである。232・233は体部にオオバコ回転文をもつ。232は頸部に円形刺突文を巡らせている。233は頸部に隆帯をもつ。口縁部には232は Lr、233は R1 の縄による斜位・横位の縄線文で文様を構成する。275~277・280~284は口縁部、278・279は口縁部と胴部である。275・276は口縁部に R1 縄線文をもつ。体部には275は結束第 2 種、276は結束第 2 種と捻糸文が施されている。277は口縁部に Lr 縄線文、単軸絡条体の側縁圧痕と竹管状工具による刺突文、体部は結束第 1 種である。278は口縁部に R1 279は口縁部に Lr 縄線文、体部に結束第 1 種と捻糸文をもつ。280は口縁部に R1 縄線文、体部に結束第 2 種と捻糸文、281は口縁部に結束第 1 種、体部に捻糸文、282は口縁部に結束第 1 種と R1 縄線文をもつ。283は口縁部に Lr 縄線文、体部に結束第 2 種と捻糸文をもつ。284は口縁部に R1 縄線文と単軸絡条体圧痕文をもつ。285・286は胴部、287・288は底部である。285には結束第 1 種、286には結束第 2 種と捻糸文がある。287には R と L の組紐側縁圧痕文、288には捻糸文が施されている。

III群 a 類土器 (図IV-18-24-234・289、写真図版52)

234・289はサイベ沢Ⅵ式に相当するものである。234は底部がすばまり胴が張り口縁部がゆるやかに外反する器形である。口縁の弁状隆起部に隆帯をもつ。口唇と隆帯は縄により刻まれる。体部には結束第 2 種羽状縄文が施される胎土に少量の海绵骨針を含む。289は結束第 2 種の RL 縄文を施した器面に隆線とボタン状貼付文により文様を描く。口縁の山形隆起部には隆線とボタン状貼付文をもつ。口唇は縄により刻まれる。

IV群 a 類土器 (図IV-18-23・24・30-235~274・290~376、写真図版52~65)

A 天祐寺式・涌元式に相当するもの (235~257・290~326)

隆帯を持つもの、縄文地に縄線文・沈線文をもつもの、無文地に貼付文と沈線文をもつもの、縄文のみのもの、無文のものなど、次の第 1 類~第 7 類に分類される。

第 1 類 (235・236・290~296)；器面に縄文が施文され、隆帯を持つもの。

次の a 種~c 種に細分される。

a 種 (235・236・290~293)；隆帯と器面に縄文が施されるもの。

235は口縁に隆帯を1本もつ。236は口縁と口縁部に隆帯をもち、2本の隆帯を縦の隆帯でつないでいる。290～293は口縁に隆帯を1本巡らすもの。いずれも口縁部と体部で縄文の施文方向を変える。

292はRL、ほかはLR縄文が施される。

b種 (294・295)；隆帯間が無文のもの。

294は口縁と口縁部、295は口縁部に隆帯をもち、隆帯間は無文となる。口縁部と体部でLR縄文の施文方向を変えている。295は口唇にも縄文が施される。

c種 (296)；隆帯に縄線文をもつもの。

296は口縁に隆帯をもち、隆帯には縄線文が施される。口縁部にはLR縄文が施される。

第2類 (297)；器面に縄文が施され縄線文をもつもの。

297は器面にRL縄文が施され、口縁に縄線文が2条巡る。

第3類 (239・256・298・299)；器面に縄文が施され沈線文をもつもの。

239は口縁に山形隆起部をひとつだけもつ。半截竹管状工具による沈線で不規則な曲線の文様が描かれる。256は口縁から胴上部に粗雑に縄文を施し、口縁と頸部に数本の沈線を引き区画する。これらの沈線は途中で途切れて、区画は部分的なものである。肩から胴上部には沈線により4～5本一組の弧線を引き、曲線の文様を構成する。298は頸部に2本の沈線を引き、頸部から胴上部に3～4本一組の弧線文を描く。299は胴上部に2本の沈線を引き、頸部と胴上部に弧線により曲線の文様を描く。地文は239・256・298はLR、299はRL縄文である。

第4類 (237・238・257・300～313)；無文地に沈線文をもつもの。

237・238・257は口縁に緩やかな山形隆起部をもつ。237は器面に筒状工具による横位・斜位の沈線が引かれている。238は口縁部と胴上部に2本の沈線を引いて区画し、その間に角ばった波頭状沈線とコの字状沈線を組み合わせた文様が横方向に展開する。器面には部分的にLR縄文がみられるが、ほとんど無文地である。257は口縁部から胴上部に横位の沈線が引かれている。300・301・305・306には横位沈線と弧線、302には横・縦位沈線と弧線、303には横・斜・縦位沈線、304には横位沈線が認められる。307・308には横位沈線と鋸歯状沈線があり、308では蛇行沈線により鋸歯状沈線をつないでいる。309・310は横・斜位沈線により文様が構成される。311～313は斜格子状沈線文をもつものである。

第5類 (327～329)；無文地に貼付文と沈線文をもつもの。涌元式に相当する。

327～329は口縁に耳状の縦位の貼付をもち、器面に沈線により文様が描かれる。

第6類 (240～246・315～321)；縄文のみのもの。

次のa種～c種に細分される。

a種 (246・317)；口縁が無文のもの。

246は胴が張り口縁部が内湾し、緩く外反する口縁に山形隆起部をもつ。体部には無節Lrの縄文が施される。317は口縁部が外反する。LR縄文をもつ。

b種 (314・315)；口縁で縄文の施文方向を変えるもの。

314・315は口縁までLR縄文が施され、口縁で施文方向を変えている。

c種 (240～245・316・318～321)；口縁まで体部と同じ施文方向の縄文が施されるもの。

240・241は胴上部が張り頸部がくびれ口縁部が外反する器形である。口縁に山形隆起部をもつ。器面にはRL縄文が施される。胴下部は無文となる。242は口縁が欠損する。器面にはRL縄文が施される。243は底部と胴部でLR縄文の施文方向を変える。244・245はLR縄文が施される。316・318・319・321にはLR、320にはRLの縄文が施されている。

第7類 (247～255・322～326)：無文のもの。

247は胴が張り頸部がくびれて口縁部が外傾する器形である。復元したところ体部が歪んでいた。247・249・250・254の内面調整は口縁部が横ナデ、体部は縦ナデである。247の内面調整は丹念である。248・252は丹念な縦ナデ、251・253・255は横ナデにより内面が調整される。255は舟形を呈した小型の鉢である。322は折り返し口縁、323は口縁が多段となる。324・326は口縁に山形隆起部をもつ。324は器面には縦位の擦痕がある。323・325は部分的にLR縄文が認められるがほとんどが無文なのでここで扱う。

B トリサキ式・大津式・白坂3式に相当するもの (258～274・327～374)

①トリサキ式に相当するもの (258～264・327～349)

無文地に耳状の貼付文や沈線文をもつもの、口縁に8の字状貼付文をもつものがある。次の第1類・第2類に分類される。

第1類 (258・327～334)：無文地に耳状の貼付文や沈線文をもつもの。

次のa種・b種に細分される。

a種 (327～329)：無文地に沈線文と口縁に縦位の耳状の貼付文をもつもの。327は平縁、328・329は口縁に山形隆起部をもつ。327は胴が張り頸部がくびれて口縁部が緩く外反する。口縁～頸部に縦位の貼付をもち、口縁と頸部を2本の沈線で区画する。体部には縦線・弧線・斜線がある。328は口縁部が外傾する。山形隆起部の部分では緩やかに外反する。口縁に縦位の貼付をもち、口縁部に2本一組の沈線が引かれている。329は山形隆起部外面に短い縦位の貼付があり口縁に口縁形状に沿った沈線が2本引かれている。口縁部には弧線により曲線的な文様が描かれる。

b種 (258・330～334)：沈線文をもつもの。258は体部に弧線により曲線的な文様を描く。330～333は垂下する蛇行沈線をもつ。334は口縁部に横線・弧線をもつ。

第2類 (259～264・335～349)：口縁に8の字状貼付文をもつもの。

次のa種～d種に細分される。

a種 (259～262・336～340・342～344)：無文地に沈線文と8の字状の貼付文をもつもの。

259は頸部と胴部に横線を引いて区画する。口縁部には2本一組の横線が引かれる。胴部文様帯の上下には3本一組の弧線により半円状の重複連弧文、その間に2本一組の沈線により垂下する沈線文をもつ。260は口縁部に横線、体部に振幅の大きい垂下する沈線をもつ。261は細い沈線により横線・S字状沈線・斜線が描かれる。262は口縁～頸部に横線、体部に斜格子状沈線文をもつ。336は口縁に、337は口縁と頸部に2本一組の沈線文をもつ。338は口縁・頸部・胴上部を2本一組の沈線により区画する。口縁部文様帯には2本一組の弧線により縦に区画される。胴部文様帯は3本一組の縦線により区画され、区画の中には2本一組の弧線・斜線により文様が描かれる。339～340・342～344は8の字状の貼付文を付け、口縁に横線を引く。弧線文や垂下する沈線文をもつ。

b種 (263・264・345～349)：無文地に8の字状の貼付文をもつもの。

263は口縁部が外傾する。内面調整は丹念であり口縁部は横ナデ、体部は縦ナデである。264は胴が

張り頸部がくびれ口縁が外反する。内面調整は口縁～肩は横ナデ、体部は丹念な縦ナデである。345は口縁が多段、346は折り返し口縁である。347・348は8の字状の貼付文の輪が三連になる。349は器面に擦痕がみられる。

c種 (341)；縄文地に沈線と8の字状貼付文をもつもの。

341はRL縄文地に半截竹管状工具による横線・垂下する蛇行沈線と8の字状貼付文をもつ。

d種 (335)；縄文地に8の字状貼付文をもつもの。

335は口縁に山形隆起部、LR縄文地に8の字状貼付文をもつ。

②大津式に相当するもの (265～271・273・274・350～362・364～368)

口縁の隆起部頂部に刻みをもつもの、条線によって文様を描くもの、クランク文・稲妻文などの沈線文をもつもの、磨消縄文をもつものなど、次の第1類～第4類に分類される。

第1類 (350・351)；無文地に沈線文をもち、口縁の隆起部頂部に刻みをもつもの。

350は胴が張り頸部がわずかにくびれ口縁が緩く外反する。口縁に粘土を貼付し、その口唇を棒状工具により刻んでいる。器面には渦巻文が描かれている。351は頂部が刻まれ、口縁部に曲線的な文様が描かれる。

第2類 (352～357)；条線によって文様を描くもの。

352～357は条線によって文様を描くものである。そのうち、356・357は条線によって文様を描いたのち太い沈線で縁取りされているものである。

第3類 (265～267・269～271・273・375・376)；クランク文・稲妻文などの沈線文をもつもの。

次のa種・b種に細分される。

a種 (265・375・376)；無文地に沈線により文様を描くもの。

265は頸部と胴上部を区画してクランク状沈線文を施す。口縁部と頸部は無文帯となる。375は肩の部分に己の字状沈線文、376は頸部に弧線文をもつ。

b種 (266・267・269～271・273)；縄文地に沈線により文様を描くもの。

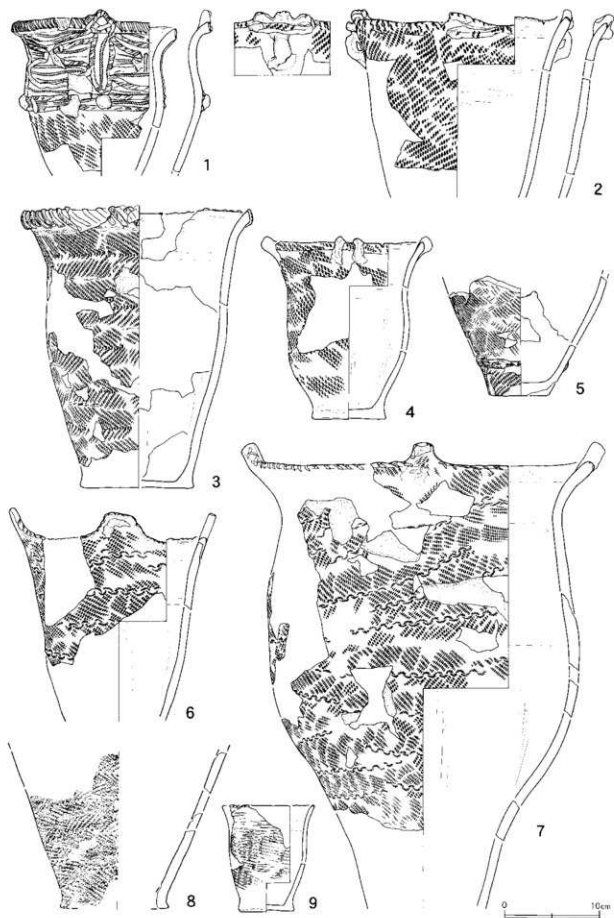
266・267はLR縄文地にクランク文をもつ。部分的に縄文を施し、沈線で区画して磨消縄文風の文様を描く。269は胴上部にLR縄文を施し、頸部・肩・胴下部に沈線を引いて区画する。頸部には稲妻文を描く。胴上部には稲妻文を左右対称に施して、その中に斜線で菱形を描く。その文様間の胴下部の区画に接して2本一組の弧線を配する。口縁部・胴下部は無文となる。270は肩、271は胴上部が張り頸部がくびれ口縁部が外反する。いずれもRL縄文地に沈線文をもつ。270は稲妻文をもち、口縁に打ち欠きがある。271は口縁～頸部は無文で、頸部と肩を区画して稲妻文を施す。胴上部の一部では区画よりも下にクランク文がある。273は口縁～胴下部までLR縄文を施し、頸部と肩を区画してクランク文を配する。体部には大小の曲線的な波頭文、ハート形文を描く。

第4類 (268・274・358～362・364～368)；磨消縄文をもつもの。

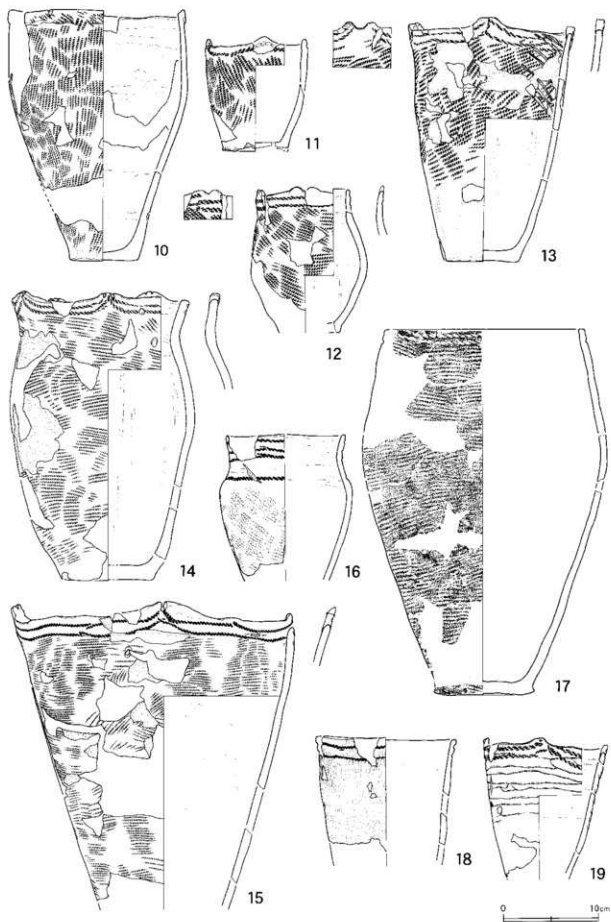
次のa種～c種に細分される。いずれもLR縄文地に磨消縄文をもつ。

a種 (268・358～362)；口縁が無文帯となるもの。

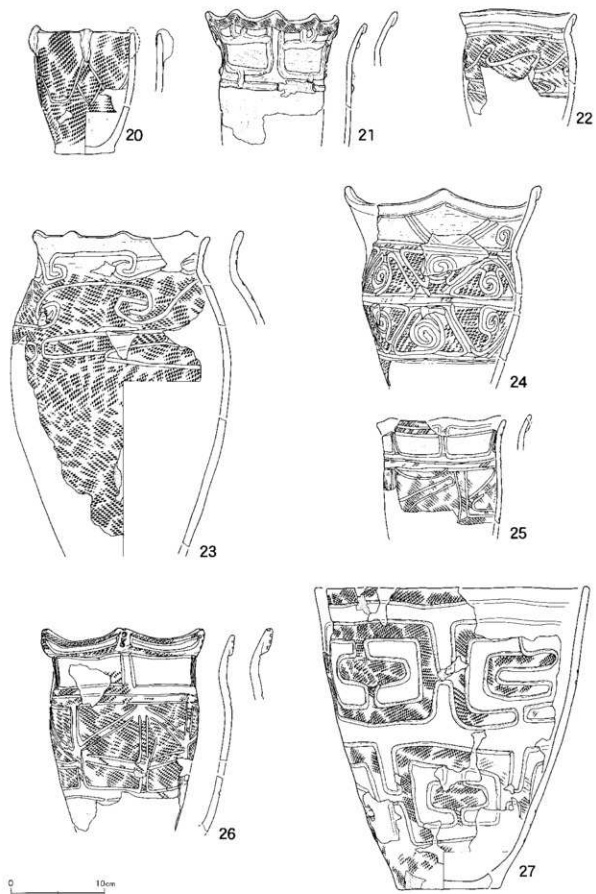
268は頸部・胴上部・胴下部に沈線で区画した文様帯がある。クランク文・天地が入れ子状となった凸の字状沈線文・稲妻文が施文される。358は頸部にクランク文をもつ。359は頸部と胴部が区画されクランク文をもつ文様帯となる。360は体部に曲線的な文様・稲妻文・くの字状文が描かれる。361



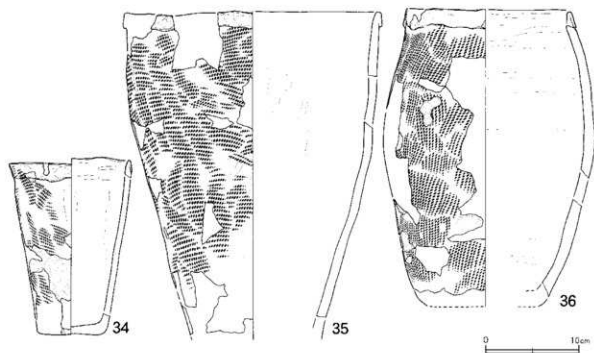
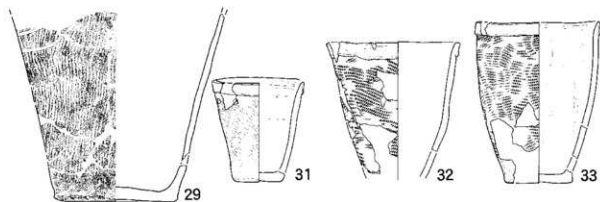
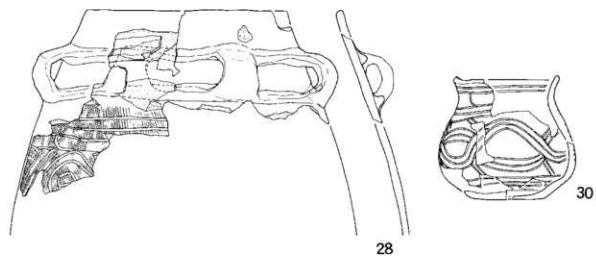
図IV-1 包含層出土の土器(1)



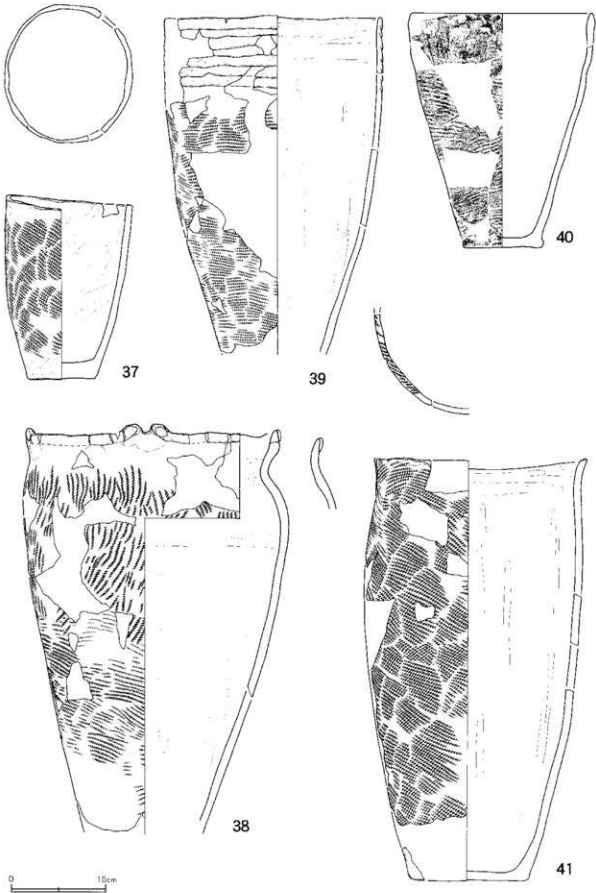
図IV-2 包含層出土の土器（2）



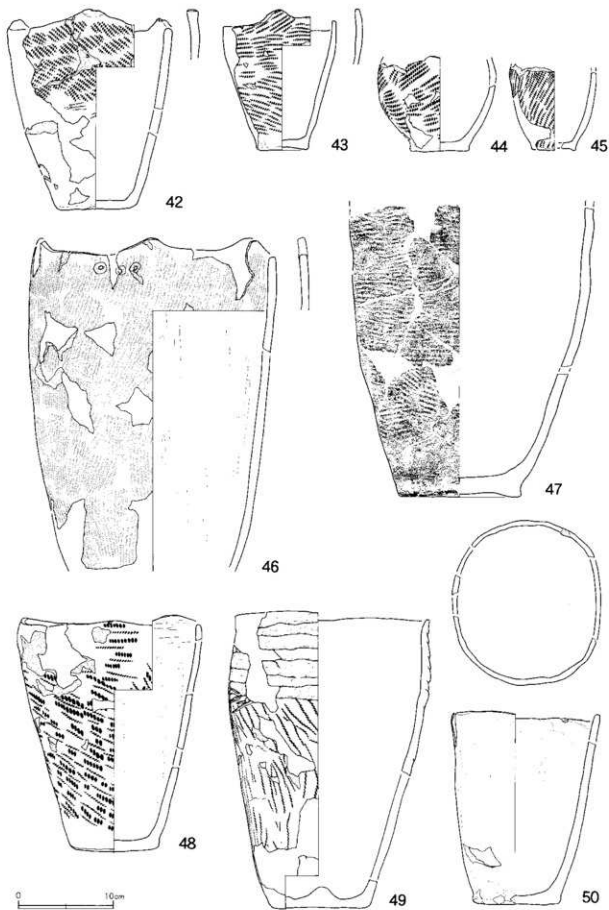
図IV-3 包含層出土の土器(3)



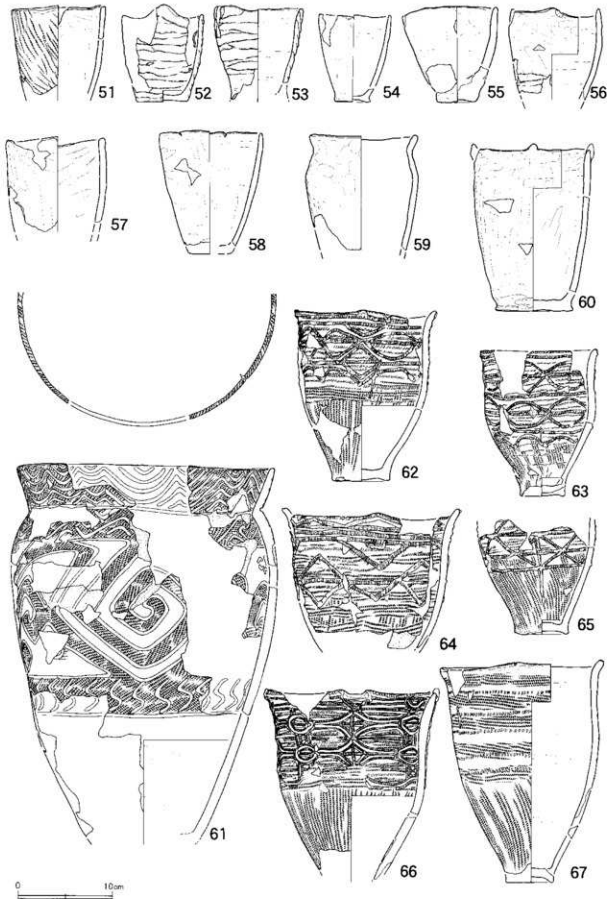
図IV-4 包含層出土の土器(4)



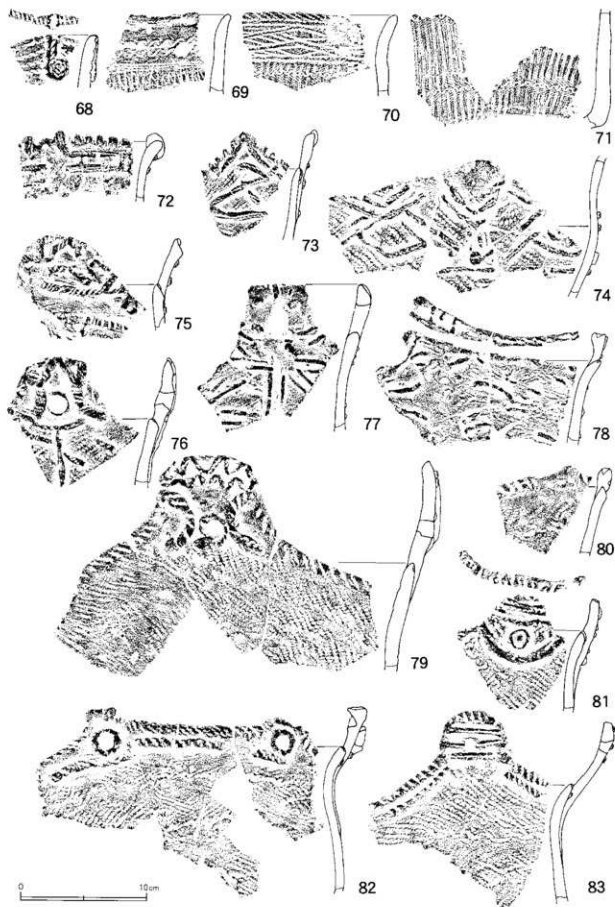
図IV-5 包含層出土の土器(5)



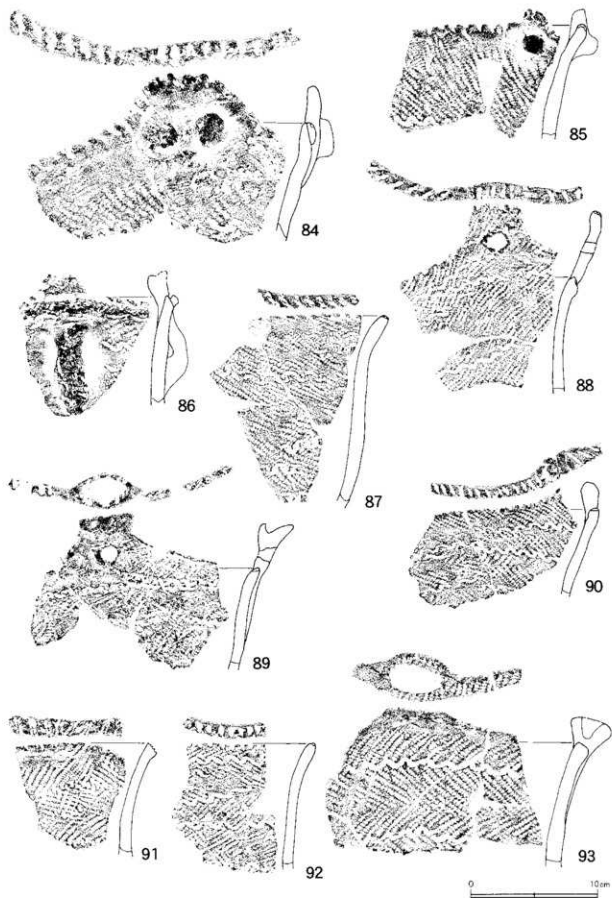
図IV-6 包含層出土の土器(6)



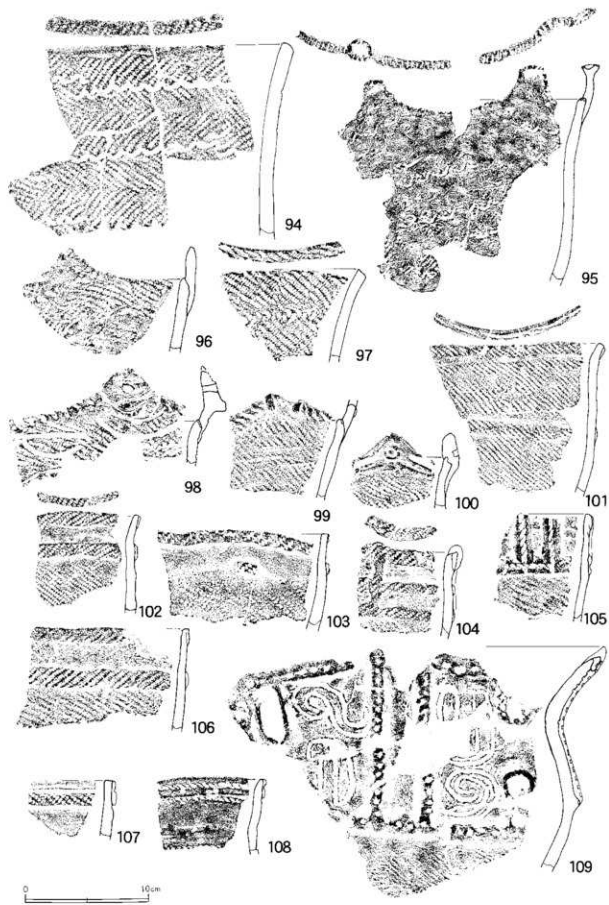
図IV-7 包含層出土の土器 (7)



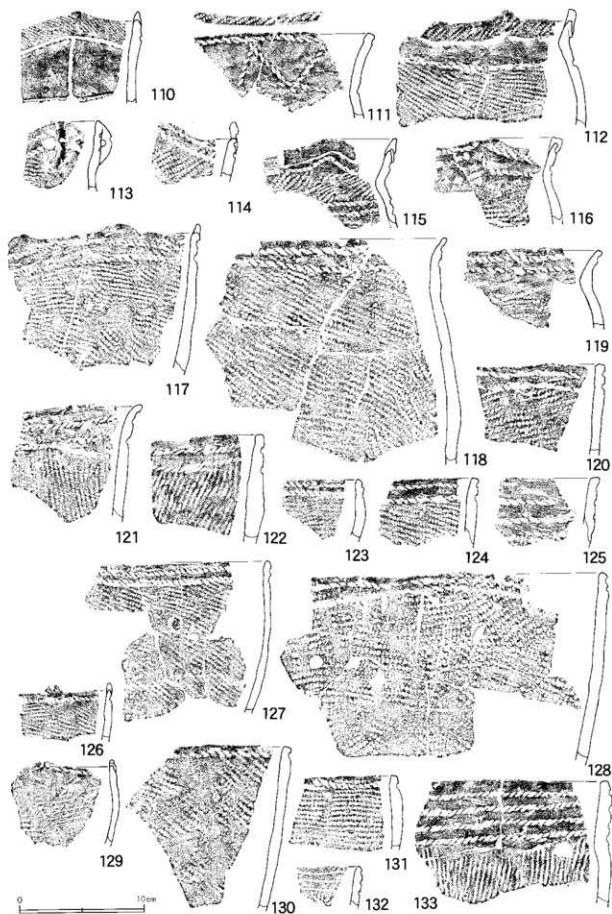
図IV-8 包含層出土の土器 (8)



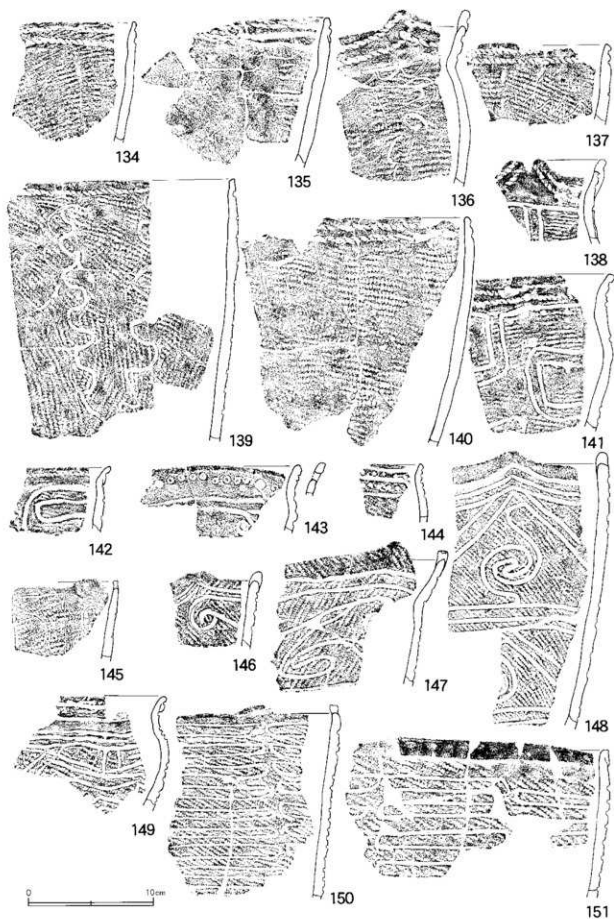
図IV-9 包含層出土の土器(9)



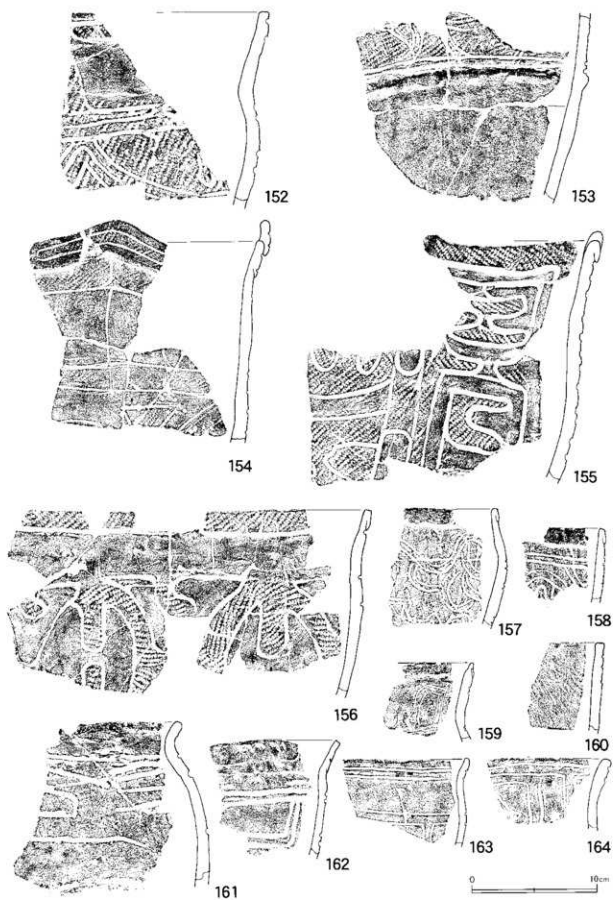
図IV-10 包含層出土の土器 (10)



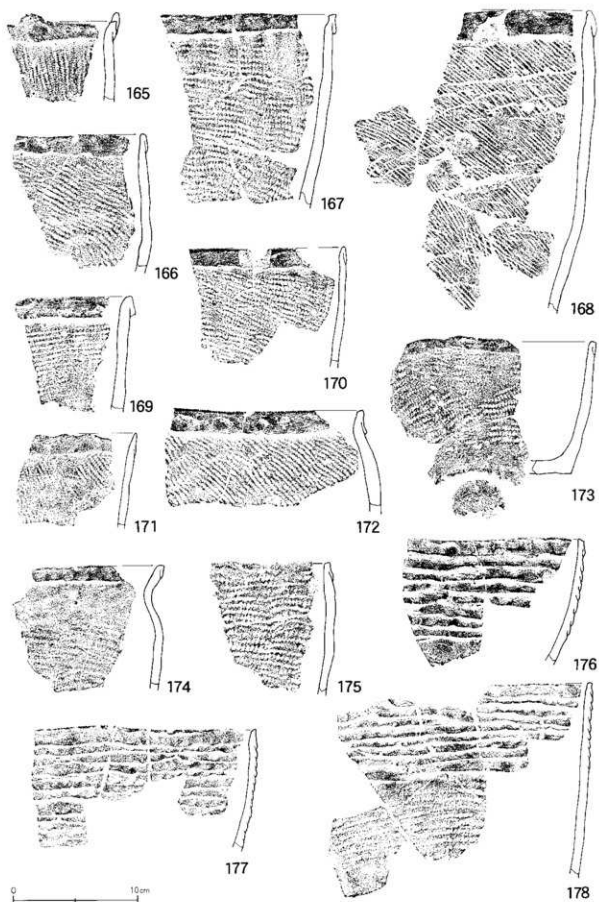
図IV-11 包含層出土の土器 (11)



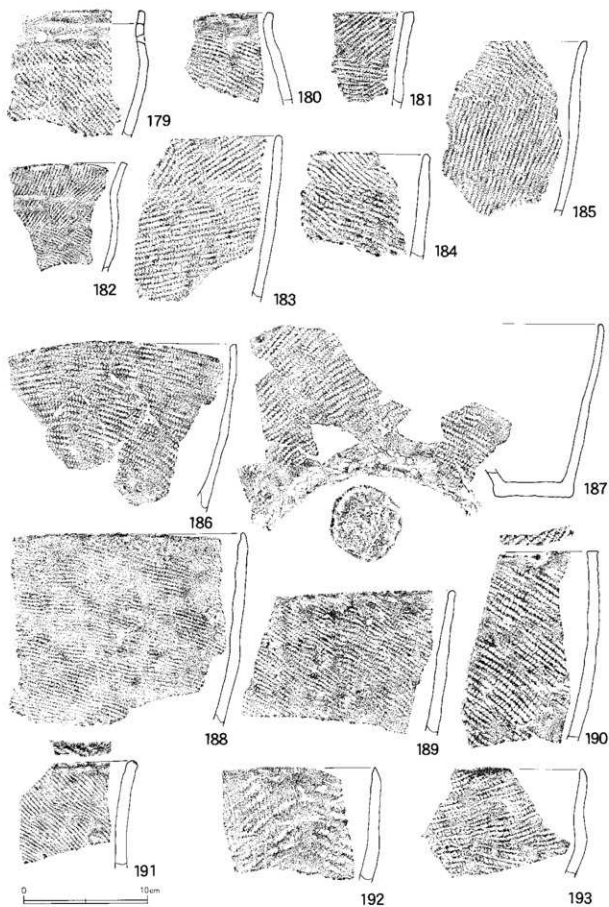
図IV-12 包含層出土の土器 (12)



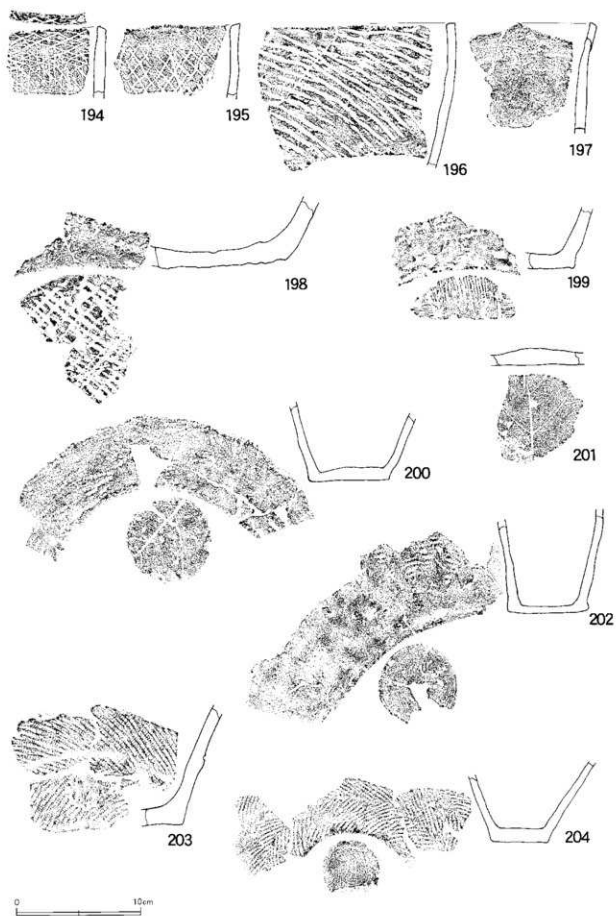
図IV-13 包含層出土の土器 (13)



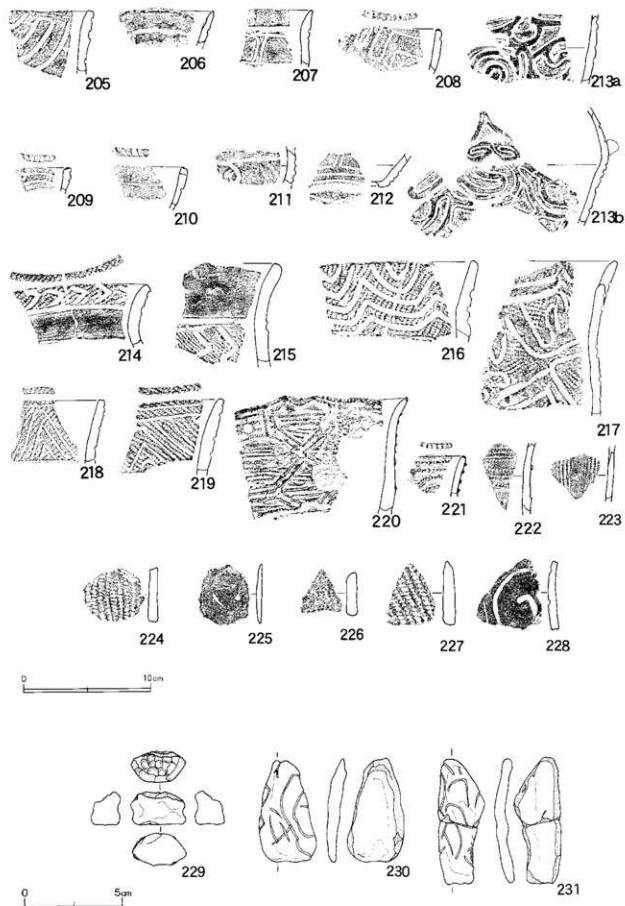
図IV-14 包含層出土の土器 (14)



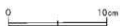
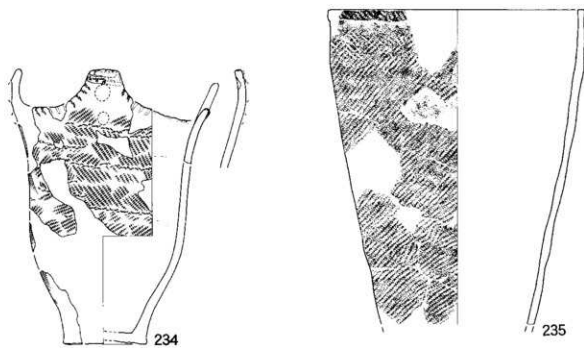
図IV-15 包含層出土の土器 (15)



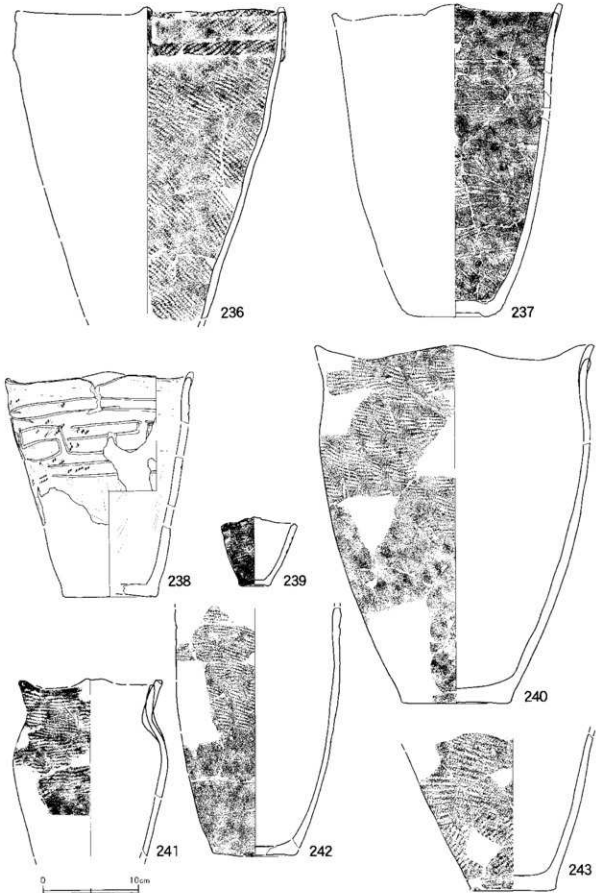
図IV-16 包含層出土の土器 (16)



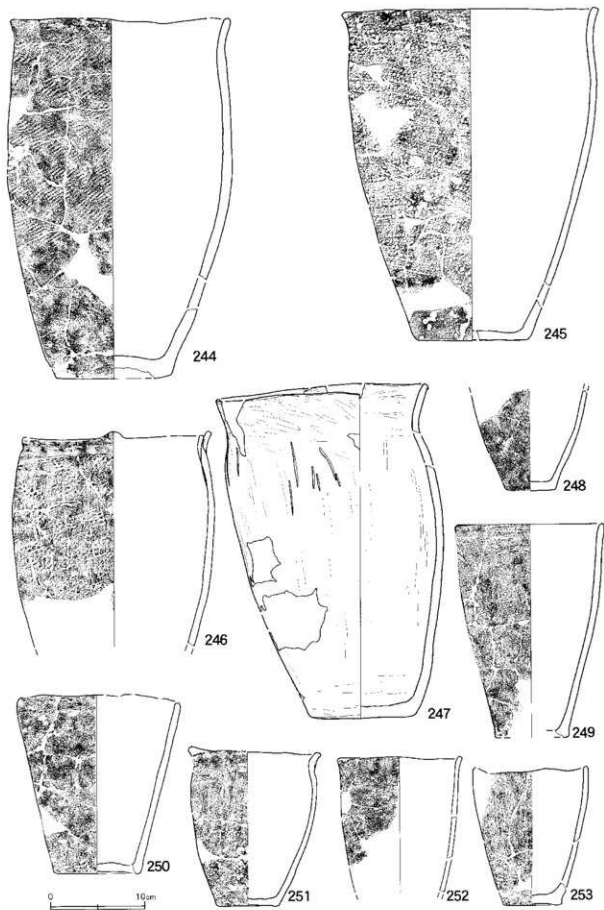
図IV-17 包含層出土の土器 (17)・土製品



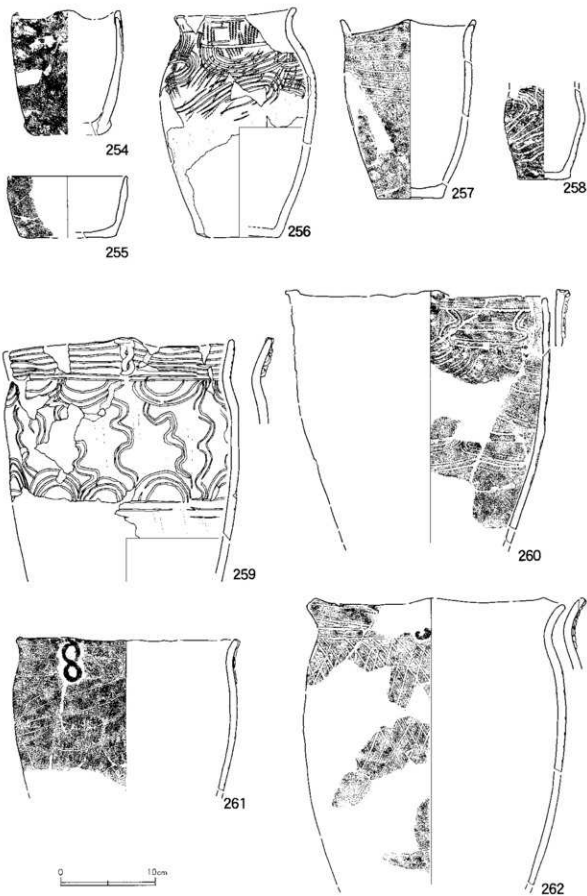
図IV-18 包含層出土の土器 (18)



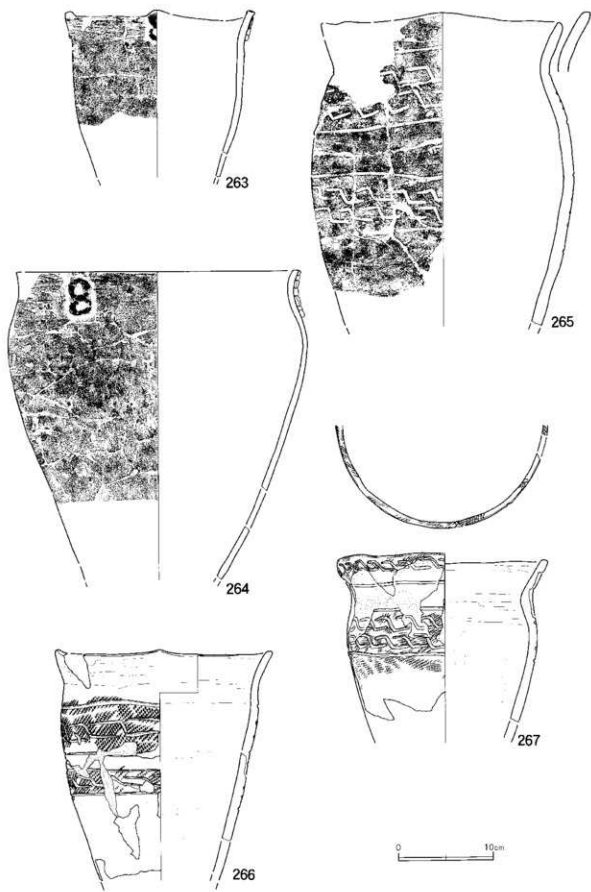
図IV-19 包含層出土の土器 (19)



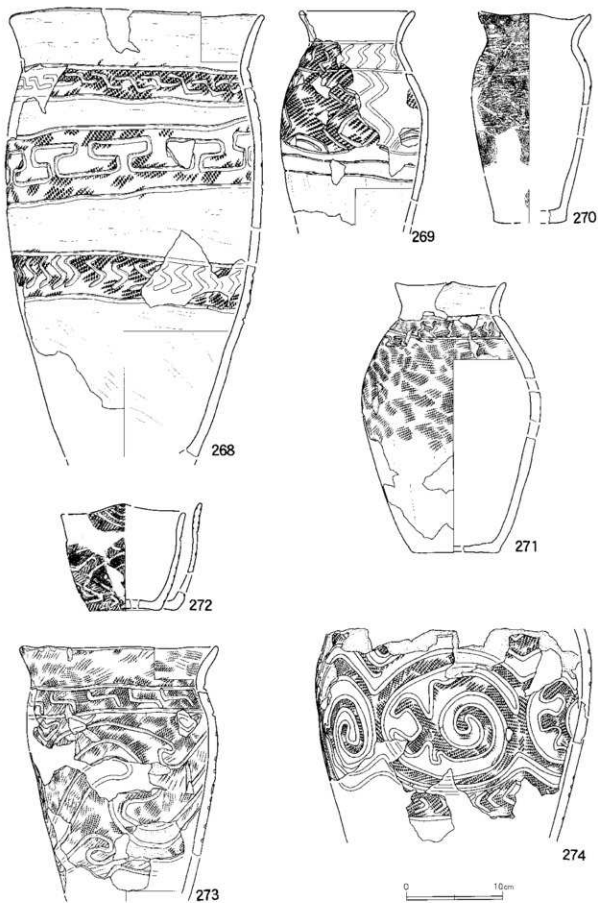
図IV-20 包含層出土の土器 (20)



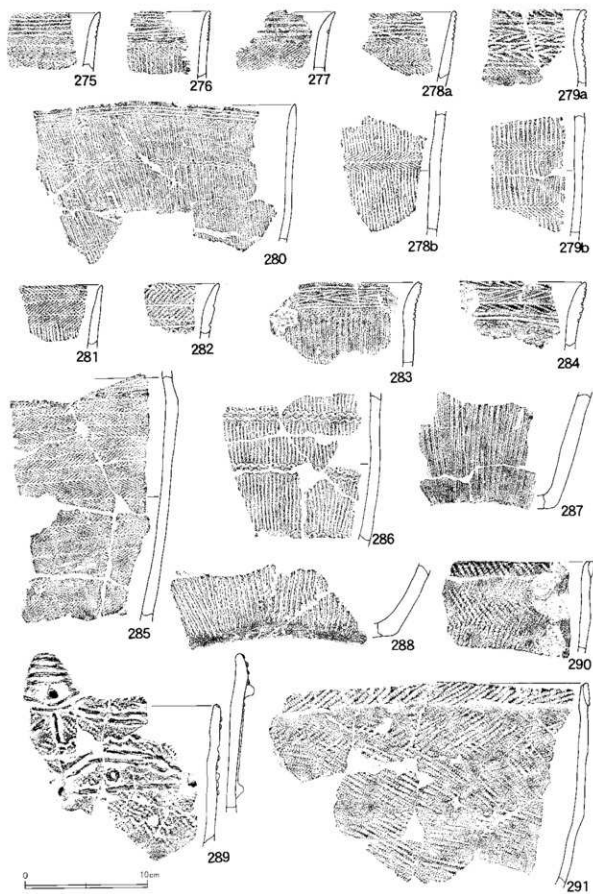
図IV-21 包含層出土の土器 (21)



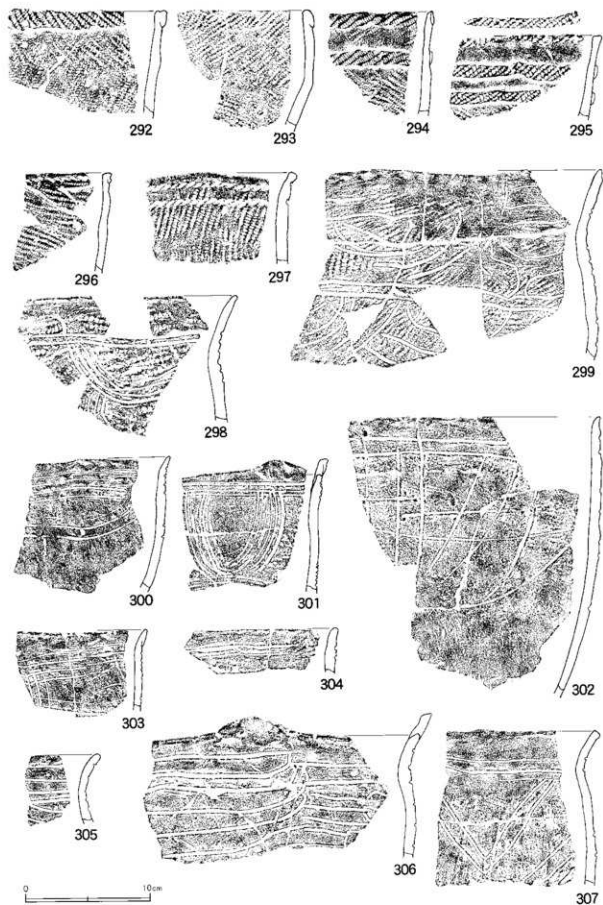
図IV-22 包含層出土の土器 (22)



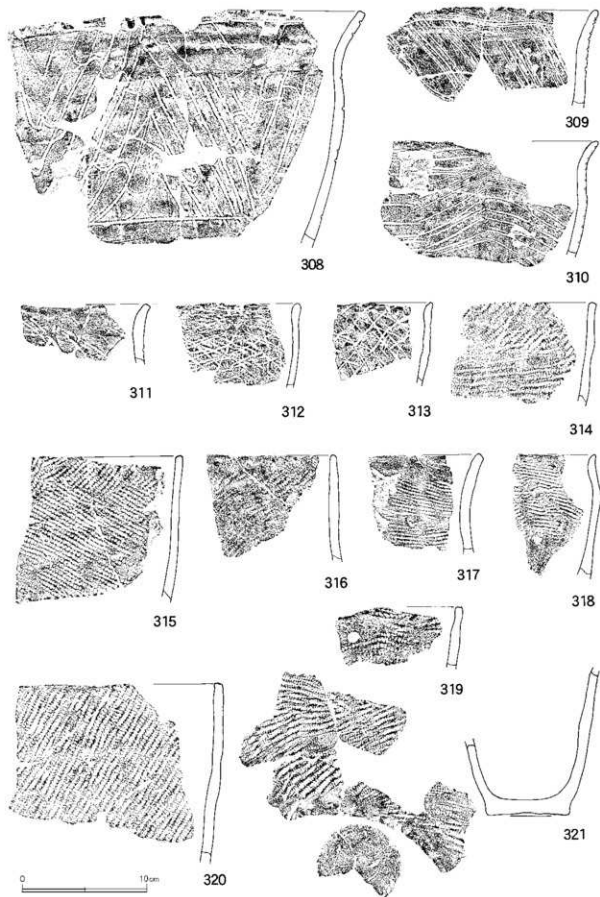
図IV-23 包含層出土の土器 (23)



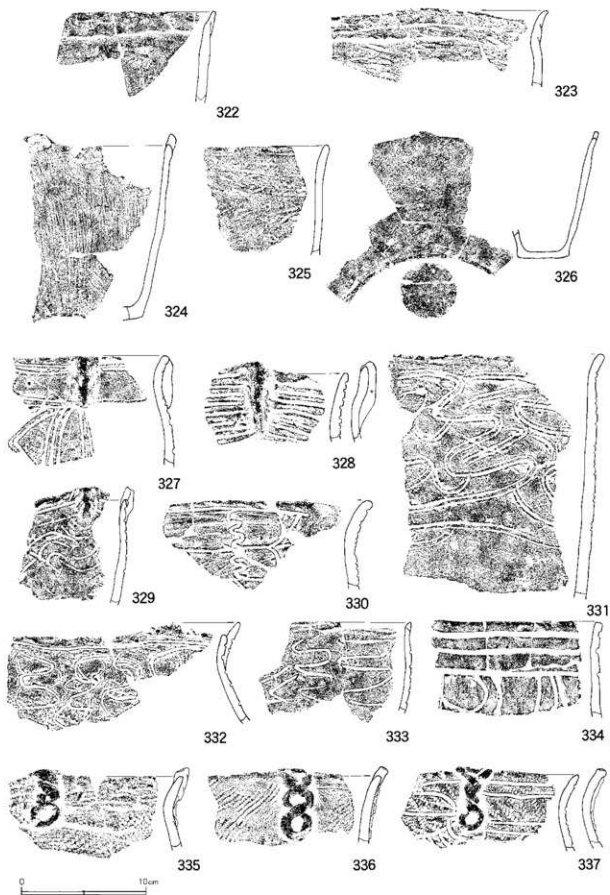
図IV-24 包含層出土の土器 (24)



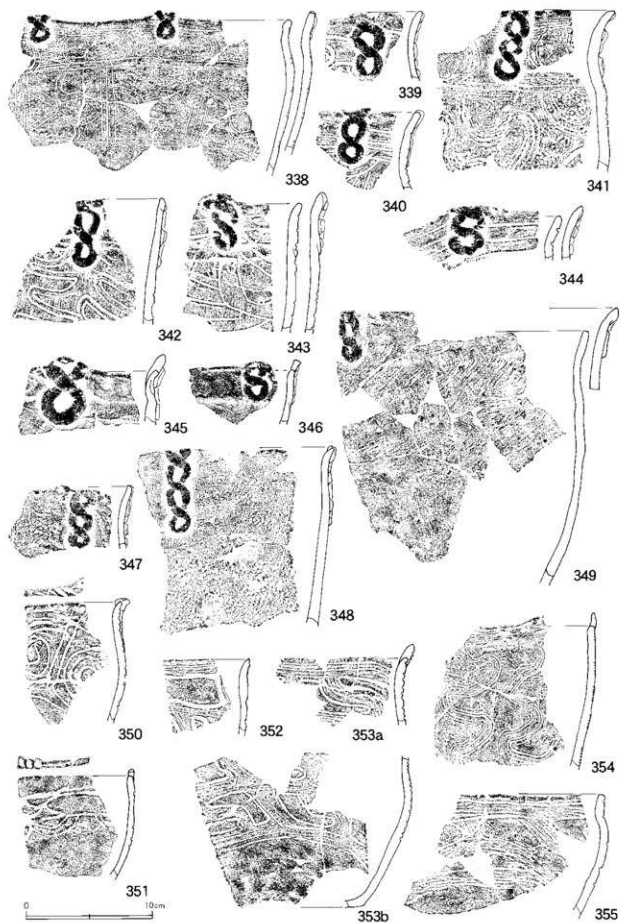
図IV-25 包含層出土の土器 (25)



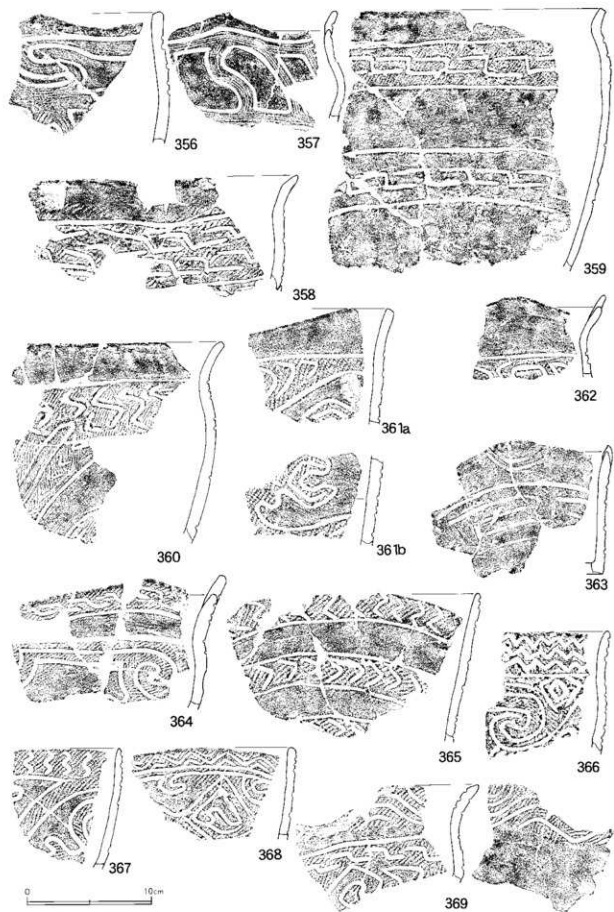
図IV-26 包含層出土の土器 (26)



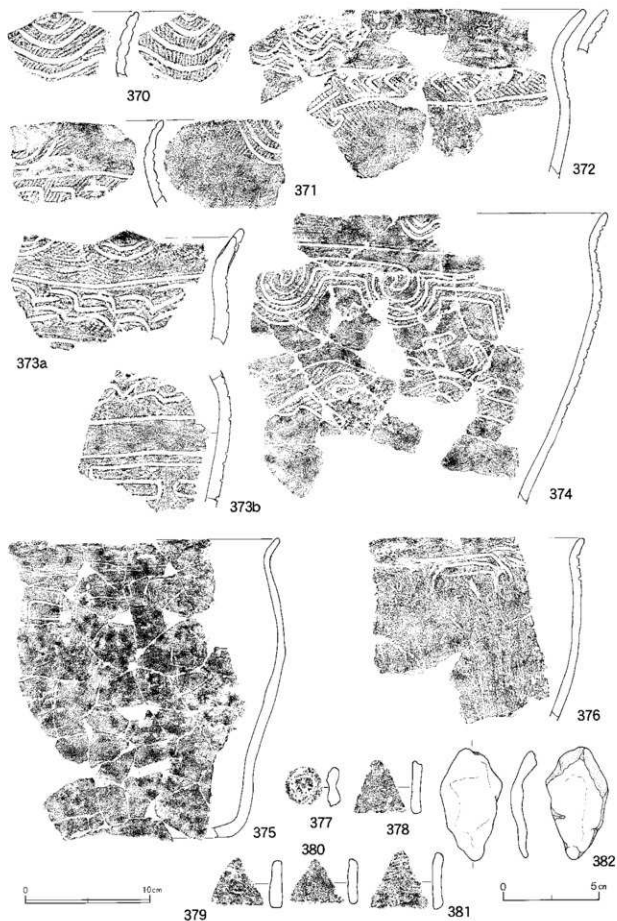
図IV-27 包含層出土の土器 (27)



図IV-28 包含層出土の土器 (28)



図IV-29 包含層出土の土器 (29)



図IV-30 包含層出土の土器 (30)・土製品

はカニのハサミ状文様・逆くの字状文をもつ。362は頸部に区画文をもつ。

b種 (364~368)；縄文地の口縁にクランク文・稲妻文・鋸歯状文をもつもの。

364は口縁にクランク文、体部に渦巻文をもつ。365は口縁に稲妻文、口縁部・頸部に逆くの字状文をもつ。366は頸部が沈線で区画され、口縁部に鋸歯状文、体部に渦巻文・菱形文が描かれる。367は稲妻文とカニのハサミ状文様をもつ。368には鋸歯状文と曲線的な文様が描かれる。

c種 (274)；渦巻文・カニのハサミ状の文様が描かれるもの。

274は LR 縄文地に磨消技法により渦巻文とカニのハサミ状文様が描かれ、胴下部に逆くの字状文をもつ。

③白坂3式に相当するもの (272・363・369~374)

272は口縁に山形隆起部を2か所もつ。363は無文地に沈線により、口縁頂部に半円状の多重弧状沈線文、口縁部に己の字状文が描かれる。369~371は口縁内面にも半円状の多重弧状沈線文をもつ。372はくの字・逆くの字状文、波頭文が描かれる。373は頸部・肩にクランク文、胴部に天地入れ子になった凸字状文をもつ。374は肩に渦巻文、胴部に波頭文をもつ。

土製品 (図IV-30-377~382、写真図版65)

377は円形土製円板である。表裏両面の中央が凹む。378~381は三角形土製品である。378~380は無文、381には RL 縄文が認められる。377・378は D 地区から出土した。382は鐔形土製品である。

(録田)

2 石器・石製品

石槍またはナイフ (図IV-31-1~3、写真図版66)

1・3は両面に剥離調整が施されている。1は先端が破損した後に再加工が施されている。2は背面にのみ全面に加工が施され、腹面は周縁のみが剥離調整されている。3は石鏃の可能性もある。先端を若干欠損している。石材は、1・3は黒曜石、2は頁岩である。

石鏃 (図IV-31-32-4~45、写真図版66)

4~6は平面形が二等辺三角形のものである。4・5は底辺が平坦(平基)で、6は底辺が内湾している(凹基)。4は底辺の一端に欠損が見られる。

7~11は平面形が木の葉形、柳葉形、菱形のものである。7は下端を8・10は先端を、11は上下両端を欠損している。9は先端部側の両側縁が若干内湾し、尖頭部の調整が細かく入念である。

12~20は有茎でカエシ部分が不明瞭なものである。14は柳葉形の基部に茎部が作り出されているが、茎部分は欠損している。二次加工の剥離調整は周縁のみ施されている。茎部の根本部分周辺にアスファルト様の物質が付着している。15は先端を、16は上下両端を欠いている。17~20は基部の横断面が厚い凸レンズ状である。

21~45は有茎でカエシが明瞭なものである。体部の平面形は三角形である。34・38・40は凹基で、体部の厚みが均一で薄手であり、両面の調整が入念である。基部側縁の形状が直線ではなく、緩やかに外湾する。44は基部側縁が若干内湾する。21・22・25・28・32・40・45には茎部と根本周辺にアスファルト様物質の付着が見られる。

掲載品の石材は4・5・7・9・12・30・35・37が黒曜石、13が片岩、20が安山岩、21・24~27・31・44・45はめのう、33は鉄石英、それ以外は頁岩である。

石 錐 (図Ⅳ-32-46~50、写真図版66)

46・47は持ち手部分がない細長い棒状タイプで、上下の両尖端部が錐部となるものである。48~50は持ち手があり、錐部が突出して作り出されているタイプである。掲載品の石材はすべて頁岩である。

つまみ付きナイフ (図Ⅳ-32-51~60、写真図版66)

51~59は縦長剥片、60は横長剥片を素材とする。51はつまみ部分側の周縁が両面調整されている。52と59は素材の上下でみると下側につまみ部が作られている。55はつまみ部が作り出されているのみで、本体に刃部の加工がなく、未製品である。掲載品の石材はすべて頁岩である。

スクレイパー (図Ⅳ-33-34-61~79、写真図版66・67)

61は急角度の刃部を持つ。62・77・79は横長の素材を利用している。63は両面を調整している。石材は68と75が安山岩、74・77がめのう、それ以外は頁岩である。

石 斧 (図Ⅳ-34-36-80~96、写真図版67・68)

80は擦り切り整形後全面研磨し、調整されている。偏刃である。81は素材の形状をそのまま生かして全体の研磨のみで整形している。円刃である。82は敲打調整による整形の後、全体を研磨して仕上げている。刃部平面は緩やかに湾曲する。83は基端部分に敲打調整痕が残る。基端の平面は基部の長軸に対し傾いている。全体に研磨して仕上げている。偏刃である。84は打ち欠きによる整形後全体を研磨している。平刃である。85は全体の研磨調整が入念である。刃部は1/3ほどが破損している。86は打ち欠き・敲打による整形後、全体を研磨している。偏刃である。87は打ち欠き整形の後、全体を入念に研磨している。偏刃である。基部上端もよく磨かれ、刃部様に整形されている。88は打ち欠きによる大まかな整形の後、部分的に研磨している。刃部は基部に対して幅が狭く平刃で、石のみ様に作られている。89は全体に入念な研磨が施されている。刃部に最大幅を有する撥形である。刃部平面は直線的である。90は打ち欠き整形後、全体を研磨している。やや偏刃である。91は敲打調整による整形の後、研磨で仕上げている。横断面は厚みのある楕円形である。刃部平面は若干湾曲している。92は細長い礫の素材をそのまま利用し、刃部周辺のみを研磨している。偏刃である。93は2点が接合したものである。敲打・打ち欠き整形の後、全体を研磨している。やや偏刃である。94は敲打調整の後、全体を研磨している。刃部は破損している。横断面が楕円形で厚みのあるタイプである。95・96は刃部が最も幅が広い、撥形である。95は全体を入念に研磨している。若干の敲打調整痕が残る。96は全体を打ち欠きにより整形後、研磨して仕上げている。どちらも刃部は破損している。

石材は88・92~94が片岩、91が砂岩である。84は一次整理段階では片岩とされていたが、従来蛇紋岩と呼ばれていたものである。「蛇紋岩」という石材分類については、倉知川遺跡から出土した石斧の考察(北理調報196)によると、再考を必要とするもので、表には「？」を付した。

たつき石 (図Ⅳ-36-97・98、写真図版68)

97は楕円礫の長軸上の両端を使用している。98は扁平な礫の広い面両面、長軸に平行する両側縁、4面を使用する。広い面の使用痕は凹んでいる。石材は2点とも安山岩である。

扁平打製石器 (図Ⅳ-37-39-99~112、写真図版68・69)

掲載した14点の石材はすべて安山岩である。99~104は機能部分が刃部状で、機能部の短軸の断面がV字形に近いものである。99・100・102・104は素材の周縁を打ち欠いて整形している。101は機能部周辺の縁辺部と、それに対峙する縁辺部を打ち欠いている。機能部は未使用である。103は素材

長軸上の一端を欠損している。周縁の打ち欠き調整中に破損したと思われる。

105～110は機能部分がすり面状に平坦になっている部分を持つものである。105・106・108・110～112は打ち欠きによる周縁加工がほぼ素材を一周する。107は機能面付近と長軸上の一端、片面の広い範囲を打ち欠いている。109は機能部付近と長軸上の両端に打ち欠きが見られる。110は機能面と対峙する縁辺部に敲打調整痕を持つ。また周縁加工された部分は被熱により黒変している。111は素材の切断面が残る縁辺部以外を打ち欠いて整形している。使用痕はなく、未製品あるいは未使用品である。図示した上下が逆の可能性もある。112は機能面に敲打痕を持つ。また110同様、周縁が黒変する。

北海道式石冠（図IV-40～43-113～129、写真図版69・70）

おおかたは素材の途中に鉢巻き状の敲打調整による加工が施されているものが多いが、121・125～129は最もくびれた加工部分が、やや上端寄りに見られる。また113～115・118・120・124・129は、上端部周辺も敲打調整している。とくに124は縁辺に沿って溝状に加工痕が残る。113・116・118・120・123・125・127はすり面が図中の正面もしくは裏面側に傾く。119・121・126・128・129はすり面の縦断面が平坦である。掲載品の石材はすべて安山岩である。

石 鋸（図IV-43-130、写真図版70）

130は未使用の石鋸である。打ち欠きによる調整により、機能部分を刃部状に加工している。石材は安山岩である。

砥 石（図IV-44-131、写真図版70）

131は破損品ではなく、素材のそのままの表裏両面を使用している。図中、表側の砥面は、使用により数本の溝状に凹む。石材は安山岩である。

石 錘（図IV-44-132、写真図版70）

132は扁平な素材の両端を打ち欠いたものである。石材は安山岩である。

加工痕のある礫（図IV-44-133、写真図版70）

133は横長の素材の長軸に沿った片縁辺が打ち欠きによって加工されている。擦痕や敲打痕などの使用痕はない。石材は安山岩である。

石 皿（図IV-44・45-134～136、写真図版70・71）

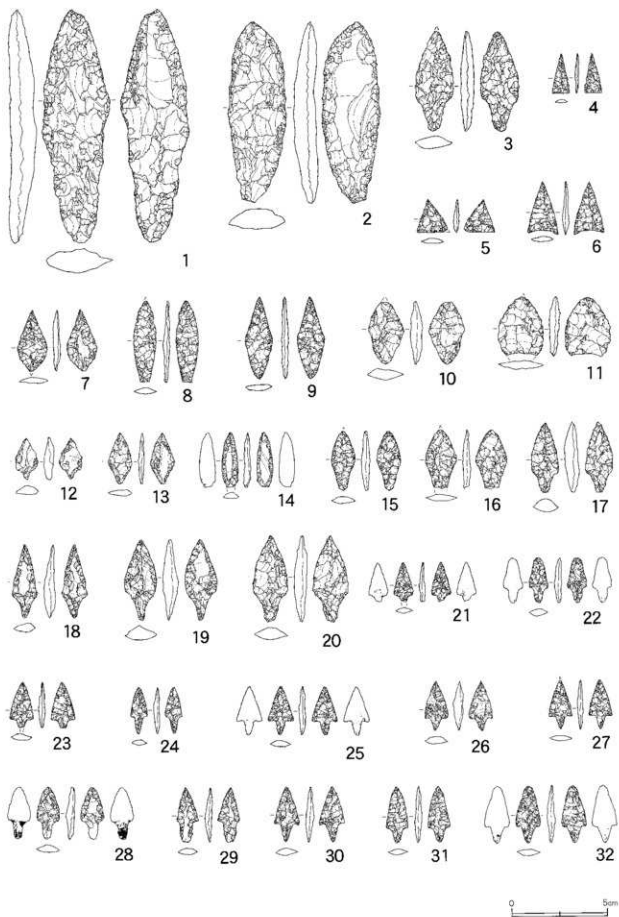
いずれも片面を使用する。すり面は使用頻度により段状に凹んでいる。掲載品の石材はすべて安山岩である。

台 石（図IV-45-137・138、写真図版71）

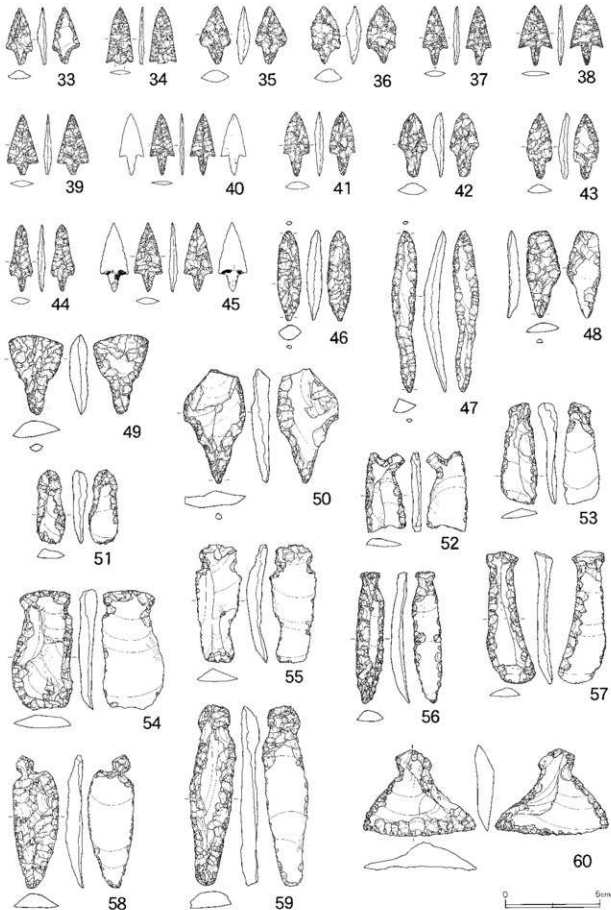
いずれも石材は安山岩で、片面全面を使用している。使用面の断面はゆるやかな凸面になっている。

石製品（図IV-45・46-139～141、写真図版71）

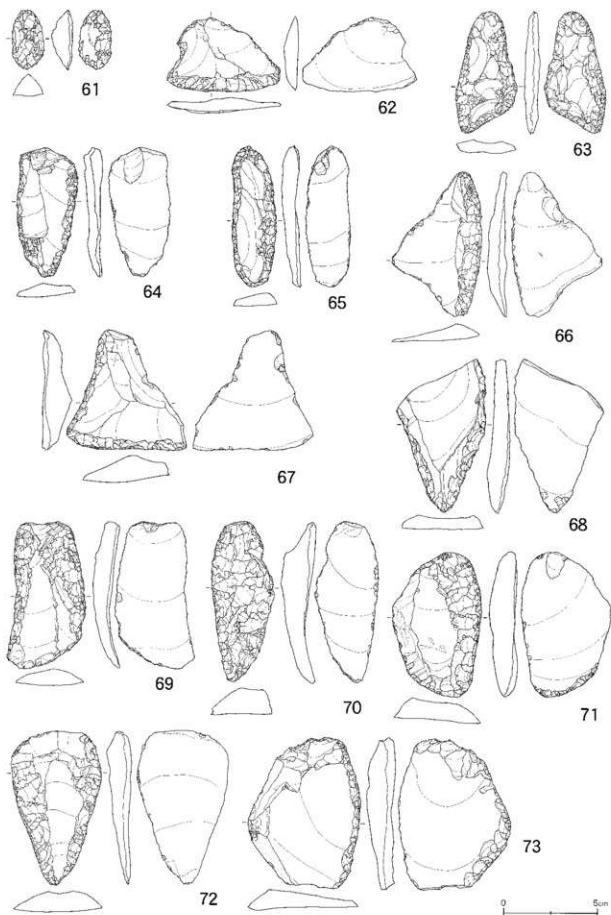
いずれも軽石製品である。139は表面を削って若干加工している。両方向からの尖孔痕がある。貫通はしていない。140は厚みのある円盤を1/4に分割した形の素材を使っている。擦って平らに調整してある二つの面は直角に隣り合わせになっている。141は棒状の細長い素材の長軸に沿う一面を平らに擦って仕上げている。断面はかまぼこ形に近い。素材両端は中程よりもすぼまる。（新家）



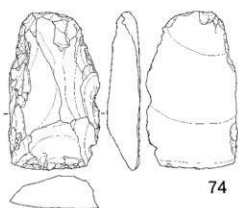
図IV-31 包含層出土の石器 (31)



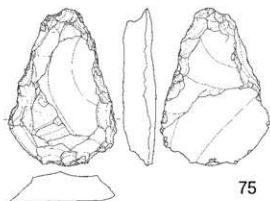
図IV-32 包含層出土の石器 (32)



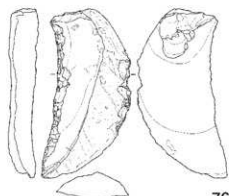
図IV-33 包含層出土の石器 (33)



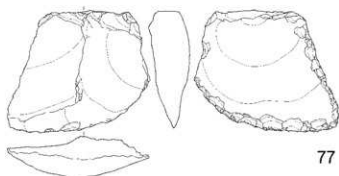
74



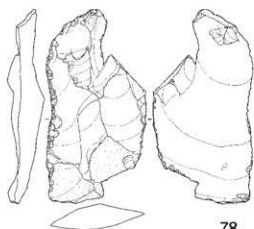
75



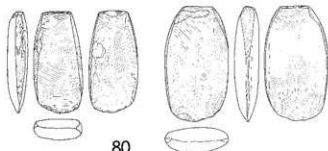
76



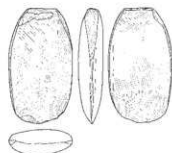
77



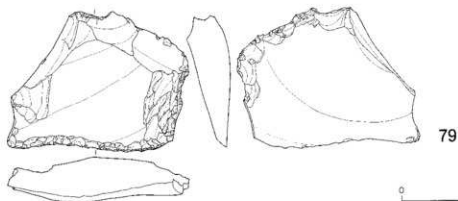
78



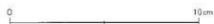
80



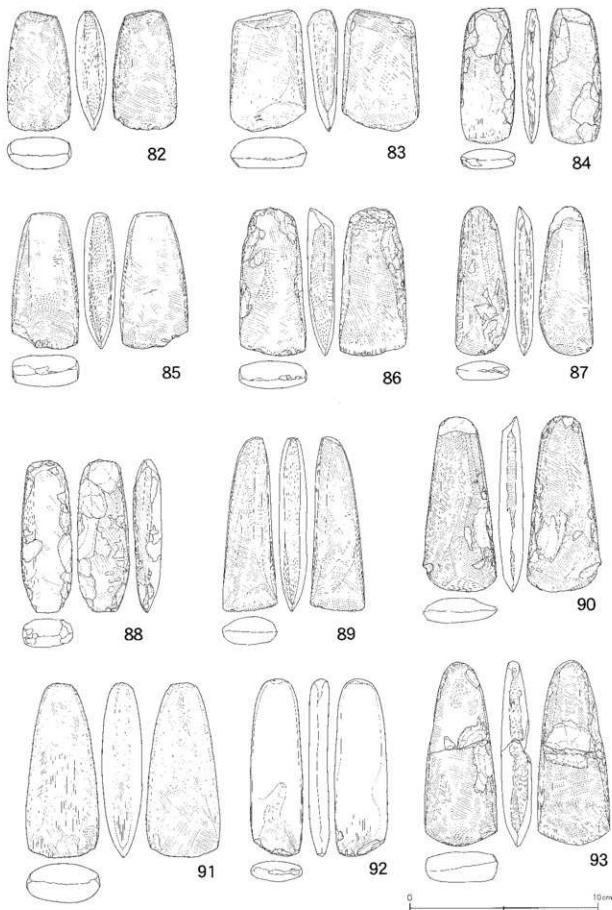
81



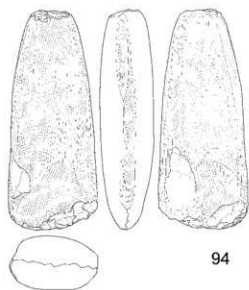
79



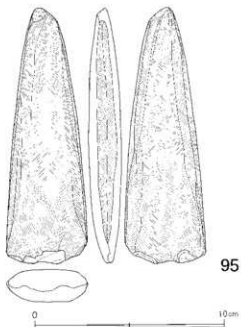
図IV-34 包含層出土の石器 (34)



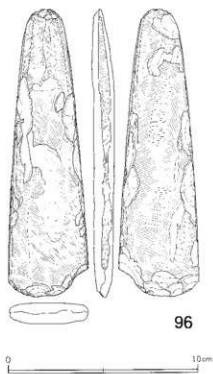
図IV-35 包含層出土の石器 (35)



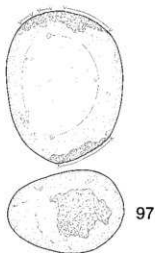
94



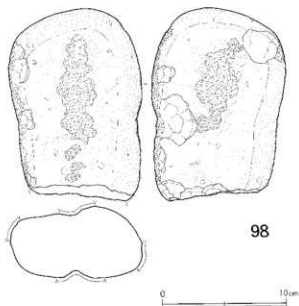
95



96

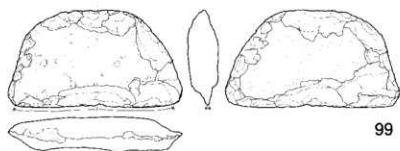


97

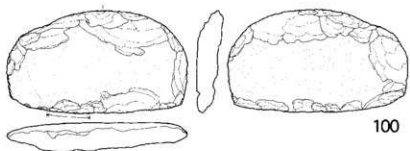


98

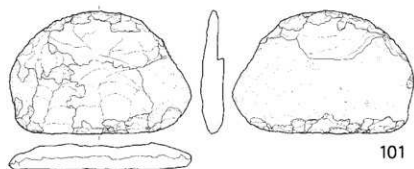
図IV-36 包含層出土の石器 (36)



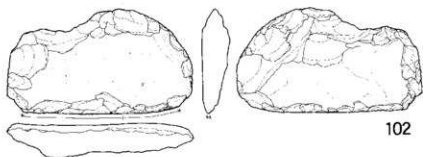
99



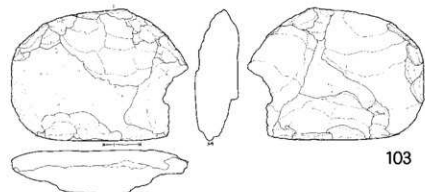
100



101



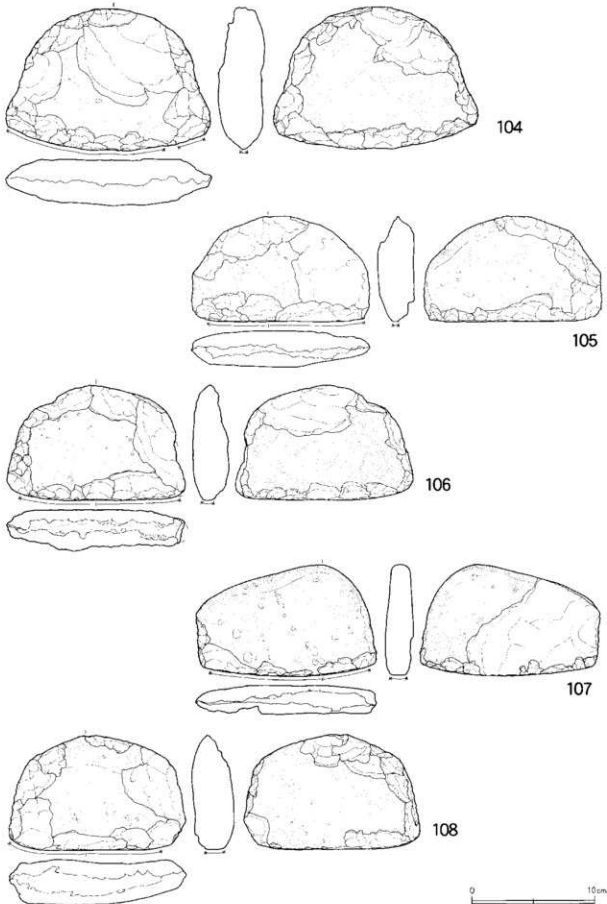
102



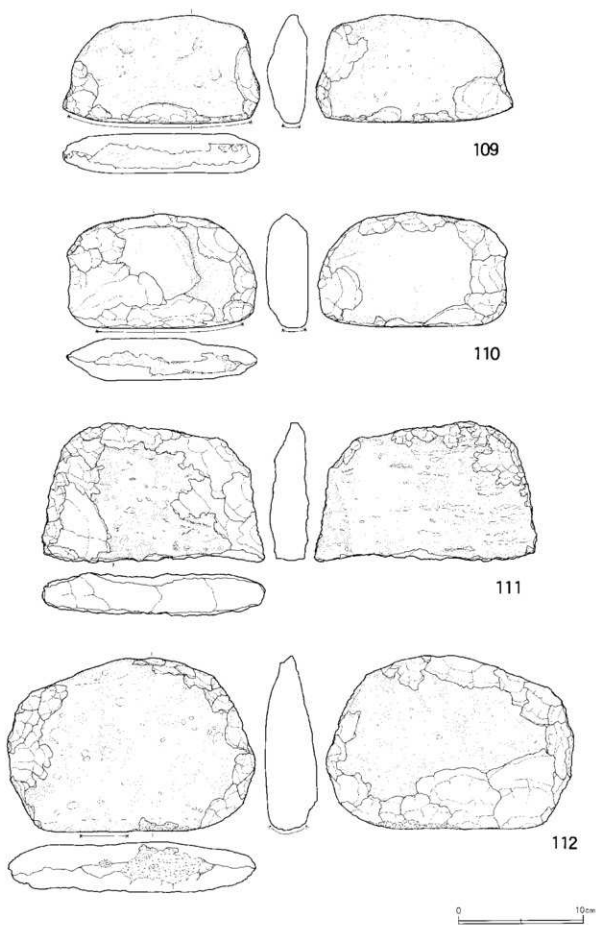
103



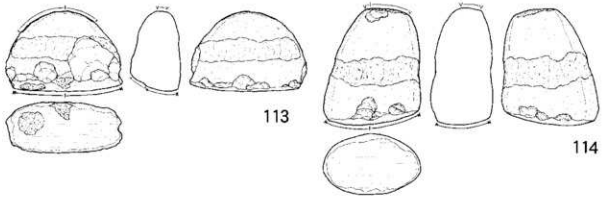
図IV-37 包含層出土の石器 (37)



図IV-38 包含層出土の石器 (38)

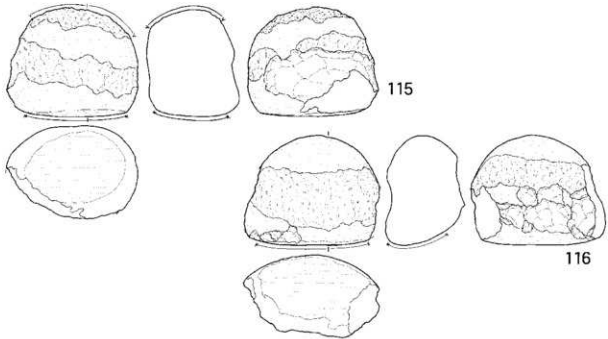


図IV-39 包含層出土の石器 (39)



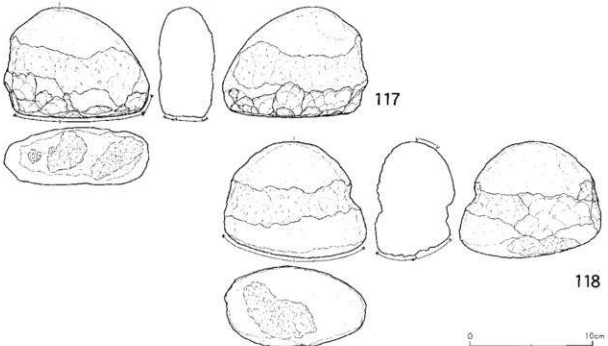
113

114



115

116

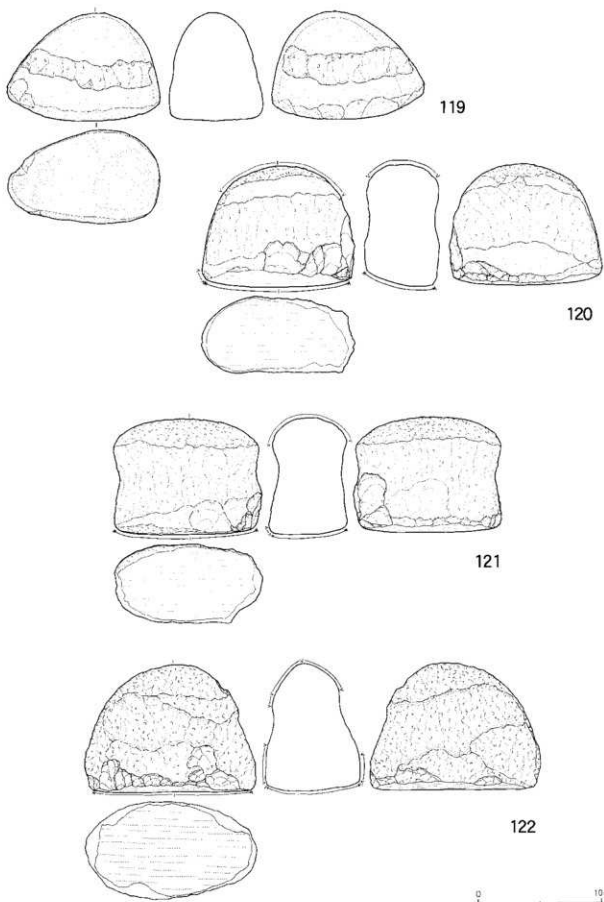


117

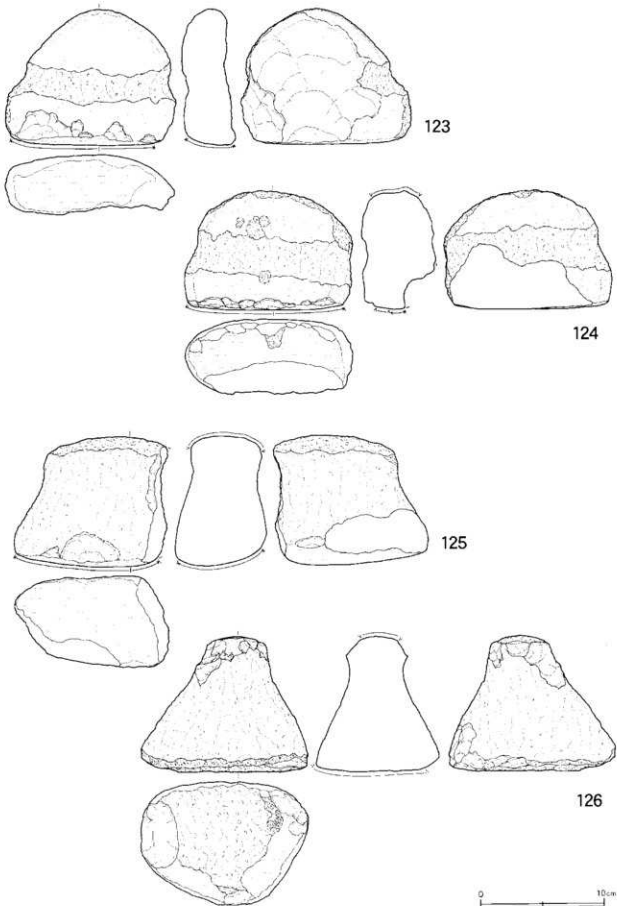
118



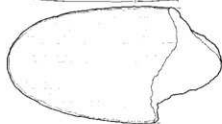
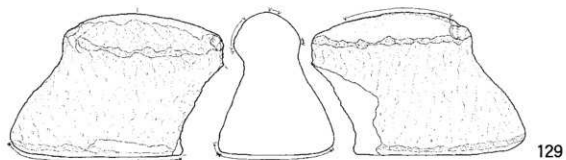
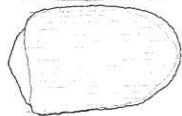
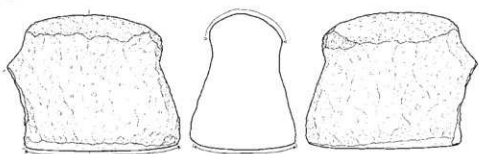
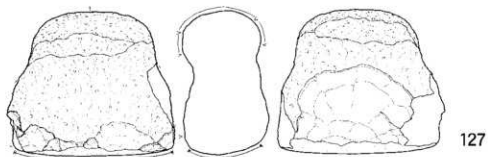
図IV-40 包含層出土の石器 (40)



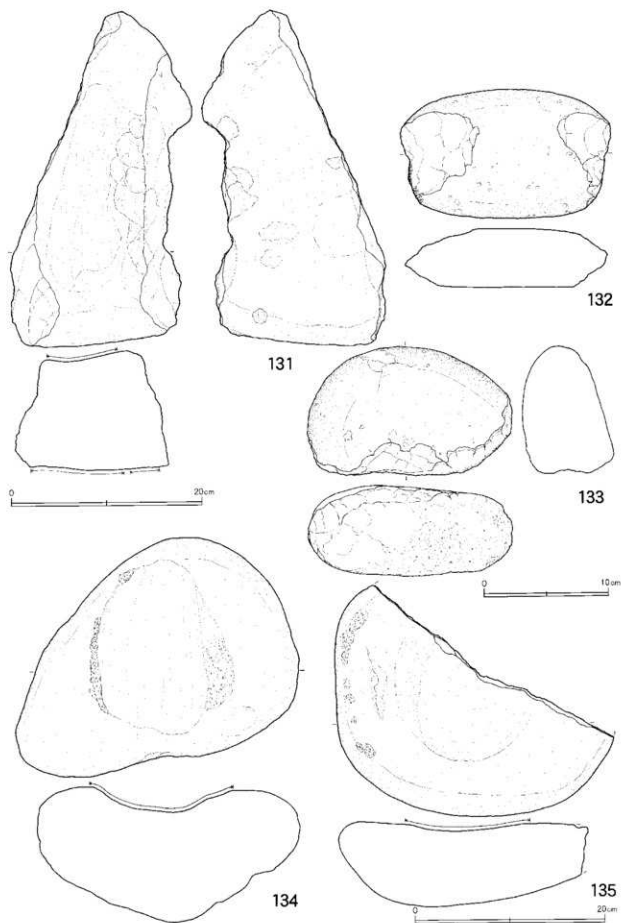
図IV-41 包含層出土の石器 (41)



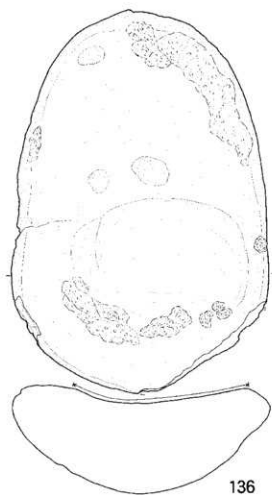
図IV-42 包含層出土の石器 (42)



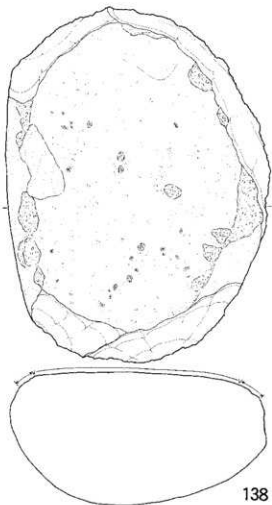
図IV-43 包含層出土の石器 (43)



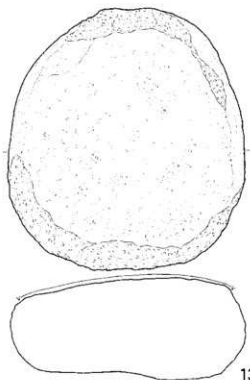
図IV-44 包含層出土の石器 (44)



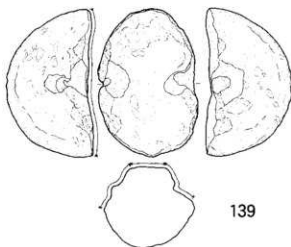
136



138



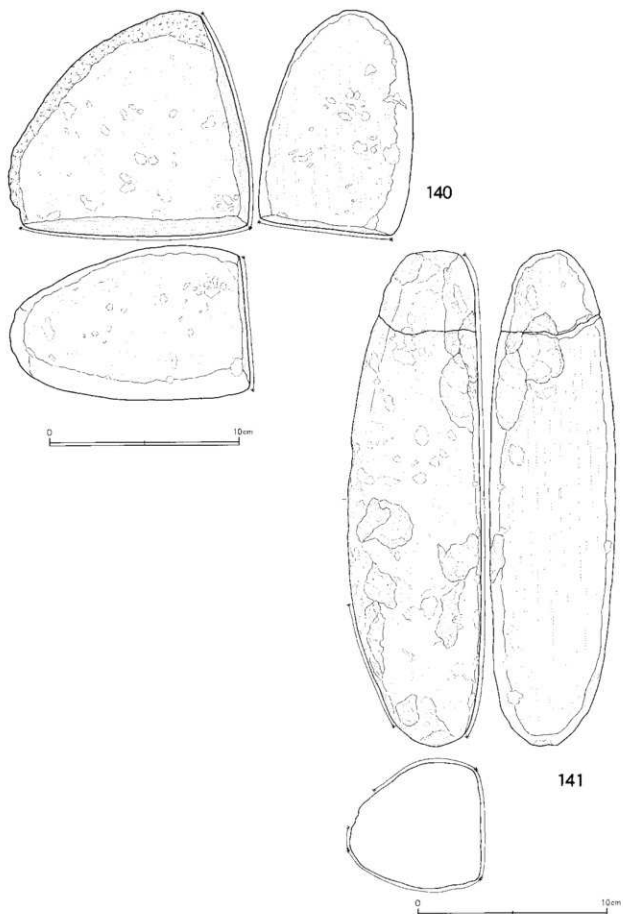
137



139

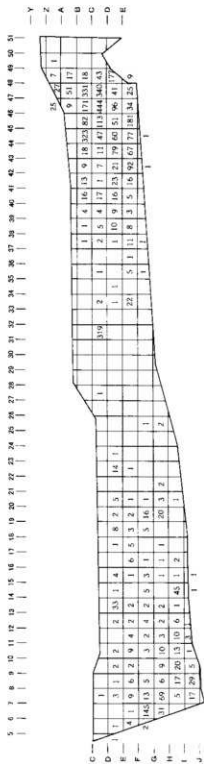


図IV-45 包含層出土の石器(45)・石製品

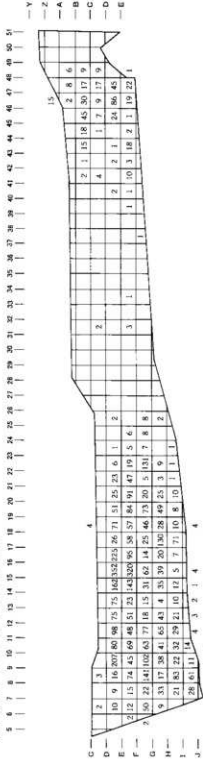


図IV-46 包含層出土の石器(46)・石製品

土層土器土器 計4,335点 (不明19点を含む)



土層土器土器 計5,263点 (不明26点を含む)



図IV-47 包含層出土器分布 (1)

表IV-2 包含層出土掲載土器・土製品一覧

図・掲載 No.	図版 No.	器種・部位	出土位置		点数		時期	計測値 (cm)			備考	
			調査区	層位	小計	合計		非掲載	分類	器高		口径
IV-1-1	32	深鉢	E12	IV	18	23	0	III a	(17.0)	17.4	—	貼付文、内面横・縦ミガキ 海綿骨針
			G14	IV	5							
IV-1-2	32	深鉢	G12	IV	1	18	9	III a	(17.0)	24.0	—	貼付文、内面横・縦ミガキ 海綿骨針
			G17	IV	17							
IV-1-3	32	深鉢	F22	III	37	84	15	III a	(29.8)	24.2	(10.4)	貼付文、内面ミガキ、海綿 骨針
			F22	IV	47							
IV-1-4	32	深鉢	E17・18	IV	4	16	1	III a	18.2	(18.0)	7.8	貼付の小突起、内面ミガキ
			G17	IV	12							
IV-1-5	33	深鉢	G7	IV	28	28	6	III a	—	—	(6.3)	貼付に刺突文
IV-1-6	32	深鉢	D9・10	I・II・IV	11	13	2	III a	(21.6)	(21.7)	—	口唇裾削み、結束第2種、 海綿骨針
			E1	IV	2							
IV-1-7	33	深鉢	D8・9	III・IV	69	71	16	III a	(49.0)	(38.2)	—	口唇裾削み、結束第2種、 内面ミガキ、海綿骨針
			E9	IV	1							
			F10	IV	1							
IV-1-8	33	深鉢	D16	IV	23	23	0	III a	—	—	(11.6)	底部張り出す、ミガキ
IV-1-9	32	深鉢	G11	IV	3	3	0	III a	10.2	(9.7)	5.9	魚骨回転文
IV-2-10	38	深鉢	H8・9	III・IV	22	34	3	IV a	(26.2)	(18.5)	7.2	陸帯、RL、内面横ナデ、 細線
			I8	IV	12							
IV-2-11	36	鉢	H14	IV	7	7	0	IV a	12.2	10.3	7.0	縄線文、LR、角四石
IV-2-12	37	深鉢	G20	IV	24	24	0	IV a	15.3	(9.8)	(6.4)	縄線文、LR、細線
IV-2-13	36	深鉢	H15	III・IV	53	53	4	IV a	25.5	(17.3)	(7.7)	縄線文、LR、珪石
IV-2-14	36	深鉢	F15	IV	55	55	5	IV a	30.2	18.5	(9.4)	縄線文、LR、角四石
IV-2-15	36	深鉢	F15	III・IV	6	78	12	IV a	(31.1)	29.6	—	縄線文、LR、珪石
			G15-17	III・IV	72							
IV-2-16	37	深鉢	G19	III・IV	32	32	2	IV a	(14.7)	(12.5)	—	縄線文、無筋 Lr
			F12	IV	1							
IV-2-17	35	深鉢	G12	III・IV	33	34	26	IV a	38.2	21.0	10.6	LR縄線地に縄線文
			F1	IV	17							
IV-2-18	36	深鉢	F11	IV	17	17	7	IV a	—	14.7	—	無筋 R1 縄線文
IV-2-19	36	深鉢	D16	IV	10	11	1	IV a	(14.4)	(12.9)	—	多段、無文地に縄線文、細 線、角四石
			E16	IV	1							
IV-3-20	35	深鉢	H17	III・IV	9	9	0	IV a	13.7	(11.4)	6.3	LR、沈線文、貼付文
IV-3-21	35	深鉢	G19	III・IV	14	18	1	IV a	(14.2)	14.1	—	無文地に貼付文、口径 RL 海綿骨針
			H19	III・IV	4							
IV-3-22	33	深鉢	F18・19	IV	6	6	2	IV a	(11.3)	(12.5)	—	LR縄線地に沈線文
IV-3-23	33	甕	F18	IV	37	37	1	IV a	(34.9)	(18.8)	—	LR縄線地に沈線文
IV-3-24	34	深鉢	C7	IV	1	26	1	IV a	(21.3)	(21.0)	—	0段多条 (LRL) に沈線 文、内面丹念な横ナデ、胎 土に砂と微量のバミス・海 綿骨針・珪石
			D19	IV	1							
			E7・8	III	2							
			F14	III・IV	17							
			G11・13・14	IV	3							
IV-3-25	34	深鉢	H11・12	IV	2	7	1	IV a	(11.7)	(13.8)	—	LR縄線地に沈線文、内面 丹念な横ナデ、珪石・細線
			D16	IV	1							
			F16	III・IV	4							
IV-3-26	34	深鉢	H13・14	III・IV	2	13	3	IV a	(22.6)	17.4	—	LR縄線地に沈線文、内面 丹念ナデ、微量細線・珪石
			E18	III・IV	11							
			F18	IV	1							
IV-3-27	35	深鉢	H14	IV	1	63	6	IV a	32.2	(29.2)	(10.8)	LR、磨消縄文
			H20	IV	63							
IV-4-28	34	甕	D13・17・18	III・IV	5	43	17	IV a	(24.0)	(21.5)	—	最大径 (36.8)、沈線文、 LR、横ナデ、砂多く少量 細線・バミスと微量珪石
			E15-18	III・IV	11							
			F15-17	IV	14							
			G15-17・21	III・IV	13							

図・掲載 No.	図版 No.	器種	出土位置		点 数		時期	計測値 (cm)			備 考		
			調査区	層位	小計	合計		非掲載	分類	器高		口径	底径
Ⅳ-4-29	34	胴-底部	H20	Ⅳ	37	37	2	Ⅳa	—	—	13.2	RL縄文地に沈線文	
Ⅳ-4-30	34	深鉢	H14	Ⅳ	18	18	0	Ⅳa	13.3	(11.3)	7.5	無文地に沈線文	
Ⅳ-4-31	37	深鉢	H19	Ⅲ・Ⅳ	8	8	1	Ⅳa	11.1	9.7	5.2	折返し口縁、無筋	
Ⅳ-4-32	37	深鉢	G14	Ⅳ	41	41	3	Ⅳa	(14.5)	14.3	—	折返し口縁、LR	
Ⅳ-4-33	37	深鉢	F16	Ⅳ	30	30	1	Ⅳa	17.2	(13.5)	7.3	折返し口縁、RL	
Ⅳ-4-34		深鉢	F18	Ⅳ	28	28	8	Ⅳa	18.8	(13.0)	7.2	折返し口縁、RL	
Ⅳ-4-35	37	深鉢	F7・9-12	Ⅲ・Ⅳ	7	60	4	Ⅳa	(34.0)	27.4	—		折返し口縁、LR、内面調整丹念な縦ナデ、胎土にバミス・砂と微量の繊維を含む。
			G7-12	Ⅲ・Ⅳ	20								
			H8-12	Ⅲ・Ⅳ	29								
			I9-11	Ⅲ・Ⅳ	3								
			F13	Ⅲ	1								
Ⅳ-4-36	38	深鉢	G20	Ⅲ・Ⅳ	35	41	12	Ⅳa	(31.8)	(17.6)	(11.5)		折返し口縁、RL、横ナデ微量角四石
			H30	Ⅲ・Ⅳ	6								
Ⅳ-5-37	38	深鉢	F18	Ⅳ	28	28	0	Ⅳa	19.5	14.5	7.0	口縁無文部、LR	
Ⅳ-5-38	39	深鉢	G30・21	Ⅲ・Ⅳ	81	81	7	Ⅳa	(44.9)	26.4	—	口縁無文部、LR	
Ⅳ-5-39	38	深鉢	E18	Ⅲ・Ⅳ	72	72	6	Ⅳa	(35.8)	23.0	—	口縁部多段、RL	
Ⅳ-5-40	39	深鉢	F15	Ⅲ・Ⅳ	8	19	6	Ⅳa	24.6	19.4	8.7		口縁部無文部、無筋、微量の輝石
			G15	Ⅳ	11								
Ⅳ-5-41	39	深鉢	D18・19	Ⅲ・Ⅳ	69	75	12	Ⅳa	44.5	(22.5)	12.8		LR、丹念なナデ、微量の繊維・輝石
			E18	Ⅳ	6								
Ⅳ-6-42	39	深鉢	C6・7	Ⅲ・Ⅳ	14	17	0	Ⅳa	21.0	(17.4)	8.1		RL、横ナデ、繊維と微量の輝石
			D7	Ⅲ	3								
Ⅳ-6-43	40	深鉢	G14	Ⅳ	19	19	0	Ⅳa	14.8	(11.9)	(5.4)	LR、横・縦ナデ	
Ⅳ-6-44	40	深鉢	H7	Ⅳ	20	20	4	Ⅳa	(10.0)	—	6.2	LR、横・縦ナデ	
Ⅳ-6-45	41	深鉢	G9	Ⅳ	4	5	3	Ⅳa	(9.1)	—	(4.7)		LR、内面横ナデ、微量の角四石・石英
			H9	Ⅳ	1								
Ⅳ-6-46	40	深鉢	F18	Ⅳ	51	51	2	Ⅳa	(34.8)	(25.7)	—	無筋 R1 横・縦ナデ	
Ⅳ-6-47	40	深鉢	E16	Ⅳ	39	39	0	Ⅳa	—	—	(12.8)	LR、縦ナデ、繊維	
Ⅳ-6-48	40	深鉢	H20	Ⅳ	67	67	16	Ⅳa	24.8	19.3	9.4	頂部6か所、附加条	
Ⅳ-6-49	38	深鉢	F14	Ⅳ	1	44	13	Ⅳa	31.3	(20.5)	10.6		口縁部多段、体部断余文、内面口縁横・口縁部斜位・体部縦ナデ、胎土にバミス・砂・微量輝石
			G1	Ⅲ・Ⅳ	2								
			H14	Ⅲ・Ⅳ	10								
			I9・14・15	Ⅲ・Ⅳ	31								
Ⅳ-6-50	40	深鉢	F18	Ⅳ	11	11	0	Ⅳa	20.3	17.3	9.2	無文、角四石・輝石	
Ⅳ-7-51	39	深鉢	E15	Ⅳ	5	5	0	Ⅳa	(9.4)	9.9	—	断余文、角四石	
Ⅳ-7-52	42	深鉢	E16	Ⅳ	7	7	2	Ⅳa	10.2	(8.6)	5.3	無文、頂部、多段	
Ⅳ-7-53	42	深鉢	G14	Ⅳ	20	20	0	Ⅳa	(9.8)	9.4	—	無文、多段、輝石	
Ⅳ-7-54	41	深鉢	H20・21	Ⅲ・Ⅳ	13	13	2	Ⅳa	9.2	(7.6)	3.8	無文、海綿骨針	
Ⅳ-7-55	41	深鉢	D19	Ⅳ	6	6	2	Ⅳa	10.1	(9.9)	4.0	無文、角四石	
Ⅳ-7-56	41	深鉢	I5	Ⅳ	11	11	6	Ⅳa	(9.6)	(9.4)	—	無文、頂部、輝石	
Ⅳ-7-57	41	深鉢	E16・17	Ⅳ	6	6	0	Ⅳa	(10.1)	(10.5)	—	無文、角四石	
Ⅳ-7-58	41	深鉢	H19・20	Ⅲ・Ⅳ	20	20	1	Ⅳa	13.1	(10.7)	(4.6)	無文、海綿骨針	
Ⅳ-7-59	41	深鉢	H10	Ⅳ	3	8	3	Ⅳa	(12.2)	10.9	—		無文、多段、バミス・少量砂・微量輝石
			I0	Ⅲ・Ⅳ	5								
Ⅳ-7-60	42	深鉢	E18	Ⅳ	17	17	0	Ⅳa	17.7	(13.0)	(8.1)	無文、角四石・輝石	
Ⅳ-7-61	35	深鉢	G12	Ⅳ	1	102	23	Ⅳa	(39.4)	(27.1)	—		角形の渦巻状磨消縄文、内面調整丹念な横ナデ、胎土に砂・微量の繊維・バミス・海綿骨針
			G・H16	Ⅲ・Ⅳ	86								
			G18	Ⅲ	1								
			H14	Ⅲ・Ⅳ	14								
Ⅳ-7-62	42	深鉢	D14・15	Ⅲ・Ⅳ	22	34	12	Ⅳb	18.1	(15.0)	6.1		貼付文、刻目、内面上半横・下半縦ナデ
			E16	Ⅲ	2								
			F16	Ⅲ・Ⅳ	10								

図・掲載 No.	図版 No.	器種	出土位置		点数		時期分類	計測値 (cm)			備考	
			調査区	層位	小計	合計		非掲載	器高	口径		底径
IV-7-63	42	深鉢	E16	Ⅲ	16	20	2	VI b	15.3	(12.4)	(5.3)	貼付文、刷目、内面上半横・下半縦ナデ
			G17	Ⅲ	1							
			H14	Ⅲ	2							
			O16	Ⅲ	1							
IV-7-64	42	深鉢	D16	Ⅲ	37	38	0	VI b	(14.9)	(19.0)	—	貼付文、刷目、内面上半横・下半縦ナデ
			E16	Ⅳ	1							
IV-7-65	43	深鉢	E14	Ⅲ・Ⅳ	15	16	0	VI b	(12.0)	—	5.8	貼付文、刷目、内面上半横・下半縦ナデ
			H15	Ⅲ	1							
IV-7-66	43	深鉢	F16	Ⅱ・Ⅲ	7	24	4	VI b	(20.2)	(18.5)	—	貼付文、刷目、内面上半横・下半縦ナデ、胎土に砂・少量のバミス・微量の角閃石
			E16	Ⅲ	10							
			G17	Ⅲ	3							
			H14	Ⅲ・Ⅳ	4							
IV-7-67	43	深鉢	E15	Ⅲ	43	43	1	VI b	23.3	(17.3)	(5.1)	刷目、帯・縞縄文

図・掲載 No.	図版 No.	部位	出土位置		点数		時期分類	備考				
			調査区	層位	小計	合計		非掲載	器高	口径	底径	
IV-8-68	44	口縁部	H8	Ⅳ	1	1	0	II b	無糸・縄刻み、貼付文、LRR縄文			
IV-8-69	44	口縁部	D18	Ⅳ	1	1	3	II b	結節回転文、半輪格条体、RとL組紐痕			
IV-8-70	44	口縁部	G9	Ⅳ	1	1	45	II b	口縁部斜位 LR縄文で菱形、体部結束第2種羽状縄文と半輪格条体を縦方向に施文			
IV-8-71	44	底部	G10	Ⅳ	3	3						
IV-8-72	44	口縁部	E9	Ⅳ	2	2				3	III a	無文地に隆線文、LR縄文、口唇刻み
IV-8-73	44	口縁部	F14	Ⅳ	2	2				0	III a	LR縄文地に隆線文、縄圧痕、口唇刻み
IV-8-74	44	胴部	D17	Ⅳ	7	7	3	III a	RL縄文地に隆線文、縄圧痕			
IV-8-75	44	口縁部	I5	Ⅲ	1	1	2	III a	LR縄文地に隆線文、縄圧痕			
IV-8-76	44	口縁部	E15	Ⅳ	1	1	2	III a	LR縄文地に隆線文、縄圧痕、貫通孔			
IV-8-77	44	口縁部	D10	Ⅳ	1	2	8	III a	LR縄文地に隆線文、貫通孔			
			F11	V	1							
IV-8-78	44	口縁部	D11	Ⅳ	2	4	11	III a	LR縄文地に隆線文、頂部指頭つまみ、口唇外縁縄文、貫通孔			
			E10	Ⅳ	2							
			D9・10	Ⅳ	2							
IV-8-79	44	口縁部	E8	Ⅳ	1	3	13	III a	LR縄文地に隆線文、縄圧痕、口唇刻み、貫通孔			
IV-8-80	44	口縁部	E14	Ⅳ	1	1	0	III a	突起左指頭つまみ、口唇刻み、刺突文			
IV-8-81	44	口縁部	H8	Ⅳ	1	1	0	III a	LR縄文地に隆線文、縄刻み、貼付文			
IV-8-82	45	口縁・胴部	D14	Ⅳ	7	7	13	III a	結束第2種、隆線文、縄刻み、貼付文			
IV-8-83	44	口縁・胴部	F9	Ⅳ	1	4	4	III a	結束第2種、隆線文、縄刻み、貫通孔			
			G9	Ⅳ	3							
IV-9-84	45	口縁部	E10・16	Ⅳ	2	2	33	III a	結束第2種、隆帯、貼付文、口唇刻み			
IV-9-85	45	口縁部	E13	Ⅳ	3	3	14	III a	結束第2種、貼付文、口唇刻み			
IV-9-86	45	口縁部	D09	Ⅳ	1	1	0	III a	結束第2種、把手状貼付文、口唇刻み			
IV-9-87	45	口縁・胴部	G19	Ⅲ・Ⅳ	3	3	16	III a	結束第2種、口唇刻み			
IV-9-88	45	口縁・胴部	F8	Ⅳ	2	2	9	III a	結束第2種、口唇刻み、貫通孔			
IV-9-89	45	口縁部	E15	Ⅳ	3	3	8	III a	結束第2種、口唇刻み、貫通孔			
IV-9-90	45	口縁部	H17	Ⅳ	3	3	0	III a	結束第2種、口唇刻み			
IV-9-91	45	口縁部	D14	Ⅳ	1	1	6	III a	結束第1種、口唇外縁縄刻み			
IV-9-92	45	口縁部	E19	Ⅳ	4	4	10	III a	結束第2種、口唇刻み			
IV-9-93	45	口縁部	D16	Ⅳ	5	5	14	III a	結束第2種、頂部指頭つまみ、口唇外縁			
IV-10-94	45	口縁・胴部	D15	Ⅳ	5	5	0	III a	結束第2種、口唇外縁縄文			
IV-10-95	45	口縁・胴部	G19	Ⅳ	5	5	3	III a	結束第2種、頂部指頭刺突、口唇刻み			
IV-10-96	45	口縁部	D15	Ⅳ	2	2	3	III a	LRとRLの縄文、山形隆起部			
IV-10-97	45	口縁部	E15	Ⅳ	1	1	3	III a	結束第1種、口唇外縁縄文			
IV-10-98	45	口縁部	D10	Ⅳ	1	3	3	III a	RL縄文地に隆線文、口唇刻み、貫通孔			
			F11	V	2							
IV-10-99	46	口縁部	G10	Ⅲ	1	1	2	III a	山形隆起部に貼付、口唇刻み、RL縄文			
IV-10-100	46	口縁部	G12	Ⅳ	1	1	0	III a	山形隆起部に刺突、口縁に沈線、LR縄文			

図・掲載 No.	図版 No.	部 位	出土位置		点 数			時期 分類	備 考
			調査区	層位	小計	合計	非掲載		
N-10-101	46	口縁～胴部	G7	Ⅳ	4	4	24	Ⅳa	隆帯、口唇綫文、RL綫文
N-10-102	46	口縁部	C9	Ⅲ	1	1	0	Ⅳa	隆帯、隆帯間無文、口唇綫、LR綫文
N-10-103	46	口縁部	H10	Ⅳ	2	2	2	Ⅳa	隆帯、隆帯間無文、LR綫文
N-10-104	46	口縁部	H9	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	隆帯、縦位に繋ぐ、隆帯間無文、LR綫文
N-10-105	46	口縁部	E16	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	口縁多段、隆帯、綫文、LR綫文
N-10-106	46	口縁部	E17	Ⅳ	1	1	11	Ⅳa	隆帯、隆帯間綫文消失、LR綫文
N-10-107	46	口縁部	H14	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に隆帯、沈線文、隆帯にLR綫文
N-10-108	46	口縁部	H20	Ⅳ	1	1	36	Ⅳa	無文地に隆帯、LR綫文
N-10-109	46	口縁～胴部	H19・20	Ⅲ・Ⅳ	11	11	62	Ⅳa	無文地に刺突をもつ隆帯、沈線文、LR
N-11-110	46	口縁部	H12	Ⅳ	1	1	1	Ⅳa	無文地にRL綫線文で区画、口縁LR綫文
N-11-111	46	口縁部	F14	Ⅳ	2	2	17	Ⅳa	無文地にLR綫線文、外唇口唇にLR綫文
N-11-112	46	口縁～胴部	F16	Ⅳ	3	3	5	Ⅳa	無文地に綫線文、山形隆起部、LR綫文
N-11-113	46	口縁部	H14	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に綫線文、匙行文、LR綫文
N-11-114	46	口縁部	E24	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に綫線文、山形隆起部、LR綫文
N-11-115	46	口縁～胴部	G20	Ⅳ	1	1	3	Ⅳa	無文地に綫線文、山形隆起部、RL綫文
N-11-116	46	口縁～胴部	H8	Ⅲ・Ⅳ	2	2	0	Ⅳa	無文地に綫線文、山形隆起部、LR綫文
N-11-117	46	口縁～胴部	E9	Ⅳ	2	2	0	Ⅳa	無文地に綫線文、山形隆起部、LR綫文
N-11-118	46	口縁～胴部	F18	Ⅳ	5	5	20	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文
N-11-119	46	口縁～胴部	H13	Ⅲ・Ⅳ	3	3	60	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文
N-11-120	46	口縁～胴部	G20	Ⅳ	1	1	8	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文
N-11-121	47	口縁～胴部	D14	Ⅳ	2	2	14	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文
N-11-122	47	口縁～胴部	D18	Ⅳ	1	1	27	Ⅳa	無文地に綫線文、無飾RL綫文
N-11-123	47	口縁部	F23	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文
N-11-124	47	口縁部	F20	Ⅲ	1	1	18	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文
N-11-125	47	口縁部	D21	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文
N-11-126	47	口縁部	D19	Ⅲ	1	1	8	Ⅳa	無文地に綫線文、頂部刺突のみ、LR綫文
N-11-127	47	口縁～胴部	G21	Ⅳ	8	8	4	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文
N-11-128	47	口縁～胴部	E18	Ⅳ	3	8	140	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文
					5				
N-11-129	47	口縁～胴部	F25	Ⅳ	2	2	0	Ⅳa	LR綫文地に綫線文、山形隆起部
N-11-130	47	口縁～胴部	F18	Ⅳ	1	1	20	Ⅳa	LR綫文地に綫線文
N-11-131	47	口縁部	F18	Ⅳ	1	1	9	Ⅳa	LR綫文地に綫線文
N-11-132	47	口縁部	D25	Ⅲ	1	1	0	Ⅳa	LR綫文地に綫線文
N-11-133	47	口縁～胴部	F19	Ⅳ	3	3	2	Ⅳa	無文地に綫線文、RL綫文
N-12-134	47	口縁～胴部	H20	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	LR綫文地に綫線文
N-12-135	47	口縁～胴部	G18	Ⅳ	6	6	18	Ⅳa	無文地に綫線文、器面部分のにLR綫文
N-12-138	47	口縁部	G20	Ⅲ	1	1	4	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文地に沈線文
N-12-141	48	口縁～胴部	G20	Ⅳ	1	1			
N-12-139	47	口縁～胴部	F18	Ⅳ	8	8	0	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文地に沈線文
N-12-140	47	口縁～胴部	H14	Ⅳ	6	6	4	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文地に沈線文
N-12-142	48	口縁部	E12	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に綫線文、LR綫文地に沈線文
N-12-143	48	口縁部	F10・11	Ⅲ・Ⅳ	2	3	0	Ⅳa	無文地に沈線文・刺突文、LR綫文
					1				
N-12-144	48	口縁部	H21	Ⅲ	1	1	0	Ⅳa	LR綫文地に沈線文・刺突文
N-12-145	48	口縁部	E15	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	RL綫文地に沈線文、山形隆起部
N-12-146	48	口縁部	F11	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	RL綫文地に沈線文、山形隆起部
N-12-147	48	口縁～胴部	G14	Ⅲ	3	3	0	Ⅳa	RL綫文地に沈線文、山形隆起部
N-12-148	48	口縁～胴部	J0	Ⅳ	1	2	4	Ⅳa	LR綫文地に沈線文、山形隆起部
					1				
N-12-149	48	口縁～胴部	F15	Ⅳ	3	3	0	Ⅳa	無文地に隆帯、LR綫文地に沈線文
N-12-150	48	口縁～胴部	F18	Ⅳ	4	4	0	Ⅳa	RL綫文地に匙行沈線文、山形隆起部
N-12-151	48	口縁～胴部	G21	Ⅳ	18	18	14	Ⅳa	RL綫文地に匙行沈線文、口縁無文
N-13-152	48	口縁～胴部	G20	Ⅳ	5	5	0	Ⅳa	RL綫文地に沈線文、無文地口縁に隆帯

図・掲載 No.	図版 No.	部 位	出土位置		点 数		時期 分類	備 考	
			調査区	層位	小計	合計			
IV-13-153	48	胴 部	G21	Ⅲ・Ⅳ	3	4	6	Ⅳa	LR縄文地に沈線文、陸帯で無文帯区画
			H21	Ⅳ	1				
IV-13-154	48	口縁～胴部	E17・18	Ⅳ	5	7	45	Ⅳa	磨消縄文、LR縄文
			F16・18	Ⅳ	2				
IV-13-155	48	口縁～胴部	E13	Ⅳ	1	6	17	Ⅳa	磨消縄文、RL縄文
			F13	Ⅳ	5				
IV-13-156	43	口縁～胴部	H20	Ⅲ・Ⅳ	17	17	37	Ⅳa	磨消縄文、LR縄文
IV-13-157	49	口縁～胴部	E16	Ⅲ・Ⅳ	2	2	8	Ⅳa	無文地に沈線文、折り返し口縁
IV-13-158	49	口縁部	F15	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文、折り返し口縁
IV-13-159	49	口縁部	G13	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文、折り返し口縁
IV-13-160	49	口縁部	F12	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文
IV-13-161	49	口縁～胴部	G20	Ⅳ	3	3	13	Ⅳa	無文地に沈線文
IV-13-162	49	口縁～胴部	H13	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文
IV-13-163	49	口縁～胴部	H14	Ⅳ	2	2	19	Ⅳa	無文地に沈線文
IV-13-164	49	口縁部	I3	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文
IV-14-165	49	口縁部	E16	Ⅳ	1	1	7	Ⅳa	RL縄文、折り返し口縁無文、山形隆起部
IV-14-166	49	口縁～胴部	H20	Ⅳ	2	2	18	Ⅳa	RL縄文、折り返し口縁無文
IV-14-167	49	口縁～胴部	H20	Ⅳ	7	7	0	Ⅳa	LR縄文、折り返し口縁無文
IV-14-168	49	口縁～胴部	F15・17	Ⅳ	10	11	81	Ⅳa	無節 R縄文、折り返し口縁無文
			G16	Ⅳ	1				
IV-14-169	49	口縁部	E16	Ⅲ	1	1	10	Ⅳa	LR縄文、折り返し口縁無文
IV-14-170	49	口縁部	I7	Ⅳ	3	3	1	Ⅳa	RL縄文、折り返し口縁無文
IV-14-171	49	口縁部	E16	Ⅳ	1	1	1	Ⅳa	LR縄文、折り返し口縁無文
IV-14-172	49	口縁部	H10	Ⅳ	2	2	85	Ⅳa	LR縄文、折り返し口縁無文
IV-14-173	49	口縁～底部	E11	Ⅳ	2	3	0	Ⅳa	LR縄文、折り返し口縁無文
			F11	Ⅳ	1				
IV-14-174	49	口縁～胴部	G13	Ⅳ	1	1	1	Ⅳa	LR縄文、折り返し口縁・口頸部無文
IV-14-175	49	口縁～胴部	I4	Ⅳ	2	2	21	Ⅳa	LR縄文、折り返し口縁
IV-14-176	49	口縁～胴部	H12・21	Ⅳ	3	5	4	Ⅳa	口縁部多段・無文
			I9	Ⅳ	2				
IV-14-177	49	口縁～胴部	H14	Ⅳ	6	6	11	Ⅳa	口縁部多段・無文
IV-14-178	50	口縁～胴部	G14	Ⅳ	9	9	11	Ⅳa	口縁部多段・無文、体部横走 LR縄文
IV-15-179	50	口縁～胴部	E15	Ⅳ	5	5	5	Ⅳa	LR縄文、口縁無文
IV-15-180	50	口縁～胴部	G20	Ⅳ	1	1	19	Ⅳa	RL縄文、口縁無文
IV-15-181	50	口縁～胴部	G21	Ⅳ	1	1	44	Ⅳa	LR縄文、口縁で施文方向変える
IV-15-182	50	口縁～胴部	E10	Ⅲ	1	1	0	Ⅳa	LR縄文、口縁で施文方向変える
IV-15-183	50	口縁～胴部	E13	Ⅳ	1	1	53	Ⅳa	LR縄文、口縁で施文方向変える
IV-15-184	50	口縁部	F18	Ⅳ	1	1	34	Ⅳa	LR縄文、口縁で施文方向変える
IV-15-185	50	口縁～胴部	F18	Ⅳ	1	1	26	Ⅳa	RL縄文、口縁で施文方向変える
IV-15-186	50	口縁～底部	G19	Ⅳ	4	4	0	Ⅳa	RL縄文
IV-15-187	43	口縁～底部	H13	Ⅲ・Ⅳ	7	10	3	Ⅳa	LR縄文
			I3・14	Ⅲ	3				
IV-15-188	50	口縁～胴部	I4	Ⅳ	1	1	6	Ⅳa	RL縄文
IV-15-189	50	口縁～胴部	G12	Ⅲ	1	1	13	Ⅳa	RL縄文
IV-15-190	50	口縁～胴部	F18	Ⅳ	1	1	5	Ⅳa	RL縄文、口唇に縄圧痕
IV-15-191	50	口縁部	F8	Ⅳ	1	1	16	Ⅲa	RL縄文、口唇に縄圧痕
IV-15-192	50	口縁部	H19	Ⅳ	1	1	4	Ⅳa	LR縄文、横・縦回転口縁に混在
IV-15-193	50	口縁～胴部	F・G14	Ⅳ	2	2	21	Ⅳa	附加条の縄文
IV-16-194	50	口縁部	I9	Ⅳ	1	1	1	Ⅳa	無節 R縄文による斜格子状沈線糸文
IV-16-197	51	口縁～胴部	H14	Ⅳ	2	2	23	Ⅳa	無文、山形隆起部
			F12	Ⅲ・Ⅳ	3				
IV-16-198	51	底 部	H15	Ⅳ	1	4	0	Ⅳa	底部に棒状工具による斜格子状沈線文
			I15	Ⅳ	3				
IV-16-199	51	底 部	F17	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	底部に平截竹管状工具の横・縦位沈線
IV-16-200	43	底 部	H19	Ⅳ	6	6	2	Ⅳa	LR縄文

図・掲載 No.	図版 No.	部 位	出土位置		点 数			時期 分類	備 考
			調査区	層位	小計	合計	非掲載		
N-16-201	51	底部	E21	Ⅲ	1	1	0	Ⅳa	底面に木炭痕あり
N-16-202	44	底部	H19	Ⅳ	4	4	4	Ⅳa	LR 縄文
N-16-203	51	底部	G7	Ⅳ	4	4	45	Ⅳa	施文方向を変えた整った LR 縄文
N-16-204	44	底部	G7	Ⅳ	8	8	0	Ⅳa	施文方向を変えた整った LR 縄文
N-17-205	51	口縁	H27	Ⅲ	1	1	0	Ⅳa	RL 縄文に沈線文、縄文ナゲ消す
N-17-206	51	口縁	H15	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文、赤色顔料付着
N-17-207	51	口縁	F14	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文
N-17-208	51	口縁	G17	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文、口唇部削み
N-17-209	51	口縁	G17	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文、口唇部削み
N-17-210	51	口縁	H19	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文、口唇部削み
N-17-211	51	胴部	F12	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文
N-17-212	51	底部	F14	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	無文地に沈線文
N-17-213a	51	口縁-胴部	G15・16	Ⅳ	3	5	8	Ⅳa	無文地に沈線文、隆帯、連続 5 字状文・渦巻文
			H15	Ⅲ・Ⅳ	2				
N-17-213b	51	胴部	E16	Ⅳ	3	3			
N-17-214	51	口縁部	G16	Ⅳ	1	2	0	Ⅳa	太沈線で区画した LR 縄文地口縁に逆「く」の字状沈線文、口唇に縄、頭部無文帯
			H17	Ⅲ	1				
N-17-215	51	口縁部	G12	Ⅳ	1	1	3	Ⅳa	LR 縄文地に稲妻状沈線文、口縁無文帯
N-17-216	51	口縁部	D9	Ⅲ	1	2	0	Ⅳa	LR 縄文地口縁に連弧波状文
			I0	Ⅳ	1				
N-17-217	51	口縁-胴部	H14	Ⅳ	1	1	0	Ⅳa	LR 縄文地にカニのハサミ状沈線文
N-17-218	51	口縁部	E11	Ⅳ	1	1	0	Ⅳb	LR 縄文地口縁部沈線区画、鋸歯状沈線
N-17-219	51	口縁部	H8	Ⅳ	1	1	1	Ⅳa	LR 縄文地口縁部沈線区画、鋸歯状沈線
N-17-220	51	口縁部	I4	Ⅲ	2	2	0	Ⅳb	貼付文、刷目列、口唇削み
N-17-221	51	口縁部	E19	Ⅳ	1	1	0	Ⅳb	貼付文、刷目列、口唇削み
N-17-222	51	胴部	E20	Ⅲ	1	1	0	Ⅳb	貼付文、刷目列
N-17-223	51	胴部	H14	Ⅲ	1	1	0	Ⅳb	縞縄文
N-17-224	51	土製品	H12	Ⅳ	1	1	0		土器片を円形に加工、LR 縄文
N-17-225	51	土製品	H19	Ⅳ	1	1	0		土器片を円形に加工、無文
N-17-226	51	土製品	G10	Ⅳ	1	1	0		土器片を三角形に加工、LR 縄文
N-17-227	51	土製品	H10	Ⅳ	1	1	0		土器片を三角形に加工、LR 縄文
N-17-228	51	土製品	H10	Ⅳ	1	1	0		土器片を三角形に加工、無文地に沈線文
N-17-229	51	土製品	E15	Ⅳ	1	1	0		耳栓?
N-17-230	51	蹄形土製品	F14	Ⅳ	1	1	0		沈線による文様
N-17-231	51	蹄形土製品	G16	Ⅳ	2	2	0		沈線による文様

図・掲載 No.	図版 No.	器 種	出土位置		点 数			時期 分類	計測値 (cm)			備 考		
			調査区	層位	小計	合計	非掲載		器高	口径	底径			
N-18-232	52	深 鉢	C1	Ⅳ	180	180	97	Ⅱ b	40.5	31.4	17.3	オオバコ回転文		
N-18-233	52	深 鉢	不明	掛土	E42	Ⅳ	28	30	32	Ⅱ b	(33.1)	(24.7)	—	
					F42	Ⅳ	1							
					A46	Ⅳ	1							
					B16・47	Ⅲ・Ⅳ	29							
N-18-234	52	深 鉢	不明	掛土	Z6	Ⅳ	1	31	7	Ⅲ a	27.9	(21.0)	(8.5)	舟状隆起部に隆帯、縄削み 結束第 2 種、海綿骨針
					B35・37	Ⅳ	6							
					C35・37	Ⅲ・Ⅳ	61							
N-18-235	54	深 鉢	不明	掛土	E35	Ⅳ	3	70	37	Ⅳ a	(32.0)	26.4	—	隆帯、LR 縄文、口縁、隆帯で施文方向変える
					B4	Ⅳ	52							
					C5	Ⅳ	1							
N-19-236	54	深 鉢	不明	掛土	C5	Ⅳ	1	53	0	Ⅳ a	(32.6)	(28.6)	—	隆帯、LR 縄文、口縁部施文方向変る
					C5	Ⅳ	1							
N-19-237	53	深 鉢	未注記	Ⅲ・Ⅳ	111	113	60	Ⅳ a	32.8	24.1	9.6	無文、山形隆起部、器面衝痕、上?底		

図・掲載 No.	図版 No.	器種	出土位置		点数		時期	計測値 (cm)			備考	
			調査区	層位	小計	合計		非掲載	分類	器高		口径
IV-19-238	52	深鉢	NP-127	覆土	12	28	14	IV a	23.4	19.7	(10.0)	無文地に沈線により横線・直線の波頭文、部分的に器面にLR横文、碑石
			C35	Ⅲ・IV	10							
			D35-39	IV	5							
			不明	埴土	1							
IV-19-239	52	坏	E35	IV	1	4	0	IV a	7.2	7.8	3.2	LR横文地に平截竹管状工具の沈線文
			未注記		3							
IV-19-240	55	深鉢	C33-35	IV	39	69	13	IV a	37.5	29.2	11.3	RL横文、山形隆起部、胴～底部無文
			D33	IV	30							
IV-19-241	55	甕	D40	IV	1	23	7	IV a	(18.8)	15.1	—	RL横文、山形隆起部、胴下部無文、内面胴上半横・下半縦ナデ、海綿骨針
			E36	IV	16							
			F35	IV	4							
			不明	埴土	2							
IV-19-242	55	深鉢	G4	Ⅲ・IV	3	25	6	IV a	(25.8)	—	8.8	RL横文、口縁欠損、折り直し口縁?
			D44-45	IV	22							
IV-19-243	55	胴部～底部	D46-47	Ⅲ・IV	9	19	3	IV a	(16.0)	—	8.8	LR横文、施文方向変える海綿骨針
			E46	Ⅲ・IV	10							
IV-20-244	55	深鉢	B38-39	IV	4	75	11	IV a	36.3	23.1	12.2	LR横文、口縁外反、胴下部～底部無文、口縁部横・体部縦ナデ、海綿骨針
			C38	Ⅲ・IV	9							
			D37-38	IV	5							
			E38	Ⅲ・IV	57							
IV-20-245	55	深鉢	B39	IV	5	91	7	IV a	35.2	27.5	11.8	LR横文、口縁外反、胴下部～底部無文、口縁内面横文・体部縦ナデ、角四石・碑石
			C38-40	Ⅲ・IV	75							
			D33-35	IV	2							
			D38-39	Ⅲ・IV	8							
			D41	IV	1							
IV-20-246	56	深鉢	E44	IV	21	21	7	IV a	(22.9)	19.9	—	無筋 LR横文、頂部
IV-20-247	57	深鉢	B44-45	Ⅲ・IV	72	85	0	IV a	34.5	22.5	11.3	無文、器内面とも口縁部斜～横位・体部縦位のナデ
			C44-45	Ⅲ・IV	11							
			D45	IV	2							
IV-20-248	57	深鉢	B40	IV	7	7	0	IV a	(10.7)	—	5.4	無文、内面縦ナデ
IV-20-249	56	深鉢	C48	IV	25	25	6	IV a	22.8	16.0	7.9	無文、横・縦ナデ
IV-20-250	56	深鉢	C38	Ⅲ・IV	30	30	5	IV a	19.0	17.4	9.4	無文、横・縦ナデ
IV-20-251	57	深鉢	C39	IV	16	18	1	IV a	16.3	14.1	6.6	無文、内面丹念な横ナデ、角四石
			未注記		2							
IV-20-252	56	深鉢	E17-38	Ⅲ・IV	10	11	4	IV a	(15.4)	13.3	—	無文、内面丹念な縦ナデ、角四石
			F38	IV	1							
IV-20-253	56	深鉢	E37	IV	9	9	1	IV a	14.2	12.4	6.4	無文、内面横ナデ
			B40	IV	1							
IV-21-254	56	深鉢	C40	IV	2	8	1	IV a	13.0	11.4	9.1	無文、内面口縁部横・体部斜位のナデ、胎土に少量のバミス・微量の碑石
			D40-41	IV	3							
			E38	IV	2							
IV-21-255	57	鉢	D33	IV	2	2	0	IV a	6.6	(11.5)	(10.2)	無文、船形、碑石
IV-21-256	53	甕	B44-45	Ⅲ・IV	18	19	4	IV a	(24.1)	(12.7)	(8.7)	LR横文地に横線・弧線の沈線文
			C45	Ⅲ	1							
IV-21-257	53	深鉢	B44-45	IV	9	10	0	IV a	18.9	14.3	6.9	無文地に沈線文、口縁内面念横ナデ
			C45	Ⅲ	1							
IV-21-258	53	深鉢	B41	IV	10	10	0	IV a	(9.6)	—	5.6	無文地に沈線文
IV-21-259	53	深鉢	B44-46	Ⅲ・IV	6	83	16	IV a	(25.6)	(24.3)	—	無文地に沈線文・8の字状貼付文、垂下する蛇行沈線文
			C43-45・46	Ⅲ・IV	8							
			E44-46	Ⅲ・IV	69							
IV-21-260	53	深鉢	B46-47	Ⅲ・IV	62	62	19	IV a	(26.6)	30.4	—	無文地に沈線文、8の字
IV-21-261	54	深鉢	E46	IV	23	23	7	IV a	(15.8)	23.4	—	無文地に沈線文、8の字

図・掲載 No.	図版 No.	器種	出土位置		点 数			時期 分類	計測値 (cm)			備 考
			調査区	層位	小計	合計	非掲載		器高	口径	底径	
N-21-262	54	深鉢	Bt6	Ⅲ	1	47	23	Ⅳa	(30.8)	27.2	—	無文地に横線、斜格子状沈線文、8の字状貼付文
			C43・45・47	Ⅲ・Ⅳ	8							
			D46・47	Ⅲ・Ⅳ	38							
N-22-263	54	深鉢	Bt1	Ⅳ	24	24	4	Ⅳa	(17.7)	20.6	—	無文地に8の字状貼付文
N-22-264	54	深鉢	Bt9	Ⅲ・Ⅳ	180	180	28	Ⅳa	(30.6)	32.4	—	無文地に8の字状貼付文
N-22-265	58	深鉢	C35・36	Ⅲ・Ⅳ	67	73	37	Ⅳa	(33.2)	25.5	—	無文地を直線で区画してクランク文
			D35・36	Ⅳ	6							
N-22-266	58	深鉢	C36	Ⅳ	36	36	4	Ⅳa	(24.5)	(22.8)	—	LR縞文地クランク文
N-22-267	58	深鉢	E38-40	Ⅲ・Ⅳ	28	28	7	Ⅳa	(20.0)	22.2	—	LR縞文地クランク文
N-23-268	57	深鉢	C36-41	Ⅲ・Ⅳ	24	49	9	Ⅳa	(46.6)	(26.5)	—	LR縞文地にクランク文・入れ子状凸字文・縞文
			D38・40・41	Ⅲ・Ⅳ	24							
			E39	Ⅳ	1							
N-23-269	59	壺	E40	Ⅳ	61	61	49	Ⅳa	(22.2)	(12.0)	—	RL縞文地に縞文
N-23-270	58	壺	C35・36	Ⅲ・Ⅳ	25	25	0	Ⅳa	21.8	11.8	7.7	RL縞文地に縞文
N-23-271	59	壺	Bt0	Ⅲ・Ⅳ	4	38	5	Ⅳa	28.1	(11.5)	(9.1)	RL縞文地に縞文・クランク文、内面調整丹念で口縁・肩まで横・肩から下は縦ナデ、胎土に微量の角閃石・輝石
			G40	Ⅲ・Ⅳ	19							
			D42	Ⅲ	1							
			E40	Ⅳ	13							
			F41	Ⅲ	1							
N-23-272	59	鉢	G0	Ⅲ	1	20	1	Ⅳa	11.1	13.0	7.2	LR縞文地に波状文、磨消縞文
			D40	Ⅳ	19							
			D39・40	Ⅲ・Ⅳ	36							
N-23-273	58	深鉢	E39・40	Ⅳ	10	47	7	Ⅳa	25.7	20.6	—	ハート形文、曲線的な波頭文、口縁部内面に横走縞文
			F41	Ⅳ	1							
			C35・36	Ⅲ・Ⅳ	13							
N-23-274	58	深鉢	D36・37	Ⅳ	12	27	24	Ⅳa	(22.2)	(26.7)	—	LR縞文地にカニのハサミ文様、磨消縞文

図・掲載 No.	図版 No.	部 位	出土位置		点 数			時期 分類	備 考		
			調査区	層位	小計	合計	非掲載		器高	口径	底径
N-24-275	60	口縁部	E45	Ⅳ	1	1	0	Ⅱb	無筋 R縞線文、結束第2種		
N-24-276	60	口縁部	Bt7	Ⅳ	1	1	0	Ⅱb	無筋 R縞線文、結束第2種、燃糸文		
N-24-277	60	口縁部	Bt7	Ⅳ	1	1	3	Ⅱb	単軸筋条体圧痕文、刺突文、結束第1種		
N-24-278a	60	口縁部	G6	Ⅳ	2	2	88	Ⅱb	無筋 R縞線文、結束第1種羽状縞文、燃糸文		
N-24-278b	60	胴部	G6	Ⅳ	1	1					
N-24-279a	60	口縁部	D43	Ⅲ・Ⅳ	2	2	41	Ⅱb	無筋 L縞線文、結束第1種羽状縞文、燃糸文		
N-24-279b	60	胴部	D43	Ⅲ	2	2					
N-24-280	60	口縁・胴部	A47	Ⅳ	11	11	31	Ⅱb	無筋 R縞線文、結束第2種、燃糸文		
N-24-281	60	口縁部	Bt5	Ⅲ	1	1	0	Ⅱb	結束第1種羽状縞文、無筋 R縞線文		
N-24-282	60	口縁部	Bt8	Ⅳ	1	1	0	Ⅱb	結束第1種羽状縞文、無筋 R縞線文		
N-24-283	60	口縁部	G7	Ⅳ	2	2	4	Ⅱb	無筋 L縞線文、結束第2種、燃糸文		
N-24-284	60	口縁部	E42	Ⅳ	2	2	0	Ⅱb	無筋 R縞線文・単軸筋条体圧痕文		
N-24-285	60	胴部・胴部	C46・47	Ⅳ	8	8	62	Ⅱb	結束第1種羽状縞文		
N-24-286	60	胴部	D43・44	Ⅲ・Ⅳ	8	8	51	Ⅱb	結束第2種、R縞線文		
N-24-287	61	底部	G6	Ⅲ・Ⅳ	4	4	25	Ⅱb	RとLの粗軸筋条体圧痕文		
N-24-288	61	底部	Bt4	Ⅳ	3	3	1	Ⅱb	無筋 R縞線文		
N-24-289	61	口縁部	G45	Ⅳ	1	11	10	Ⅲa	RL縞文地に隆線文、ボタ紋貼付文、口縁に山形隆起部		
			D45	Ⅳ	10						
N-24-290	61	口縁・胴部	Bt7	Ⅳ	1	1	11	Ⅳa	隆帯、LR縞文、隆帯施文方向変える		
N-24-291	61	口縁・胴部	C38・39	Ⅳ	8	15	53	Ⅳa	隆帯、LR縞文、隆帯から口縁部は体部と施文方向変える		
			D09	Ⅳ	2						
			E39・40	Ⅳ	4						
			不明		1						
N-25-292	61	口縁部	D40	Ⅳ	2	2	16	Ⅳa	隆帯、RL縞文、口縁部は施文方向変える		

図・複製 No.	図版 No.	部 位	出土位置		点 数			時期 分類	備 考	
			調査区	層位	小計	合計	非掲載			
N-25-293	61	口縁-胴部	D42	IV	2	2	4	IV a	隆帯、LR 縄文、口縁部は施文方向変える	
N-25-294	61	口縁部	B4	IV	1	1	2	IV a	隆帯、LR 縄文、口縁部は施文方向変える	
N-25-295	61	口縁部	D37	IV	2	2	0	IV a	隆帯、LR 縄文、口縁部は施文方向変える	
N-25-296	61	口縁部	B4	IV	3	3	12	IV a	隆帯、LR 縄文、LR 縄文	
N-25-297	61	口縁部	E38	IV	1	1	1	IV a	RL 縄文地に縄文	
N-25-298	61	口縁-胴部	B4	IV	2					
			D4	IV	3	6	8	IV a	LR 縄文地に横線・弧線文	
N-25-299	61	口縁-胴部	G45	III	1					
			C43・45・46	III・IV	5	8	7	IV a	RL 縄文地に横線・弧線文	
N-25-300	61	口縁部	D46	IV	3					
			G17	IV	1	1	2	IV a	無文地に横線・弧線文	
N-25-301	61	口縁部	G13	III	1					
			D46	IV	1	2	8	IV a	無文地に横線・弧線文、山形隆起部	
N-25-302	62	口縁-胴部	B41・42	IV	2					
			G12	IV	1	5	26	IV a	無文地に横線・弧線文	
N-25-303	62	口縁部	E46	III	2					
			C17	IV	2	2	0	IV a	無文地に横線・弧線文	
N-25-304	62	口縁部	C39	IV	3	3	42	IV a	無文地に横線	
N-25-305	62	口縁部	D46	IV	2	2	8	IV a	無文地に横線・弧線文	
N-25-306	62	口縁-胴部	B45	IV	8	8	18	IV a	無文地に横線・弧線文、山形隆起部	
N-25-307	62	口縁-胴部	C14	III・IV	3	3	2	IV a	無文地に横線・鋸歯状沈線文	
N-25-308	59	口縁-胴部	B40	IV	1					
			C39	IV	26	27	105	IV a	無文地に鋸歯状沈線文・蛇行沈線文	
N-25-309	62	口縁部	B4	IV	3	3	11	IV a	無文地に横線・斜線	
N-25-310	62	口縁-胴部	E47	IV	2	2	0	IV a	無文地に横線・斜線	
N-25-311	62	口縁部	B40	IV	2	2	28	IV a	無文地に斜格子状沈線文	
N-25-312	62	口縁部	D47	IV	2	2	2	IV a	無文地に斜格子状沈線文	
N-25-313	62	口縁部	E46	IV	1	1	2	IV a	無文地に斜格子状沈線文	
N-25-314	62	口縁部	B4	IV	3	3	6	IV a	LR 縄文、口縁で施文方向変える	
N-25-315	62	口縁部	E37	IV	4	4	11	IV a	LR 縄文、口縁で施文方向変える	
N-25-316	62	口縁部	C48	III	2	2	2	IV a	LR 縄文、口縁部内縁	
N-25-317	62	口縁部	C38	IV	3	3	43	IV a	LR 縄文、口縁無文、口縁部外反	
N-25-318	62	口縁-胴部	D38	IV	2	2	1	IV a	LR 縄文、口縁部内縁	
N-25-319	62	口縁部	E47	IV	1	1	3	IV a	LR 縄文、山形隆起部	
N-25-320	62	口縁部	E47	IV	5	5	10	IV a	RL 縄文	
N-25-321	59	胴部-底部	B4・45	IV	3					
			C4・45	IV	4	7	5	IV a	LR 縄文、施文方向変える	
N-27-322	62	口縁部	B40	IV	2	2	6	IV a	無文、折り返し口縁	
N-27-323	63	口縁部	B40	III・IV	3	3	2	IV a	無文、多段、部分的に LR 縄文	
N-27-324	63	口縁-底部	F36	IV	4	4	0	IV a	無文、縦段の裾広、山形隆起部	
N-27-325	63	口縁-胴部	B41	IV	1	1	28	IV a	無文、部分的に LR 縄文	
N-27-326	63	口縁-底部	G19	III・IV	6	6	0	IV a	無文、山形隆起部	
N-27-327	63	口縁-胴部	B41	IV	4	4	46	IV a	無文地に沈線文、貼付文	
N-27-328	63	口縁部	G45	IV	1	1	1	IV a	無文地に沈線文、貼付文	
N-27-329	63	口縁部	E47	IV	2	2	0	IV a	無文地に沈線文、貼付文	
N-27-330	63	口縁部	G17	III	5	5	13	IV a	無文地に沈線文、垂下蛇行沈線文	
N-27-331	63	口縁-胴部	C48	IV	3	3	29	IV a	無文地に垂下蛇行沈線文、2本一組	
N-27-332	63	口縁部	B40	IV	2	2	8	IV a	無文地に垂下蛇行沈線文、山形隆起部	
N-27-333	63	口縁部	B41・44	IV	2	2	0	IV a	無文地に垂下蛇行沈線文、折り返し口縁	
N-27-334	63	口縁部	D42	IV	5	5	10	IV a	無文地に横線、円・弧状沈線文	
N-27-335	63	口縁部	C44	IV	2	2	10	IV a	LR 縄文地に8の字状貼付文、山形隆起部	
N-27-336	63	口縁部	C44	IV	2	2	13	IV a	LR 縄文地に沈線文、8の字状貼付文	
N-27-337	63	口縁部	D48	IV	1	1	1	IV a	RL 縄文地に沈線文、8の字状貼付文	
N-28-338	63	口縁-胴部	E47	IV	8	8	0	IV a	無文地に沈線文、8の字状貼付文	

図・複製 No.	図版 No.	部 位	出土位置		点 数			時期 分類	備 考	
			調査区	層位	小計	合計	非掲載			
N-28-339	63	口縁部	Bf0	Ⅳ	1	1	19	Ⅳa	無文地に沈線文、8の字状貼付文	
N-28-340	63	口縁部	Ef6	Ⅳ	2	2	7	Ⅳa	無文地に沈線文、8の字状貼付文	
N-28-341	63	口縁～胴部	Ef6・47	Ⅳ	4	4	15	Ⅳa	RL縄文地に沈線文、8の字状貼付文	
N-28-342	63	口縁部	D46	Ⅳ	2	2	9	Ⅳa	無文地に蛇行沈線文、8の字状貼付文	
N-28-343	63	口縁部	Bf7	Ⅲ	1					
			C39	Ⅲ・Ⅳ	2	3	25	Ⅳa	無文地に沈線文、8の字状貼付文	
N-28-344	64	口縁部	Gf5	Ⅳ	1	1	7	Ⅳa	無文地に沈線文、8の字状貼付文	
N-28-345	64	口縁部	C39	Ⅳ	2	2	12	Ⅳa	無文地に8の字状貼付文、多段	
N-28-346	64	口縁部	D47	Ⅲ	1	1	3	Ⅳa	無文地に8の字状貼付文、折り返し口縁	
N-28-347	64	口縁部	Gf5	Ⅳ	1	1	1	Ⅳa	無文地に8の字状貼付文、部分的 LR縄文	
N-28-348	64	口縁～胴部	Bf6	Ⅳ	5	5	48	Ⅳa	無文地に8の字状貼付文	
N-28-349	64	口縁～胴部	Bf8	Ⅲ・Ⅳ	8	8	0	Ⅳa	無文地に8の字状貼付文、器面に擦痕	
N-28-350	64	口縁～胴部	Gf6	Ⅳ	4	4	7	Ⅳa	無文地に渦巻文、口縁貼付、刻み	
N-28-351	64	口縁～胴部	Bf1	Ⅳ	2	2	0	Ⅳa	無文地に横線・弧線文、口縁部別み	
N-28-352	64	口縁部	D42	Ⅳ	1	1	8	Ⅳa	無文地に鹿状工具で文様、太沈線で縁取	
N-28-353a	64	口縁部	E33	Ⅳ	6	6	10	Ⅳa	無文地に鹿状工具で文様、太沈線で縁取	
N-28-353b	64	胴部～底部	E33	Ⅳ	9	9				
N-28-354	64	口縁～胴部	D33	Ⅳ	3	3	9	Ⅳa	無文地に垂下蛇行沈線文、山形隆起部	
N-28-355	64	口縁～胴部	E33・36	Ⅳ	4					
			F35・36	Ⅳ	2	7	10	Ⅳa	無文地に鹿状工具で文様、太沈線で縁取	
			未注記		1					
N-29-356	64	口縁部	Bf0	Ⅲ・Ⅳ	2	2	8	Ⅳa	無文地に鹿状工具で文様、太沈線で縁取	
N-29-357	64	口縁部	A48	Ⅳ	4	4	5	Ⅳa	無文地に鹿状工具で文様、太沈線で縁取	
N-29-358	64	口縁部	D96	Ⅳ	6	6	25	Ⅳa	LR縄文地にクラクク文	
N-29-359	64	口縁～胴部	C・D41	Ⅲ・Ⅳ	6	6	13	Ⅳa	文様帯区画、LR縄文地にクラクク文	
N-29-360	64	口縁～胴部	C35	Ⅲ・Ⅳ	5	5	68	Ⅳa	LR縄文地に稲妻文・「く」字文、磨消縄文	
N-29-361a	65	口縁部	C33	Ⅳ	1	1		8	Ⅳa	LR縄文地に逆「く」字文、カニのハサミ文様、磨消縄文、山形隆起部
N-29-361b	65	胴 部	D33	Ⅳ	1	1				
N-29-362	65	口縁部	D40	Ⅳ	1	1	1	Ⅳa	LR縄文地に沈線文、磨消縄文	
N-29-363	65	口縁～底部	D39	Ⅲ	1					
			Ef0	Ⅳ	3	4	4	Ⅳa	無文地に「己」字文、口縁に半円状文	
N-29-364	65	口縁部	Gf0	Ⅲ・Ⅳ	6	6	22	Ⅳa	LR縄文地にクラクク文、渦巻文、磨消縄文	
N-29-365	65	口縁部	F38	Ⅲ・Ⅳ	10	10	0	Ⅳa	LR縄文地に稲妻文・逆「く」字文	
N-29-366	65	口縁部	C36	Ⅳ	2	2	0	Ⅳa	LR縄文地に鋸歯文・渦巻文	
N-29-367	65	口縁部	E・F41	Ⅳ	2	2	9	Ⅳa	LR縄文地に稲妻文、カニのハサミ文様	
N-29-368	65	口縁部	Ef0	Ⅳ	4	4	2	Ⅳa	LR縄文地に鋸歯文、カニのハサミ文様	
			C39	Ⅳ	1					
			D37	Ⅳ	1	3	8	Ⅳa	LR縄文地に半円文、クラクク文、カニのハサミ文様、磨消縄文	
N-29-369	65	口縁部	E39	Ⅳ	1					
N-30-370	65	口縁部	Bf1	Ⅳ	1	1	7	Ⅳa	LR縄文地に半円文、山形隆起部	
N-30-371	65	口縁部	Ef0	Ⅳ	1	1	3	Ⅳa	LR縄文地に半円文、クラクク文	
N-30-372	65	口縁部	C35	Ⅲ・Ⅳ	13	13	52	Ⅳa	LR縄文地に半円文、「く」字文・逆「く」字文	
N-30-373a	65	口縁部	C31・39	Ⅳ	2	2		4	Ⅳa	LR縄文地に半円文、クラクク文、山形隆起部
N-30-373b	65	胴 部	Gf0	Ⅳ	1	1				
N-30-374	60	口縁～胴部	C36	Ⅳ	28	28	68	Ⅳa	半円文、LR縄文地に渦巻文、磨消縄文	
			C36	Ⅳ	48					
N-30-375	60	口縁～底部	D36	Ⅳ	5					
						53	6	Ⅳa	無文地に「己」字文	
N-30-376	65	口縁～胴部	Bf1	Ⅳ	3	3	0	Ⅳa	無文地に沈線文	
N-30-377	65	土製円板	E33	Ⅳ	1	1	0	—	土器片を円形に加工、中央に凹み	
N-30-378	65	土製品	E33	Ⅳ	1	1	0	—	土器片を三角形に加工、無文	
N-30-379	65	土製品	D44	Ⅳ	1	1	0	—	土器片を三角形に加工、無文	
N-30-380	65	土製品	D41	Ⅳ	1	1	0	—	土器片を三角形に加工、無文	
N-30-381	65	土製品	Gf1	Ⅳ	1	1	0	—	土器片を三角形に加工、RL縄文	
N-30-382	65	土製品	C35	Ⅲ	1	1	0	—	輝石土製品?	

表IV-3 包含層出土掲載石器一覧

挿図・掲載 No.	図版 No.	器 種 名	調査区名	層位	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
IV-31-1	66-164	石槍またはナイフ	H13	IV	12.2×3.55×1.25	47.1	黒曜石	
IV-31-2	66-164	石槍またはナイフ	D13	VI	9.5×3.0×1.05	34.0	頁岩	
IV-31-3	66-164	石槍またはナイフ	D11	III	(5.25)×2.0×0.7	(5.9)	黒曜石	
IV-31-4	66-164	石 鏃	H17	III	2.1×0.9×0.19	0.25	黒曜石	
IV-31-5	66-164	石 鏃	D15	III	1.75×1.55×0.27	0.56	黒曜石	
IV-31-6	66-164	石 鏃	F14	IV	2.75×1.5×0.32	0.99	頁岩	
IV-31-7	66-164	石 鏃	G 9	IV	(3.25)×1.6×0.34	(1.28)	黒曜石	
IV-31-8	66-164	石 鏃	G 9	IV	(4.3)×1.1×0.34	(1.59)	頁岩	
IV-31-9	66-164	石 鏃	E44	IV	4.25×1.4×0.33	1.32	黒曜石	
IV-31-10	66-164	石 鏃	E15	IV	(3.3)×1.9×0.56	(1.73)	頁岩	
IV-31-11	66-164	石 鏃	E33	IV	(3.1)×2.35×0.5	(2.99)	頁岩	
IV-31-12	66-164	石 鏃	C40	IV	2.2×1.25×0.46	0.95	黒曜石	
IV-31-13	66-164	石 鏃	E22	IV	2.7×1.25×0.31	0.85	片岩	
IV-31-14	66-164	石 鏃	G16	IV	(2.95)×0.95×0.3	(0.78)	頁岩	アスファルト?
IV-31-15	66-164	石 鏃	B45	III	(3.15)×1.3×0.46	(1.36)	頁岩	
IV-31-16	66-164	石 鏃	C38	IV	(3.1)×1.6×0.4	(1.27)	頁岩	
IV-31-17	66-164	石 鏃	H 9	IV	3.7×1.4×0.69	3.29	頁岩	
IV-31-18	66-164	石 鏃	G 7	IV	3.9×1.4×0.54	1.94	頁岩	
IV-31-19	66-164	石 鏃	D15	IV	4.25×1.7×0.79	3.82	頁岩	
IV-31-20	66-164	石 鏃	E37	IV	4.5×1.8×0.65	4.54	安山岩	
IV-31-21	66-164	石 鏃	D45	IV	(2.1)×1.0×0.32	(0.43)	めのう	アスファルト
IV-31-22	66-164	石 鏃	H20	III	2.4×1.0×0.4	0.75	頁岩	アスファルト
IV-31-23	66-164	石 鏃	C48	III	(2.4)×1.3×0.37	(0.74)	頁岩	
IV-31-24	66-164	石 鏃	H14	IV	2.5×0.9×0.3	0.47	めのう	
IV-31-25	66-164	石 鏃	C45	IV	2.55×1.3×0.36	0.78	めのう	アスファルト?
IV-31-26	66-164	石 鏃	D16	III	2.6×1.2×0.54	1.07	めのう	
IV-31-27	66-164	石 鏃	D37	IV	(2.6)×1.2×0.3	(0.6)	めのう	
IV-31-28	66-164	石 鏃	H13	IV	2.75×1.25×0.44	1.11	頁岩	アスファルト
IV-31-29	66-164	石 鏃	C40	IV	2.9×1.2×0.37	0.97	頁岩	
IV-31-30	66-164	石 鏃	H18	IV	2.9×1.3×0.4	0.87	黒曜石	
IV-31-31	66-164	石 鏃	E17	IV	3.0×1.2×0.34	0.86	めのう	
IV-31-32	66-164	石 鏃	H20	IV ₃	3.0×1.3×0.43	1.1	頁岩	アスファルト
IV-32-33	66-164	石 鏃	H12	III	3.0×1.4×0.44	1.32	鉄石英	
IV-32-34	66-164	石 鏃	B40	IV	(3.0)×1.45×0.29	(0.93)	頁岩	
IV-32-35	66-164	石 鏃	H13	IV	3.1×1.6×0.65	2.03	黒曜石	
IV-32-36	66-164	石 鏃	C39	IV	3.1×1.5×0.72	2.66	頁岩	

挿入・ 掲載 No.	図版 No.	器 種 名	調査 区名	層位	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
IV-32-37	66-164	石 鍬	C40	IV	(3.15)×1.3×0.31	(0.84)	黒曜石	
IV-32-38	66-164	石 鍬	D41	IV	3.2×1.8×0.27	0.96	頁岩	
IV-32-39	66-164	石 鍬	B39	IV	3.2×1.7×0.4	1.27	めのう	
IV-32-40	66-164	石 鍬	D38	IV	3.3×1.3×0.22	0.64	頁岩	アスファルト
IV-32-41	66-164	石 鍬	D40	IV	3.4×1.35×0.42	1.54	頁岩	
IV-32-42	66-164	石 鍬	F10	IV	3.4×1.5×0.62	2.57	頁岩	
IV-32-43	66-164	石 鍬	E17	IV	3.5×1.3×0.47	1.84	頁岩	
IV-32-44	66-164	石 鍬	G19	IV	3.55×1.2×0.36	1.07	めのう	
IV-32-45	66-164	石 鍬	E46	IV	3.7×1.5×0.44	1.52	めのう	アスファルト
IV-32-46	66-164	石 錐	E22	III	4.6×1.8×0.45	4.1	頁岩	
IV-32-47	66-164	石 錐	D39	IV	4.2×2.85×0.85	7.5	頁岩	
IV-32-48	66-164	石 錐	B37	IV	6.1×3.25×0.85	12.5	頁岩	
IV-32-49	66-164	石 錐	B40	IV	4.8×1.2×0.7	4.1	頁岩	
IV-32-50	66-164	石 錐	F16	IV	8.6×1.4×0.8	6.3	頁岩	
IV-32-51	66-164	つまみ付きナイフ	C46	IV	3.9×1.5×0.77	4.32	頁岩	
IV-32-52	66-164	つまみ付きナイフ	F15	IV	(4.2)×(2.05)×(0.46)	(4.85)	頁岩	
IV-32-53	66-164	つまみ付きナイフ	D16	IV	5.4×1.9×0.45	5.5	頁岩	
IV-32-54	66-164	つまみ付きナイフ	B39	IV	6.3×3.2×0.78	18.25	頁岩	
IV-32-55	66-164	つまみ付きナイフ	D13	VI	6.3×2.45×0.76	9.95	頁岩	
IV-32-56	66-164	つまみ付きナイフ	H15	IV	7.0×1.45×0.67	7.98	頁岩	
IV-32-57	66-164	つまみ付きナイフ	D15	IV	7.0×2.1×0.83	10.73	頁岩	
IV-32-58	66-164	つまみ付きナイフ	D38	IV	7.05×2.4×0.9	13.41	頁岩	
IV-32-59	66-164	つまみ付きナイフ	D24	IV	9.55×2.4×0.8	22.7	頁岩	
IV-32-60	66-164	つまみ付きナイフ	E36	IV	4.6×5.9×0.89	18.42	頁岩	
IV-33-61	66-164	スクレイパー	B46	III	3.15×1.75×1.15	4.9	黒曜石	
IV-33-62	66-164	スクレイパー	D 8	IV	3.95×6.0×0.75	17.4	頁岩	
IV-33-63	67-165	スクレイパー	A48	III	6.5×3.2×0.7	15.9	頁岩	
IV-33-64	67-165	スクレイパー	F19	IV	6.85×3.25×0.7	19.5	頁岩	
IV-33-65	67-165	スクレイパー	C46	III	7.5×2.4×0.65	16.5	頁岩	
IV-33-66	67-165	スクレイパー	Z47	IV	7.7×4.75×0.8	21.8	頁岩	
IV-33-67	67-165	スクレイパー	C46	IV	6.4×6.4×1.3	38.5	頁岩	
IV-33-68	67-165	スクレイパー	H16	III	8.2×4.7×0.75	34.1	安山岩	
IV-33-69	67-165	スクレイパー	D37	IV	7.8×4.2×0.9	32.6	頁岩	
IV-33-70	67-165	スクレイパー	E15	IV	8.5×3.3×1.35	38.6	頁岩	
IV-33-71	67-165	スクレイパー	G13	IV	7.7×4.7×1.1	46.0	頁岩	
IV-33-72	67-165	スクレイパー	D45	IV	8.2×4.8×1.1	39.6	頁岩	

挿図・ 掲載 No.	図版 No.	器 種 名	調査 区名	層位	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
IV-33-73	67-165	スクレイパー	E12	IV	8.0×6.0×1.2	59.3	頁岩	
IV-34-74	67-165	スクレイパー	E15	III	8.4×4.8×1.7	83.4	めのう	
IV-34-75	67-165	スクレイパー	H12	IV	8.4×5.8×1.6	82.1	安山岩	
IV-34-76	67-165	スクレイパー	E17	IV	9.0×4.7×1.4	54.6	頁岩	
IV-34-77	67-165	スクレイパー	D 8	IV	6.5×7.6×2.15	86.0	めのう	
IV-34-78	67-165	スクレイパー	G18	IV	10.3×5.25×1.4	58.2	頁岩	
IV-34-79	67-165	スクレイパー	E12	IV	9.7×7.4×2.3	131.2	頁岩	
IV-34-80	67-165	石 斧	C44	IV	5.4×2.55×1.1	28.0	泥岩	
IV-34-81	67-165	石 斧	E11	IV	6.1×3.35×1.3	46.0	泥岩	
IV-35-82	67-165	石 斧	D36	IV	6.35×3.4×1.65	58.0	泥岩	
IV-35-83	67-165	石 斧	D36	IV	6.5×4.05×1.6	76.0	泥岩	
IV-35-84	67-165	石 斧	D38	IV	7.2×3.85×1.1	40.0	蛇紋岩?	
IV-35-85	67-165	石 斧	D46	IV	7.3×3.55×1.65	80.0	泥岩	
IV-35-86	67-165	石 斧	H12	IV	7.8×3.6×1.4	74.0	泥岩	
IV-35-87	67-165	石 斧	H12	IV	7.9×2.8×1.0	40.0	泥岩	
IV-35-88	67-165	石 斧	E19	IV	8.1×2.7×1.5	56.0	片岩	
IV-35-89	67-165	石 斧	G17	IV	9.25×2.9×1.5	66.0	泥岩	
IV-35-90	67-165	石 斧	G12	IV	9.3×3.9×1.3	72.0	泥岩	
IV-35-91	67-165	石 斧	E15	IV	9.3×3.9×2.1	116.0	砂岩	
IV-35-92	67-165	石 斧	E15	IV	9.4×2.8×1.1	50.0	片岩	
IV-35-93	68-166	石 斧	G20	IV ₁ IV ₂	9.8×3.8×1.6	88.0	片岩	2点接合
IV-36-94	68-166	石 斧	B42	IV	11.7×4.7×2.85	280.0	片岩	
IV-36-95	68-166	石 斧	G12	VI	13.55×4.3×1.7	154.0	泥岩	
IV-36-96	68-166	石 斧	G12	IV	15.2×4.2×1.1	116.0	泥岩	
IV-36-97	68-166	たたき石	D11	IV	12.0×9.25×6.6	1080.0	安山岩	
IV-36-98	68-166	たたき石	H11	IV	15.25×10.5×5.7	1460.0	安山岩	
IV-37-99	68-166	扁平打製石器	E11	IV	13.6×7.6×2.4	348.0	安山岩	
IV-37-100	68-166	扁平打製石器	B44	III	14.1×8.1×1.8	278.0	安山岩	
IV-37-101	68-166	扁平打製石器	H10	III	14.2×9.6×1.9	320.0	安山岩	
IV-37-102	68-166	扁平打製石器	D45	IV	14.5×8.2×2.2	308.0	安山岩	
IV-37-103	68-166	扁平打製石器	E14	IV	13.8×10.3×3.45	536.0	安山岩	
IV-38-104	68-166	扁平打製石器	D15	IV	16.2×11.3×3.7	840.0	安山岩	
IV-38-105	68-166	扁平打製石器	D11	IV	14.1×8.4×2.9	494.0	安山岩	
IV-38-106	68-166	扁平打製石器	G19	IV	14.1×9.1×2.85	510.0	安山岩	
IV-38-107	68-166	扁平打製石器	D18	IV	14.3×8.8×2.2	368.0	安山岩	

挿洞・ 掲載 No.	図版 No.	器 種 名	調査 区名	層位	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
IV-38-108	68-166	扁平打製石器	H17	IV	14.0×9.05×3.1	602.0	安山岩	
IV-39-109	68-166	扁平打製石器	F17	IV	15.35×8.45×3.1	630.0	安山岩	
IV-39-110	69-167	扁平打製石器	D16	IV	14.8×9.0×3.25	614.0	安山岩	
IV-39-111	69-167	扁平打製石器	C46	IV	17.4×11.0×3.0	700.0	安山岩	
IV-39-112	69-167	扁平打製石器	F11	IV	19.2×13.6×4.0	1460.0	安山岩	
IV-40-113	69-167	北海道式石冠	E14	IV	9.2×6.4×4.0	298.0	安山岩	
IV-40-114	69-167	北海道式石冠	G 7	IV	9.3×7.7×4.85	502.0	安山岩	
IV-40-115	69-167	北海道式石冠	H 7	IV	10.4×8.7×7.1	892.0	安山岩	
IV-40-116	69-167	北海道式石冠	H 9	IV	10.7×8.7×5.8	690.0	安山岩	
IV-40-117	69-167	北海道式石冠	E11	IV	11.45×8.7×4.4	628.0	安山岩	
IV-40-118	69-167	北海道式石冠	H11	IV	11.3×9.2×6.1	688.0	安山岩	
IV-41-119	69-167	北海道式石冠	D20	IV	12.05×9.5×7.4	960.0	安山岩	
IV-41-120	69-167	北海道式石冠	E14	IV	12.1×9.6×4.9	1010.0	安山岩	
IV-41-121	69-167	北海道式石冠	C31	IV	11.7×9.1×6.05	1090.0	安山岩	
IV-41-122	69-167	北海道式石冠	H17	IV	13.5×10.0×7.5	1080.0	安山岩	
IV-42-123	69-167	北海道式石冠	F20	IV	13.4×10.65×3.5	680.0	安山岩	
IV-42-124	69-167	北海道式石冠	D16	IV	13.2×9.4×5.7	988.0	安山岩	
IV-42-125	69-167	北海道式石冠	H 8	IV	13.05×10.2×7.1	1130.0	安山岩	
IV-42-126	70-168	北海道式石冠	E40	IV	13.2×10.65×9.7	1310.0	安山岩	
IV-43-127	70-168	北海道式石冠	D 7	IV	13.05×11.25×6.6	1450.0	安山岩	
IV-43-128	70-168	北海道式石冠	G 6	IV	13.5×10.7×8.25	1570.0	安山岩	
IV-43-129	70-168	北海道式石冠	D40	IV	16.7×11.15×9.1	1590.0	安山岩	
IV-43-130	70-168	石 鋸	C45	IV	16.2×9.9×1.65	282.0	安山岩	
IV-44-131	70-168	砥 石	E11	IV	35.5×19.1×12.5	8000.0	安山岩	
IV-44-132	70-168	石 錘	F21	IV	16.5×10.1×4.7	1130.0	安山岩	
IV-44-133	70-168	礫	H 8	IV	16.0×10.1×6.7	1620.0	安山岩	加工痕のある礫
IV-44-134	70-168	石 皿	F15	IV	29.8×25.1×11.6	10000.0	安山岩	
IV-44-135	70-168	石 皿	H19	IV	(26.5)×(24.2)×7.4	(7000.0)	安山岩	
IV-45-136	71-169	石 皿	H10	IV	44.0×27.0×9.5	18100.0	安山岩	
IV-45-137	71-169	台 石	C36	IV	27.5×24.9×10.7	10000.0	安山岩	
IV-45-138	71-169	台 石	F19	IV	37.4×27.9×14.1	21500.0	安山岩	
IV-45-139	71-169	石製品	H11	IV	7.75×4.55×5.2	85.0	軽石	
IV-46-140	71-169	石製品	B40	Ⅲ	12.7×11.9×8.1	750.0	軽石	
IV-46-141	71-169	石製品	C40	Ⅲ	26.2×6.95×6.65	850.0	軽石	2点接合

V 自然科学的分析

濁川左岸遺跡の放射性炭素年代測定について

パレオ・ラボ AMS年代測定グループ*

(*小林絏一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・Zaur Lam tatidze・Ineza Jorjiani)

1 はじめに

濁川左岸遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表1のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

3 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行った¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代を、図1に暦年代較正結果をそれぞれ示す。

¹⁴C年代は AD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期として Libbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。なお、暦年代較正の詳細は以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5730 \pm 40年）を較正することである。

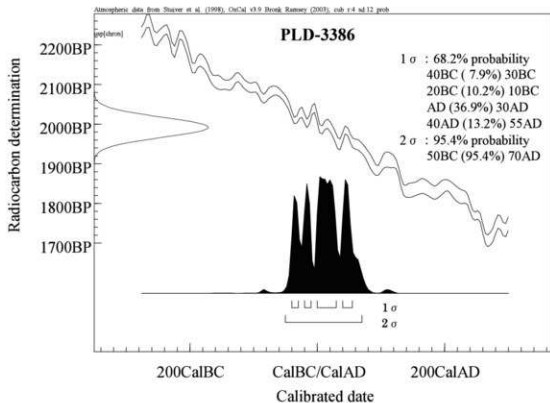
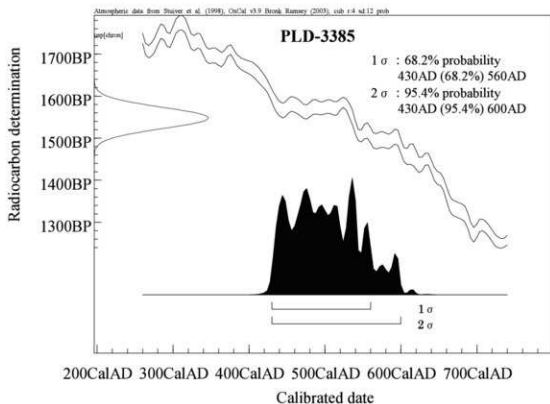
¹⁴C年代の暦年代較正には OxCal3.9を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年代較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

4 考察

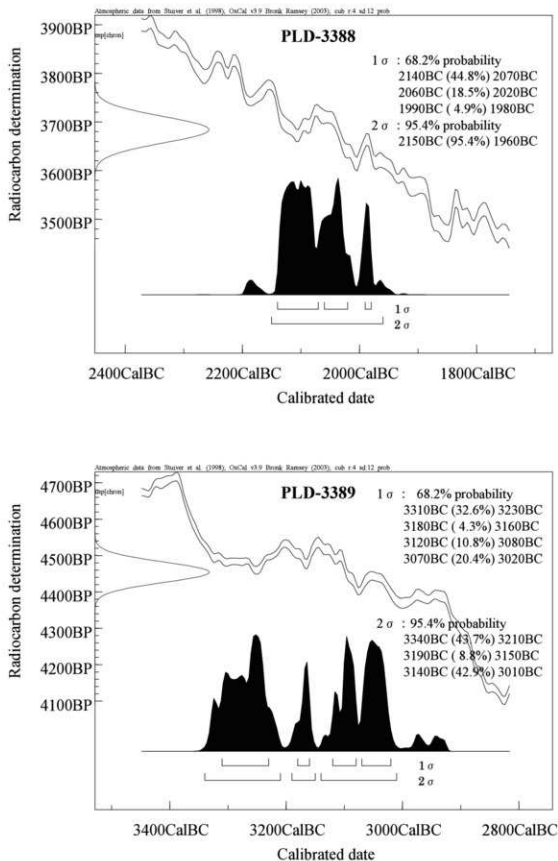
試料について、同位体分別効果の補正及び暦年代較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

参考文献

- ・中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎、日本先史時代の¹⁴C年代、p3-20
- ・Stuiver M P J Reimer E Bard JW Beck GS Burr KA Hughen B Kromer G McCormac J van der Plicht and M Spurk 1998 INTCAL 98 Radiocarbon Age Calibration, 24000-0 cal BP *Radiocarbon* 40 (3) 1041-1083
- ・Bronk Ramsey C. 1995 *Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy The OxCal Program* *Radiocarbon* 37 (2) 425-430
- ・Bronk Ramsey C., 2001, Development of the Radiocarbon Program OxCal *Radiocarbon*, 43(2 A) 355-363



図V-1 暦年代較正結果 (1)



図V-2 曆年代較正結果 (2)

表V-1 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-3385	北海道 湧川左岸遺跡 地点：NF-39 層位：焼土内 その他：NS-1	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸1.2N)	PaieoLabo NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-3386	北海道 湧川左岸遺跡 地点：NF-40 層位：焼土内 その他：NS-2	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸1.2N)	PaieoLabo NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-3387	北海道 湧川左岸遺跡 地点：NF-41 層位：焼土内 その他：NS-3	試料の種類：動物骨片 状態：dry カビ：無	コラーゲン抽出処理時の知見；骨 片は焼かれていたため、コラーゲ ンが焼失したものと見られる	PaieoLabo NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-3388	北海道 湧川左岸遺跡 地点：NF-58 層位：焼土内 その他：NS-4	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸1.2N)	PaieoLabo NEC製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-3389	北海道 湧川左岸遺跡 地点：NF-29 層位：床面直上 その他：NS-5	試料の種類：炭化物・材 試料の性状：最外以外年輪 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸1.2N)	PaieoLabo NEC製コンパクト AMS・1.5SDH

表V-2 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果

測定番号	年代値 (yrBP±1σ; 同位体補正無)	δ ¹³ C (‰)	¹⁴ C年代 (yrBP±1σ)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-3385	1520±25	-23.2	1550±25	430 AD(68.2%)560 AD	430 AD(95.4%)1600 AD
PLD-3386	2000±25	-25.4	1990±25	40 BC(7.9%)30 BC, 20 BC(10.2%)10 BC, AD(36.9%)30 AD, 40 AD(13.2%)55 AD	50 BC(95.4%)70 AD
PLD-3388	3680±25	-24.8	3685±25	2140 BC(44.8%)2070 BC, 2060 BC(18.5%)2020 BC, 1990 BC(4.9%)1980 BC	2150 BC(95.4%)1960 BC
PLD-3389	4455±25	-25.1	4455±30	3310 BC(32.6%)3230 BC, 3180 BC(4.3%)3160 BC, 3120 BC(10.8%)3080 BC, 3070 BC(20.4%)3020 BC	3340 BC(43.7%)3210 BC, 3190 BC(8.8%)3150 BC, 3140 BC(42.9%)3010 BC

Ⅵ まとめ

この調査報告書は濁川左岸遺跡の3冊目の調査報告書である。

今回報告するC・D・E地区は平成16年に3,660㎡を調査した。濁川に面する段丘をC地区、中央付近の沢地形をD地区、無名沢に面する段丘をE地区と呼称した。D地区は過年度の調査結果から遺構確認調査区とした。

検出遺構は住居跡8軒、土坑94基、石組炉5か所、焼土23か所、小ピット212基、配石1か所、剥片集中1か所、埋設土器1か所である。住居跡は縄文時代前期と推定されるもの1軒、中期前半のもの2軒、後期前葉のもの5軒である。NH-22~24・27・29はC地区、NH-25・26・28はE地区で検出した。NH-28はベンチ構造をもつ前後半円筒土器下層d2式期の所産と考えられる。地床炉をもつ。NH-27・29は中期前半サイベ沢Ⅶ式期のものである。地床炉をもつ。NH-29床面直上から出土した炭化物の¹⁴C年代測定の結果、4455±30の値が得られた。NH-29はNP-145に切られる。NH-22~26は後期のものである。C地区で検出したNH-22~24は後期初頭涌元式期のもの、E地区で検出したNH-25は後期前葉トリサキ式~大津式期、NH-26は後期初頭涌元式期のものである。NH-22・23・25は石組炉と立石をもつ。NH-24は石組炉と地床炉、NH-26は立石をもつが炉は検出されていない。土坑94基のうち、土壙墓および土壙墓の可能性のある土坑としたものは42基である。このうちC地区で検出したものは34基、E地区で検出したものは8基である。いずれも、覆土は埋め戻しの土であり、土器、石斧、扁平打製石器、たたき石、北海道式石冠、石皿・台石、砥石、拳大~人頭大の礫などの遺物を伴う。また、土坑墓や土坑墓の可能性のある土坑以外のもの52基を、その他の土坑としてまとめた。このうちC地区で検出したものは43基、E地区で検出したものは9基である。これらの土坑の掘られた時期は、縄文時代前期後半、前期後半あるいは中期前半、前期後半あるいは後期前葉、中期前半、中期前半あるいは後期前葉、後期前葉、不明のものがある。小ピットはC地区で192基、E地区で20基検出した。C地区で検出した11基とE地区で検出した20基は縄文時代後期前葉のものである。C地区で検出した181基は時期不明であるが同時期と推定される。石組炉はC地区で2か所、E地区で3か所検出した。これらのうち4か所は縄文時代後期前葉の所産である。C地区で検出した時期不明の1か所も当該期の所産であろう。焼土はC地区で20か所、E地区で3か所検出した。C地区で検出した5か所は統縄文時代、9か所は中期前半あるいは後期前葉、6か所は時期不明である。E地区で検出した3か所は時期不明である。配石は縄文時代後期前葉の墓の可能性のある土坑NP-176に伴う。埋設土器は中期前半サイベ沢Ⅶ式に相当する。剥片集中は縄文時代後期前葉の所産である。(録田)

表Ⅵ-1 検出遺構時期別一覧

時 期	住 居 跡		土 坑				石 組 炉		焼 土		小ピット		
	C地区	E地区	C地区	E地区	C地区	E地区	C地区	E地区	C地区	E地区	C地区	E地区	
統縄文時代									5				
縄文時代	前期後半	1				1							
	前期後半あるいは中期前半					1							
	前期後半あるいは後期前葉			4		1							
	中期前半	2		14		6							
	中期前半あるいは後期前葉			9		5	1		9				
	後期前葉	3	2	11	4	31	4	1	3			11	20
不明					1	1	1		6	3	181		
合 計	5	3	34	8	43	9	2	3	20	3	192	20	
	8		42				52		5		23		212

引用・参考文献

〈論文・書籍等〉

- 石川政治 1968 「函館市天祐寺貝塚」『石器時代』第6号 石器時代文化研究会
- 大場利夫・蛸子千代志 1965 「函館郊外煉瓦台遺跡」『北方文化研究報告』第20輯 北海道大学
- 大沼忠春 1981 「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」
『考古学雑誌』第66巻第4号 日本考古学会
- 海峽土器編年研究会編 2003 「第1回 東北・北海道の十腰内I式再検討シンポジウム資料」
- 葛西 勳 1979 「十腰内I式土器の編年の細分」『北奥古代文化』第11号 北奥古代文化研究会
- 葛西 勳 2002 「再葬土器棺墓の研究—縄文時代の洗骨葬—」 再葬土器棺墓の研究刊行会
- 小山正忠・竹原秀雄 2004 『新版標準土色帖』 日本色研事業株式会社
- 鈴木克彦 1976 「東北地方北部における大木系土器文化の編年の考察」『北奥古代』第8号
- 鈴木克彦 1999 「北海道渡島・松山地域の中期末葉から後期初頭の編年」
『北海道考古学』第35輯 北海道考古学会
- 鈴木克彦 2001 「北日本の縄文後期土器編年の研究」 雄山閣
- 高橋正勝 1962 「涌元遺跡」『北海道の文化』16 北海道文化財保護協会
- 高橋正勝 1966 「函館市見晴町遺跡の資料」『北海道青年人類科学研究会会誌』Na8
北海道青年人類科学研究会
- 高橋正勝 1972 a 「北海道における縄文時代中期の終末(1)」
『北海道青年人類科学研究会会誌』Na9 北海道青年人類科学研究会
- 高橋正勝 1972 b 「北海道における縄文時代中期の終末(2)」
『北海道青年人類科学研究会会誌』Na10 北海道青年人類科学研究会
- 高橋正勝 1974 「知内町涌元遺跡出土の土器と北海道南西部の縄文時代後期前半について」
『北海道の文化』31 北海道文化財保護協会
- 高橋正勝 1981 「2. 中期の土器 北海道南部の土器」
『縄文文化の研究 第4巻 縄文土器Ⅱ』 雄山閣
- 竹内理三編 1987 『角川日本地名大辞典 1 北海道 下巻』 角川書店
- 名取武光・峰山 巖 1957 「入江貝塚」『北方文化研究報告』第13輯 北海道大学
- 成田滋彦 1989 「入江・十腰内土器様式」『縄文土器大観 第4巻 後期・晩期・続縄文』小学館
- 日本ベトロジー学会編 1997 『土壌調査ハンドブック 改訂版』 博友社
- 北海道編 1969 「津軽一統志」『新北海道史 第七巻史料一』 新北海道史印刷出版共同企業体
- 松浦武四郎著／高倉新一郎編 1978 「竹四郎廻浦日記 下」 北海道出版企画センター
- 松浦武四郎著／秋葉 実解説 1988 「武四郎蝦夷地紀行」 北海道出版企画センター
- 三橋公平・峰山 巖 1967 「入江遺跡発掘報告」『北海道の文化』12 北海道文化財保護協会
- 村越 潔 1984 「増補 円筒土器文化」 雄山閣考古学選書10
- 森町編 1980 『森町史』
- 森田知忠 1981 「北海道」『縄文土器大成3—後期』 講談社
- 山内清男 1979 「日本先史土器の縄紋」 先史考古学会

〈埋蔵文化財発掘調査報告書〉

- 青森県埋蔵文化財調査センター 1984 『弥栄平遺跡（2）発掘調査報告書』（青森県埋蔵文化財調査報告書第81集）
- 青森県埋蔵文化財調査センター 1984 『牛ヶ沢（3）遺跡発掘調査報告書』（青森県埋蔵文化財調査報告書第86集）
- 青森県埋蔵文化財調査センター 1986 『沖附（2）遺跡発掘調査報告書』 青森県教育委員会（青森県埋蔵文化財調査報告書第101集）
- 青森市教育委員会 1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』（青森市埋蔵文化財調査報告書第30集）
- 青森市教育委員会 1997 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』（青森市埋蔵文化財調査報告書第35集）
- 青森市教育委員会 1998 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』（青森市埋蔵文化財調査報告書第40集）
- 青森市教育委員会 2006 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』（青森市埋蔵文化財調査報告書第85集）
- 大沼忠春編 1976 『元和』 乙部町教育委員会
- 木古内町教育委員会 2003 『泉沢2遺跡A地点』 木古内町教育委員会
- 齊藤 傑 1974 『松前町大津遺跡発掘調査報告書』 松前町教育委員会
- 西連寺建 1976 『松前町原口遺跡発掘調査報告書』 松前町教育委員会
- 千代 肇ほか 1972 『知内町 涌元遺跡』 知内町教育委員会
- 戸井町教育委員会 1993 『戸井貝塚Ⅲ』
- 戸井町教育委員会 1994 『戸井貝塚Ⅳ』
- 松前町教育委員会 1976 『松前町原口遺跡発掘調査報告書』
- 松前町教育委員会 1983 『白坂』
- 松前町教育委員会 1988 『寺町貝塚』
- 峰山 巖ほか 1979 『知内川中流域の縄文時代遺跡』 知内町教育委員会
- 森町教育委員会 1975 『島崎遺跡』
- 森町教育委員会 1977 『森町オニウシ遺跡発掘調査報告』
- 森町教育委員会 1981 『尾白内』
- 森町教育委員会 1982 『森川A遺跡』
- 森町教育委員会 1985 『御幸町』
- 森町教育委員会 1993 『尾白内2』
- 森町教育委員会 1994 『御幸町2』
- 森町教育委員会 2004 a 『栗ヶ丘1遺跡』
- 森町教育委員会 2004 b 『森川2遺跡』
- 森町教育委員会 2004 c 『鷺ノ木4遺跡』
- 森町教育委員会 2006 『鷺ノ木7遺跡』
- 八雲町教育委員会 1983 『榮浜』
- 八雲町教育委員会 1992 『コタン温泉遺跡』
- 八雲町教育委員会 1995 『浜松5遺跡』

〈財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書〉

- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1987 a 『上磯町 矢不來2遺跡』（北埋調報第37集）
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1987 b 『木古内町 建川2・新道4遺跡』（北埋調報第43集）
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1988 『木古内町 新道4遺跡』（北埋調報第52集）

- (財)北海道埋蔵文化財センター 2001 a 「八雲町 山崎 4 遺跡」(北埋調報第162集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2001 b 「八雲町 山越 2 遺跡」(北埋調報第163集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2001 c 「八雲町 野田生 5 遺跡」(北埋調報第164集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2002 a 「八雲町 山崎 5 遺跡」(北埋調報第165集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2002 b 「八雲町 山越 3 遺跡・山越 4 遺跡」(北埋調報第166集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2002 c 「八雲町 野田生 2 遺跡」(北埋調報第167集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2002 d 「八雲町 野田生 4 遺跡」(北埋調報第171集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2002 e 「八雲町 榮浜 1 遺跡」(北埋調報第175集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 a 「八雲町 落部 1 遺跡」(北埋調報第181集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 b 「森町 本内川右岸遺跡」(北埋調報第182集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 c 「八雲町 野田生 1 遺跡」(北埋調報第183集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 d 「森町 濁川左岸遺跡－B 地区－」(北埋調報第190集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 e 「森町 本茅部 1 遺跡」(北埋調報第191集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 f 「森町 石倉 2 遺跡」(北埋調報第197集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2004 a 「森町 倉知川右岸遺跡」(北埋調報第196集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2004 b 「森町 本茅部 1 遺跡 (2)」(北埋調報第199集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2004 c 「森町 石倉 3 遺跡・石倉 5 遺跡」(北埋調報第205集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2004 d 「森町 濁川左岸遺跡－A 地区－」(北埋調報第208集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2005 e 「森町 上台 2 遺跡」(北埋調報第216集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2005 f 「森町 上台 1 遺跡」(北埋調報第217集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2005 g 「森町 森川 4 遺跡」(北埋調報第218集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2005 h 「森町 三次郎川左岸遺跡・石倉 5 遺跡 (2)・石倉 4 遺跡」
 (北埋調報第219集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2005 i 「森町 森川 3 遺跡」(北埋調報第222集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2006 a 「北斗市 矢不來 7 遺跡・矢不來 8 遺跡」(北埋調報第232集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2006 b 「森町 三次郎川右岸遺跡」(北埋調報第233集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2006 c 「森町 森川 3 遺跡 (2)」(北埋調報第234集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2006 d 「北斗市 矢不來 6 遺跡・矢不來11遺跡・館野 4 遺跡」
 (北埋調報第235集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2007 a 「森町 濁川左岸遺跡 (3)－C－E－地区」
 (北埋調報第246集)
 (財)北海道埋蔵文化財センター 2007 b 「森町 石倉 1 遺跡」(北埋調報第247集)



1 調査風景



2 斜面作業状況



3 NH-22 調査状況



4 NH-22 遺物出土状況



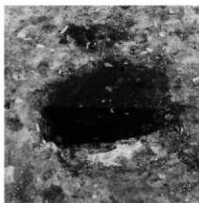
5 NH-22 HP-1 セクション



6 NH-22 石組炉 (HF-1)、立石出土状況



7 NH-22 HP-1 遺物出土状況



8 NH-22 HP-8 セクション



9 NH-22 立石 セクション



10 NH-22 発掘状況



11 NH-23 発掘状況

写真図版 4



12 NH-23 石組炉 (HF-1)、立石



13 NH-23 HP-3 セクション



14 NH-23 HP-6 セクション



15 NH-24 HP-3・4 セクション



16 NH-24 HP-5 セクション



17 NH-24 遺物出土状況



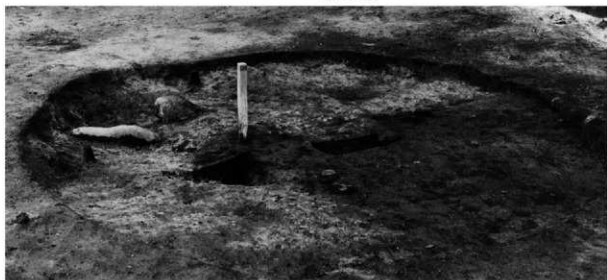
18 NH-24 立石 セクション



19 NH-25 立石 セクション



20 NH-24 完掘状況



21 NH-25 完掘状況

写真図版 6



22 NH-26 完掘状況



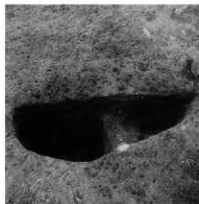
23 NH-26 HP-2 セクション



24 NH-27 遺物出土状況



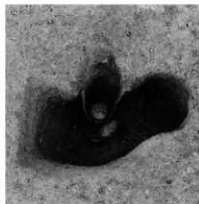
25 NH-27 セクション



26 NH-27 HP-7・10・8 セクション



27 NH-27 埋設土器 検出状況



28 NH-27 埋設土器 内面検出状況



29 NH-27 完掘状況



30 NH-28 完掘状況

写真図版 8



31 NH-28 HP-1 セクション



32 NH-29 HP-1 セクション



33 NH-29 HP-2 セクション



34 NH-29 検出状況



35 NH-29 遺物出土状況



36 NH-29 完掘状況



37 NP-97 セクション



38 NP-99 セクション

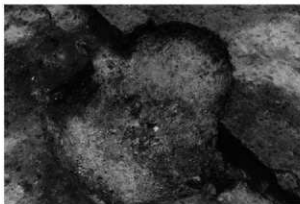


39 NP-99 完掘状況



40 NP-101 セクション

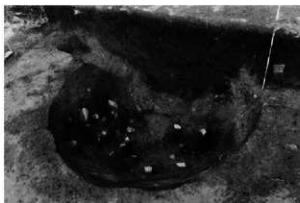
写真図版10



41 NP-101 完掘状況



42 NP-103 完掘状況



43 NP-105 セクション



44 NP-106 遺物出土状況



45 NP-108 遺物出土状況



46 NP-110 遺物出土状況



47 NP-111 遺物出土状況



48 NP-112 遺物出土状況



49 NP-113 セクション



50 NP-113 遺物出土状況



51 NP-114 セクション



52 NP-116 遺物出土状況



53 NP-117 遺物出土状況



54 NP-118 遺物出土状況



55 NP-124 セクション



56 NP-125 セクション

写真図版12



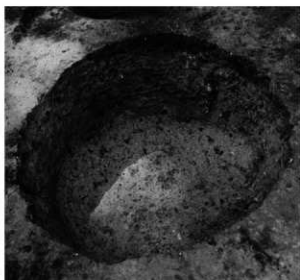
57 NP-125 遺物出土状況



58 NP-126 遺物出土状況



59 NP-127 セクション



60 NP-127 完掘状況



61 NP-128 セクション



63 NP-125~128 調査状況



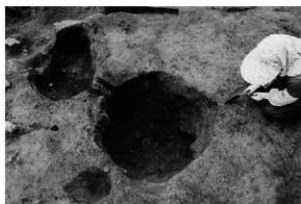
62 NP-128 完掘状況



64 NP-129 遺物出土状況



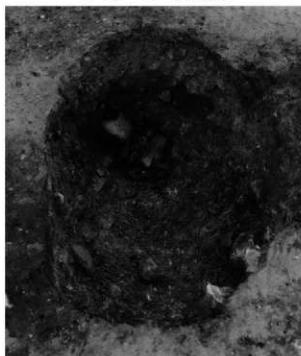
65 NP-133 セクション



66 NP-133 完掘状況



67 NP-134 遺物出土状況



69 NP-138 遺物出土状況



68 NP-136・137 セクション



70 NP-136 完掘状況

写真図版14



71 NP-141 セクション



72 NP-141 完掘状況



73 NP-142 セクション



74 NP-142 完掘状況



75 NP-143 セクション



76 NP-143 完掘状況



77 NP-144 セクション



78 NP-144 完掘状況



79 NP-148・149・160 セクション



80 NP-148 完掘状況



81 NP-149 完掘状況



82 NP-151 セクション



83 NP-150 遺物出土状況



84 NP-151 遺物出土状況



86 NP-152 遺物出土状況



88 NP-153 遺物出土状況



85 NP-152 セクション



87 NP-153 セクション



89 NP-154 遺物出土状況



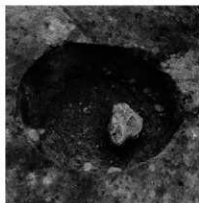
90 NP-155 セクション



91 NP-156 セクション



92 NP-163 セクション



93 NP-164 遺物出土状況



94 NP-157 セクション



95 NP-162 セクション



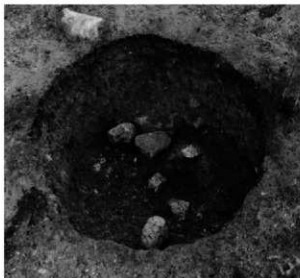
96 NP-166・167 遺物出土状況



97 NP-159 遺物出土状況



98 NP-168 遺物出土状況



99 NP-169 遺物出土状況



100 NP-170 遺物出土状況



101 NP-171 セクション



102 NP-172 遺物出土状況



103 NP-173 遺物出土状況



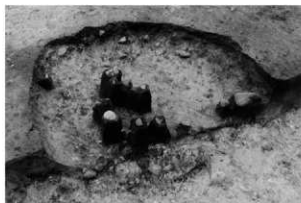
104 NP-176 セクション



105 NP-180 遺物出土状況



106 NP-182 セクション



107 NP-186 遺物出土状況



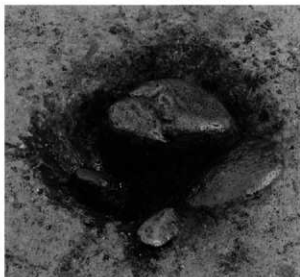
108 NP-189 遺物出土状況



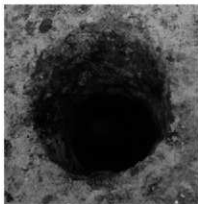
109 NP-191 セクション



110 SP-426・427 セクション



111 NP-191 遺物出土状況



112 SP-451 遺物出土状況



113 埋設土器 検出状況



114 遺物出土状況



115 FC-1 検出状況



116 遺物出土状況



117 NS-1 検出状況



118 E地区 完掘状況



119 C地区 完掘状況



NH-22の土器 (図Ⅲ-43-1)



NH-23の土器 (図Ⅲ-43-5)



NH-23の土器 (図Ⅲ-43-4)



NH-24の土器 (図Ⅲ-44-8)



NH-24の土器 (図Ⅲ-44-9)



NH-27の土器 (図Ⅲ-46-23)



NH-27の土器 (図Ⅲ-46-24)



H-27の土器 (図Ⅲ-46-25)



NH-27の土器 (図Ⅲ-46-26)



NP-106の土器 (図Ⅲ-51-49)



NP-113の土器 (図Ⅲ-52-54)



NP-125の土器 (図Ⅲ-54-62)



NP-127の土器 (図Ⅲ-55-64)



NP-138の土器 (図Ⅲ-55-67)



NP-129の土器 (図Ⅲ-55-66)



NP-144の土器 (図Ⅲ-56-68)



NP-144の土器 (図Ⅲ-56-69)



NS-1の土器 (図Ⅲ-60-92)



埋設土器1の土器 (図Ⅲ-60-94)



NH-24の土器 (図Ⅲ-44-10)



NP-112の土器 (図Ⅲ-51-51)

写真図版26



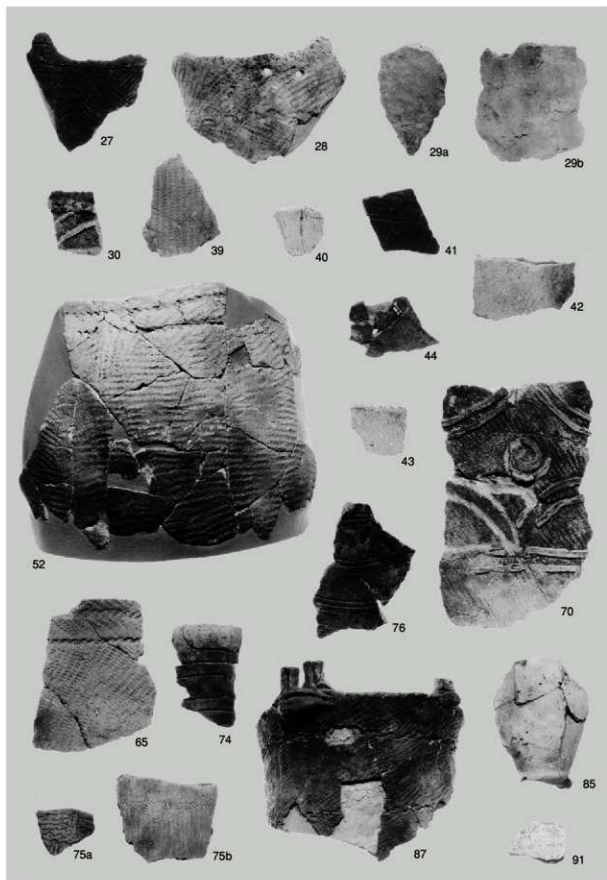
NP-170の土器 (図Ⅲ-57-81)



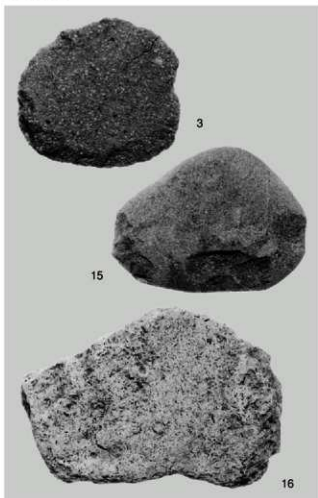
NP-186の土器 (図Ⅲ-58-86)



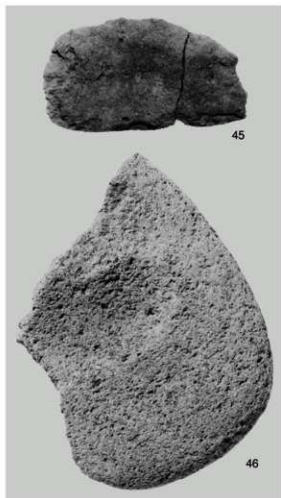
NH-22~26の土器 (図Ⅲ-43~46)



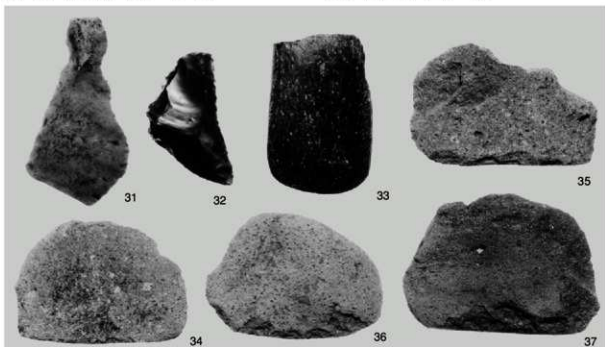
NH-27~29, NP, SP 出土の土器 (図Ⅲ-46・49・51・55~59)



NH-22・24の石器 (図Ⅲ-43・45)



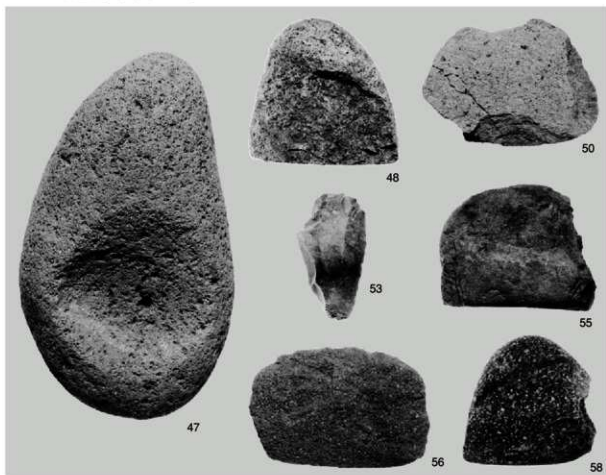
NH-29の石器 (図Ⅲ-49)



NH-27の石器 (1) (図Ⅲ-47・48)

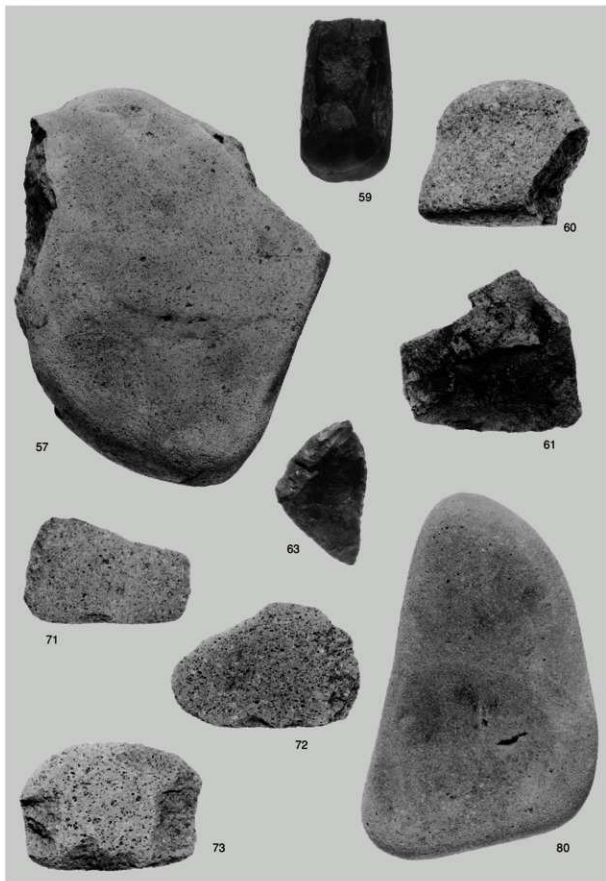


NH-27の石器 (2) (図Ⅲ-48)



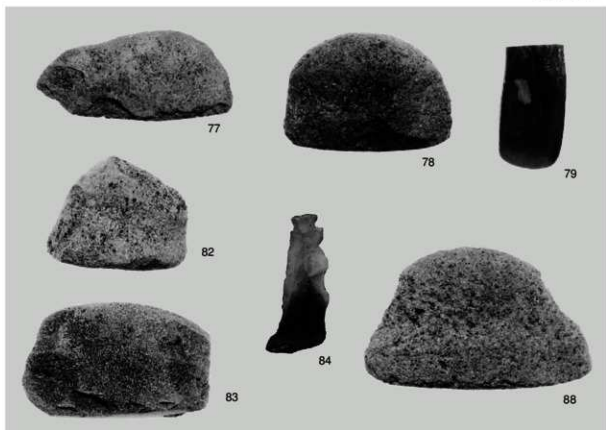
NP 出土の石器 (1) (図Ⅲ-50~53)

127 遺構出土の石器 (2)

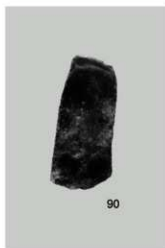


NP 出土の石器 (2) (図Ⅲ-53・54・56・58)

128 遺構出土の石器 (3)



NP 出土の石器 (3) (図Ⅲ-57~59)



SF-4 の石器 (図Ⅲ-59) NS-1 の石器 (図Ⅲ-60)



Ⅲ群 a 類土器 (図M-1-3)



Ⅲ群 a 類土器 (図M-1-1)



Ⅲ群 a 類土器 (図M-1-2)



Ⅲ群 a 類土器 (図M-1-4)



Ⅲ群 a 類土器 (図M-1-6)



Ⅲ群 a 類土器 (図M-1-9)



Ⅲ群 a 類土器 (図Ⅳ-1-7)



Ⅲ群 a 類土器



Ⅲ群 a 類土器 (図Ⅳ-1-8)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-3-23)



Ⅲ群 a 類土器 (図Ⅳ-1-5)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-3-22)



M群 a類土器 (図M-3-25)



M群 a類土器 (図M-3-26)



M群 a類土器 (図M-3-24)



M群 a類土器 (図M-4-29)



M群 a類土器 (図M-4-30)



M群 a類土器 (図M-4-28)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-7-61)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-3-27)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-2-17)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-3-20)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-3-21)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-2-18)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-2-15)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-2-14)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-2-13)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-2-19)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-2-11)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-2-12)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-2-16)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-4-34)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-4-35)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-4-33)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-4-32)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-4-31)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-2-10)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-4-36)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-5-39)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-6-49)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-5-37)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-5-41)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-7-51)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-5-40)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-5-38)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-6-42)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-6-48)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-6-43)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-6-46)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-6-47)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-6-44)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-6-50)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-6-45)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-7-55)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-7-54)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-7-58)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-7-57)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-7-59)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-7-56)

写真図版42



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-7-52)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-7-53)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-7-60)



Ⅵ群 b 類土器 (図Ⅳ-7-63)



Ⅵ群 b 類土器 (図Ⅳ-7-62)



Ⅵ群 b 類土器 (図Ⅳ-7-64)



V群 b 類土器 (図M-7-65)



V群 b 類土器 (図M-7-66)



V群 b 類土器 (図M-7-67)



V群 a 類土器 (図M-13-156)



V群 a 類土器 (図M-15-187)



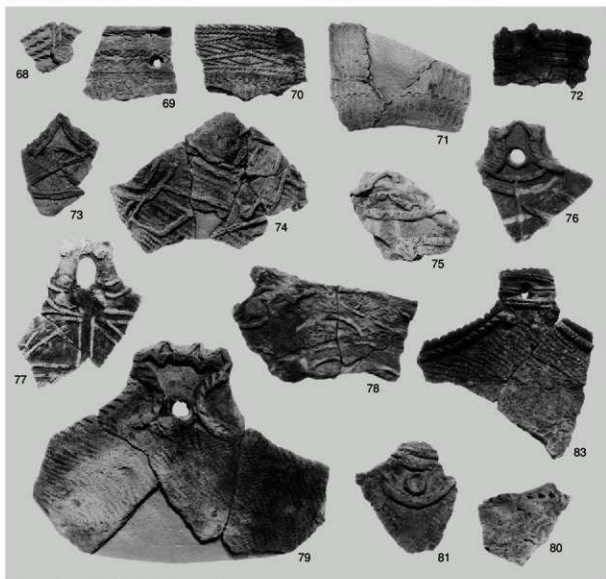
V群 a 類土器 (図M-16-200)



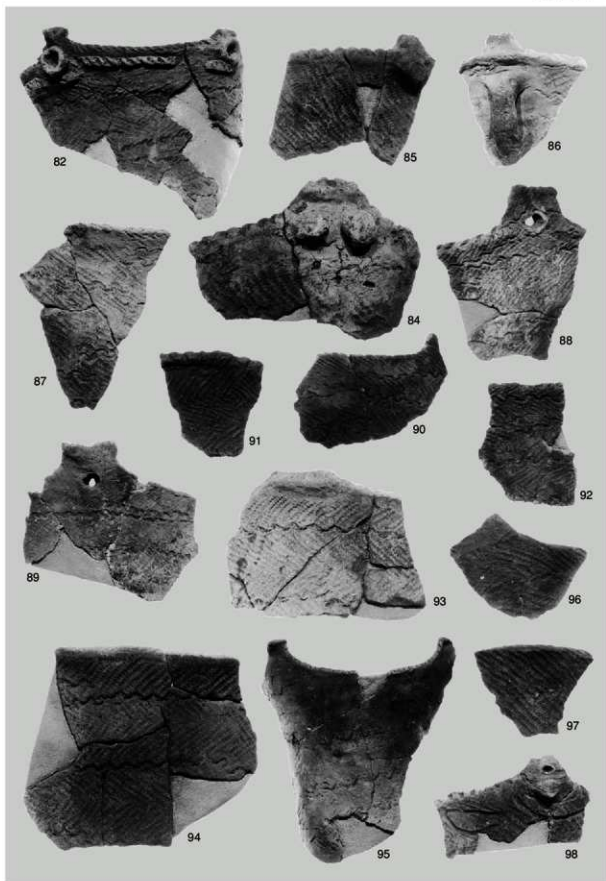
Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-16-202)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-16-204)

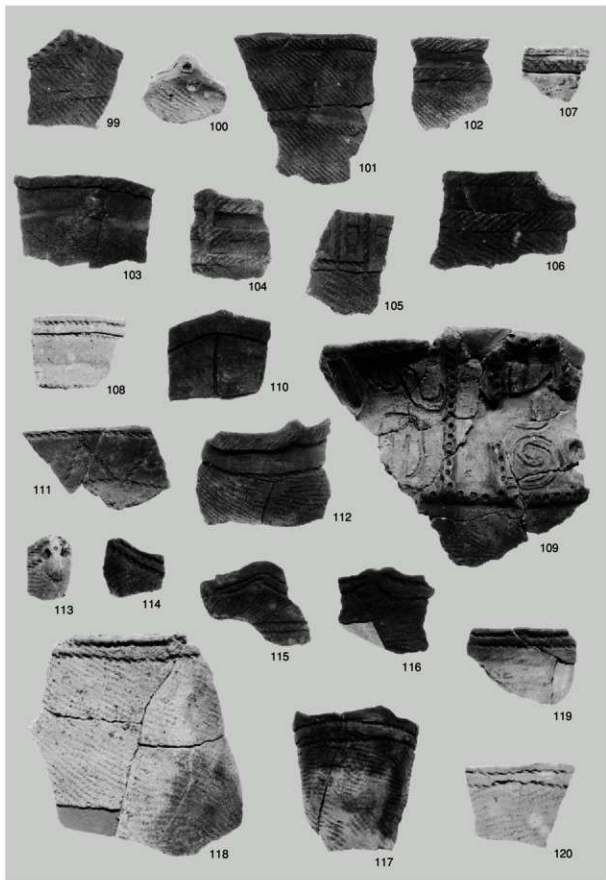


Ⅱ群 b 類、Ⅲ群 a 類土器 (図Ⅳ-8)



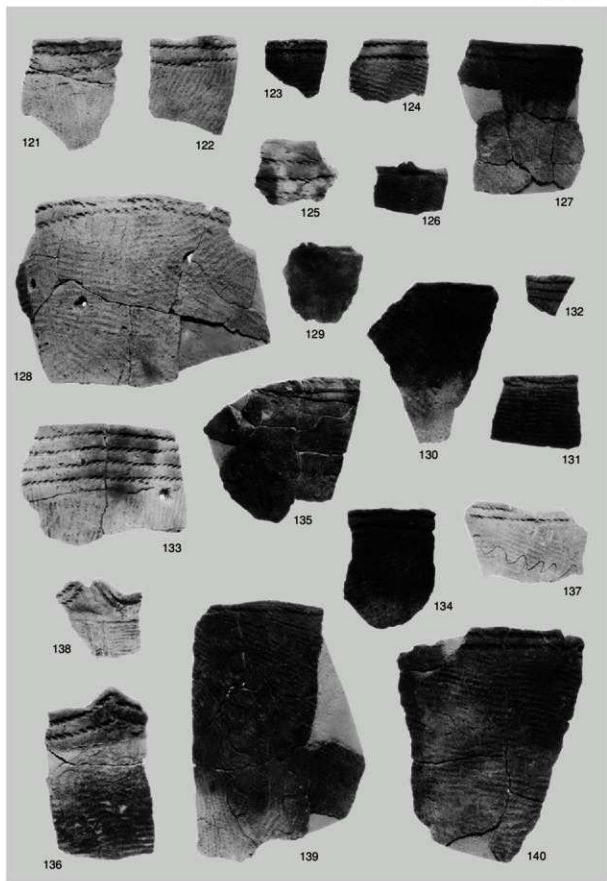
Ⅲ群 a 類土器 (図Ⅳ-8~10)

143 包含層 C 地区出土の土器 (14)



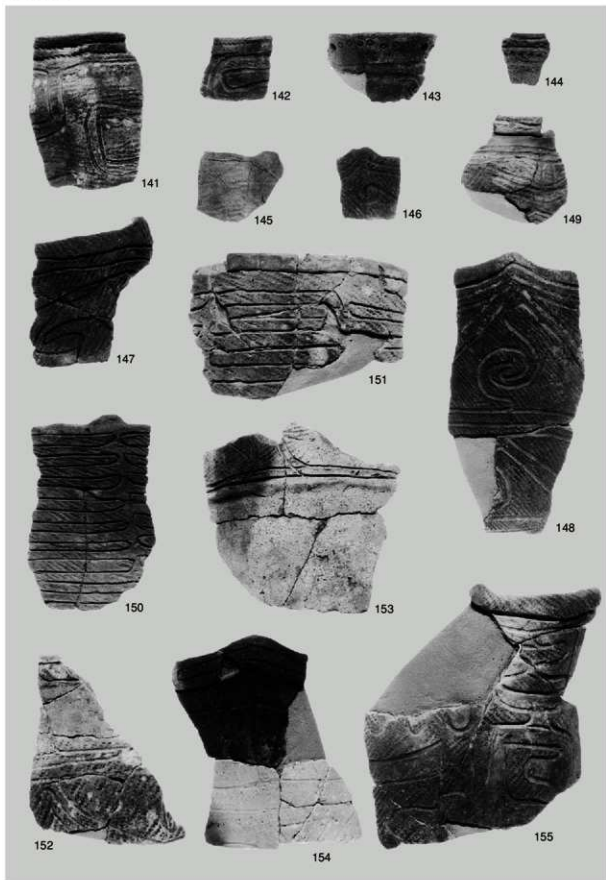
Ⅲ群 a 類、Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-10・11)

144 包含層 C 地区出土の土器 (15)



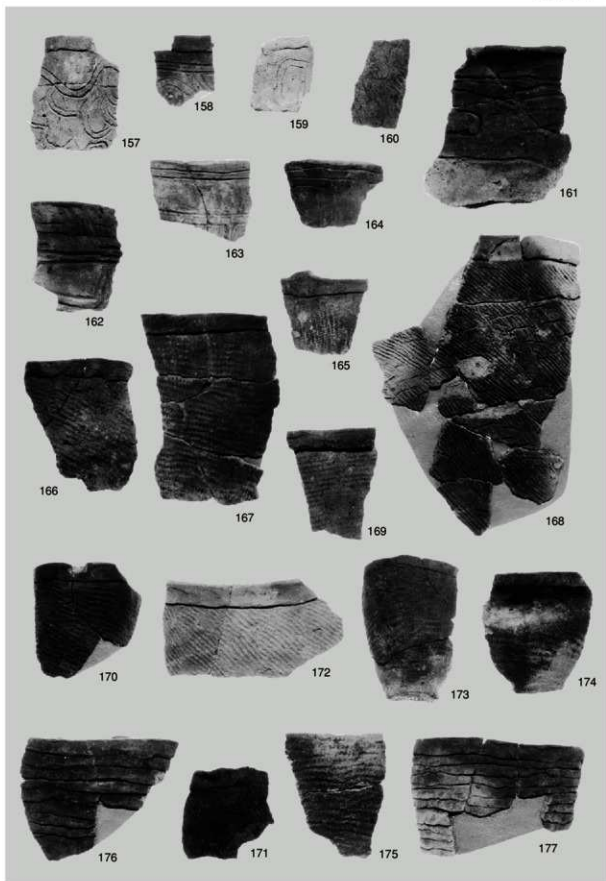
IV群 a 類土器 (図IV-11・12)

145 包含層 C 地区出土の土器 (16)



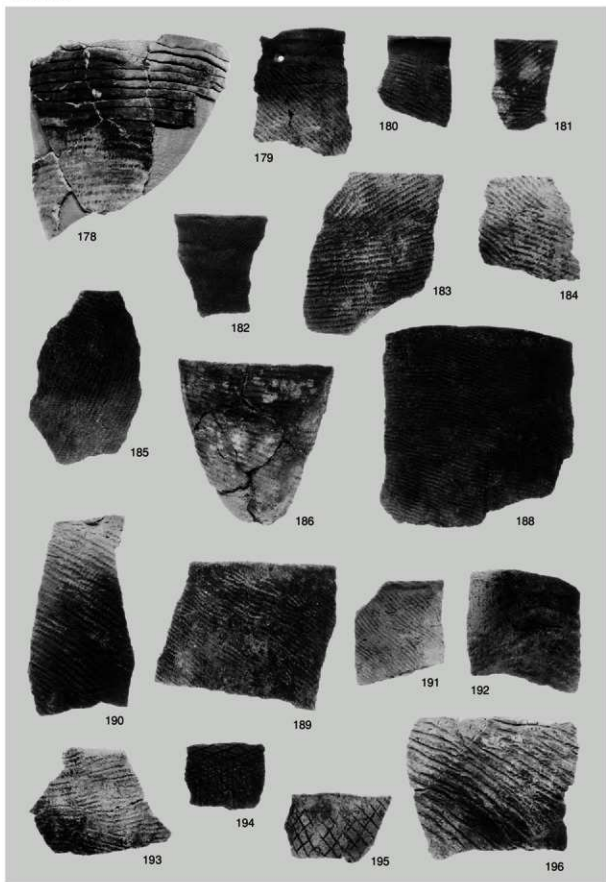
IV群 a類土器 (図IV-12・13)

146 包含層C地区出土の土器 (17)



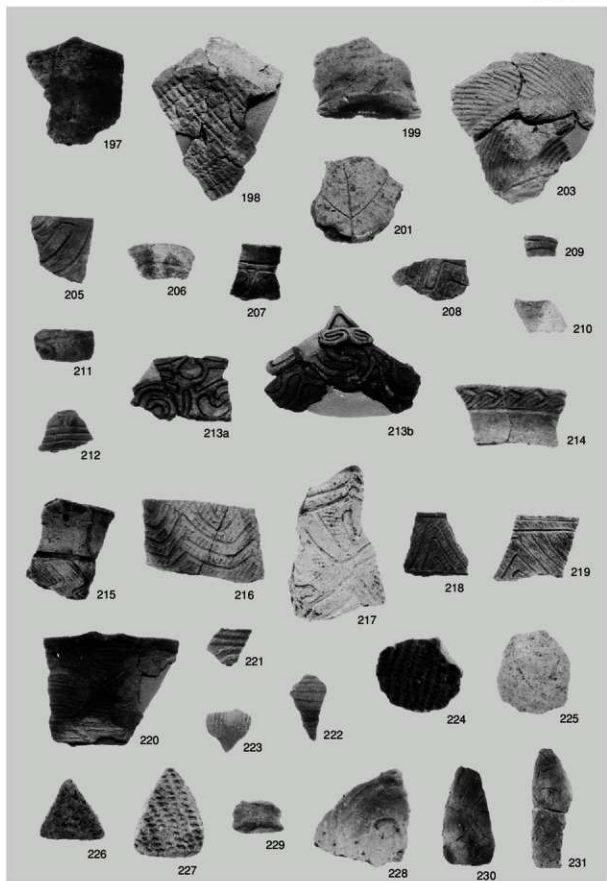
IV群 a 類土器 (図IV-13・14)

147 包含層 C 地区出土の土器 (18)



IV群 a 類土器 (図IV-14~16)

148 包含層 C 地区出土の土器 (19)



IV群 a類土器、土製品 (図IV-16・17)

149 包含層 C 地区出土の土器 (20)



Ⅱ群 b 類土器 (図Ⅳ-18-232)



Ⅲ群 a 類土器 (図Ⅳ-18-234)



Ⅱ群 b 類土器 (図Ⅳ-18-233)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-19-239)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-19-238)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-19-237)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-21-257)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-21-256)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-21-258)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-21-260)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-21-259)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-21-262)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-21-261)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-22-264)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-22-263)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-19-236)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-18-235)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-20-244)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-20-245)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-19-240)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-19-241)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-19-242)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-19-243)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-20-246)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-20-249)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-20-250)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-20-253)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-21-254)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-20-252)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-20-247)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-20-251)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-20-248)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-23-268)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-21-255)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-22-265)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-22-267)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-22-266)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-23-270)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-23-273)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-23-274)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-23-272)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-23-271)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-23-269)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-27-326)



Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-26-321)



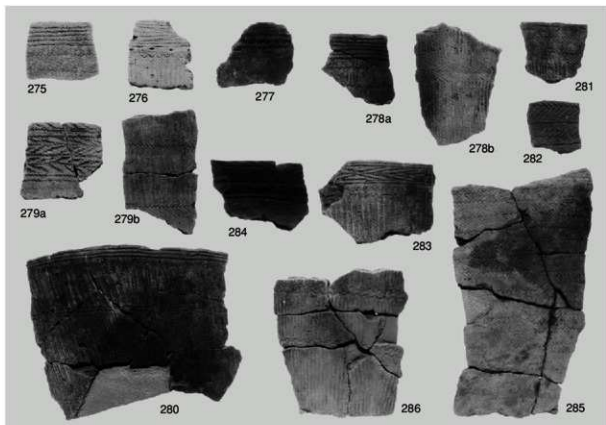
Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-26-308)



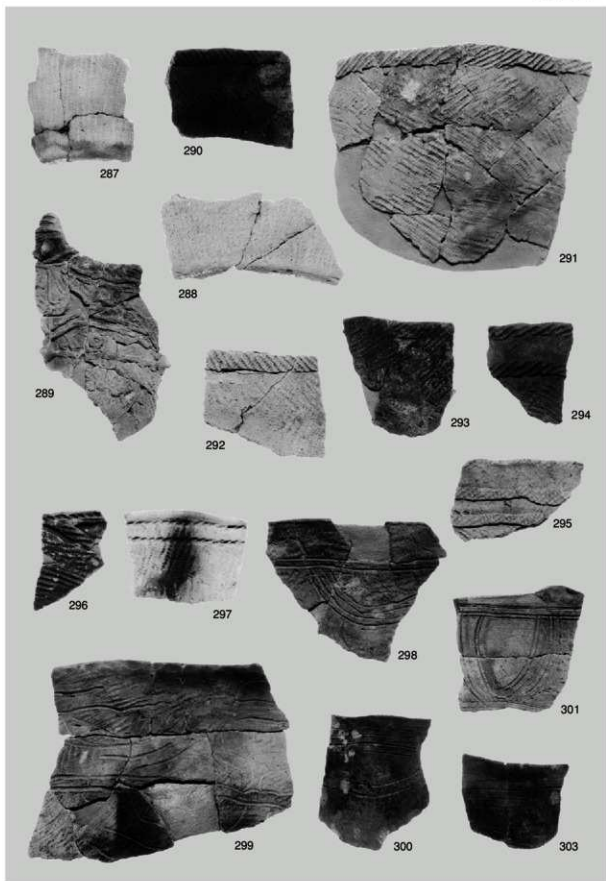
Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-30-374)



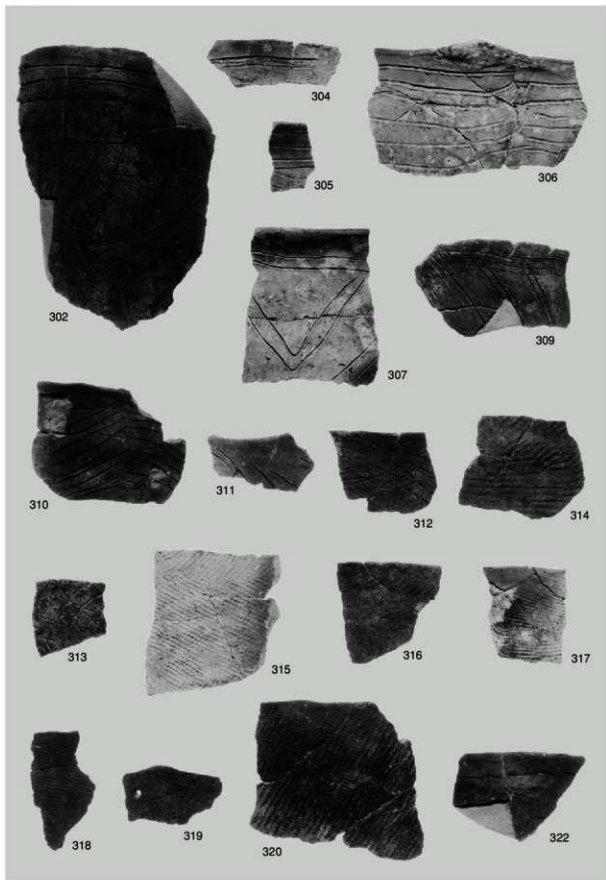
Ⅳ群 a 類土器 (図Ⅳ-30-375)



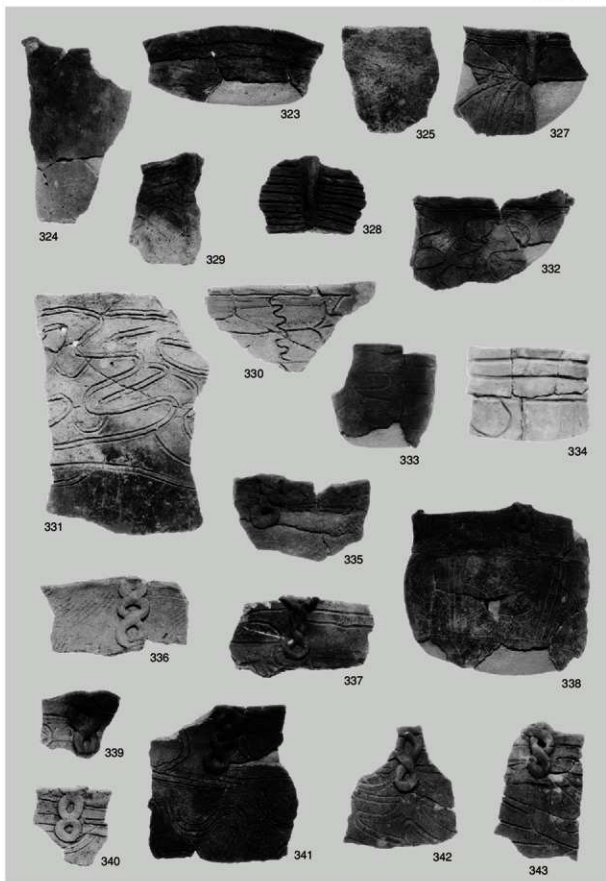
Ⅱ群 b 類土器 (図Ⅳ-24)



Ⅱ群b類、Ⅲ群a類、Ⅳ群a類土器 (図Ⅳ-24・25)

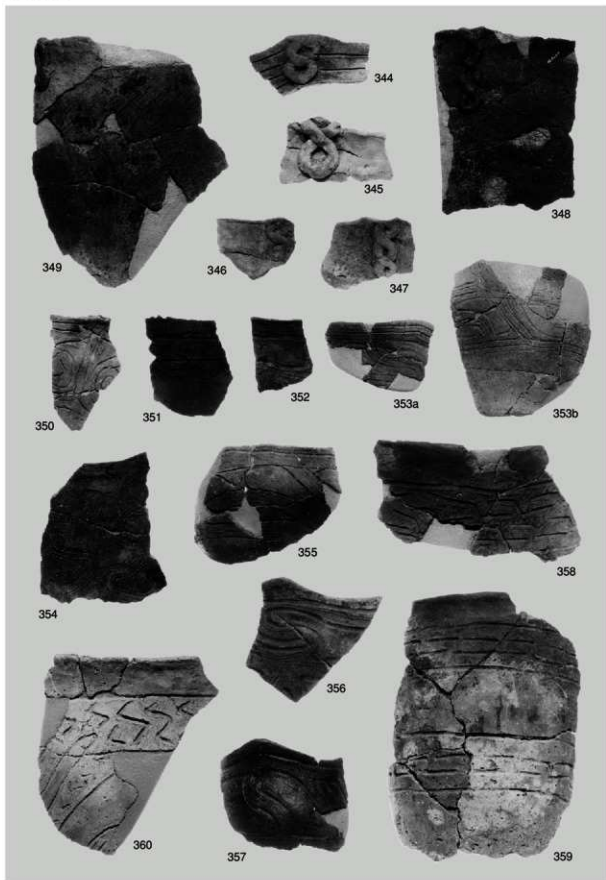


IV群 a 類土器 (図IV-25~27)

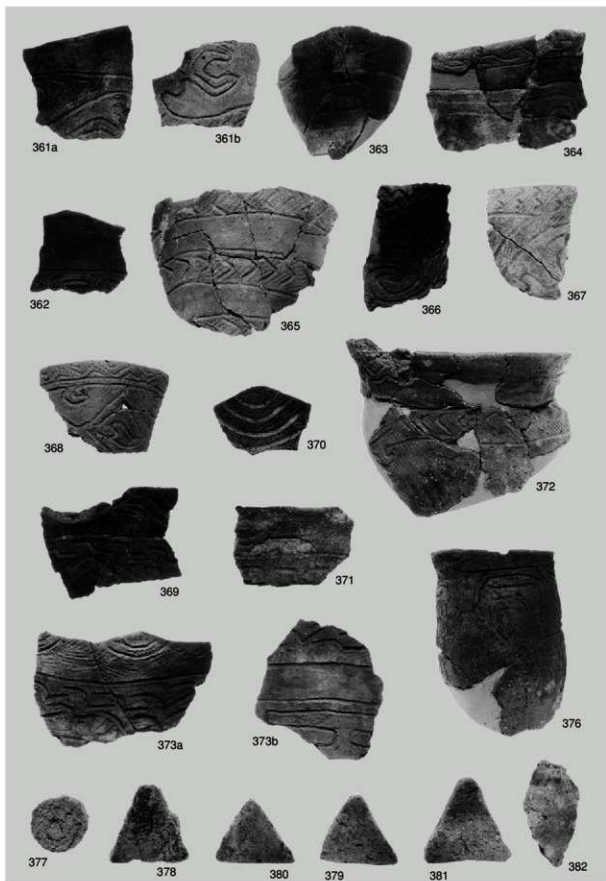


IV群 a 類土器 (図IV-27・28)

161 包含層 E 地区出土の土器 (12)

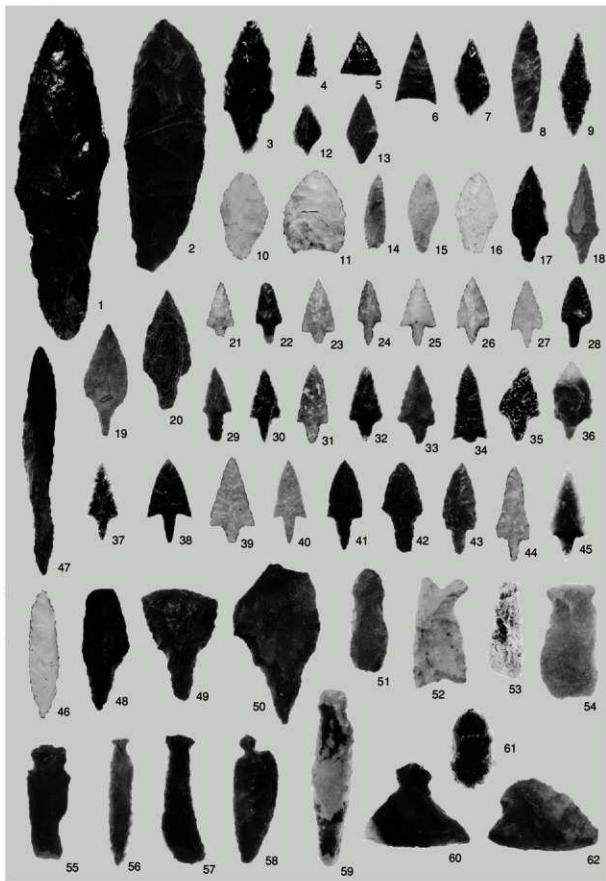


IV群 a 類土器 (図IV-28・29)

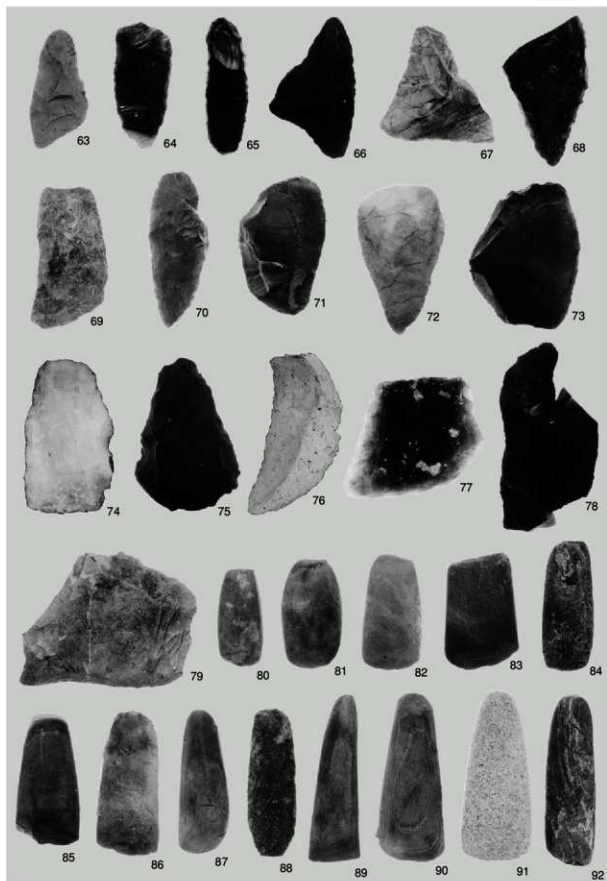


IV群 a類土器・土製品 (図IV-29・30)

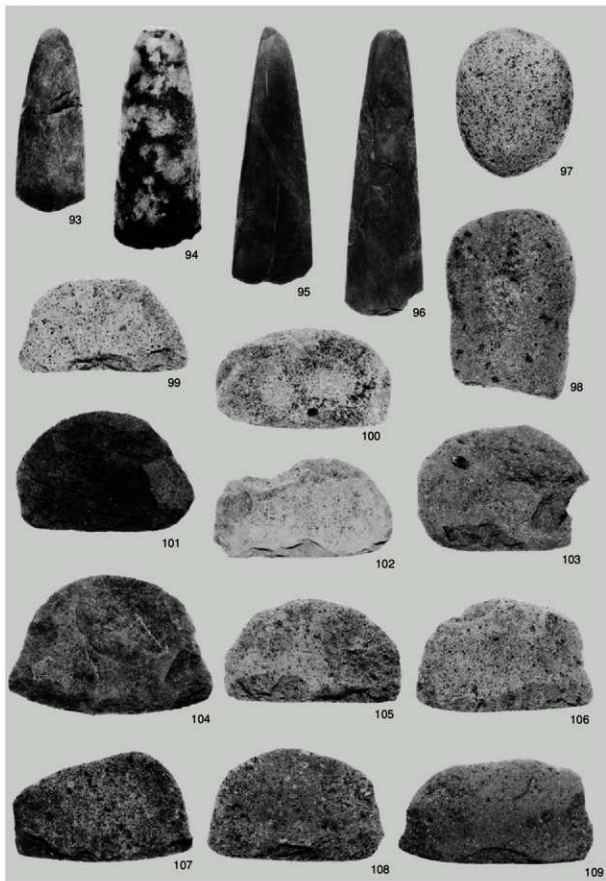
163 包含層 E 地区出土の土器 (14)・土製品

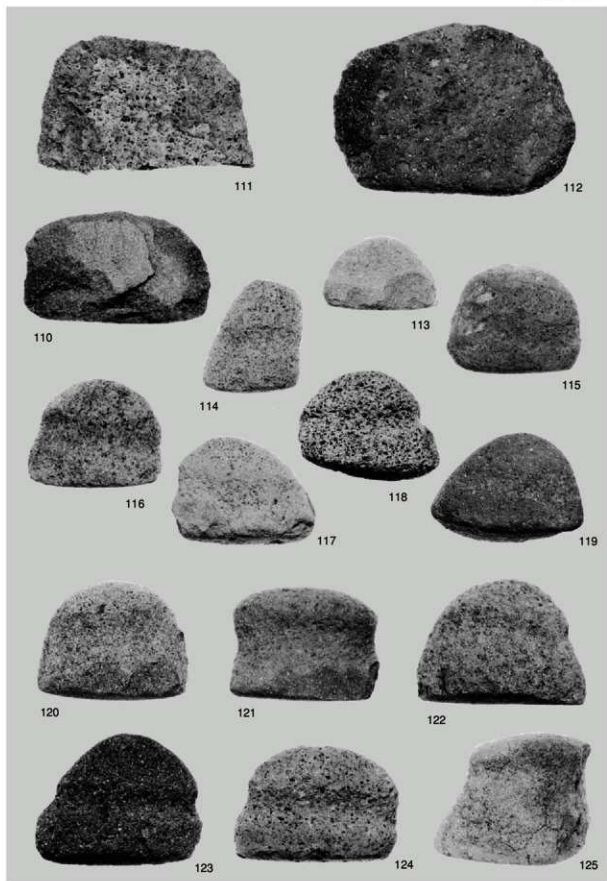


164 包含層出土の石器(1) (図Ⅳ-31~33)

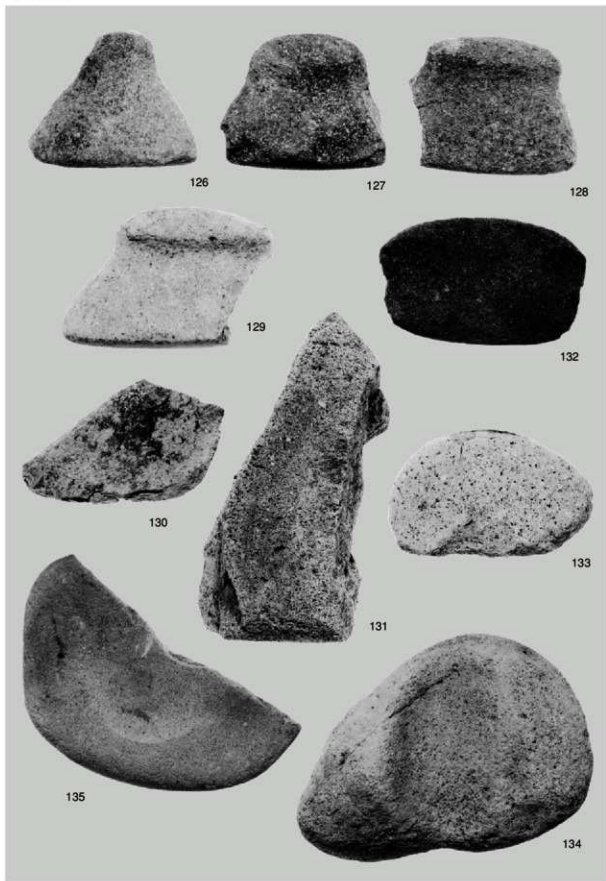


165 包含層出土の石器(2) (図Ⅳ-33~35)





167 包含層出土の石器(4) (図Ⅳ-39~42)



168 包含層出土の石器(5) (図IV-42~44)



169 包含層出土の石器(6)・石製品(図Ⅳ-45・46)

報告書抄録

ふりがな	もりまち にごりかわさがんいせき さん しーからいーちく							
書名	森町 濁川左岸遺跡(3) -C~E地区-							
副書名	北海道縦貫自動車道(七飯~長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第246集							
編著者名	鎌田 望・新家水奈・立川トマス・村田 大・影浦 覚・柳瀬由佳							
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1							
発行年月日	西暦2007年7月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
濁川左岸遺跡	北海道茅部郡 森町 字石倉町401ほか	01345	B-15-22	42° 8' 49"	140° 28' 57"	20040701 ~ 20041027	3,660	工事に伴う事前調査 (七飯~長万部)建設 北海道縦貫自動車道
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
濁川左岸遺跡	集落跡	縄文時代 前期 中期 後期 続縄文時代	竪穴住居跡8軒 土坑94基 石組炉5か所 焼土23か所 小ピット212基 埋設土器1か所 配石1か所 剥片集中1か所	土器等：円筒土器下層 d2式・円筒土器上層 e式・ ナイベ沢式・見晴町式・天祐寺式・浦元式・ トリヤキ式・大津式・白坂3式・後北B式・後 北C式・後北C-D式 石器等：石槍・石鏃・石鎌・つまみ付きナイフ・ スクレイパー・Rフレイク・石槌・フレイク・石 斧・たたき石・扁平打製石器・北海道式石冠・ナ リ石・石副・砥石・石鎌・石皿・台石・原石・礫 ・土製品・石製品				
要約	<p>本遺跡は濁川カルデラから流れ出る濁川の河岸段丘上に立地する。海岸線からは約700m内陸に位置する。調査地点の標高は約36~45mである。遺跡は縄文時代前期前半・中期前半・後期前葉の集落・墓域である。主体となる時代は縄文時代後期である。住居跡8軒のうち、縄文時代前期後半と推定されるものは1軒、中期前半のものは2軒、後期前葉のものは5軒である。土坑94基のうち土壇墓もしくはその可能性のあるものは42基である。これらは縄文時代前期後半あるいは中期前半のもの4基、中期前半のもの14基、中期前半あるいは後期前葉のもの9基、後期前葉のもの15基である。出土遺物は土器102,384点、石器等11,503点、合計113,887点である。土器で最も多く出土しているのは縄文時代後期前葉のもの91,297点、次いで中期前半のもの6,237点、前期後半のもの4,491点となっている。</p>							

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第246集
森町 濁川左岸遺跡(3) - C~E地区 -
-北海道縦貫自動車(七飯~長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書-

平成19年7月31日発行

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL(011)386-3231 FAX(011)386-3238
[E-mail] mail_domabunor.jp [URL] http www.domabunor.jp

印刷 富士プリント株式会社
〒064-0916 札幌市中央区南16条西9丁目
☎011(531)4711 FAX011(530)2549
